

上 江 田 西 田 遺 跡 源 六 堰 遺 跡

広域基幹河川改修事業石田川に伴う
埋蔵文化財調査報告書

2010

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

上江田西田遺跡 源六堰遺跡

広域基幹河川改修事業石田川に伴う
埋蔵文化財調査報告書

2010

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上江田西田遺跡は太田市新田上江田に、源六堰遺跡は同市新田下田中に所在します。両遺跡は石田川河川改修工事に伴い発掘調査を実施しました。

発掘調査は群馬県太田土木事務所からの委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成6年度に上江田西田遺跡、平成9年度に源六堰遺跡を実施しました。

上江田西田遺跡では縄文時代後期前葉の堀之内式土器を出土する住居跡等、源六堰遺跡では同じく後期初頭の称名寺式土器が検出されました。そのほかにも源六堰遺跡では古墳時代前期の住居跡等が確認されました。

太田市には縄文時代から古代の遺跡が多数知られており、特に東日本随一の規模を誇る太田天神山古墳をはじめとして、古墳時代には数多くの古墳も築かれました。その古墳時代の始まりの土器である石田川式土器の命名は、昭和27年の石田川の護岸工事により偶然発見された石田川遺跡に由来します。

それ以外にも旧石器時代までさかのぼる人々の生活の痕跡が知られており、また時代を下っても中世に新田氏等の侍たちが活躍した場所としても知られています。このような多くの遺跡の存在は、過去の人々の生活をありありと示してくれます。

このたびの発掘調査で判明した事実は、この地域の歴史をひもとく貴重な歴史遺産のひとつであると考えております。

本報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の多くの方々、次代を担う子供達の歴史教育や郷土史研究の一助として活用頂ければ幸いと考えております。

最後になりましたが太田市教育委員会、地元関係者の皆様のご指導・ご協力に衷心より感謝いたします。そして発掘調査から報告書作成に至るまで、ご理解とご協力を頂いた群馬県県土整備部、太田土木事務所、群馬県教育委員会に感謝の意をあらわし、序といたします。

平成22年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 須田 栄 一

例 言

- 1 本書は広域基幹河川改修事業石田川に伴い発掘調査された上江田西田遺跡・源六堰遺跡の調査報告書である。
- 2 上江田西田遺跡は太田市新田上江田に、源六堰遺跡は太田市新田下田中に所在する。
- 3 事業主体 群馬県県土整備部太田土木事務所
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 上江田西田遺跡
平成6年12月12日～平成7年3月31日
源六堰遺跡
平成10年1月1日～平成10年3月31日
- 6 整理期間 平成21年4月1日～平成22年2月28日
整理期間は当初平成21年4月1日から平成22年3月31日であったが、1ヶ月短縮し平成21年4月1日より平成22年2月28日までとした。
- 7 発掘調査体制は次のとおりである。

上江田西田遺跡

平成6年度

常務理事 中村英一

事務局長 近藤 功

管理部長 蜂巢 実 調査研究部長 神保侑史 調査研究第4課長 中東耕志

事務担当 斉藤俊一 国定 均 笠原秀樹 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 高橋定義 大澤友治
(非常勤嘱託)

事務補助員 吉田恵子 松井美智代 杉山ひろみ 内山佳子 星野美智子 羽鳥京子 菅原淑子
今井もと子 吉田笑子 並木綾子 松下次男 浅見宣記 山本正司

発掘調査担当 大木紳一郎 齋藤英敏 黒沢照弘

源六堰遺跡

平成9年度

常務理事 菅野 清

事務局長 原田恒弘

副事務局長(調査研究第1部長) 赤山容造

管理部長 渡辺 健 調査研究第2部長 神保侑史 調査研究第2課長 能登 健

事務担当 小淵 淳 井上 剛 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 岡島伸昌 宮崎忠司
大澤友治(非常勤嘱託)

事務補助員 吉田恵子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 安藤友美
狩野真子 羽鳥京子 星野美智子 小保方香里 吉田笑子 今井もと子 並木綾子
松下次男 浅見宣記 吉田 茂

発掘調査担当 友廣哲也 小室(立澤)綾子 松島久仁治

- 8 整理体制は次のとおりである。
- 理事長 高橋勇夫 須田栄一（平成21年7月～）
常務理事（事務局長）木村裕紀
事業局長 相京建史
総務部長 笠原秀樹 調査研究部長 飯島義雄 資料整理部長 石坂 茂
資料整理部第2グループリーダー 大木紳一郎
整理担当 友廣哲也
事務担当 経理グループリーダー 佐嶋芳明 須田朋子 柳岡良宏 矢島一美 田口小百合
高橋次代
事務補助員 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子 今井もと子
保存処理 関 邦一 増田政子 津久井桂一 多田ひさ子
遺物写真 佐藤元彦
遺物機械実測 田中精子 町田礼子 田所順子 岸 弘子 木原幸子 福島瑞希
- 9 編集執筆 大木紳一郎（Ⅵ章）
友廣哲也（編集、Ⅵ章以外執筆）
- 10 デジタル写真図版作成
齊田智彦 牧野裕美 市田武子 安藤美奈子 酒井史恵 廣津真希子 荒木絵美 高梨由美子
矢端真観 横塚由香 下川陽子
（縄紋土器整理）橋本 淳 （石器整理）岩崎泰一（土師器整理）関 晴彦
- 11 発掘調査および報告書作成には、現太田市教育委員会、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会をはじめ関係機関ならびに下記の方のご指導をいただきました、記して感謝いたします。
小宮俊久
- 12 発掘調査記録および出土品は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

- 1 挿図に示す方位記号は国家座標上の北を基準としている。
- 2 遺構及び遺物実測図中の縮尺はそれぞれの図中にスケールで表示してある。写真は大概図と同じ縮尺である。
- 3 遺構の呼称は算用数字を用い、住居跡、掘立柱建物跡、溝、土坑など遺構ごとに番号を付した。また遺構番号は各々上江田西田遺跡、源六堰遺跡ごとに関連性は無い。
- 4 報告書中にある火山噴出物の表記は下記のとおりである。

As-A	：浅間A軽石	1783年	天明3年
As-B	：浅間B軽石	1108年	天仁元年
Hr-FP	：榛名二ッ岳軽石	6世紀前半	～中葉
Hr-FA	：榛名二ッ岳軽石	6世紀初頭	
As-C	：浅間C軽石	3世紀末	

目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

I	発掘調査と遺跡の概要	1
	1. 発掘調査にいたる経過	1
II	周辺の遺跡と環境	2
	1. 地理的環境	2
	2. 歴史的環境	2
	3. 遺跡の概要	7
III	調査の方法	7
	1. グリッドの設定	7
	2. 調査の概要	8
	3. 基本土層	8
IV	検出された遺構と遺物（上江田西田遺跡）	10
V	検出された遺構と遺物（源六堰遺跡）	76
VI	上江田西田遺跡・源六堰遺跡出土の古墳時代土器について	118
VII	まとめ	122

写真図版

抄録

挿図目次

上江田西田遺跡

第1図	遺跡位置図 (1/25,000)	1
第2図	調査区	3
第3図	大間々扇状地と位置図	4
第4図	周辺遺跡図	5
第5図	基本土層図	8
第6図	1号住居跡	11
第7図	2号住居跡・炉	12
第8図	1～9号土坑	13
第9図	10～14号土坑、1・2・4～9号ピット	14
第10図	10～18号ピット、1・2・4～6号溝	15
第11図	1・2号住居跡出土遺物	17
第12図	2号住居跡出土遺物	18
第13図	1～4・7・8号土坑出土遺物	19
第14図	8・9・13・14号土坑、遺構外1～4 (1) 出土遺物	20
第15図	遺構外出土遺物5～11 (2)	21
第16図	遺構外出土遺物12～16 (3)	22
第17図	遺構外出土遺物17～21 (4)	23
第18図	遺構外出土遺物22～27 (5)	24
第19図	遺構外出土遺物28～62 (6)	25
第20図	遺構外出土遺物63～83 (7)	26
第21図	遺構外出土遺物84～104 (8)	27
第22図	遺構外出土遺物105～126 (9)	28
第23図	遺構外出土遺物127～142 (10)	29
第24図	遺構外出土遺物143～162 (11)	30
第25図	遺構外出土遺物163～175 (12)	31
第26図	遺構外出土遺物176～192 (13)	32
第27図	遺構外出土遺物193～208 (14)	33
第28図	遺構外出土遺物209～230 (15)	34
第29図	遺構外出土遺物231～254 (16)	35
第30図	遺構外出土遺物255～269 (17)	36
第31図	遺構外出土遺物270～291 (18)	37
第32図	遺構外出土遺物292～301、弥生1・2、2区外1～6 (19)	38
第33図	遺構外出土遺物1～16 (20)	39
第34図	遺構外出土遺物17～28 (21)	40
第35図	遺構外出土遺物29～46 (22)	41
第36図	遺構外出土遺物47～61 (23)	42
第37図	遺構外出土遺物62～83 (24)	43
第38図	遺構外出土遺物84～108 (25)	44
第39図	遺構外出土遺物109～136 (26)	45
第40図	1号住居跡出土石器	46
第41図	2号住居跡出土石器	47
第42図	1号土坑、遺構外1～14 (1) 出土石器	48

第43図	遺構外出土石器15～24（2）	49
第44図	遺構外出土石器25～34（3）	50
第45図	遺構外金属製品1～4、4号溝（1）出土木器	51
第46図	4（2）・5号溝、遺構外1～3出土木器	52

源六堰遺跡

第47図	1号住居跡	77
第48図	2号住居跡	78
第49図	1号掘立柱建物跡	79
第50図	1～13号土坑	80
第51図	14～30号土坑	81
第52図	31～37・39・41～49号土坑	82
第53図	50・59～66・72号土坑	83
第54図	67～71・73～82号土坑	84
第55図	83～85号・87～92号土坑	85
第56図	93～103号土坑	86
第57図	86・105～109・111～115号土坑	87
第58図	116～132号土坑	88
第59図	133～144号土坑	89
第60図	145～150・153～158号土坑、1・2号溝	90
第61図	8・82・84～86・91・105～108・122・129・132・133号土坑出土遺物	94
第62図	137・143・145・146・148・158号土坑、遺構外1～7（1）出土遺物	95
第63図	遺構外出土遺物8～34（2）	96
第64図	32・45・62・64・65号土坑、遺構外35～43（3）出土遺物	97
第65図	65・68号土坑出土遺物	98
第66図	69・78・82・91・137号土坑、遺構外1～19（4）出土遺物	99
第67図	遺構外出土遺物20～43（5）	100
第68図	1・2号住居跡、7号土坑、1号溝、遺構外1～4（6）出土遺物	101
第69図	遺構外出土遺物5～16（7）	102
第70図	1・2号住居跡、109・135号土坑、遺構外1～6（1）出土石器	103
第71図	遺構外出土石器7～14（2）	104
第72図	2号住居跡柱穴内出土礎板	105

表 目 次

上江田西田遺跡

第1表	遺跡周辺の遺跡	6
第2表	土坑・ピット・溝計測表	16
第3表	遺物観察表	53

源六堰遺跡

第4表	土坑・溝計測表	91
第5表	遺物観察表	106

写真図版目次

上江田西田

PL. 1

- 1号住居全景
- 1号住居全景
- 2号住居全景
- 2号住居炉全景
- 2号住居炉全景

- 1号土坑全景
- 2号土坑全景
- 3号土坑全景

PL. 2

- 4号土坑遺物出土状態
- 4号土坑全景
- 5号土坑全景
- 6号土坑全景
- 7号土坑全景
- 8・9号土坑全景

- 10号土坑全景
- 11号土坑全景

PL. 3

- 12号土坑全景
- 13号土坑全景
- 14号土坑全景

- 1・2号溝全景
- 1・2号溝全景

- 1・2号溝遺物出土状態
- 1・2号溝遺物出土状態

- 3号溝全景

PL. 4

- 4号溝杭
- 4号溝全景
- 4号溝杭
- 4号溝全景
- 5号溝全景
- 5号溝遺物出土状態

PL. 5

- 6号溝全景
- G-9グリッド遺物出土状態

基本土層

- J-8グリッド遺物出土状態
- J-8グリッド遺物出土状態

- PL.6 出土遺物(1)

- PL.7 出土遺物(2)

- PL.8 出土遺物(3)

- PL.9 出土遺物(4)

- PL.10 出土遺物(5)

- PL.11 出土遺物(6)

- PL.12 出土遺物(7)

- PL.13 出土遺物(8)

- PL.14 出土遺物(9)

- PL.15 出土遺物(10)

- PL.16 出土遺物(11)

- PL.17 出土遺物(12)

- PL.18 出土遺物(13)

- PL.19 出土遺物(14)

- PL.20 出土遺物(15)

- PL.21 出土遺物(16)

- PL.22 出土遺物(17)

- PL.23 出土遺物(18)

- PL.24 出土遺物(19)

- PL.25 出土遺物(20)

源六堰

PL.26

- 1号住居全景
- 1号住居掘り方全景
- 1号住居内1号土坑全景
- 1号住居内1号土坑遺物出土状態

- 1号住居床直土器

- 2号住居全景

- 2号住居全景

- 2号住居掘り方全景

PL.27

- 2号住居炉掘り方全景

- 2号住居南東柱穴内礎板

- 2号住居南東柱穴内礎板

- 2号住居北東柱穴の柱材

- 2号住居遺物出土状態

- 2号住居遺物出土状態

PL.28

- 1号溝全景

- 2号溝全景

- 2号包含層

- 2号包含層遺物出土状態

- 2号包含層遺物出土状態

- 2号包含層遺物出土状態

PL.29

- 2号包含層遺物出土状態

- 1号包含層

- 2号包含層遺物出土状態

- 1号掘立柱建物全景

- 1号掘立柱建物全景

- B区全景

- 西側壁近接

PL.30

- 遠景

- A区北側全景

- B区全景

- 1号土坑全景

- 2号土坑全景

- 3号土坑全景

- 4号土坑全景

- 5号土坑全景

PL.31

- 6号土坑全景

- 7号土坑全景

- 8号土坑全景

- 9号土坑全景

- 10号土坑全景

- 11号土坑全景

- 12号土坑全景

- 13号土坑全景

PL.32

14号土坑全景	62号土坑全景	98号土坑全景
15号土坑全景	63号土坑全景	99号土坑全景
16号土坑全景	64号土坑全景	100号土坑全景
17号土坑全景	PL.37	101·104号土坑全景
18号土坑全景	65号土坑全景	102号土坑全景
19号土坑全景	66号土坑全景	103号土坑全景
20号土坑全景	67号土坑全景	107号土坑全景
21号土坑全景	68号土坑全景	PL.42
PL.33	69号土坑全景	108号土坑全景
22号土坑全景	70号土坑全景	111号土坑全景
23号土坑全景	71号土坑全景	112号土坑全景
24·25号土坑全景	72号土坑全景	113号土坑全景
26号土坑全景	PL.38	114号土坑全景
27号土坑全景	73号土坑全景	115号土坑全景
28号土坑全景	74号土坑全景	116号土坑全景
29号土坑全景	74·75·76号土坑全景	117号土坑全景
30号土坑全景	75号土坑全景	PL.43
PL.34	76号土坑全景	118号土坑全景
31号土坑全景	77号土坑全景	119号土坑全景
32号土坑全景	78·79号土坑全景	120号土坑全景
33号土坑全景	80号土坑全景	121号土坑全景
34号土坑全景	PL.39	122号土坑全景
35号土坑全景	81号土坑全景	123号土坑全景
36号土坑全景	82号土坑全景	124号土坑全景
37号土坑全景	83号土坑全景	125号土坑全景
39号土坑全景	84号土坑全景	PL.44
PL.35	85号土坑全景	126号土坑全景
41号土坑全景	86·106号土坑全景	127号土坑全景
42号土坑全景	87号土坑全景	128号土坑全景
43号土坑全景	88号土坑全景	129号土坑全景
44号土坑全景	PL.40	131号土坑全景
45号土坑全景	89号土坑全景	132号土坑全景
46·47号土坑全景	90号土坑全景	133号土坑全景
48号土坑全景	91号土坑全景	134号土坑全景
49号土坑全景	92号土坑全景	PL.45
PL.36	93号土坑全景	135号土坑全景
50号土坑全景	94号土坑全景	136号土坑全景
59号土坑全景	95号土坑全景	137号土坑全景
60号土坑全景	96号土坑全景	138号土坑全景
60·72号土坑全景	PL.41	139号土坑全景
61号土坑全景	97号土坑全景	140号土坑全景

141号土坑全景

142号土坑全景

PL.46

143号土坑全景

144号土坑全景

145号土坑全景

146号土坑全景

147·157号土坑全景

148号土坑全景

149号土坑全景

150号土坑全景

PL.47

153号土坑全景

154号土坑全景

155号土坑全景

156号土坑全景

158号土坑全景

PL.48 出土遺物 (1)

PL.49 出土遺物 (2)

PL.50 出土遺物 (3)

PL.51 出土遺物 (4)

PL.52 出土遺物 (5)

PL.53 出土遺物 (6)

PL.54 出土遺物 (7)

I 発掘調査と遺跡の概要

1. 発掘調査にいたる経過

利根川支流の石田川は太田市新田町から尾島町に至る市内南西部を東南流する小河川である。平成元年以降石田川を流れる上流部に大規模な工業団地が造成され、また宅地開発も活発に行われているため集中豪雨が続きこれらの開発地に集積した雨水が石田川に集中し、下流で洪水被害にみまわれる被害が相次いだ。

そのため流域全体での河川改修事業が群馬県土木部で計画され、平成5年度から県教育委員会により事業地での試掘調査が各事業ごとに実施された。

確認された遺跡については、翌6年太田市上江田西田遺跡を第一次調査として断続的に平成13年度まで継続することとなった。

このうち平成6年度上江田西田遺跡・平成9年度源六堰遺跡を当事業団が実施した。上江田西田遺跡、源六堰遺跡の発掘調査は石田川流路に接する部分のため渇水期である冬期に行った。



第1図 遺跡位置図（日本地理院 1：25,000）地形図使用

II 周辺の遺跡と環境

1. 地理的環境

石田川は大間々扇状地の末端である太田市新田町大根の矢太神沼を源流とし、同市世良田町まで約5 km南流した後、東に流れを変え同市古戸で利根川に合流している。全長約15kmの小河川であり、狭いところでは幅2～3 mにすぎない南流部分に比べ、扇状地末端の多くの湧水を集める東流部分は急激に川幅を広め約10mに達する。

さらに石田川には支流が幾筋もあり、その中で石田川と利根川が合流する3 kmほど上流で最大の支流、蛇川が分岐している。蛇川は扇状地東側にある八王子丘陵からの水を集める。蛇川に対し、金山丘陵から流れる水は八瀬川となって利根川合流部の約1 km手前で石田川と合流する。

蛇川合流点以東は、明治元年には石田川でなく蛇川と呼ばれていた。石田川と利根川合流部2 km手前両川の間小島地区があり、埼玉県熊谷市に所属している。このことから近世には利根川本流部であったと考えられる。

さて蛇川以西の地域は豊富な湧水からの水が、木崎台地などの点在する微高地地形が形成されるがこれに対し東岸は邑楽台地に続く比高5 mほどの高林台地が展開している。

上江田西田遺跡と源六堰遺跡は大間々扇状地の藪塚面にあり標高は40mに立地する。

2. 歴史的環境

旧石器時代

上江田西田遺跡と源六堰遺跡の所在する太田市南西部は利根川流域にあたり、旧石器時代の遺物は余り確認されていないが、中江田遺跡(31)、重殿遺跡(34)で、最終末期のナイフ形石器が出土している。

縄文時代

草創期は中江田A地点で爪形文土器がまとめて出土した。中江田遺跡はその後前期関山式から黒浜

式、諸磯a・b式と続き、縄文前期の分布も多いが、出土土器はあまり多いとはいえない。中期になると遺跡の分布は増え、当遺跡でも出土している加曾利E式、後期の加曾利B式土器が出土する。石田川の湧水点の1つである矢太神沼そばに矢太神沼遺跡(44)があり、加曾利E2・3式土器が出土し、さらに後期堀之内1式期の住居跡が確認されている。また太田市小角田前遺跡では堀之内2式期の住居跡を確認した。一丁田遺跡(40)では中期加曾利E4式期の柄鏡形住居跡が確認されている。このように当地域では草創期から始まり前・中・後期へと断続的ながら、遺跡立地が認められる。

弥生時代

東毛平野部は今まで弥生時代の遺跡が少ないとされていた。しかし、国道17号バイパス工事や、近年の北関東自動車道の事前調査により、多くの弥生時代遺跡の資料が蓄積されている。阿久津宮内遺跡では中期条痕文土器が確認され、長楽寺遺跡(67)、歌舞伎遺跡(69)では中期の土器が確認されている。

太田市台遺跡(28)、矢太神遺跡、東田遺跡(45)、中江田遺跡では樽式土器や赤井戸式土器を確認している。

このように以前には弥生時代の遺跡が少なく不毛の曠野とも指摘されていた低地部から、近年いくつかの弥生時代の遺構が確認されるようになった。

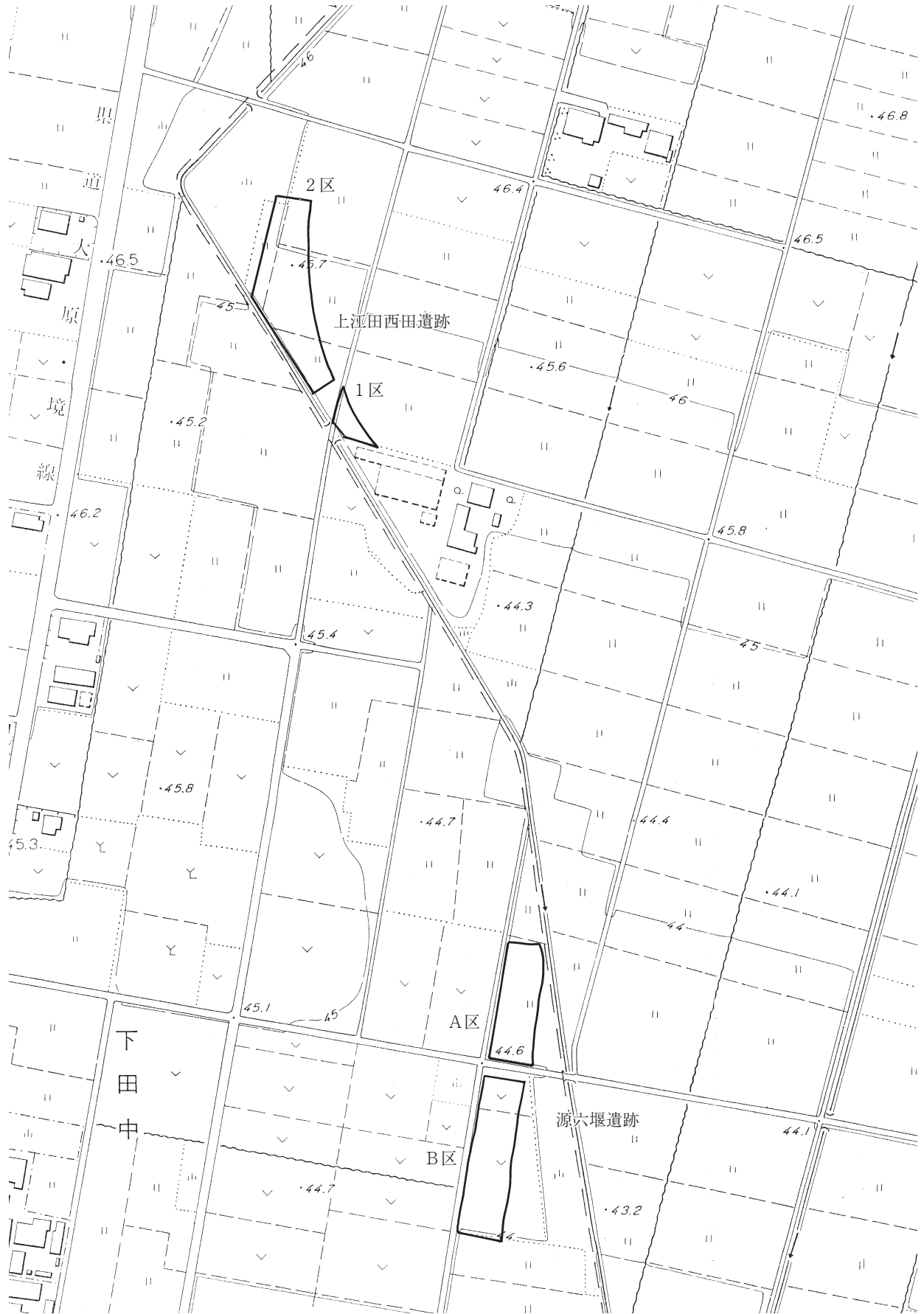
分布密度は稀薄だが、小規模集落の散在は間違いない。

古墳時代

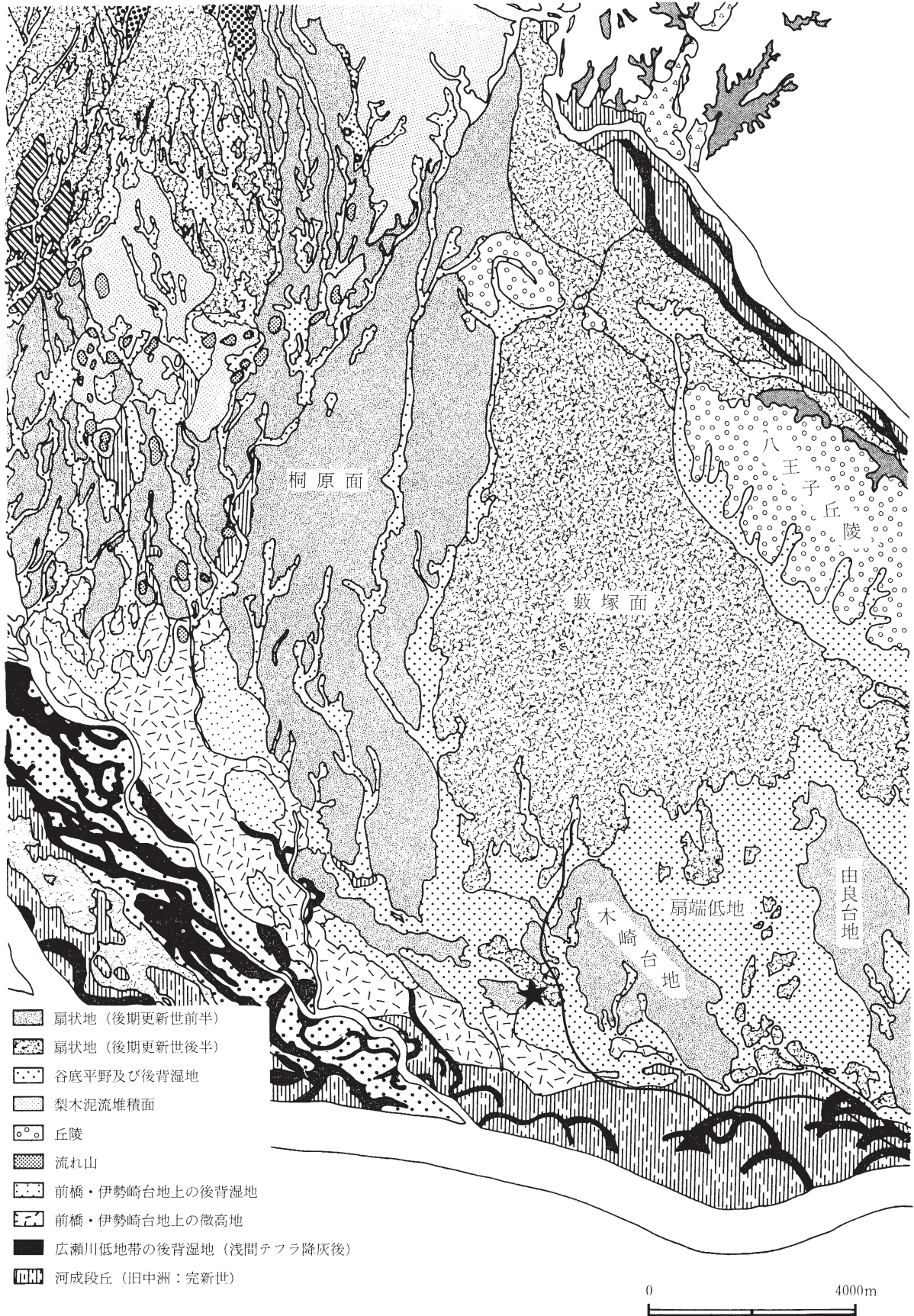
古墳時代になると、弥生時代中期から継続的に遺跡数が増え、谷地の台地縁辺や、古墳時代中期以降になるとさらに谷状地形以外の場所へと耕地が拡大していく。

源六堰遺跡、上江田西田遺跡の調査でも古墳時代前期の土器群が出土している。残念ながら大半は遺構外の出土である。群馬県内には古墳時代前期の土器様式として石田川式土器がある。

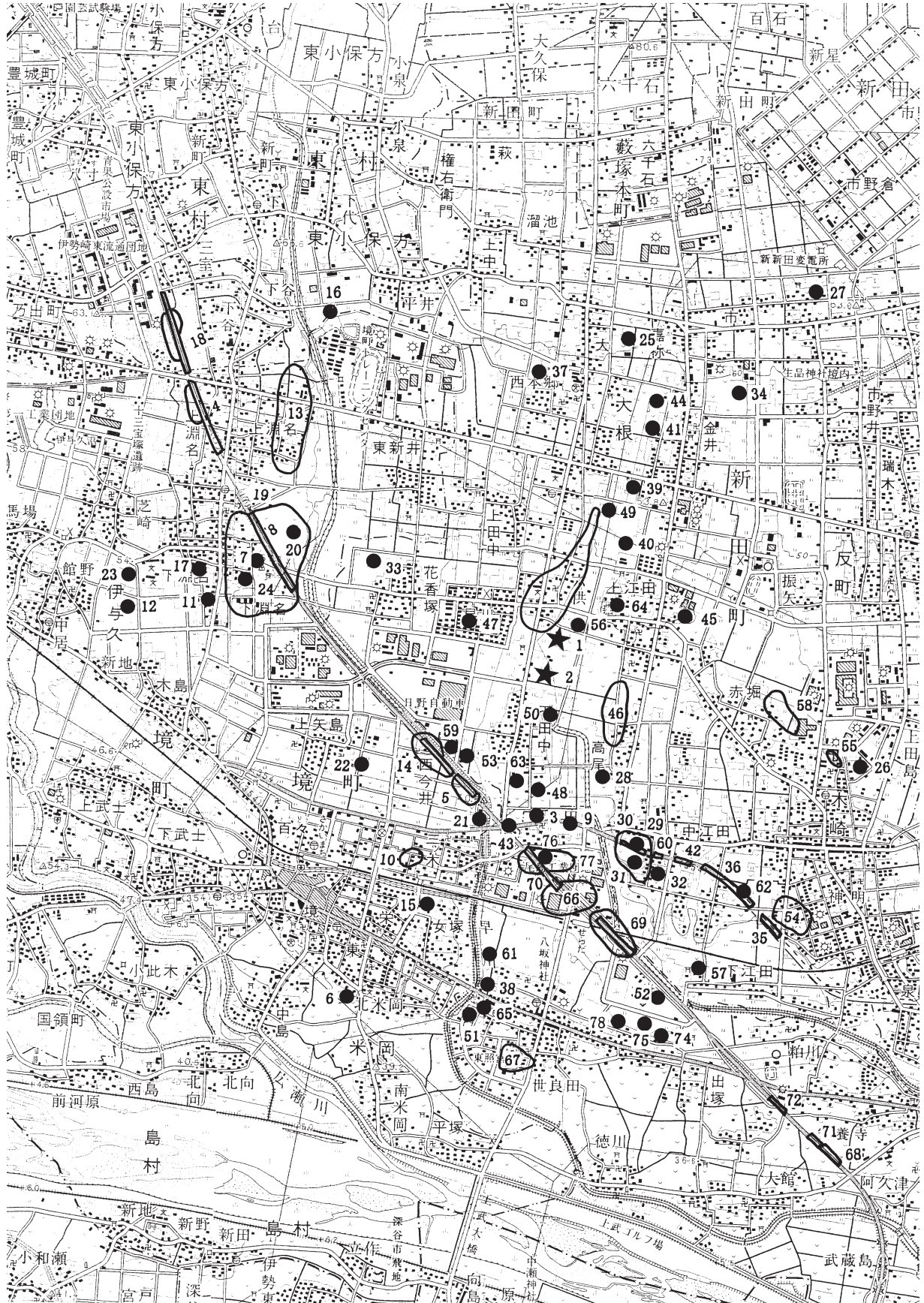
当時は古墳時代前期にいたり、新しい開拓と考えられたが、周辺での弥生時代中期から後期へと継続



第2図 調査区 (国土地理院 1:25,000)



第3図 大間々扇状地と位置図（群馬県史1付図2を使用 一部改変）



第4図 周辺遺跡図 (国土地理院 1:50,000)

Ⅱ 周辺の遺跡と環境

第1表 遺跡周辺の遺跡

	縄文時代						古墳時代									奈良	平安時代		中世	備考
	旧石器	草創期	早期	前期	中期	後期	前期			中期			後期				住居	生産		
							住居	墓	生産	住居	墓	生産	住居	墓	生産					
1 上江田西田遺跡						○	○	○												
2 源六堰遺跡																				
3 下田中中道遺跡								○												
4 上淵名裏神谷遺跡		○						○					○	○				水田		時期不明畠
5 三ツ木遺跡				○		○	○	○					○				○	○		
6 北米岡遺跡						○						○								
7 明神遺跡							○										○	○		
8 下淵名塚越遺跡						○	○				○	○		○	○		○	○		
9 小角田遺跡群																		田畠		
10 西林遺跡							○						○				○	○		
11 出口遺跡							○	○		○							○	○		祭祀
12 島海戸遺跡							○										○			
13 上淵名古墳群							○						○							
14 西今井遺跡								○					○				○	○		
15 女屋遺跡													○							
16 鶴巻古墳														○						角閃石安山岩使用の横穴式石室
17 土橋遺跡第3地点																				
18 三室間ノ谷遺跡													○					水田		
19 下淵名遺跡														○						
20 寺家前遺跡																		○		
21 三ツ木越戸遺跡																		○		
22 上矢島遺跡																		○		
23 土橋・三ツ古屋遺跡																		○		
24 大國神社																			B下溝	
25 東原遺跡	○																			延喜式内社
26 大通寺東遺跡	○																			
27 愛宕遺跡	○																			
28 台遺跡	○																			
29 中江田 A I 地点遺跡		○	○	○																
30 中江田 A II 地点遺跡			○	○																
31 中江田 B 地点遺跡	○	○	○	○																
32 中江田 C 地点遺跡	○	○																		
33 梨子木遺跡	○		○	○																
34 重殿遺跡	○			○																
35 花園遺跡	○																			
36 中江田原遺跡	○			○	○			○									○	○		
37 団蔵坊遺跡			○			○														
38 世良田上新田遺跡																		水田	○	
39 新屋敷遺跡		○	○	○	○			○												
40 一丁田遺跡					○															
41 矢太神遺跡					○	○	○													
42 中江田本郷遺跡					○								○				○	○		○
43 下田中川久保遺跡																				
44 矢太神沼遺跡					○	○														
45 東田遺跡							○					○								○
46 谷津遺跡							○	○										○		
47 下田中遺跡										○			○					○		
48 中道遺跡								○						○				○		
49 大根南遺跡群								○												
50 谷津遺跡								○										○		
51 今井遺跡								○										○		
52 世良田諏訪下遺跡																		水田	○	
53 諏訪下遺跡																				
54 木崎中学校校庭遺跡													○							
55 大通寺後遺跡																				
56 西田遺跡																		○		年代不明の長方形土坑・住居から 甕出土
57 矢抜神社古墳																				前方後円墳、角閃石安山岩使用の 横穴式石室
58 油田古墳群																				
59 西今井 II 遺跡																		○	○	人面土器
60 中江田宿通遺跡																				
61 上新田遺跡																				○
62 中江田ハッ縄遺跡																				
63 三ツ木皿沼遺跡																				
64 江田館遺跡																				
65 新田館跡																				
66 尾島工業団地遺跡	○				○	○	○	○			○	○					○	○	畠	
67 長楽寺遺跡								○				○								○
68 阿久津宮内遺跡																				
69 歌舞伎遺跡								○												
70 小角田前遺跡								○												
71 大館馬場遺跡																				
72 安養寺森西遺跡																				
73 宝積院遺跡																				○
74 一本松塚古墳																				
75 しどみ山古墳																				
76 小角田古墳群																				
77 小角田下遺跡																				
78 二体地藏古墳																				木柁井戸

3. 遺跡の概要

する地域であることが近年わかってきた。

上江田西田遺跡では遺構の確認はないが前期土器が多量に出土し、源六堰遺跡では前期の住居跡が確認されている。

奈良・平安時代

この時期になると古墳時代から継続する集落、耕地と、さらに新たに開発される集落が急増していく。

さらに東山道などの官道も造られ、畿内中央との関係も指摘できる。天良七堂遺跡は新田郡衙と考えられ、十三宝塚遺跡等の存在と合わせ東山道のルートが指摘できる。

この道のためか周囲には集落遺跡が増えていく。また耕地拡大に伴い水田跡や畠遺構が石田川周辺の遺跡群で確認されている。

中世

中世になると新田郡は新田荘に引き継がれ、遺跡周辺には館跡も確認されるようになる。新田荘は1157（保元2）年新田義重によって仁和寺の法金剛院領に寄進されたとされている。

1108（天仁元年）年になると群馬県域の広い範囲に浅間山噴火による火山灰や軽石が降下し、大災害を受けることになる。この時の災害復旧に伴いさらにこの周辺は荘園化していく。

さてこのように石田川周辺地域は縄文時代から弥生時代中期、後期、古墳時代へと継続していく地域である。縄文時代は湧水を求め、弥生時代以降は農耕適地として選択されていく地域といえる。

3. 遺跡の概要

上江田西田遺跡では、縄文時代後期前葉の堀之内式土器主体の出土傾向が指摘できる。住居跡は痕跡として2軒、他に土坑が確認された。

源六堰遺跡は同じく縄文時代後期初頭の称名寺式土器を主体として出土する。縄文時代の遺構は土坑が主体で、古墳時代後期の住居跡が確認されている。

両遺跡とも縄文時代が後期初頭から前葉に集中し、湧水点の矢太神遺跡とほぼ並行、継続する遺跡と考えられる。

また上江田西田遺跡では河川による、洪水堆積土の下より多量の土師器が出土した。遺物の時期は群馬県で石田川遺跡出土土師器と同様古墳時代前期にあてられる。

本遺跡でも河道の攪乱により遺構は確認されていないが、古墳時代前期の住居跡とともに、遺構外から多量の土師器が検出されている。

Ⅲ 調査の方法

1. グリッドの設定

上江田西田遺跡は南北に流れる石田川西岸である。遺跡南西部を定点とし、5mの正方形グリッドを設定した。グリッドは南から北に向かいアルファベットを振り、東に向かいアラビア数字を振った。なお南北についてはZをすぎると新たに2A、2B、2C……とし、東西については1～20までにとどめて遺構は1からふり直した。

この結果、定点であるA1グリッドは遺跡外に所在し、その南西部座標点は $X=32445$ 、 $Y=-49876$ である。

各々のグリッドの呼称は西北部の杭を使用した。つまりB2グリッドとは杭の南東部の範囲を指す。

源六堰遺跡は上江田西田遺跡よりさらに南に約1kmの場所に位置し、平成9年度に調査が行われた。調査年度が異なり、遺跡間の距離が遠いため調査担当者の協議の結果、上江田西田遺跡の方眼をあてることをやめて国家座標をそのままあてることとした。座標点は全体図に示してある。

このため源六堰遺跡には方眼が組まれていない。源六堰遺跡は遺構の一番近い部分の国家座標の下3桁を掲示している。

2. 調査の概要

(1) 上江田西田遺跡

上江田西田遺跡は南北に走る河道部の南側を1区とし、北側を2区として調査を開始した。

出土する遺物は、縄文時代後期前葉の堀之内式土器群を主体として、中期勝坂式や加曽利E式と後期後半の加曽利B式などの土器が見られる。遺構については明確には周壁、炉は確認できなかった1号住居跡と、同じく周壁は確認できなかったが、炉を持つ2号住居跡を検出した。住居跡2軒、土坑、溝を確認した。河道の移動により遺構外の出土遺物が多いが、縄文時代は後期の土器が集中し、古墳時代前期の土器も暗褐色土(Ⅲa)から大量に出土している。

(2) 源六堰遺跡

源六堰遺跡は南北に走る河道部を分けるように中央部が未買収であったため、北側半分から調査に入りA区とした。調査中に用地を取得し、南側をB区とした。

A区には土坑が群をなして100基以上確認され、B区には2軒の住居跡が検出された。

1号住居跡の時期は確認面が浅く、半部分が調査区外に延びるが、2軒とも出土遺物から古墳時代前期と確認された。

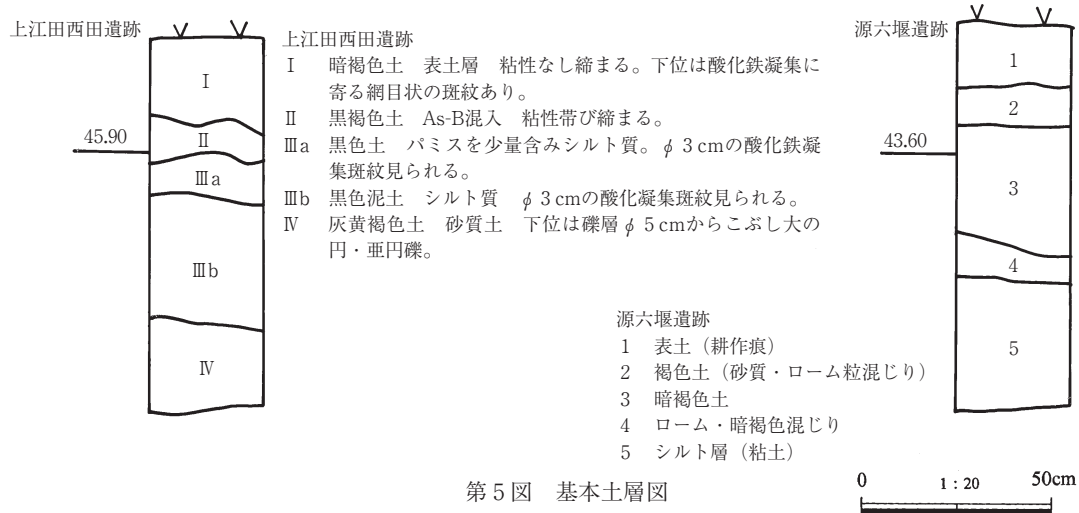
3. 基本土層

上江田西田の基本土層

- I 表土 現在の水田耕土。色調の違いから客土と思われる地点も見られる。近世～現代の陶磁器類を含む。
- II 黒色土 As-Bを含む。鉄分凝集班が見られる。粘性高く、水田耕土であった可能性がある。
- Ⅲ a 黒色土 黄白色パミス(Hr-FAかAs-C)をまばらに含む。粘性が高く、水田耕土であった可能性が高い。
- Ⅲ b 黒色泥土 未分解の植物体を含む。河道を埋積した主堆積層で、縄文～古墳時代前期の遺物を含む。縄文後期の遺構を厚く覆っている。

源六堰遺跡の基本土層

- 1 表土 現在の耕作土
- 2 褐色土 砂質土、ローム粒が混じる。やや粘性があるが砂が混入する。河道の影響と考えられる。
- 3 暗褐色土 粘性が高く、土師器片、縄文土器片の遺物を含む。
- 4 ローム粒と暗褐色土層の混じった層、A区では土師器出土住居跡の確認面、B区では土坑の確認面にもあたる。縄文後期の遺物を含む。



第5図 基本土層図

上江田西田遺跡

IV 検出された遺構と遺物

1号住居跡

1区南部に位置し、EFG10～11の範囲にある。住居跡の輪郭ははっきり確認できていない。FG10～11グリッドの中に敷石が確認され、柄鏡形敷石住居跡と考えられる。石は人頭大で、平坦に敷かれている。敷石の廻りには12、14号土坑、13、15、16、17号ピットが確認され、さらに南にやや離れ、18号ピットが確認されている。出土遺物は敷石の周辺から同じレベルで称名寺2式期から堀之内2式期の土器が出土し、主体は堀之内1式段階にある。

2号住居跡

1区南部に位置し、FG8・9の範囲にある。1号住居跡の西北に接するように所在する。2号住居跡も1号住居跡同様、河川の洪水等により壁等のほりこみは確認できなかった。G9グリッド南部で敷石が確認され、また中央部に土器埋設炉が検出されたことにより柄鏡形敷石住居跡とした。炉の北側に近接してNo1～4・8などの土器片が出土している。炉を中心にしてその外周3mほどの位置にP5～P8のピットが確認され、住居跡に付設された可能性が指摘できる。出土遺物は炉跡周辺にまともって出土し、称名寺2式期から堀之内1式土器が出土し、主体は堀之内1式期にある。

土坑・ピット

1区には土坑が14基確認されている。遺構の位置・形状・規模・出土遺物等の所見は土坑一覧表に記載してある。遺物出土が確認されているのは1～4号・7～9号・13号・14号土坑である。遺物は縄文時代後期前葉、堀之内1・2式土器である。

出土土器はすべて土坑かピットないし谷埋積土層からであり、明確に各遺構の時期を示すのは難しいと考えられる。遺物が出土しない土坑も遺物を出土する土坑同様、石田川の右岸の西側にあり、侵食された台地の部分にあたる。川の侵食による崩壊を免れたものと考えられる。古墳時代には湿地であったと考えられるので、この地点での土坑はそれ以前

(縄文時代) ととらえたい。

1号住居跡の範囲内から検出された12・14号土坑は12号、長径79cm、短径53cm、深さ35cm、形態は東半部が川にかかり壊されているため不明である。14号が、長径185cm、短径153cm、深さ23cmを測り、隅丸形状を呈する。これらの土坑と1号住居跡との関係は不明であるが、出土遺物は後期前葉の堀之内式土器を主体にしており、住居跡に伴うと考えてよい。

2号住居跡の範囲内から検出された7号土坑の規模は長径170cm、短径140cm、深さ12cmの円形を呈し、4号ピットの規模は長径86cm、短径68cm、深さ25cmを測る円形である。出土遺物は縄文時代後期前葉堀之内式土器が主体を占めるが、その配列には規則性はうかがえず、2号住居跡に付随する施設か否か不明である。P5～P8は壁柱穴の可能性もある。

各々の規模はP13：長径59cm、短径41cm、深さ7cm、P15：長径35cm、短径25cm、深さ7cm、P16：径31cm、深さ13cm、P17：径38cm、深さ5cm、P18：径32cm、深さ7cmを測る。

溝

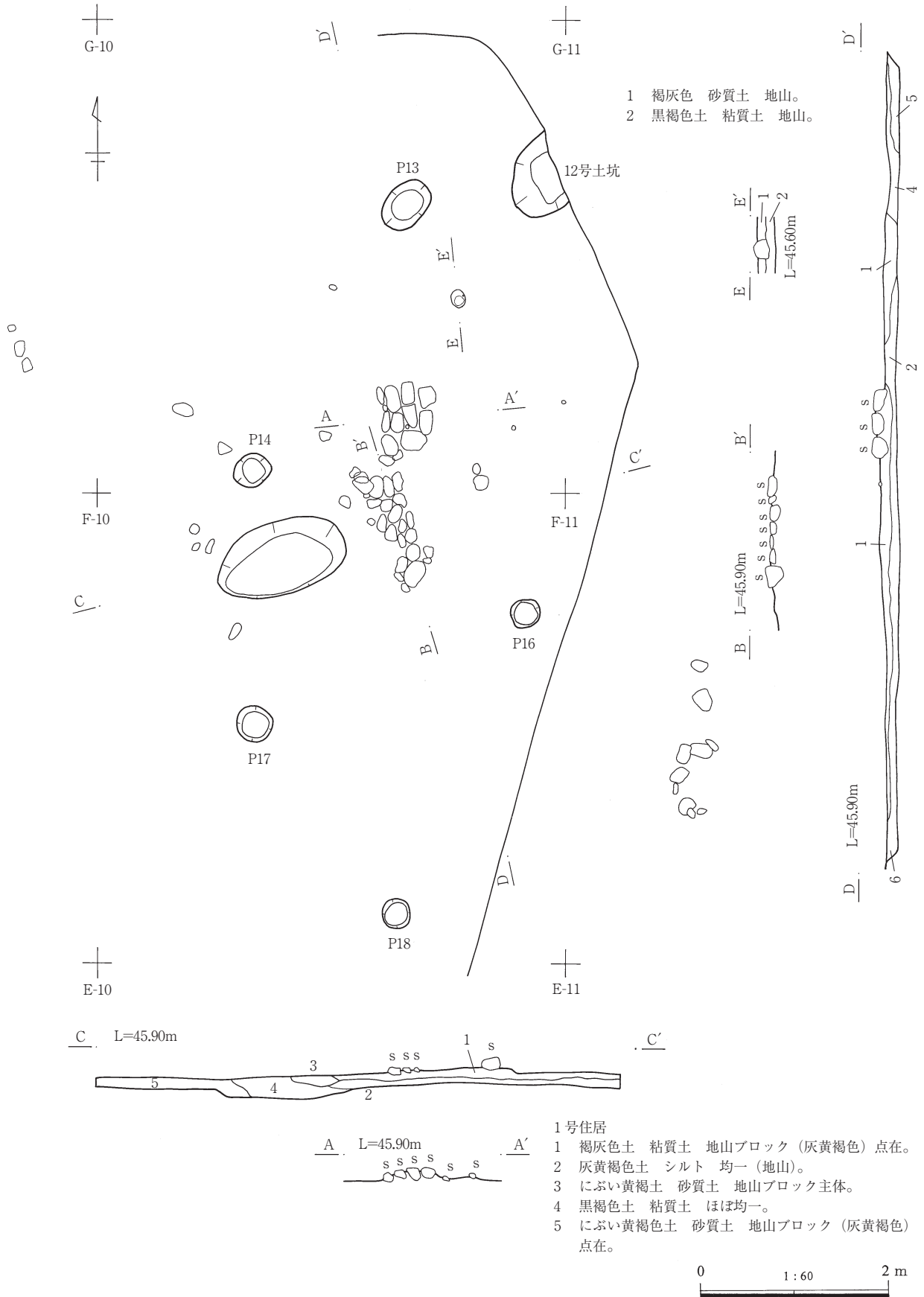
上江田西田遺跡では1～6号の5条の溝が検出された。すべて18世紀から近現代にあてられる。溝からは木器が出土している。

杭は先端を鋭利な道具で削って尖らせてある。樹種はコナラ節である。

4号溝、5号溝から各々一足の近世の下駄が出土している。2号溝からも近世の煙管の雁首が出土している。

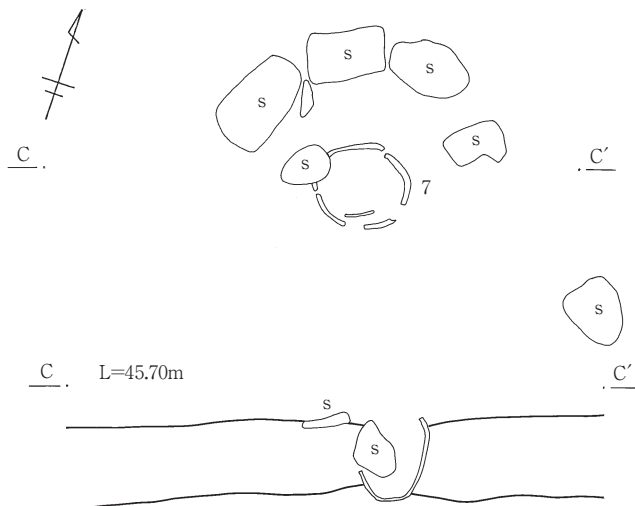
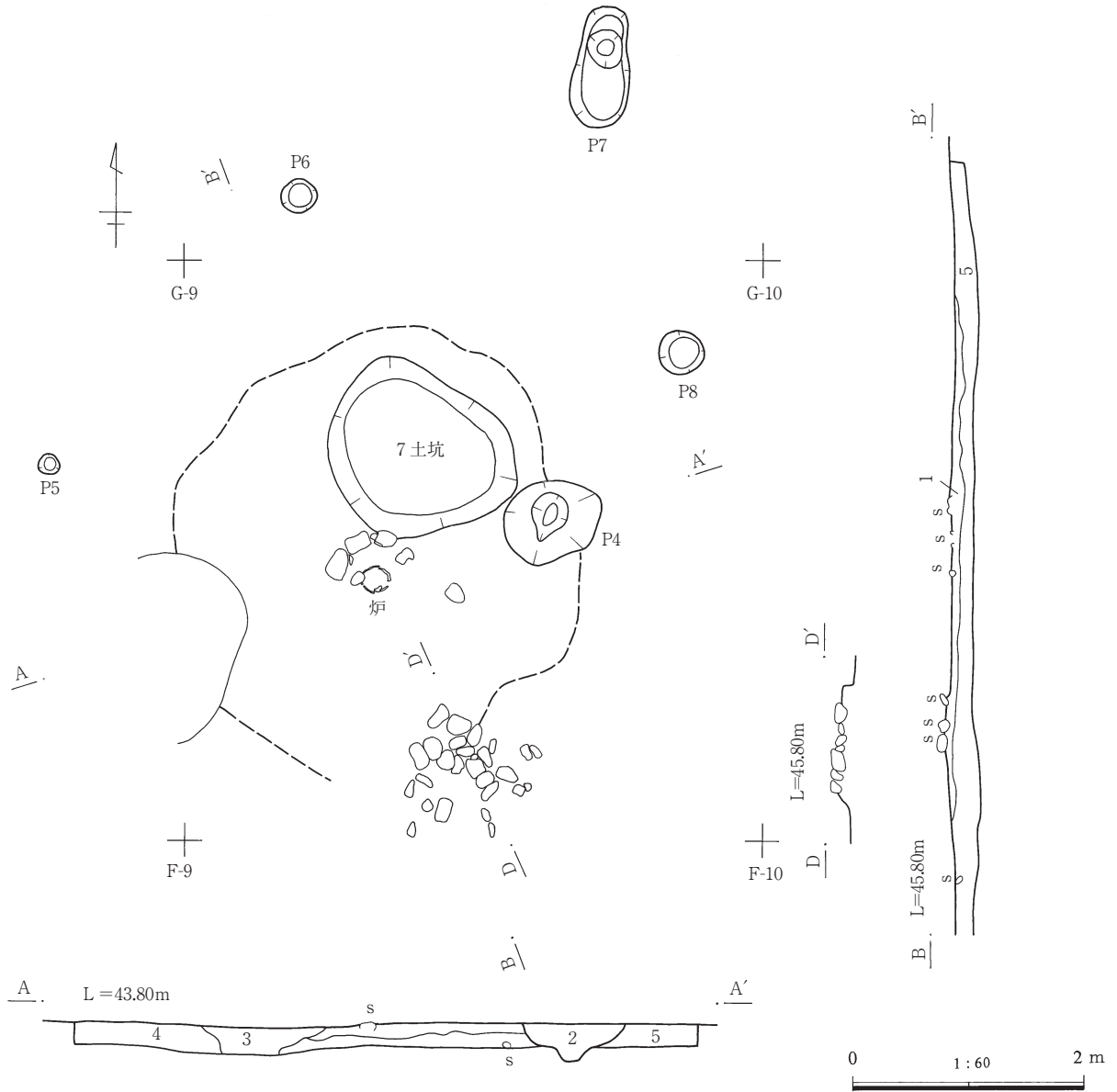
遺構外出土遺物

河川の氾濫に伴う堆積土中（基本土層4・5層）からたくさんの縄文土器、土師器とともに打製石斧4点、凹み石8点、砥石6点が出土している。砥石はすべて砥沢石を石材としている。



第6図 1号住居跡

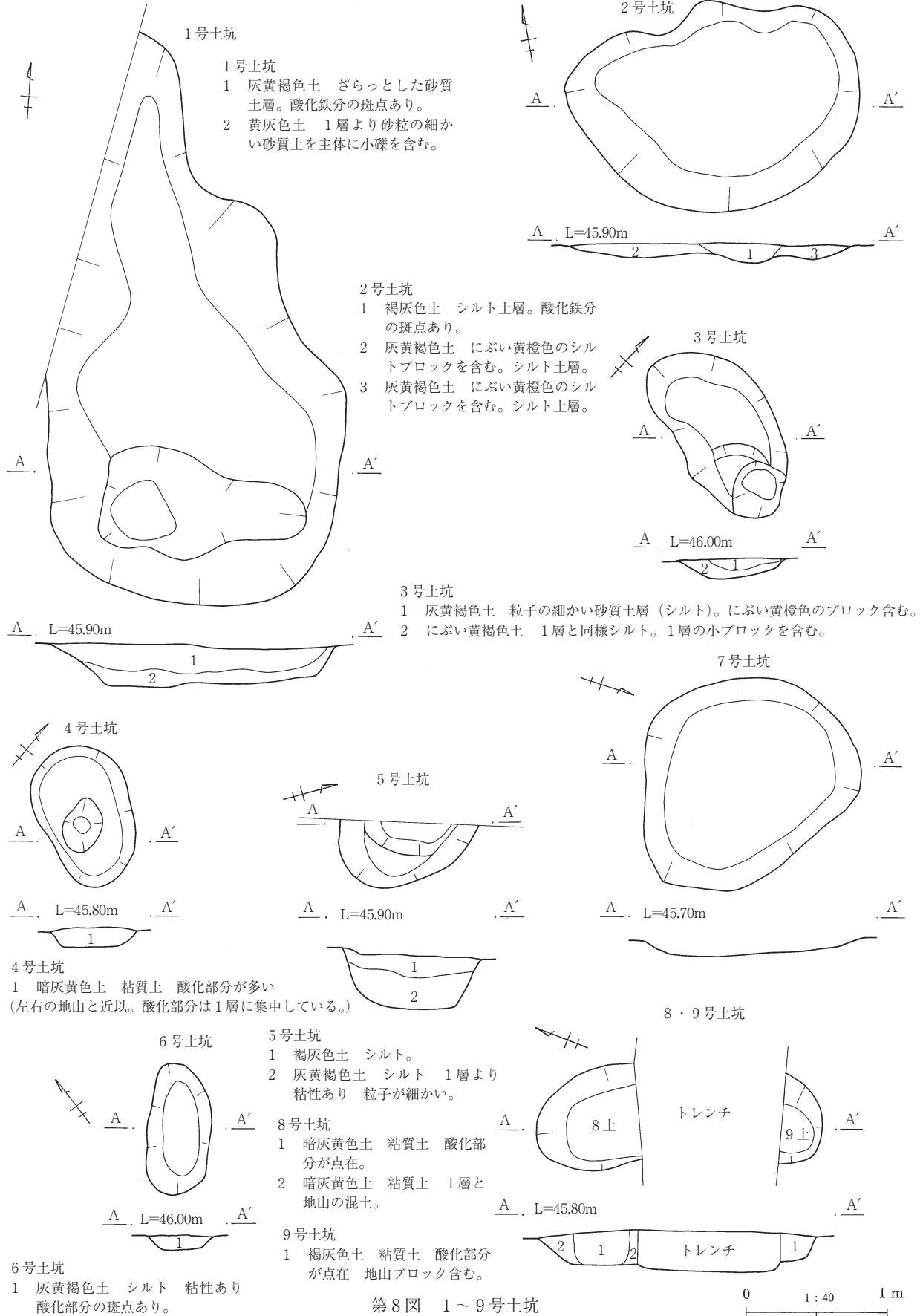
IV 検出された遺構と遺物



2号住居

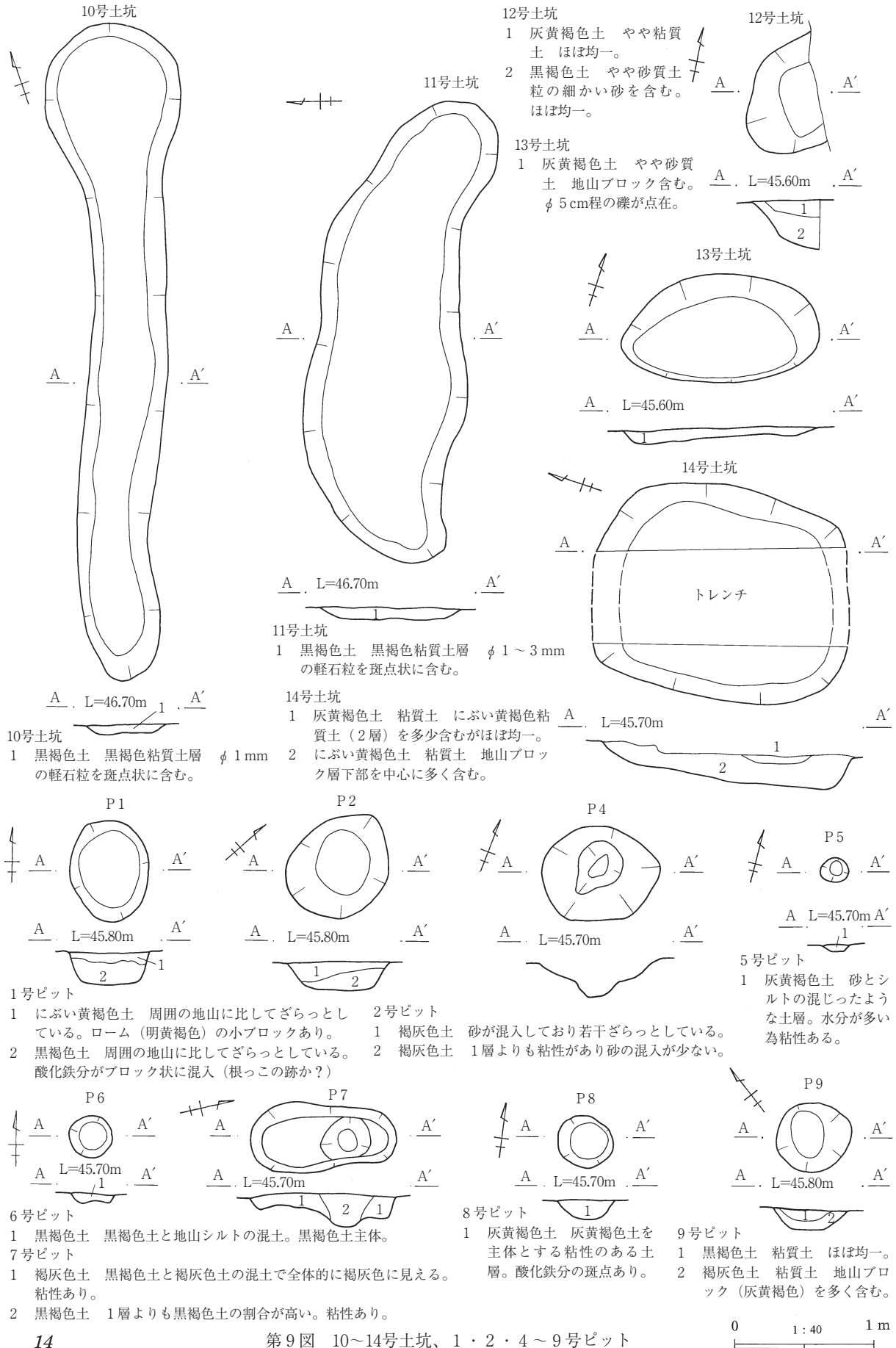
- 1 にぶい黄褐色土 砂質土と粘土の混土。粘性あり。
- 2 灰黄褐色土 砂質土と粘土の混土。粘性あり。1層より黒色が強い。
- 3 灰黄褐色土 砂質土と粘土の混土。粘性あり。
- 4 青灰色土 砂礫層 米粒大~こぶし大の礫混入。
- 5 青灰色土 地山の砂層。

第7図 2号住居跡・炉

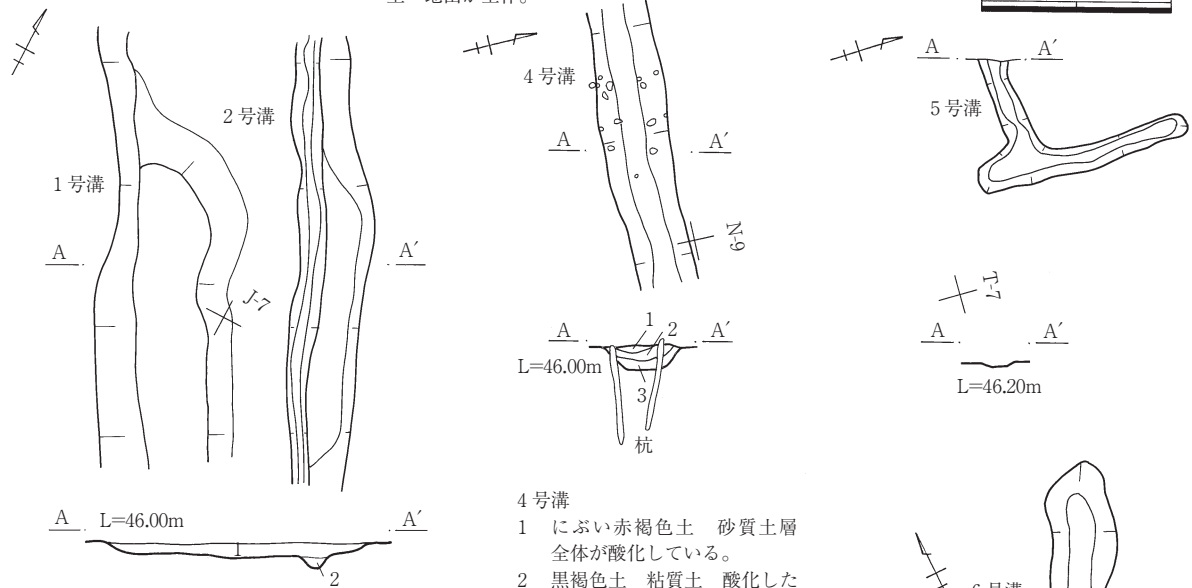
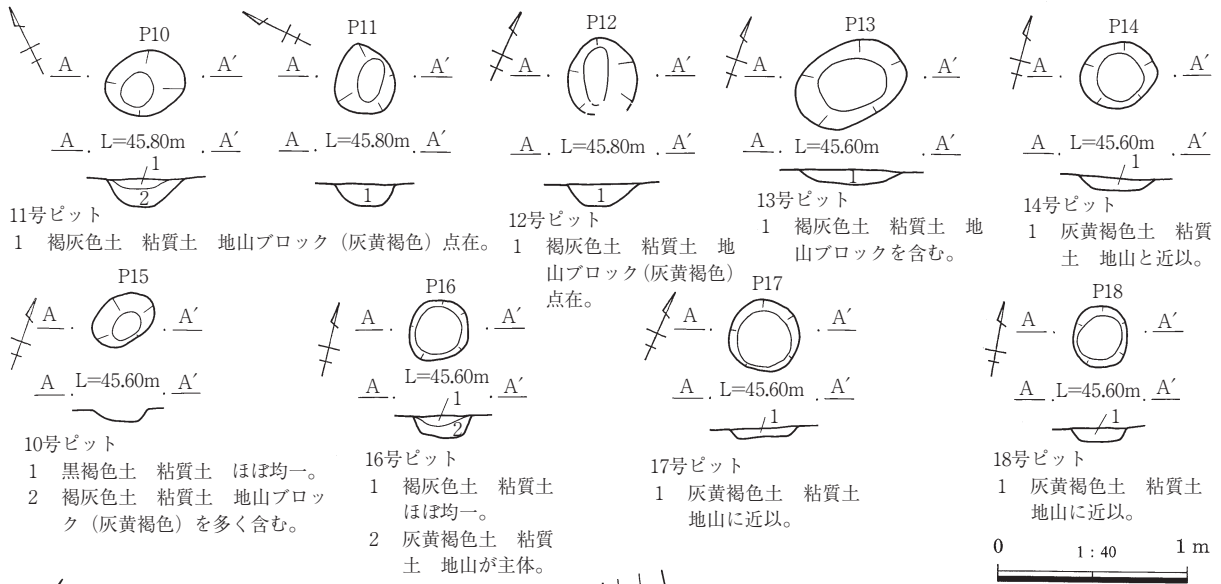


第8図 1～9号土坑

IV 検出された遺構と遺物



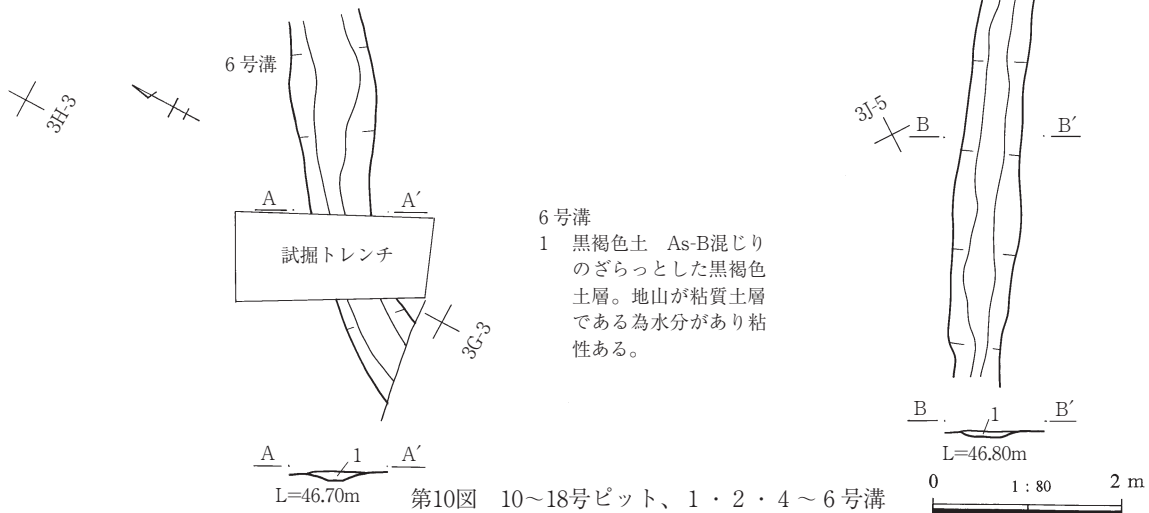
第9図 10~14号土坑、1・2・4~9号ピット



- 1・2号溝
1 黒褐色土 黒褐色土を主体に灰黄褐色のシルト質ブロックを混入。黒褐色土はざらっとした砂質土。
2 暗灰色土 ざらっとした砂質土層。

- 4号溝
1 にぶい赤褐色土 砂質土層 全体が酸化している。
2 黒褐色土 粘質土 酸化した部分が点在。
3 砂と2層がラミナ状に堆積。

- 6号溝
1 黒褐色土 As-B混じりのざらっとした黒褐色土層。地山が粘質土層である為水分があり粘性がある。



第10図 10~18号ピット、1・2・4~6号溝

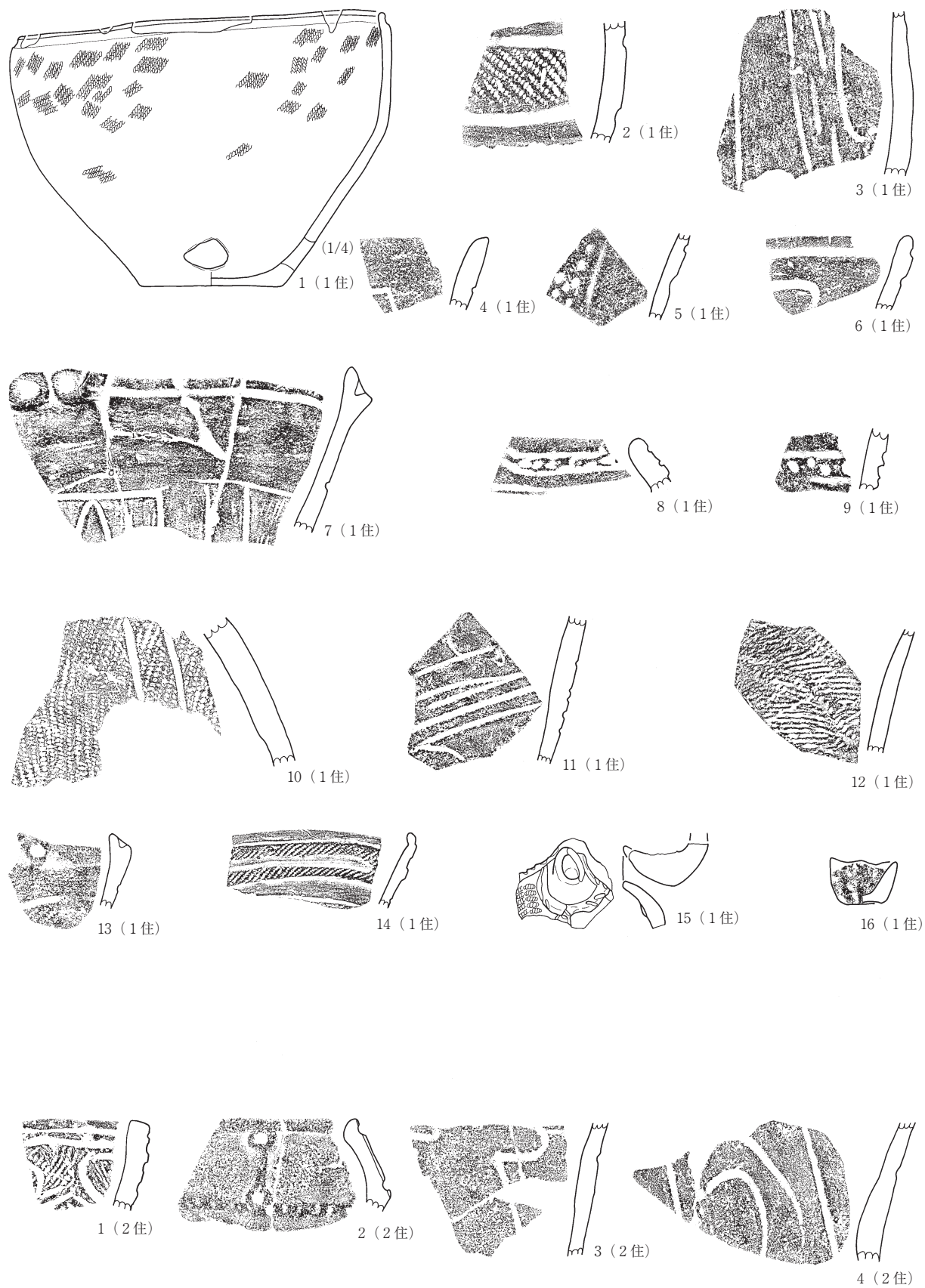
Ⅳ 検出された遺構と遺物

第2表 土坑・ピット・溝計測表

番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物
土坑 1	406	213	30	楕円形	O-4	堀之内 1 式土器
土坑 2	210	150	14	楕円形	N-5	堀之内 1 式土器
土坑 3	136	71	12	楕円形	O-5	後期前半
土坑 4	100	65	12	楕円形	L-6	堀之内 1 式土器
土坑 5	98	47	40		P-5	
土坑 6	93	46	9	楕円形	P-5	
土坑 7	170	140	12	円形	G-9	加曾利 E 式土器・前期後葉
土坑 8	72	70	23		K-6	堀之内 1・2 式土器
土坑 9	63	29	18		J-6	後期前半
土坑 10	473	56	7	隅丸長方形	3F-18	
土坑 11	334	106	10	楕円形	3F-19	
土坑 12	79	53	35		G-10	
土坑 13	142	79	10	楕円形	F-10	堀之内 2 式土器
土坑 14	185	153	23	隅丸方形	H-10	称名寺Ⅱ式土器

番号	長径	短径	深さ	形状	位置
ピット 1	73	57	24	楕円形	H-8
ピット 2	82	66	19	円形	I-9
ピット 4	86	68	25	円形	G-9
ピット 5	20	17	5	円形	G-8
ピット 6	30	29	7	円形	H-9
ピット 7	104	40	23	隅丸長方形	H-9
ピット 8	39	38	14	円形	G-9
ピット 9	55	50	16	円形	K-6
ピット 10	41	34	15	円形	K-6
ピット 11	37	31	11	円形	K-6
ピット 12	40	37	13	円形	K-5
ピット 13	59	41	7	楕円形	G-10
ピット 14	40	35	7	円形	G-10
ピット 15	35	25	7	楕円形	G-10
ピット 16	31	31	13	円形	F-10
ピット 17	38	37	5	円形	F-10
ピット 18	32	29	7	円形	F-10

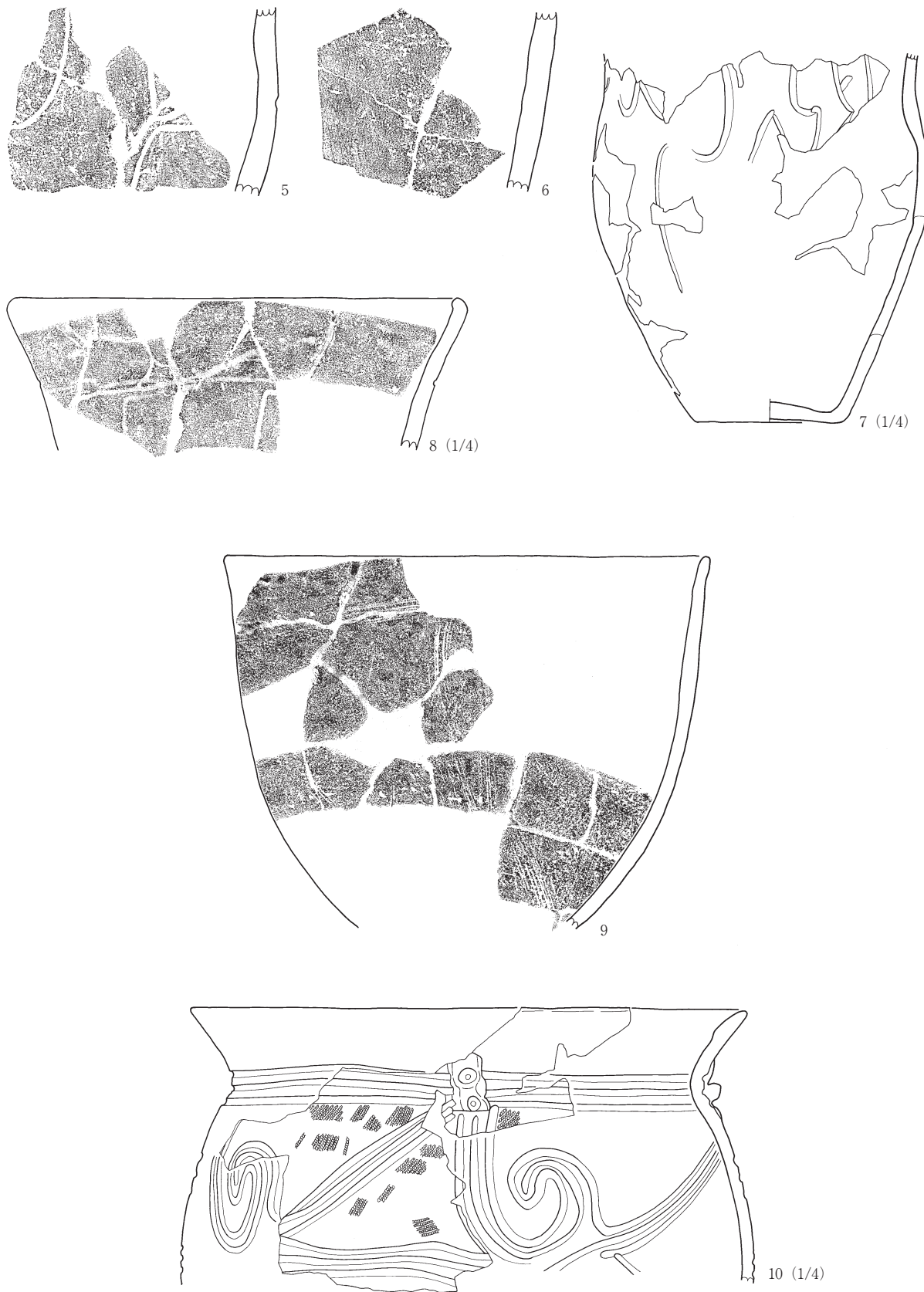
番号	幅	深さ	位置
1 号溝	282	14	D ~ M-5 ~ 10
2 号溝	28	15	G ~ M-5 ~ 9
4 号溝	73	27	L ~ O-4 ~ 9
5 号溝	30	5	2A-6
6 号溝	65	10	3G ~ k-2 ~ 5



第11図 1・2号住居跡出土遺物

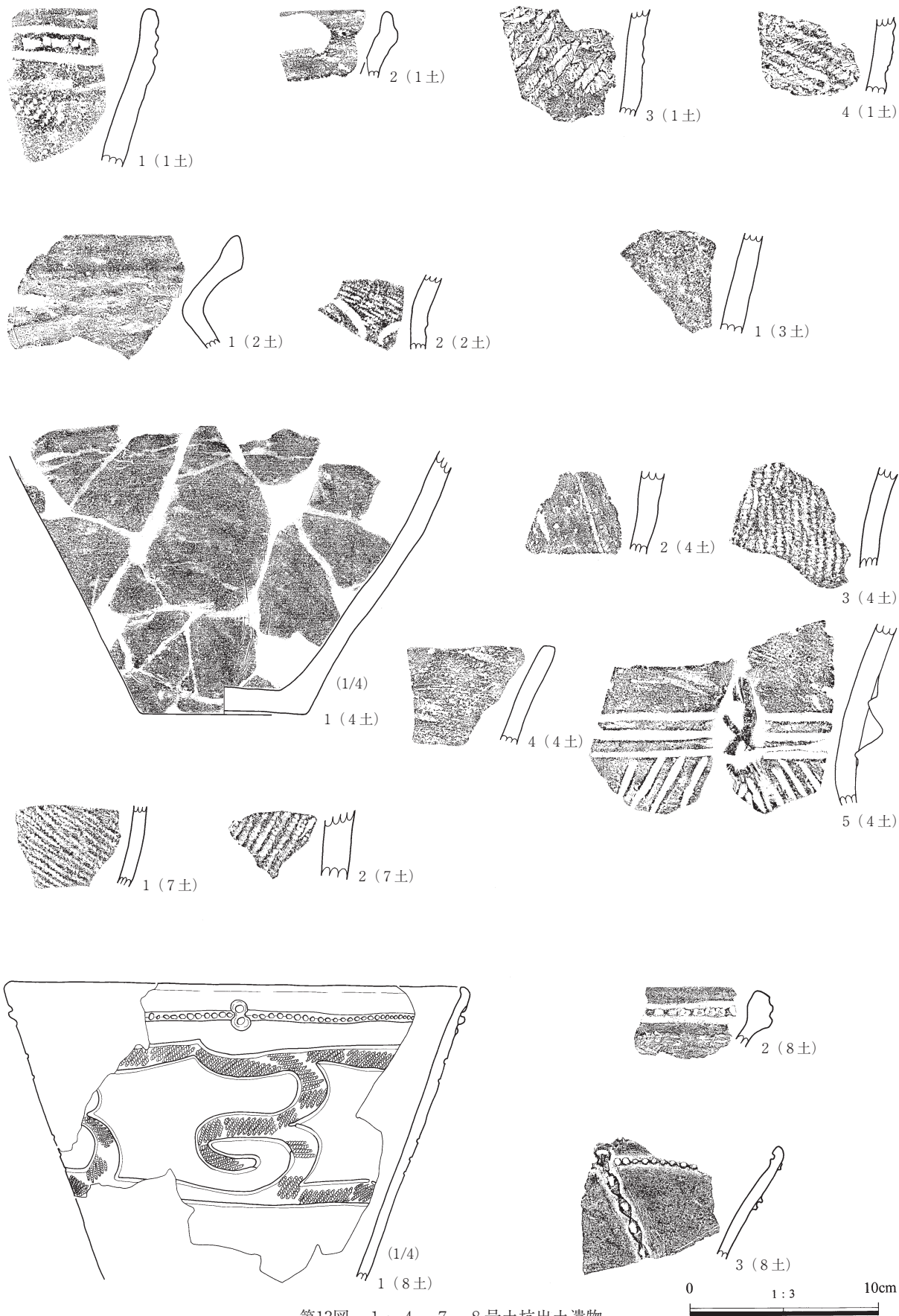
0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



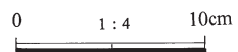
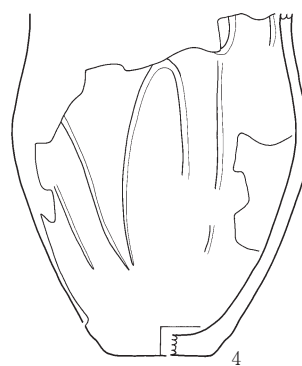
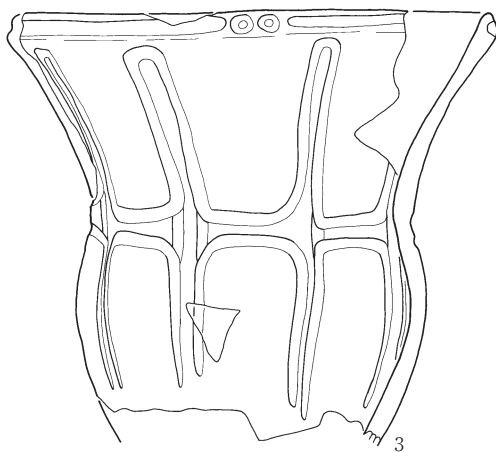
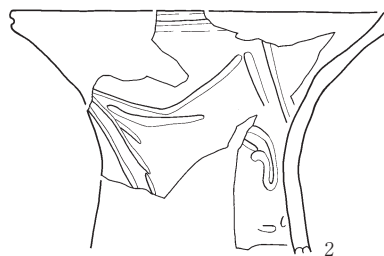
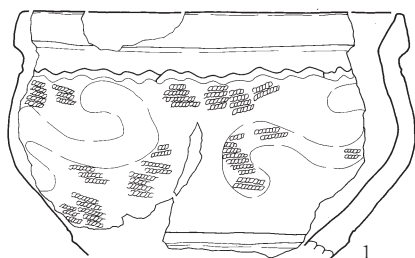
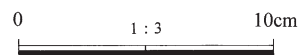
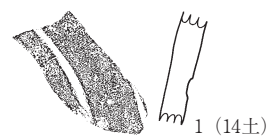
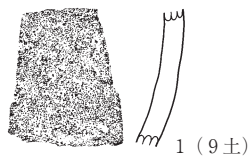
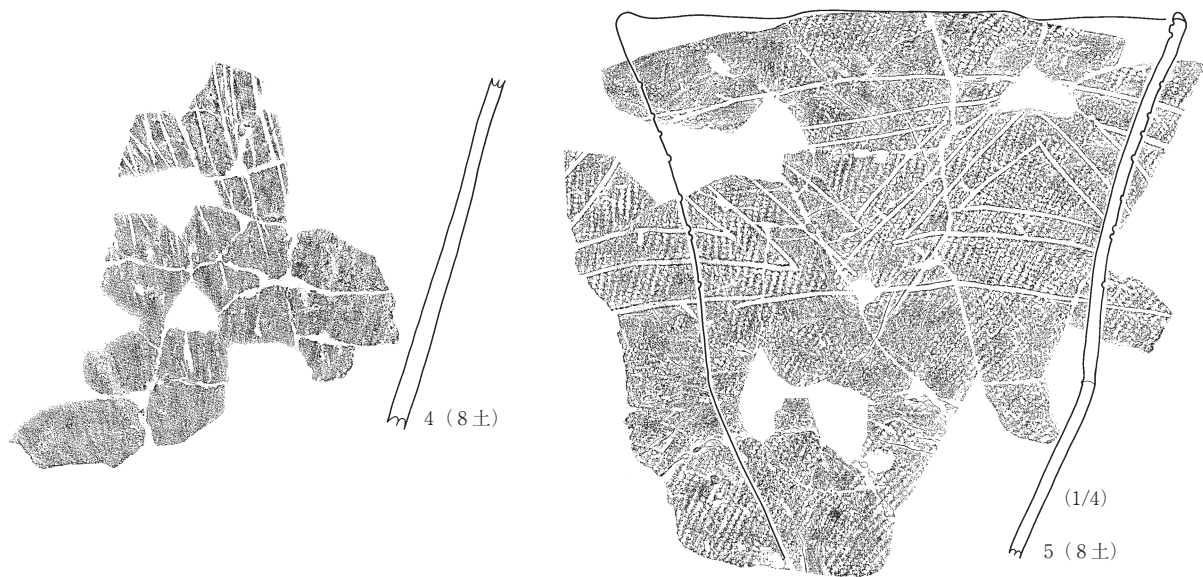
0 1:3 10cm

第12図 2号住居跡出土遺物

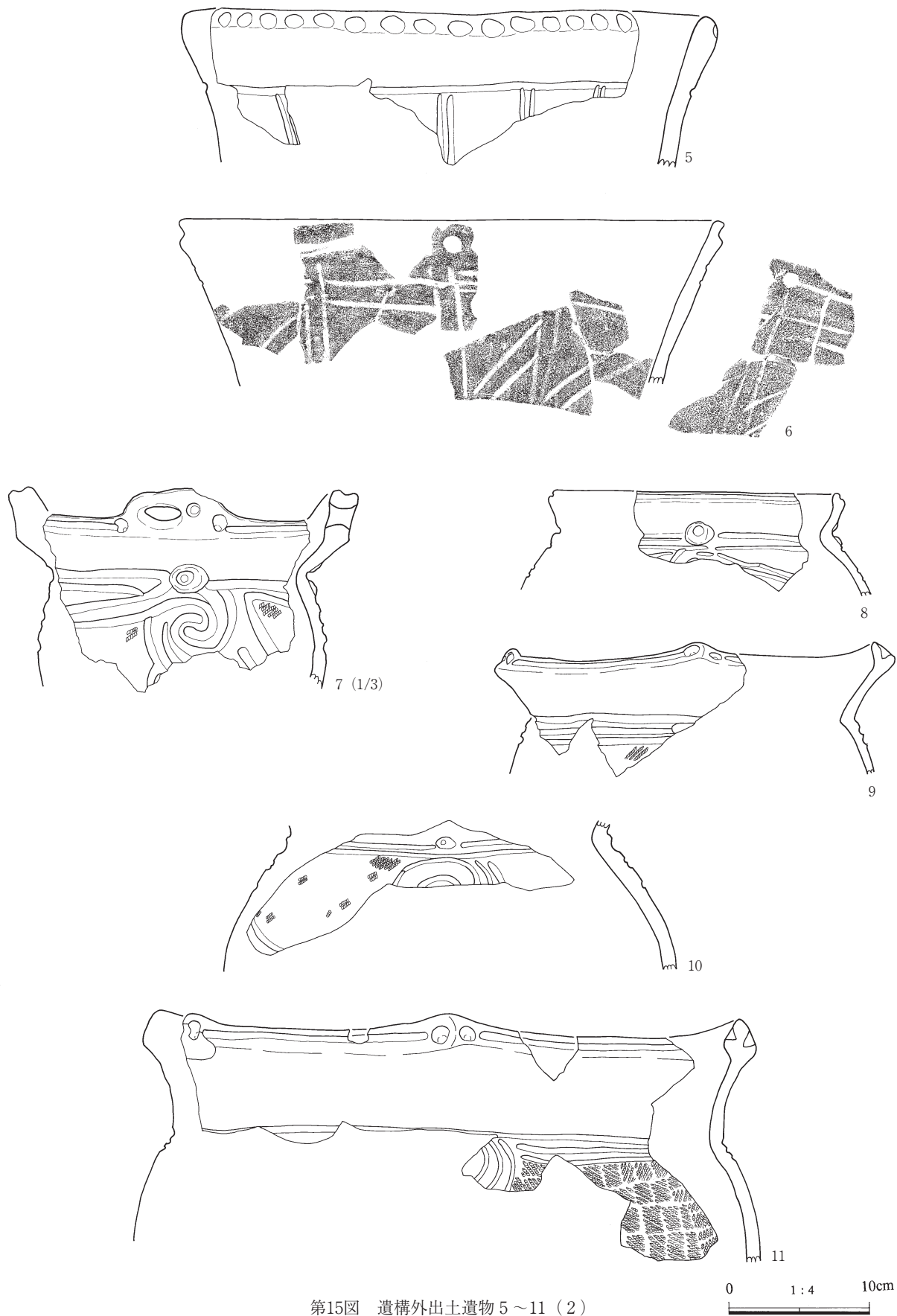


第13図 1~4・7・8号土坑出土遺物

IV 検出された遺構と遺物

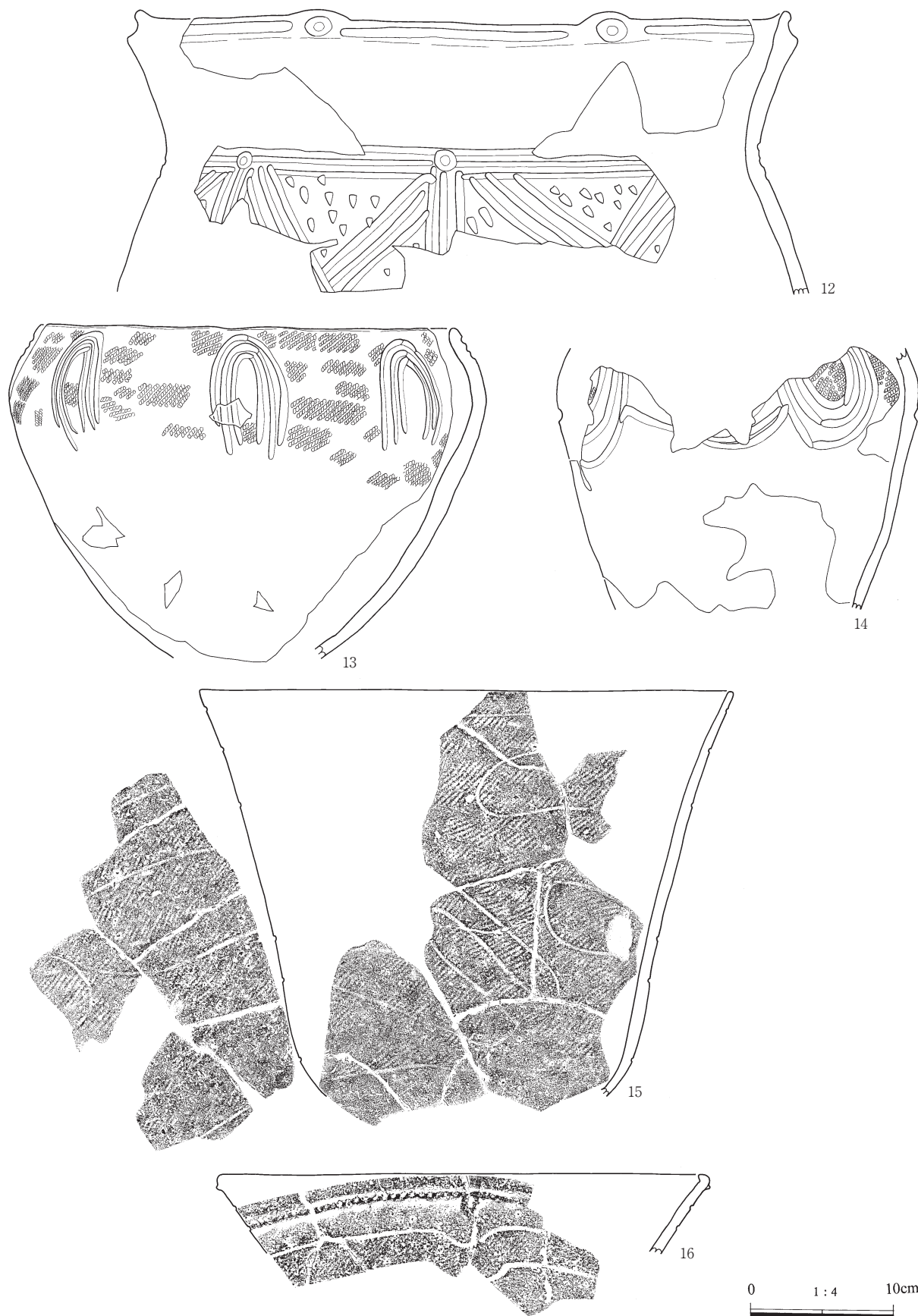


第14図 8・9・13・14号土坑、遺構外1～4 (1) 出土遺物

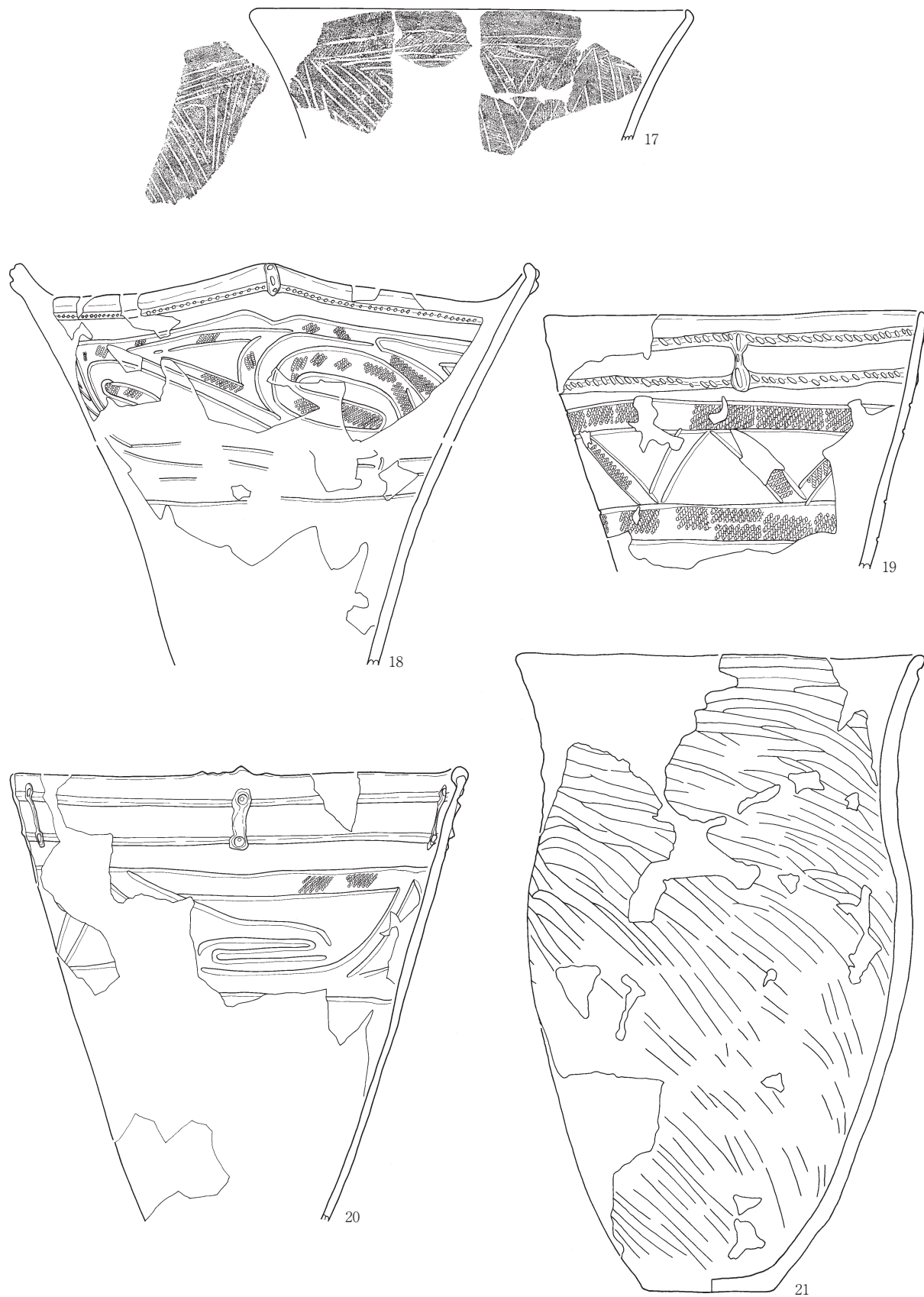


第15図 遺構外出土遺物 5~11 (2)

IV 検出された遺構と遺物

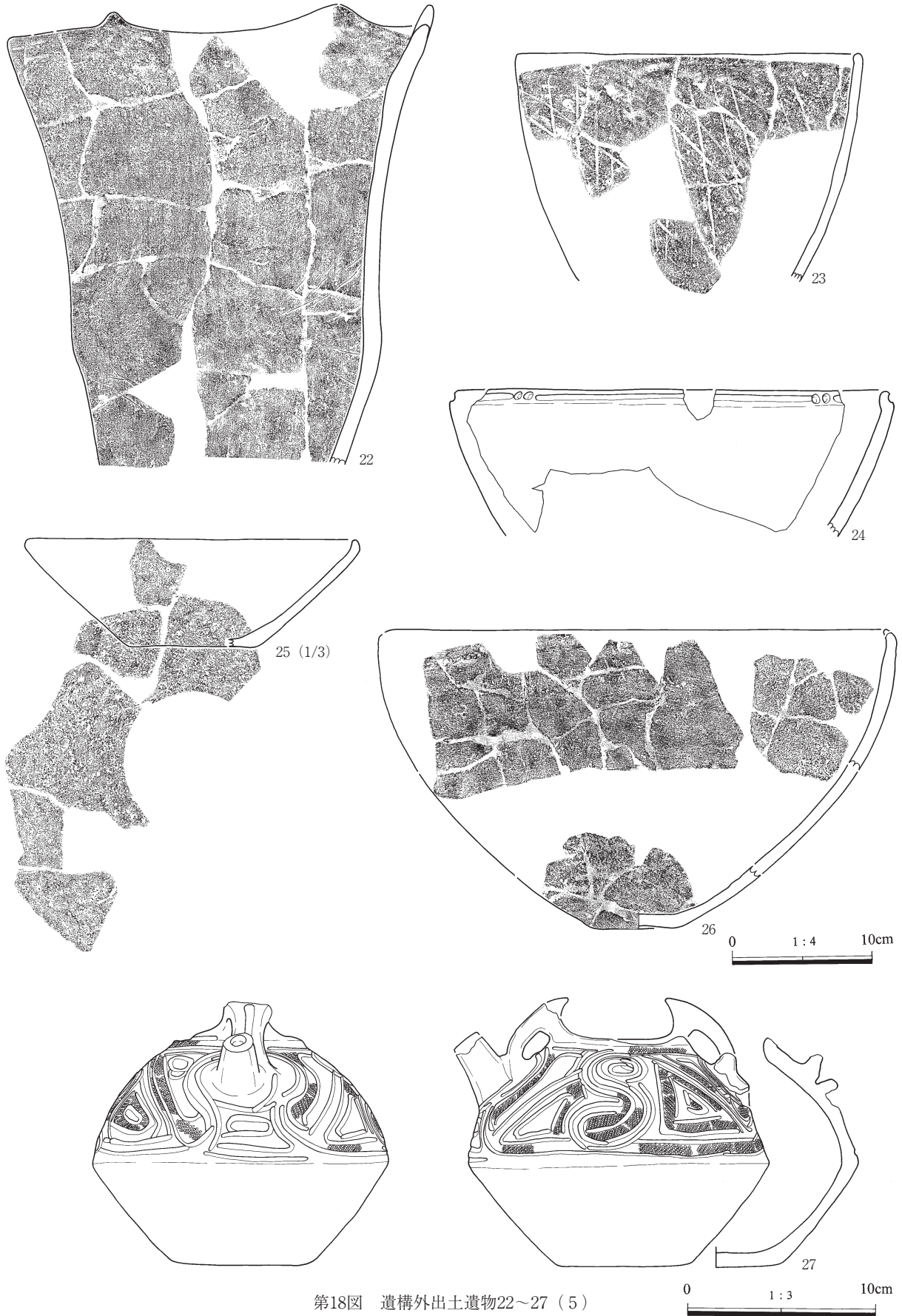


第16図 遺構外出土遺物12~16 (3)

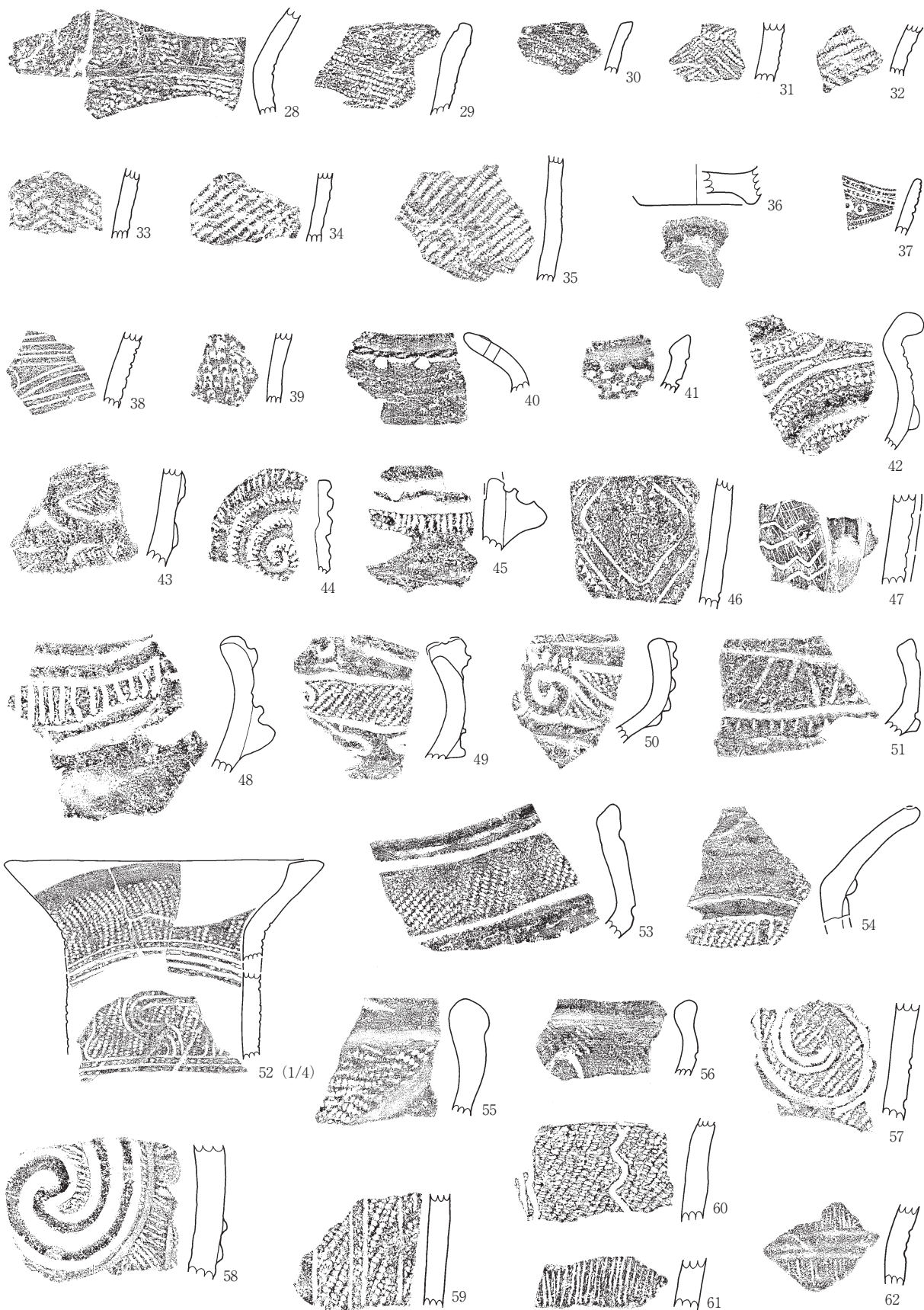


第17図 遺構外出土遺物17~21 (4)

IV 検出された遺構と遺物



第18図 遺構外出土遺物22~27 (5)



第19図 遺構外出土遺物28~62 (6)

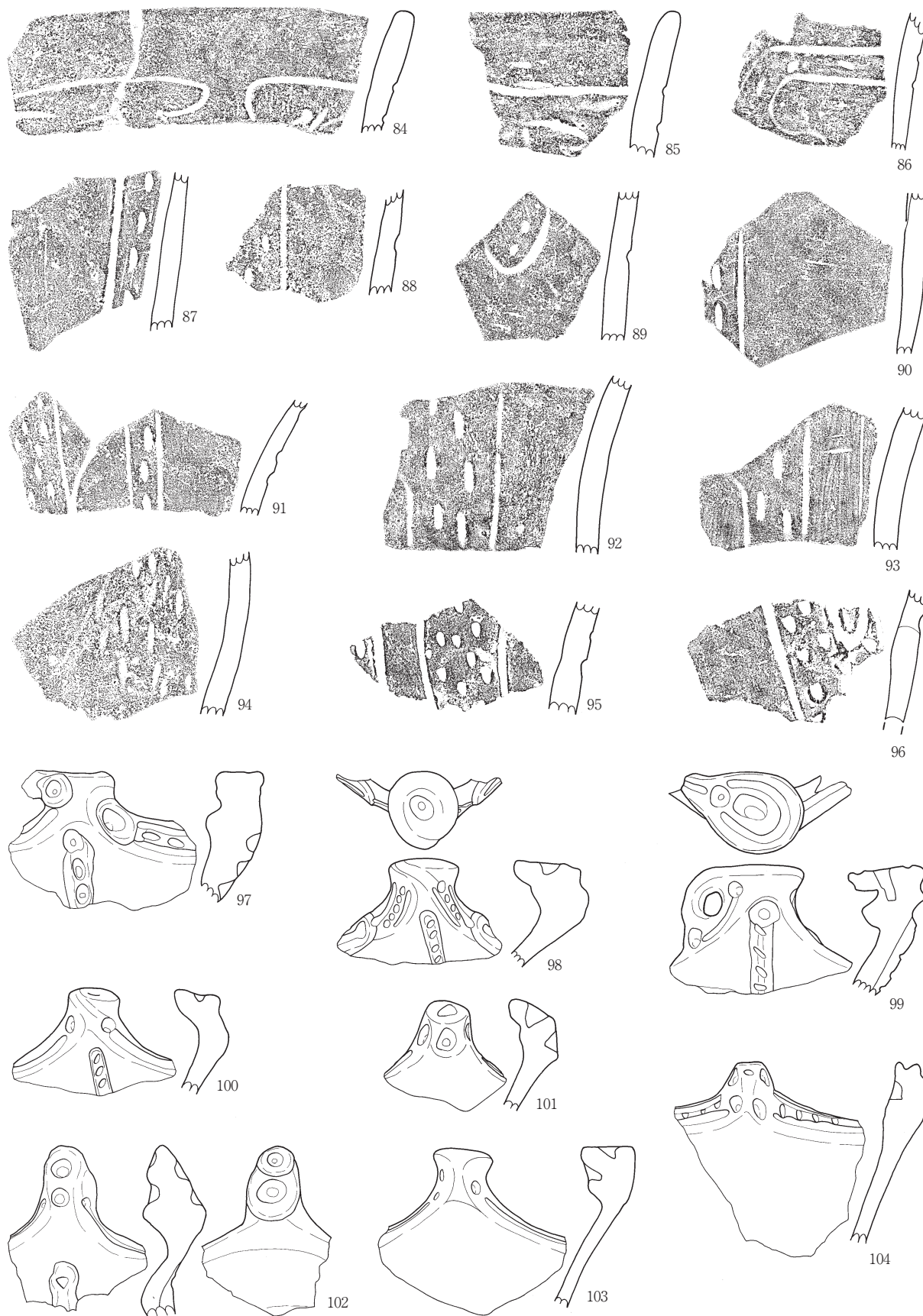
0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



第20図 遺構外出土遺物63~83 (7)

0 1:3 10cm



第21図 遺構外出土遺物84~104 (8)

0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



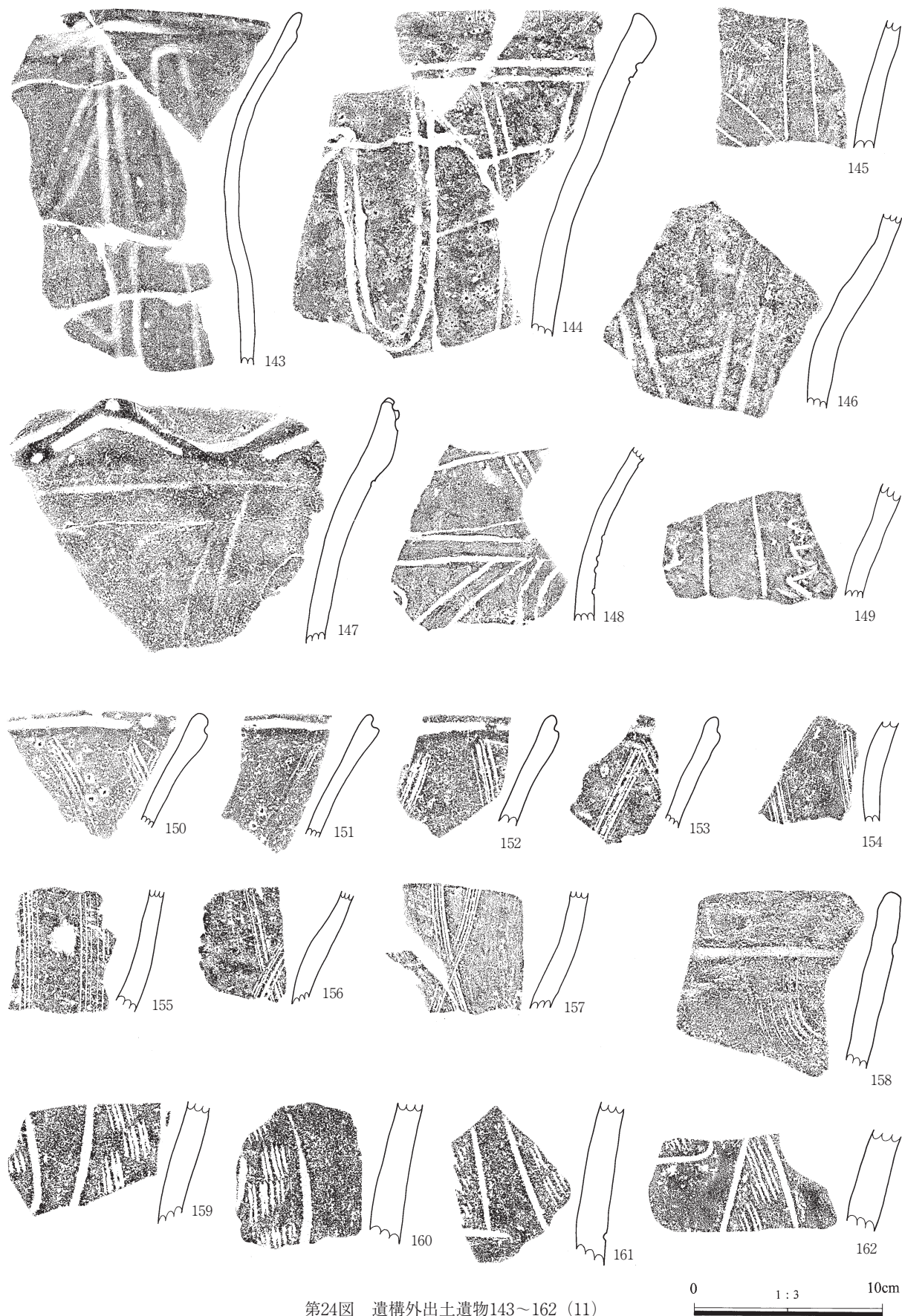
第22図 遺構外出土遺物105~126 (9)

0 1:3 10cm



第23図 遺構外出土遺物127~142 (10)

IV 検出された遺構と遺物



第24図 遺構外出土遺物143~162 (11)



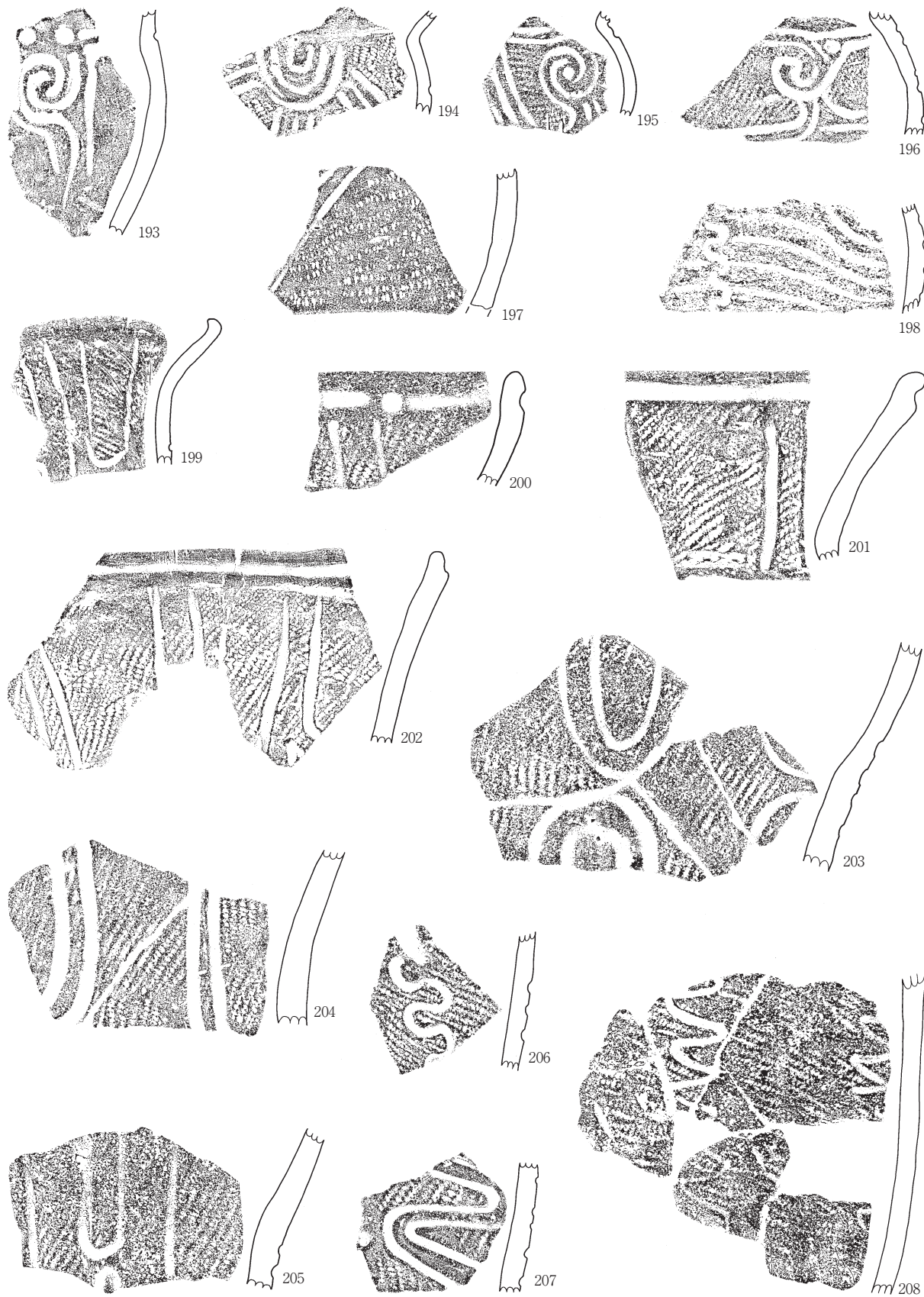
第25図 遺構外出土遺物163~175 (12)

IV 検出された遺構と遺物



第26図 遺構外出土遺物176~192 (13)

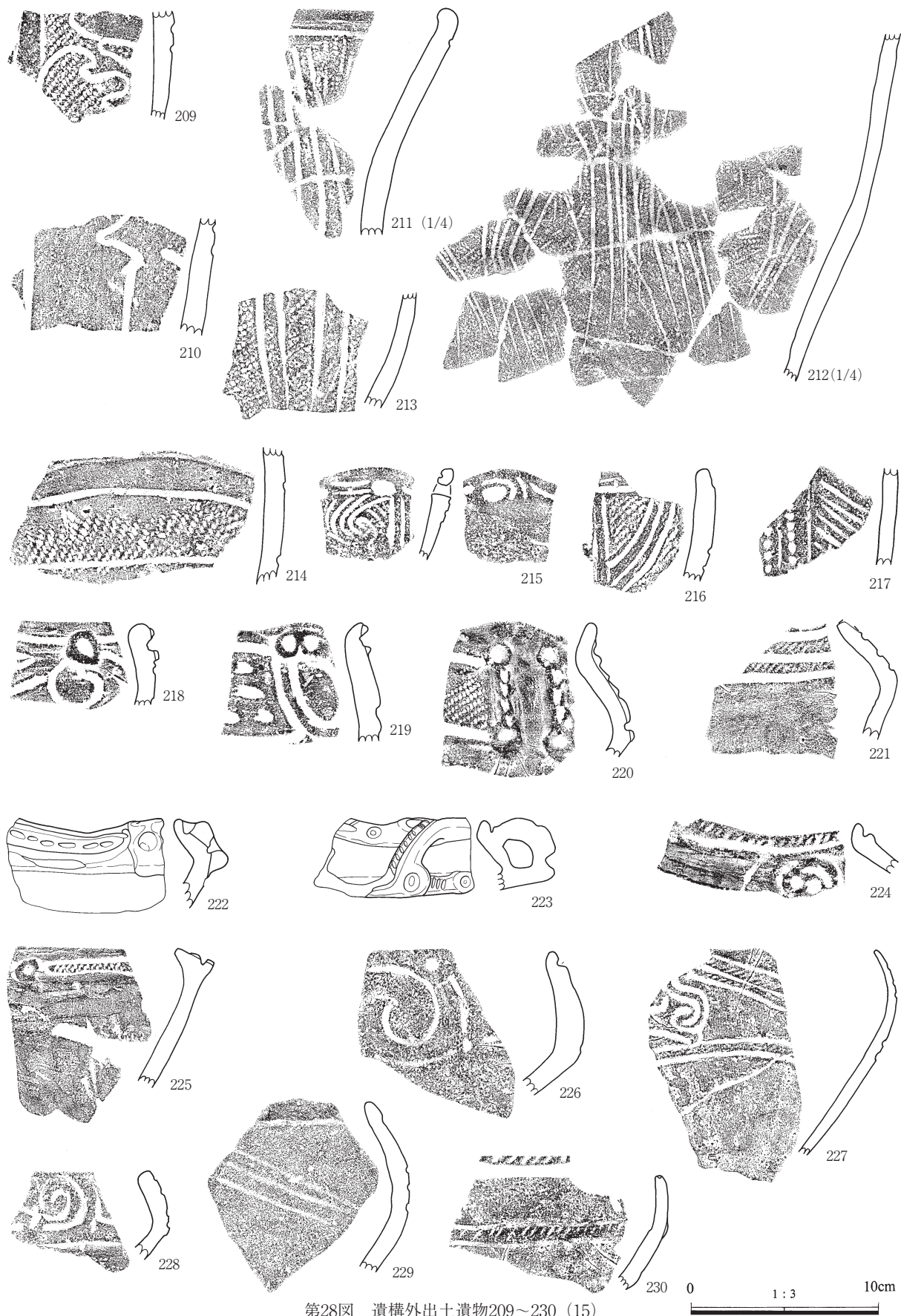
0 1:3 10cm



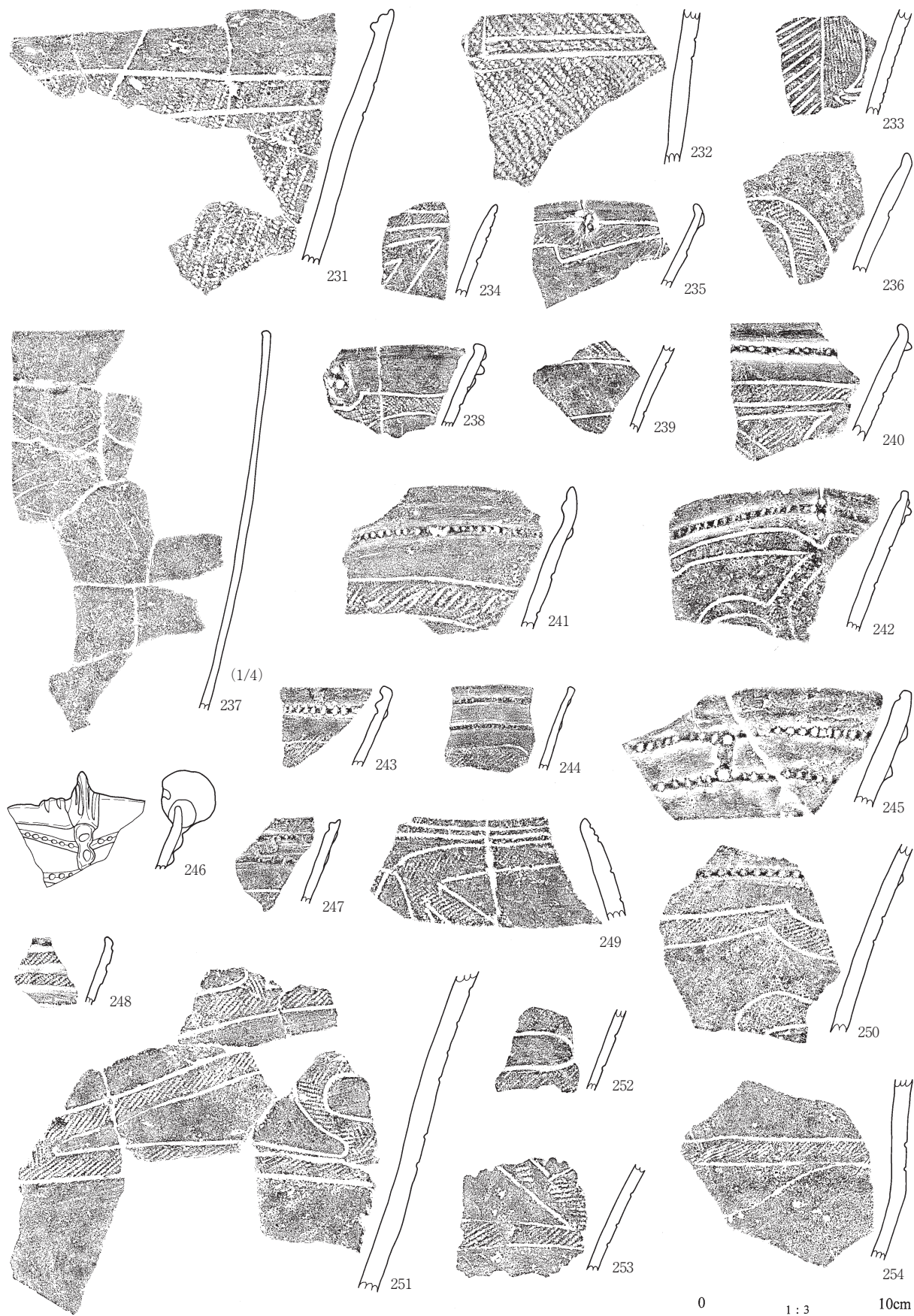
0 1:3 10cm

第27図 遺構外出土遺物193~208 (14)

IV 検出された遺構と遺物

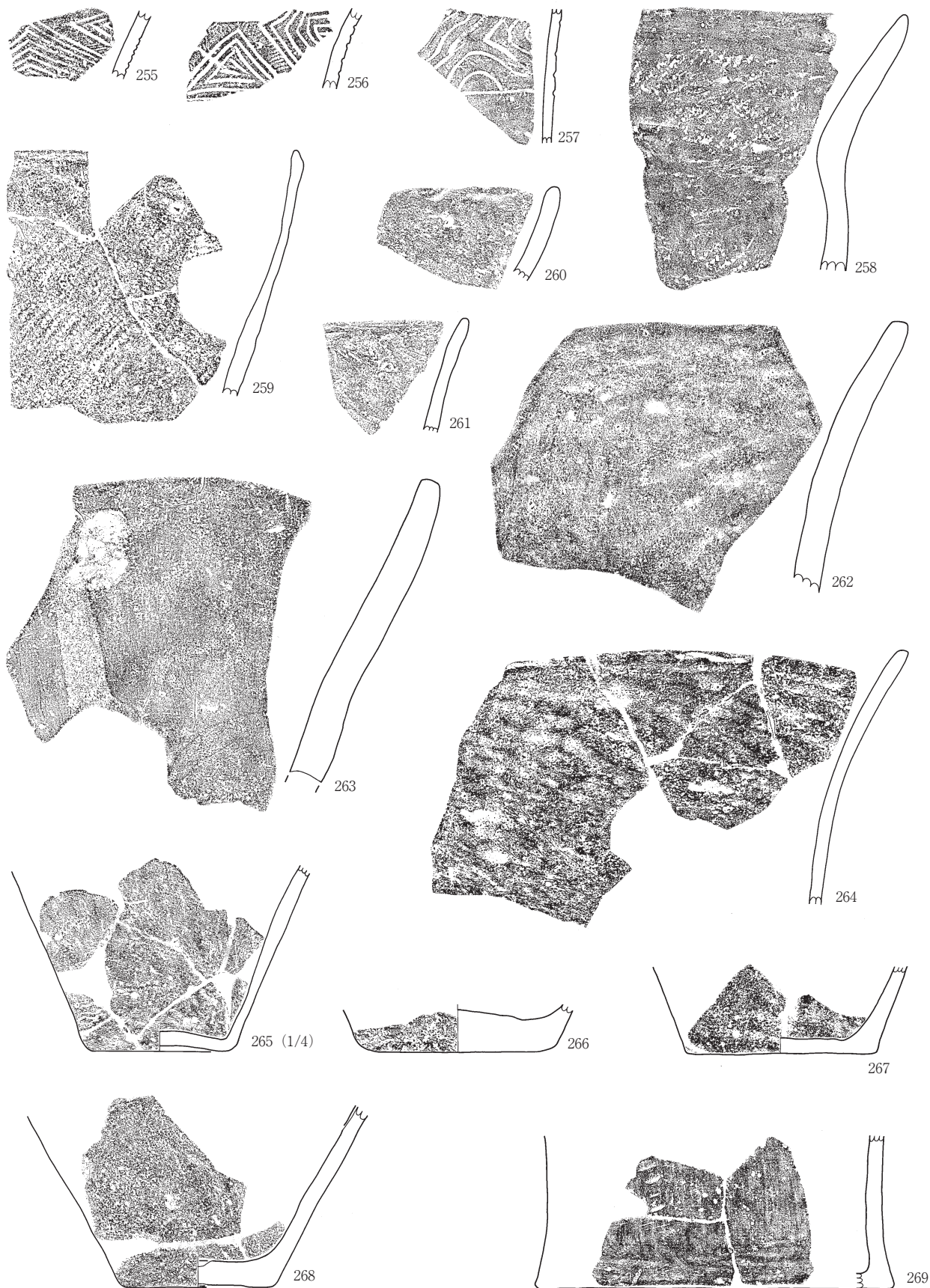


第28図 遺構外出土遺物209~230 (15)



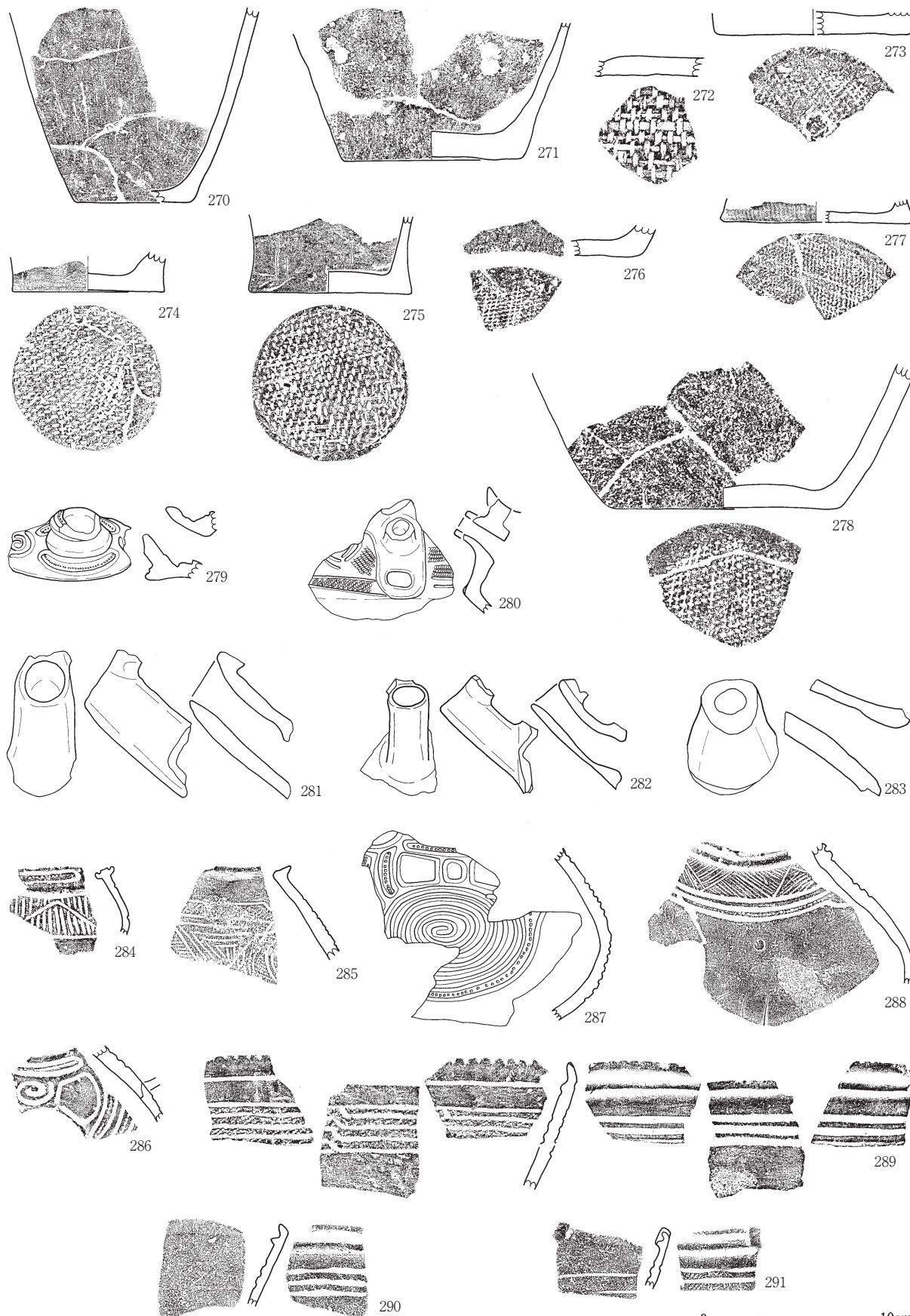
第29図 遺構外出土遺物231~254 (16)

IV 検出された遺構と遺物



第30図 遺構外出土遺物255~269 (17)

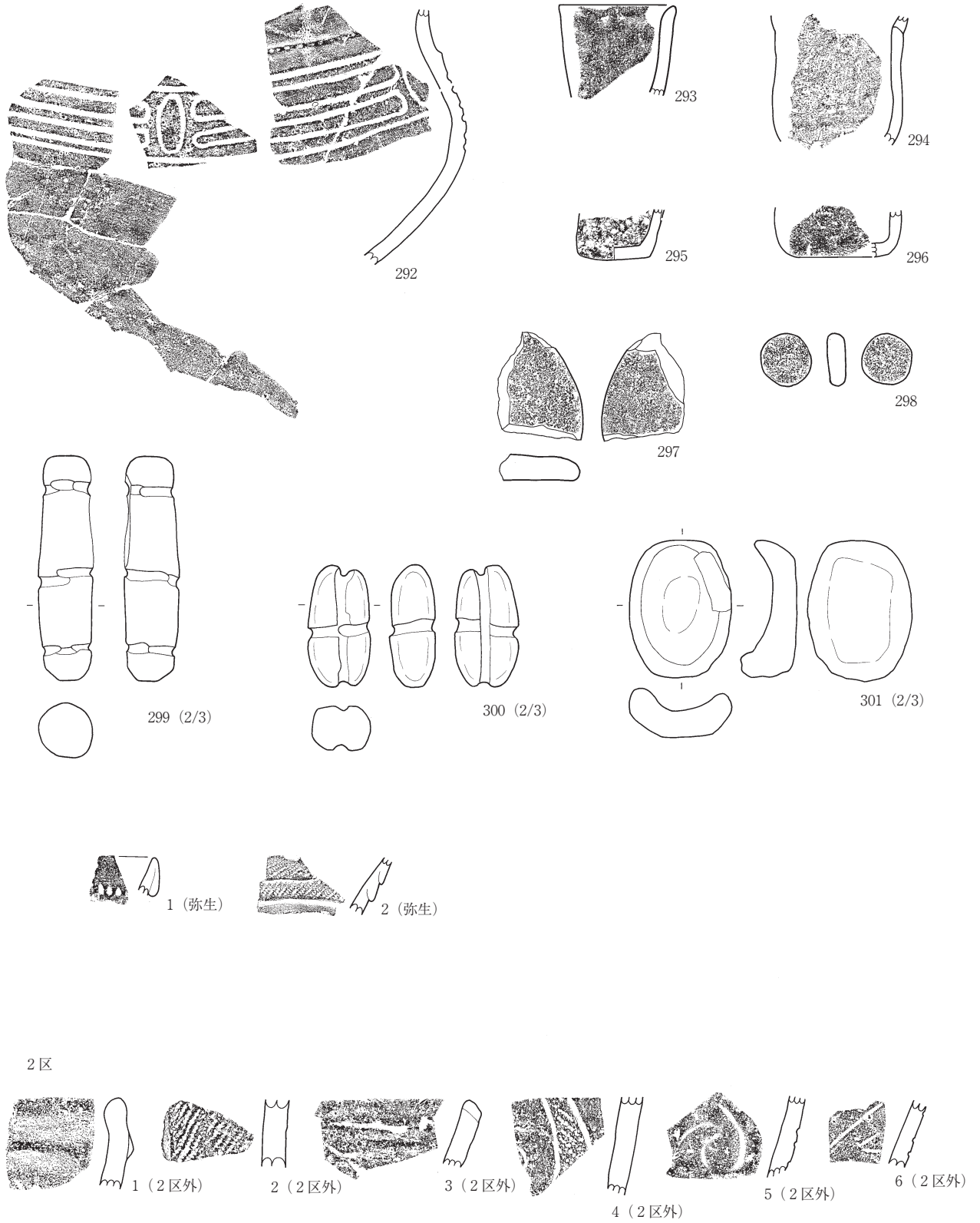
0 1:3 10cm



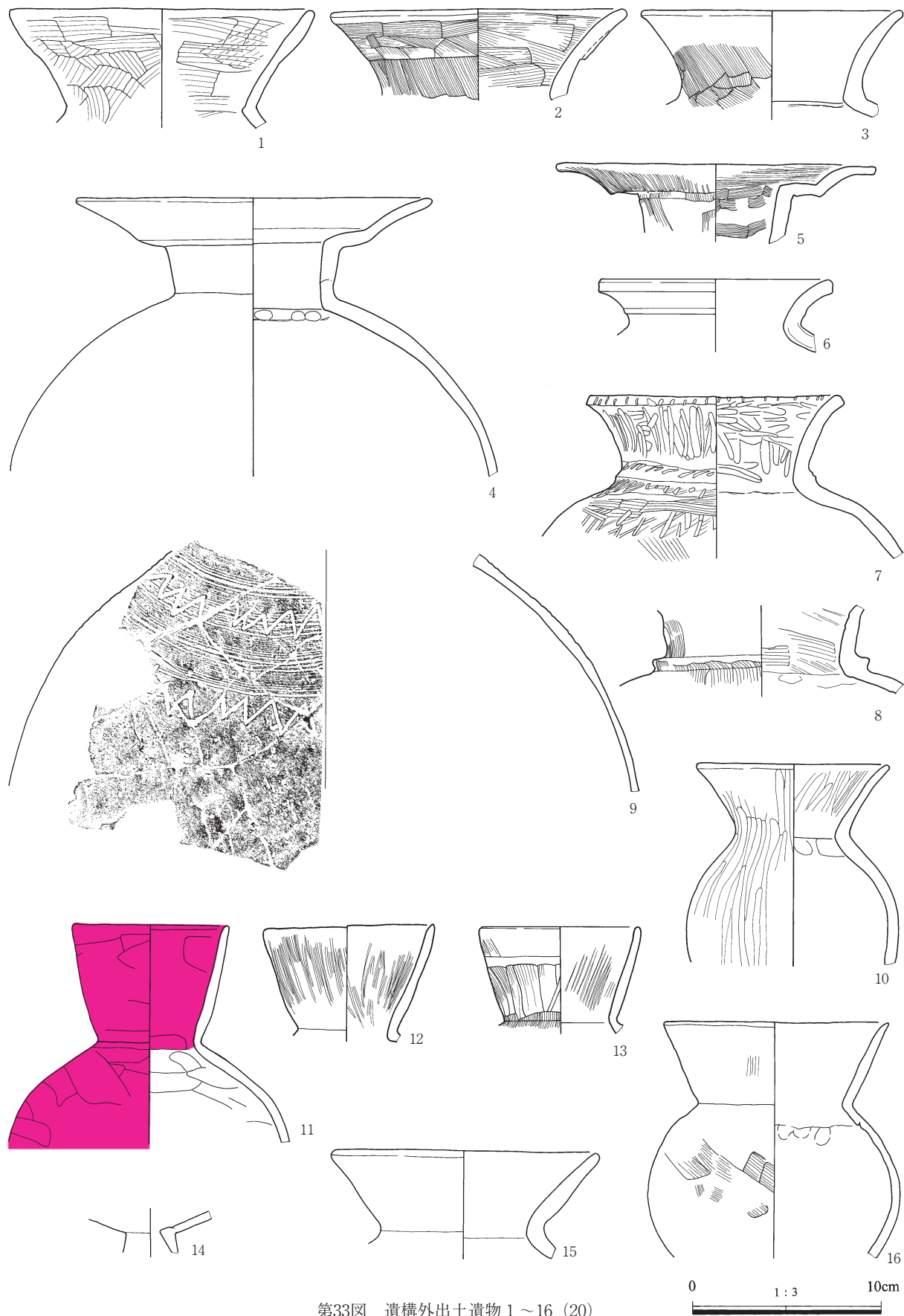
第31図 遺構外出土遺物270~291 (18)

0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物

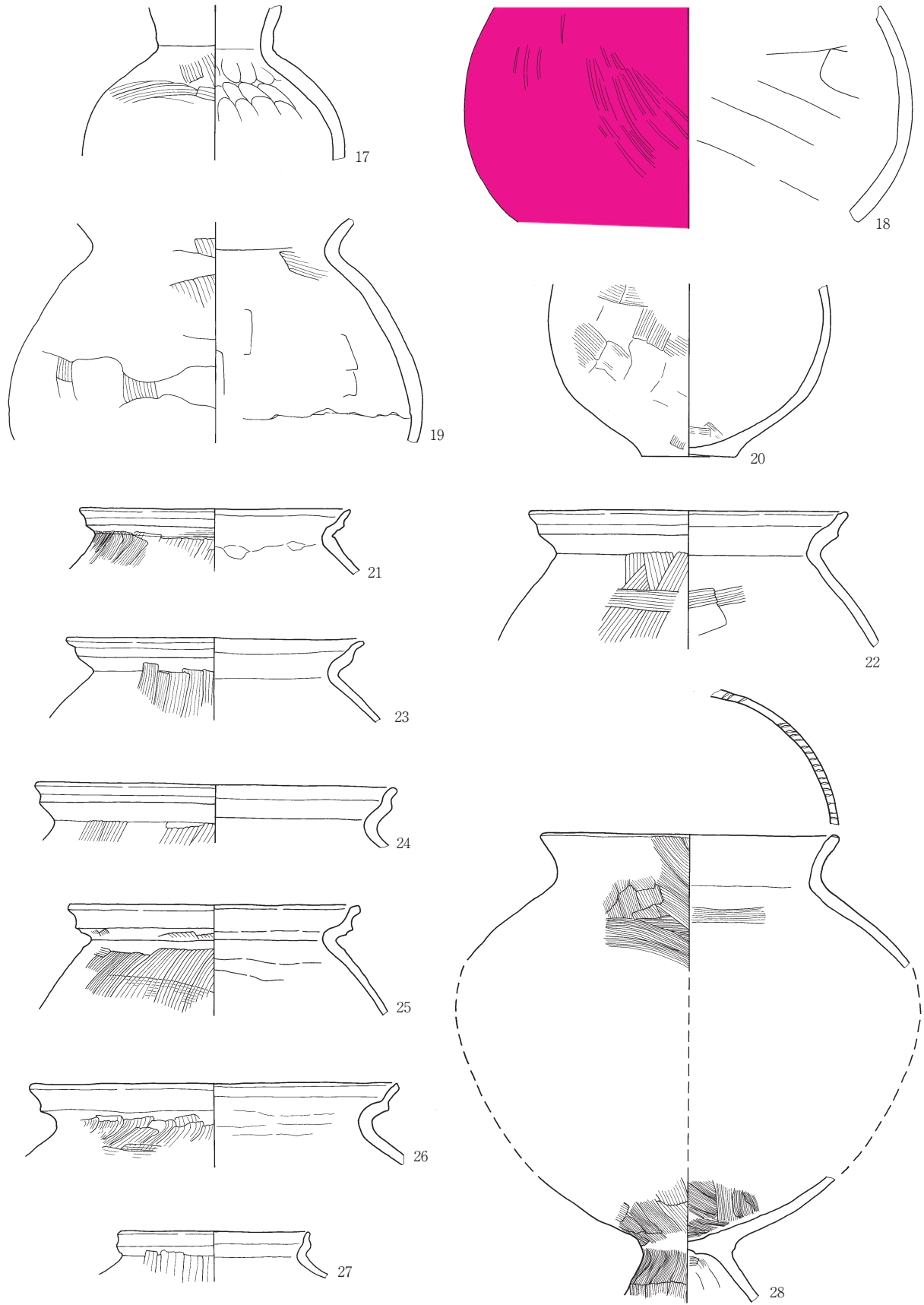


第32図 遺構外出土遺物292~301、弥生1・2、2区外1~6 (19)



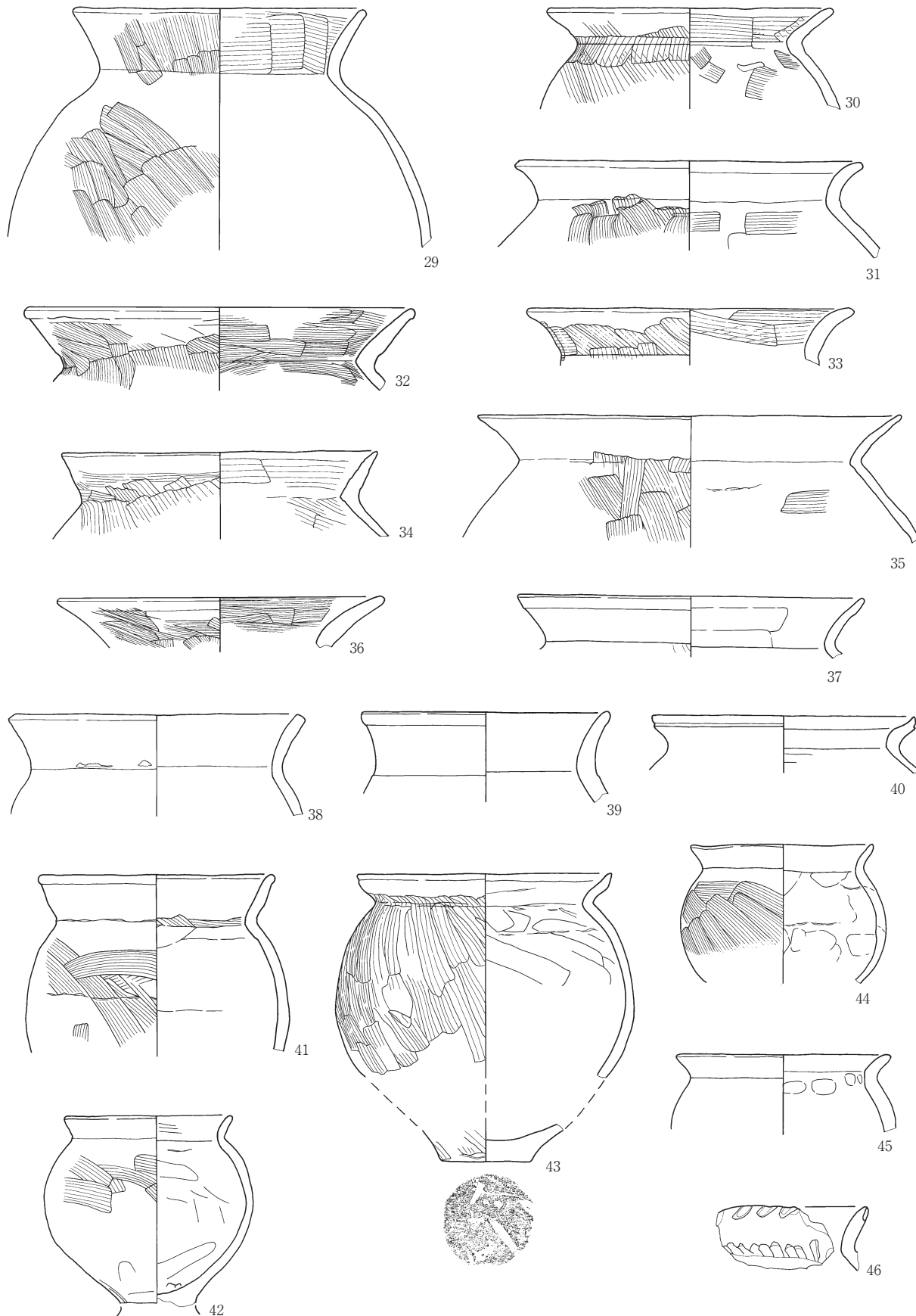
第33図 遺構外出土遺物 1~16 (20)

IV 検出された遺構と遺物



第34図 遺構外出土遺物17~28 (21)

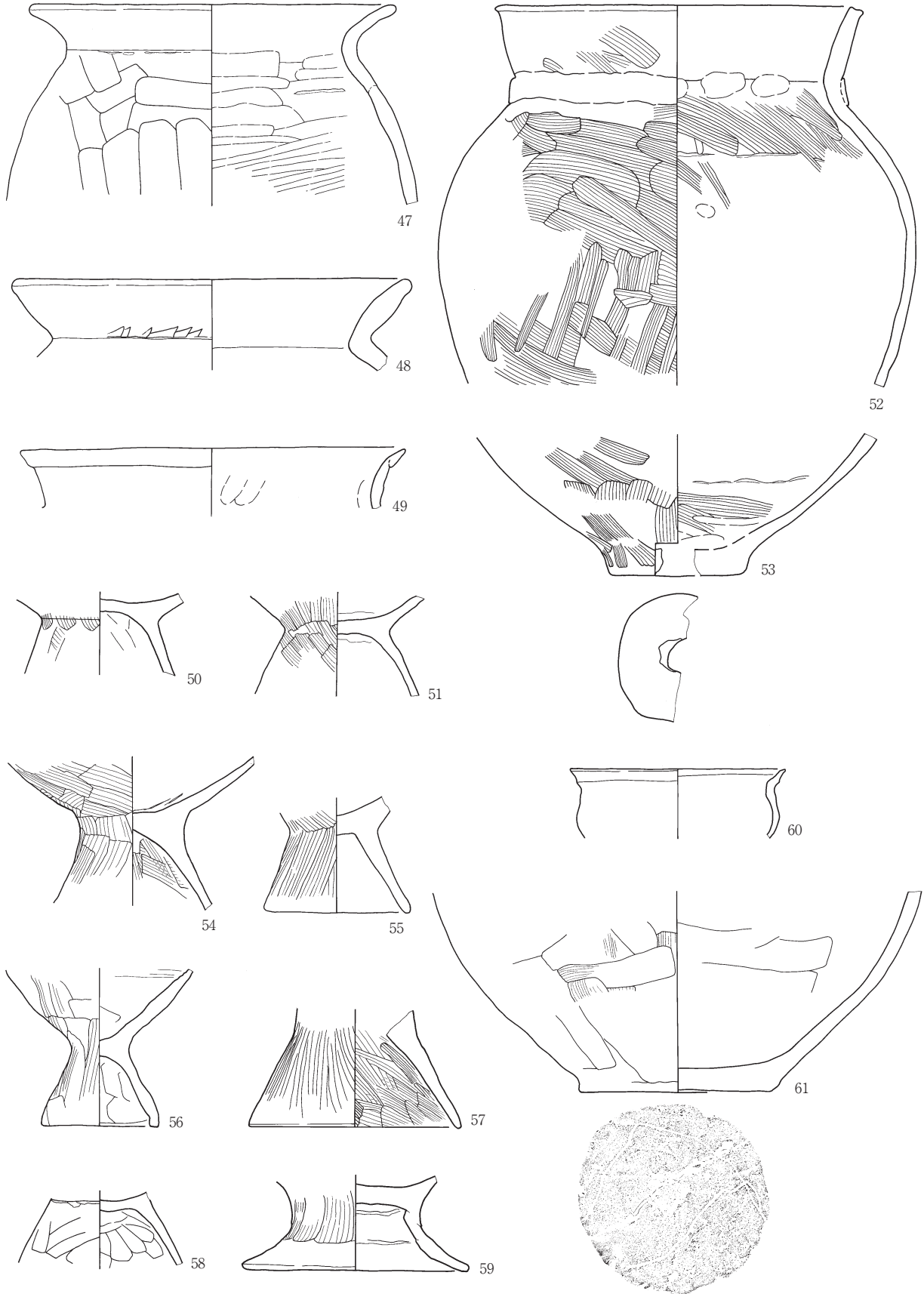
0 1:3 10cm



第35図 遺構外出土遺物29~46 (22)

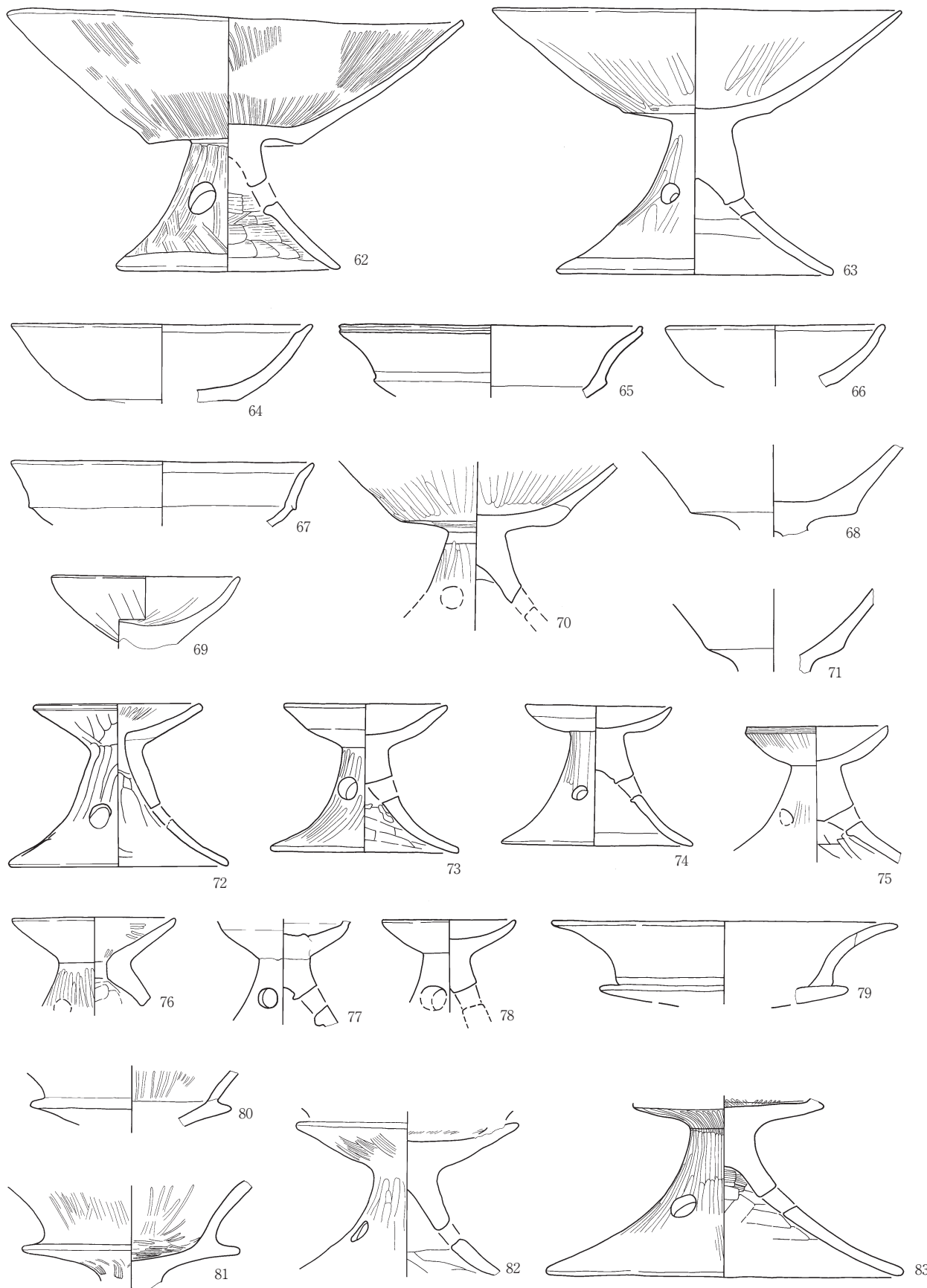
0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



第36図 遺構外出土遺物47~61 (23)

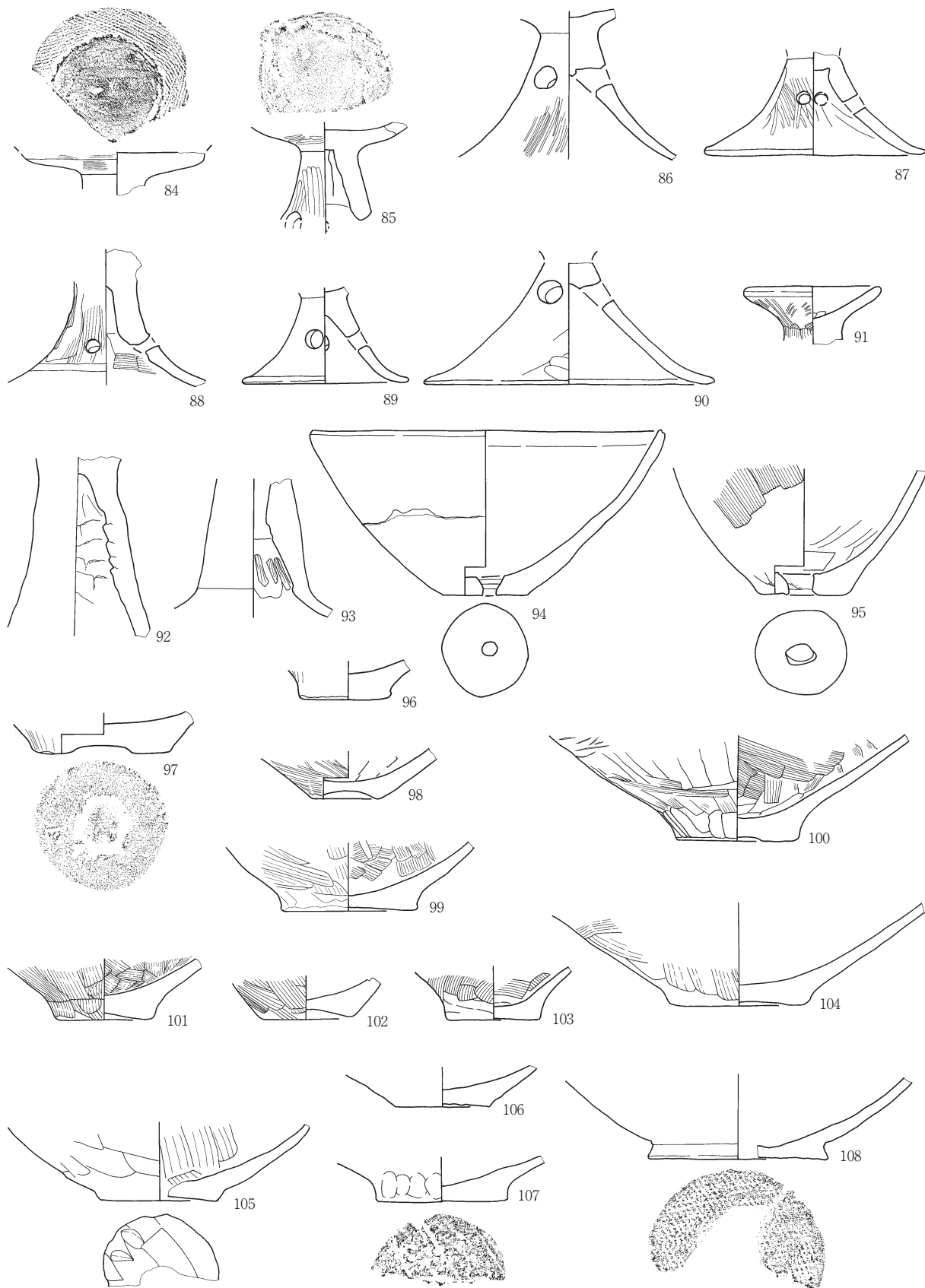
0 1 : 3 10cm



第37図 遺構外出土遺物62~83 (24)

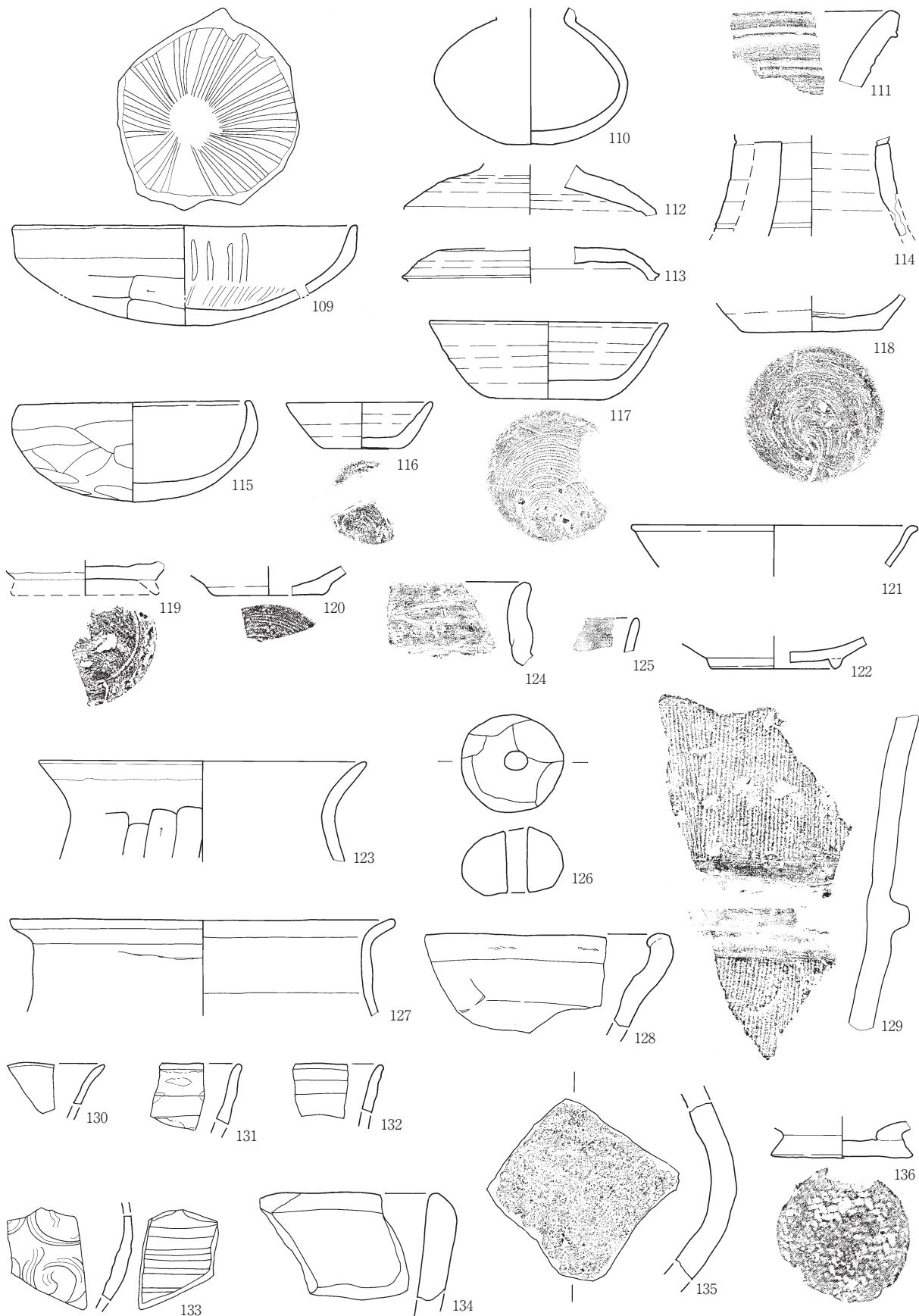
0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



第38図 遺構外出土遺物84~108 (25)

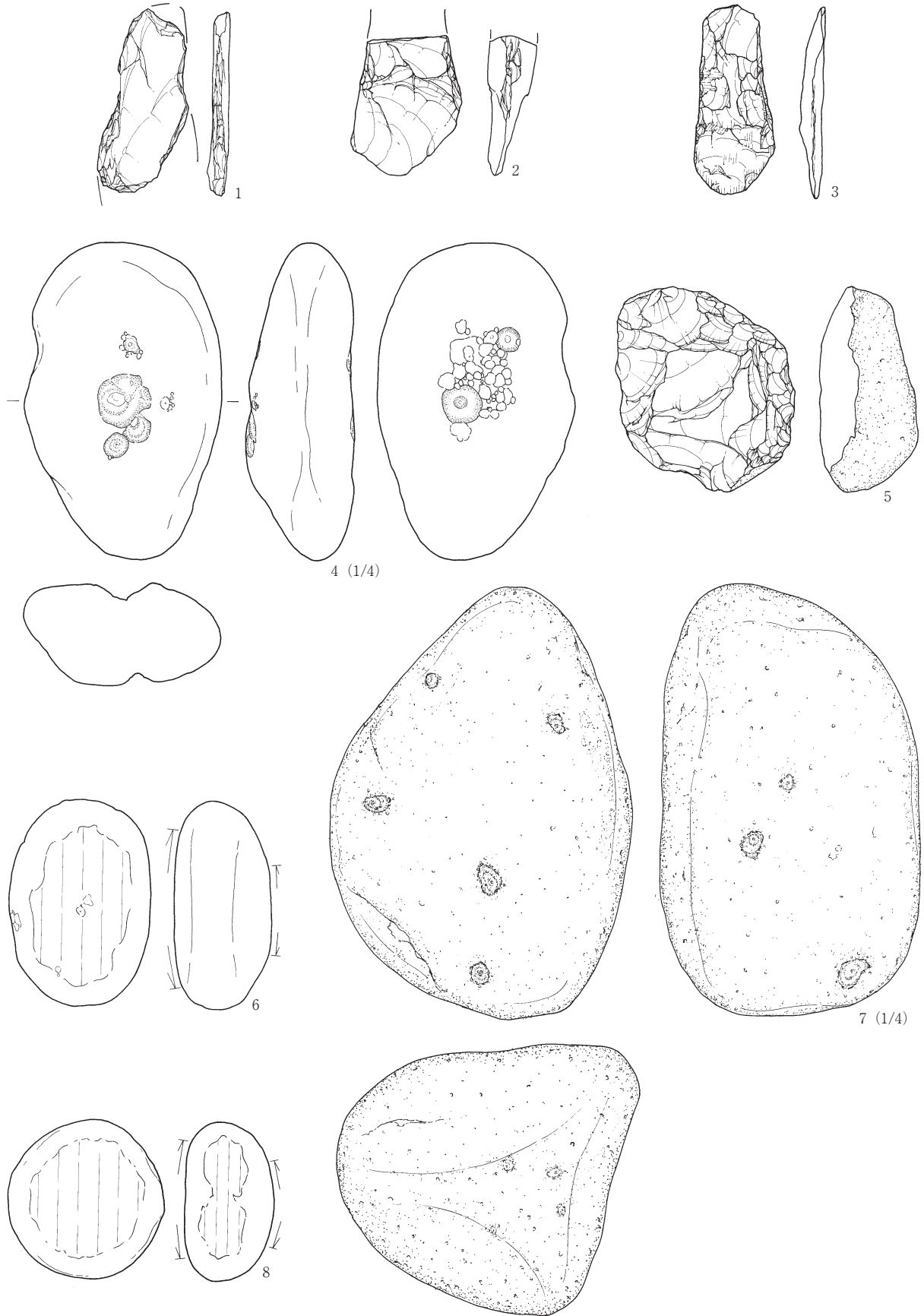
0 1:3 10cm



第39図 遺構外出土遺物109~136 (26)

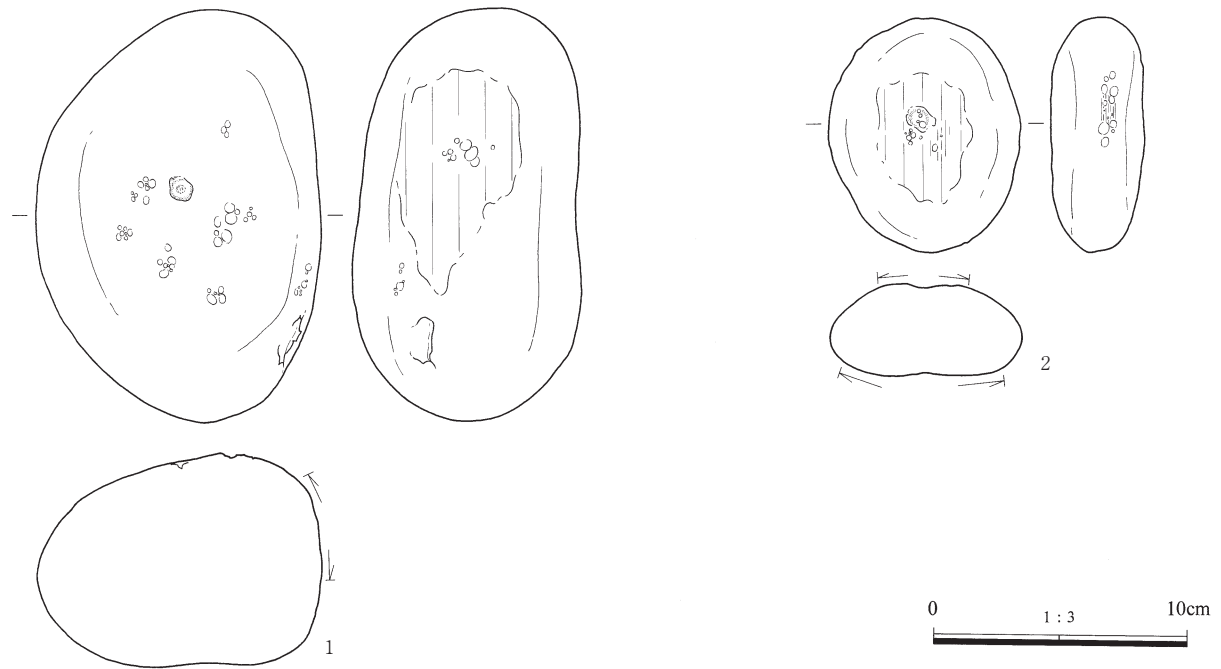
0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



第40図 1号住居跡出土石器

0 1:3 10cm



第41図 2号住居跡出土石器

包含層出土の石器

計218点（剥片系石器31点、磨石等の礫石器24点、剥片類141点、礫・礫片類22点）が出土した。北側調査区に石田川の低地部があり、この地点でも包含層（基本土層4層）が確認されている。縄文期遺構に伴う石器類は1号住居に良好な資料があり、帰属時期の明らかな資料とすることができる。

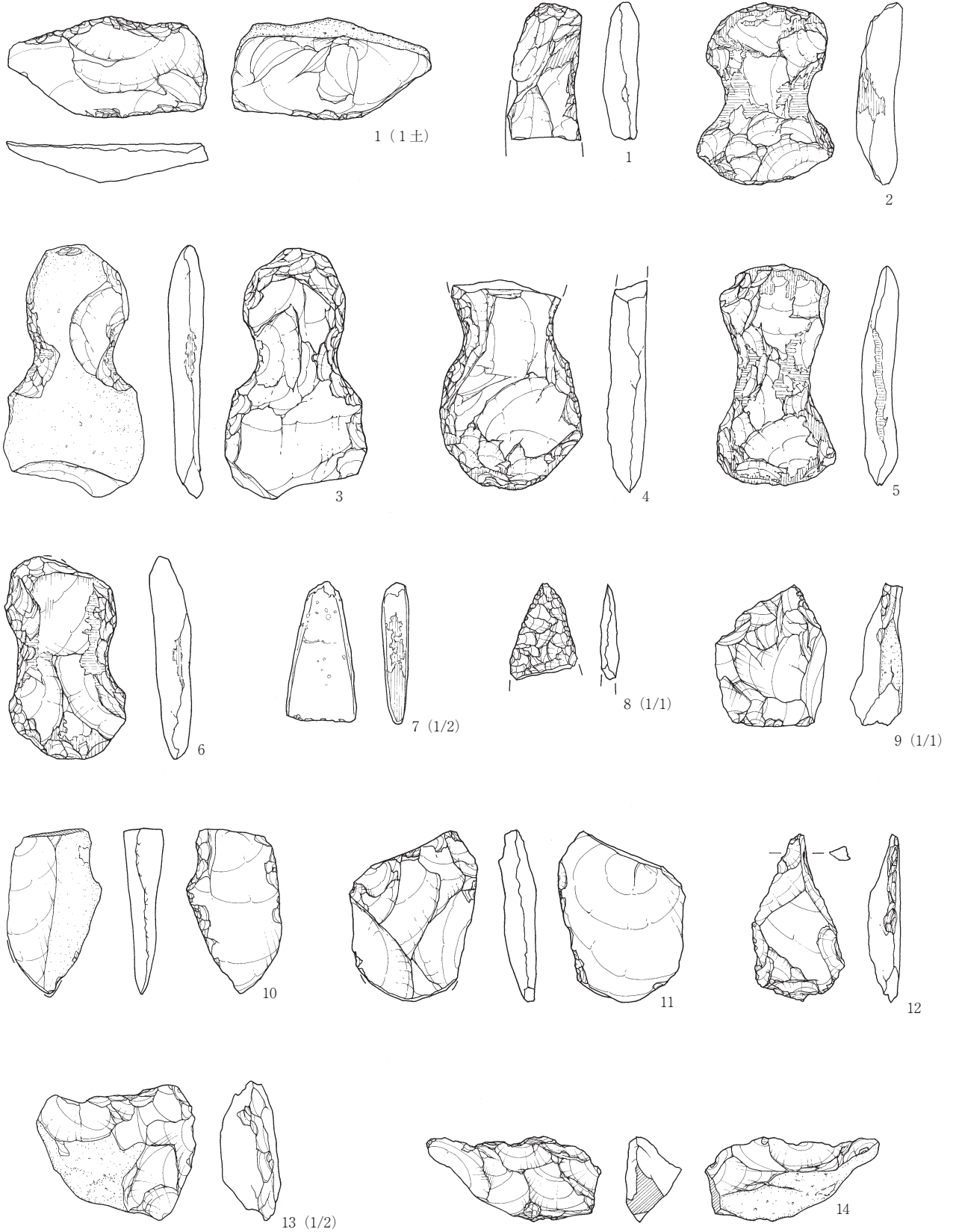
包含層から出土した主な石器には、打製石斧13・磨製石斧1・石鏃1・削器5・楔形石器1・加工痕ある剥片7等の剥片系石器があるほか、凹石12・磨石2・敲石1・多孔石4・垂飾1・石棒1・砥石1等の礫石器類があり、概して、中・後期に特徴的な石器類が多い。以下、整理過程で気付いた点について、その概要を記す。

打製石斧は14点中9点が分銅形、5点が短冊形のそれで、前者が中・後期的、後者が前期的石斧とされることが多い。石器石材は前者が細粒輝石安山岩を、後者は黒色頁岩を用いており、相違は明らか

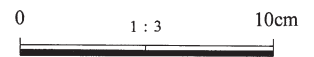
である。分銅型のそれは側縁を緩く挟るタイプ（42図5・6）と、上半を挟る片刃タイプ（同図3）があり、半数以上に刃部再生や捲縛痕がある。短冊形のそれも刃部再生や刃部磨耗が著しく、遺跡内製作の可能性は低い、と考えている。加工痕ある剥片を含む削器類には黒色頁岩やチャートを用いた遺跡内の剥片生産と石器製作が想定され、形状の整う剥片（42図10・11）を選択的に用いた石器製作しているもの、と考えている。礫石器類では凹石・磨石類が安定して出土、加えて多孔石も多出しており、後期的色彩の強い器種組成を示す。このほか、軽石製の垂飾（44図26）・砥石（同図27）・石棒（同図28）があり、当該期集落特有の器種組成を示していた。

石材構成は剥片系石器に10種、礫石器に5種を用いているが、剥片系石器には渡良瀬起源のホルンフェルス・チャートや利根川流域の黒色頁岩・黒色安山岩をベースに、これに三波川起源の片岩類や、非在地の黒曜石が加わるようである。

IV 検出された遺構と遺物



第42図 1号土坑、遺構外1~14(1)出土石器





第43図 遺構外出土石器15~24 (2)

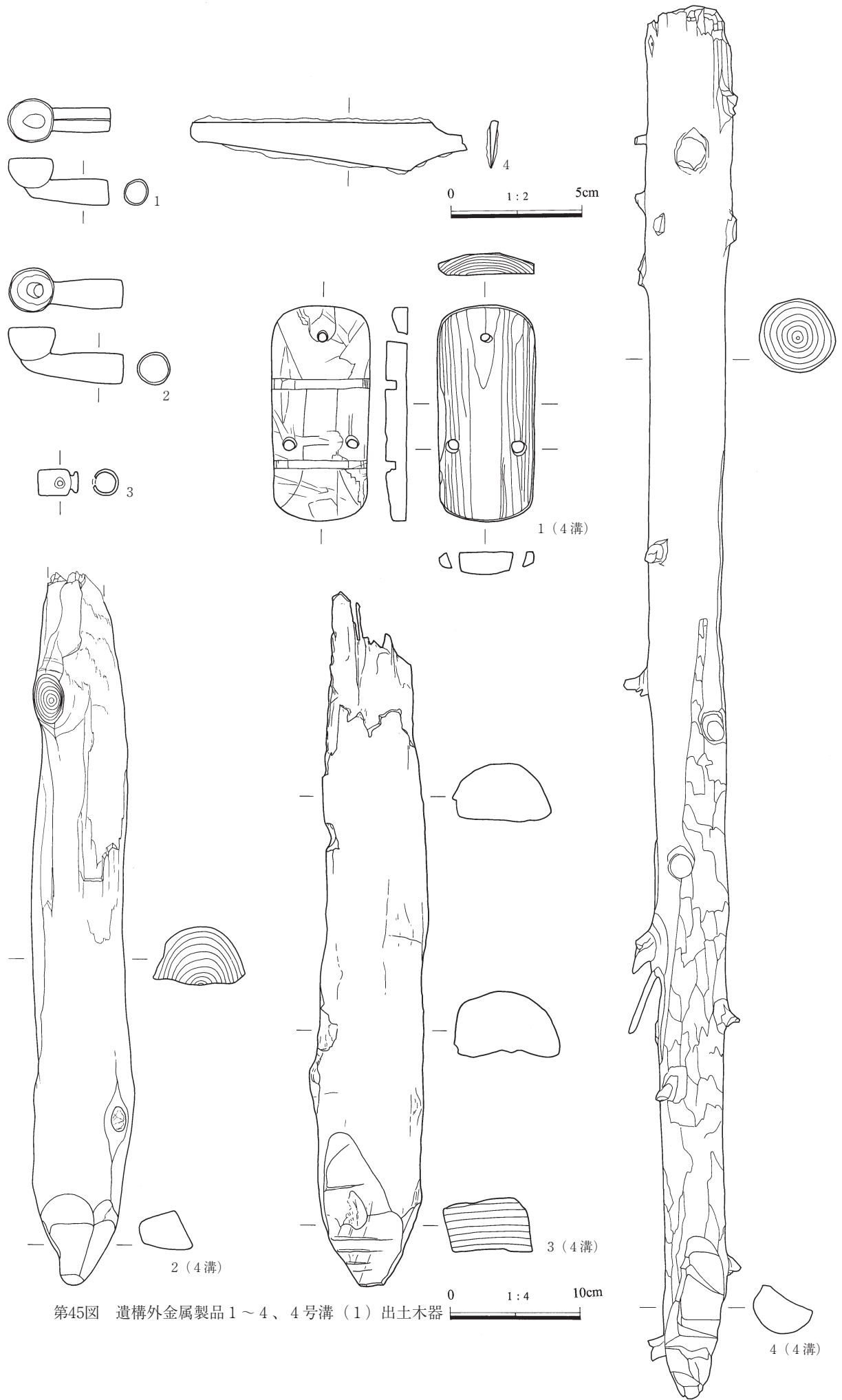
0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



第44図 遺構外出土石器25~34 (3)

0 1:3 10cm

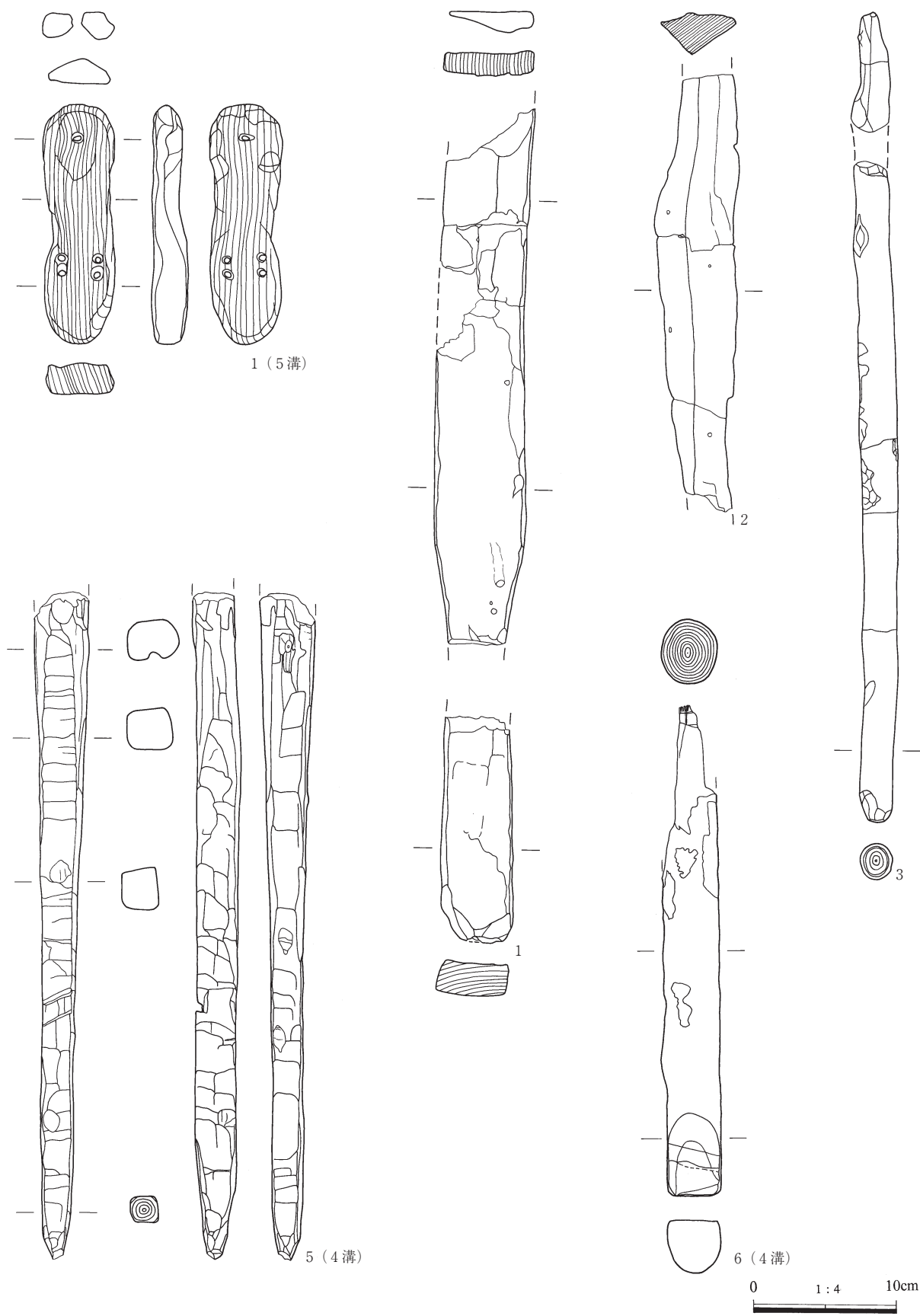


第45図 遺構外金属製品1～4、4号溝(1)出土木器

0 1:4 10cm

4 (4溝)

IV 検出された遺構と遺物



第46図 4 (2)・5号溝、遺構外1~3出土木器

第3表 遺物観察表（上江田西田遺跡縄文土器）

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第11図 1住1 PL 6	縄紋土器	鉢	1		遺構外	覆土	長径 25.0 短 径22.3	9.6	19.4	ほぼ完形	粗砂、白色粒	橙	普通	横断面楕円形状を呈す。口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、単節LR縄紋を横位充填施紋するが、摩擦が激しい。底部近くに1ヶ所3×2.1cmの不整楕円形状の孔を穿つ。	堀1
第11図 1住2 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				口縁片	粗砂	浅黄橙	良好	沈線による横位楕円状区画内に単節LR縄紋を充填施紋する。	加E 3
第11図 1住3 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	帯状沈線によるモチーフを描き、区画内に列点を充填施紋する。	称II
第11図 1住4 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	称II
第11図 1住5 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈線間に列点を充填施紋する。	後期前
第11図 1住6 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				口縁片	粗砂	浅黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。沈線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第11図 1住7 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				口縁片	粗砂	浅黄橙	良好	口縁下に1条の沈線と円形刺突。沈線による幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施紋する。	堀1
第11図 1住8 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	内折する口縁部。横位沈線間に列点を充填施紋する。	堀1
第11図 1住9 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	横位沈線間に列点を充填施紋する。	堀1
第11図 1住 10 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、斜位の帯状沈線を施す。	堀1
第11図 1住 11 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				胴部片	粗砂、細礫、 白色粒	にぶい 黄橙	普通	斜位、弧状の沈線を施す。	堀1
第11図 1住 12 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	無節LR縄紋を充填施紋する。	堀1
第11図 1住 13 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方				口縁片	粗砂、白色粒	灰黄褐	普通	波状口縁で波頂部下に円形刺突。沈線によるモチーフを施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第11図 1住 14 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土				口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	口縁下に2条の隆帯をめぐらせ、隆帯上に単節LR縄紋を施す。以下、沈線によるモチーフを描く。	堀2
第11図 1住 15 PL 6	縄紋土器	注口	1	1	住居	掘り方				口縁片	粗砂	橙	普通	刻みを付した隆帯をめぐらせ、単節LR縄紋を施す。	堀1
第11図 1住 16 PL 6	縄紋土器	ミニチュ ア	1	1	住居	掘り方	3.3	2.5	2.2	ほぼ完形	粗砂	にぶい 黄橙	普通	無紋。器面に凹凸残る。	後期前
第11図 2住1 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土				口縁片	粗砂	橙	良好	単節LR縄紋を地紋とし、沈線により楕円状モチーフを描く。	加E 2
第11図 2住2 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	配石	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	くの字状に口縁が内折する器形。口縁から屈曲部にかけて隆線を垂下させ、両端に刺突を施す。	堀1
第11図 2住3 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第11図 2住4 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線による懸垂紋、幾何学モチーフを描く。	堀1
第12図 2住5 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	掘り方				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第12図 2住6 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	無紋。	後期前
第12図 2住7 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土		9.8		胴～底	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	沈線による縦位展開するモチーフを描く。摩擦激しい。	称II

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第12図 2住8 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土	推30.0			口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第12図 2住9 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	掘り方	推32.7			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	条線を口縁下にめぐらせ、以下、条線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第12図 2住10 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土	推37.6			口～胴	粗砂	にぶい黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部に3条の横位沈線と8の字貼付紋。以下、単節LR縄紋を地紋とし、沈線によるワラビ手状モチーフ、斜行紋を描く。口縁内面に稜がある。	堀1
第13図 1土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に2条の横位沈線を施し、沈線間に刺突を充填施紋する。肥厚部下は単節LR縄紋を施紋。	堀1
第13図 1土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口唇外面が肥厚。残存部は無紋。	堀1
第13図 1土3 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1	土坑	覆土				胴部片	粗砂、繊維	灰黄褐	普通	無節LR縄紋を横位施紋する。	黒浜式
第13図 1土4 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1	土坑	覆土				胴部片	粗砂、繊維	にぶい黄橙	普通	無節RL縄紋を横位施紋する。	黒浜式
第13図 2土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	2	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	頸部で屈曲する器形。残存部は無紋。	堀1
第13図 2土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	2	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	沈線による弧状モチーフを描き、単節RL縄紋を充填施紋する。	堀1
第13図 3土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	3	土坑	覆土				胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	無紋。	後期前
第13図 4土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4	土坑	覆土		11.8		胴～底	粗砂	浅黄橙	普通	無紋。	後期前
第13図 4土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	斜位に沈線を施す。	堀1
第13図 4土3 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	単節RL縄紋を地紋とし、沈線による弧状モチーフを描く。	堀1
第13図 4土4 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	無紋。横位の擦痕が見られる。	後期前
第13図 4土5 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4	土坑	覆土				胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	3条の横位沈線を施して紋様帯を区画、区画紋下に沈線による斜行紋を施す。区画紋上に貼付紋を貼付。	堀1
第13図 7土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	7	土坑	覆土				胴部片	粗砂、細礫	橙	良好	単節RL縄紋を横位施紋する。	前期後
第13図 7土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	7	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	単節RL縄紋を縦位施紋する。	加E
第13図 8土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8	土坑	覆土	推32.0			口～胴	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に1条の隆線と8の字貼付紋。沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第13図 8土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に2条の沈線を施し、沈線間に刺突を充填施紋する。	堀1
第13図 8土3 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に1条の隆線。さらに斜位に隆線を垂下させる。	堀2
第14図 8土4 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	沈線を斜位に施す。胴部下半は無紋。	堀1
第14図 8土5 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8	土坑	覆土	推30.0			口～胴	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁に幅広の小突起を付す。単節LR縄紋を地紋とし、沈線により横位に連続する三角形モチーフを描く。	堀2
第14図 9土1 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	9	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	無紋。	後期前
第14図13土1 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	13	土坑	覆土				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	口縁下の部位。隆線をめぐらせ、沈線による幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2

上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第14図14土1 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	14	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	弧状の帯状沈線を施す。	称Ⅱ
第14図 1 PL 8	縄紋土器	深鉢			遺構外	4トレ	推20.0			口～胴	粗砂	橙	普通	球形を呈す。口縁がくの字状に短く外反し、口縁部が肥厚する。肥厚部下に沈線による鋸歯状紋をめぐらせ、地紋に単節LR縄紋を施す。剥落しているが、逆S字状の隆帯を貼付していたことが確認できる。	加E 1
第14図 2 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	D13	推19.8			口～胴	粗砂	橙	普通	口縁下に1条の沈線。沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第14図 3 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	J9	24.7			口～胴	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁下に横位沈線と円形刺突。2帯構成で、屈曲部上位に沈線により横位に連結するU字状モチーフ、下位は逆U字状モチーフを描く。	堀1
第14図 4 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	L2	溝	覆土		5.5		胴～底	粗砂、白色粒	橙	普通	沈線により縦位に展開するモチーフを描く。	堀1
第15図 5 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	M9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突。以下、沈線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第15図 6 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	L9	推38.0			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。帯状沈線を縦位、横位、斜位に施す。	堀1
第15図 7 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	C13	推16.2			口～胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁部に環状把手。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、間隙に単節LR縄紋を充填施紋する。屈曲部に貼付紋を貼付。	堀1
第15図 8 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	C13	推19.7			口～胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁下に1条の沈線、屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描く。屈曲部に貼付紋を貼付。	堀1
第15図 9 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	M9	推25.6			口～胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。波状口縁で口縁が短く内折し、内折部に1条の沈線、波頂部下に円形刺突を施す。頸部に3条の横位沈線を施す。地紋に単節LR縄紋を施紋。	堀1
第15図 10 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	M9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	屈曲部下の部位。沈線を横位、渦巻状、斜位に施す。地紋に単節LR縄紋を施すが、摩滅激しい。	堀1
第15図 11 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	2A10	推41.0			口～胴	粗砂、細礫、 白色粒	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。小波状口縁で波頂部下に円形刺突、口縁下に1条の沈線をめぐらす。屈曲部下に横位沈線、弧状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀1
第16図 12 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	Q10	推45.0			口～胴	粗砂	にぶい 橙	普通	頸部で屈曲する器形。小波状口縁で波頂部下に円形刺突、口縁下に1条の沈線をめぐらす。屈曲部下に3条の沈線をめぐらせて区画紋とし、縦位区画、V字状の沈線を施し、余白に列点を充填施紋する。	堀1
第16図 13 PL 9	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	L8	推28.6			口～胴	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	口縁が緩く内湾する器形。地紋に単節LR縄紋を充填施紋し、口縁下に3条の沈線による逆U字状モチーフを配す。摩滅激しい。	堀1

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第16図 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7				胴部片	粗砂	橙	普通	3条の沈線によりU字状モチーフを描き、単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	堀1
第16図 PL 9	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ	推36.6			口～胴	粗砂、片岩	にぶい黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、沈線により楕円状など幾何学モチーフを描く。	堀2
第16図 PL 9	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	1トレ	推33.4			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁下に1条の隆線。带状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第17図 PL 9	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I9	推29.6			口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線による三角形モチーフを横位に連ね、部分的に沈線間に単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第17図 PL 9	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	B12	推35.0			口～胴	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	波状口縁。口縁下に1条の隆線と波頂部下に8の字貼付紋。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第17図 PL 9	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G9	25.6			口～胴	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下に2条の隆線。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第17図 PL 9	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ	31.0			口～胴	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に2条の隆線。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第17図 PL 10	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L7、M8	推27.7	8.5	44.1	口～底	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、斜位の無で痕を全面に残す。	堀1
第18図 PL 10	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11	推29.8			口～胴	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	波状口縁だが、単位が不規則。無紋。	後期前
第18図 PL 10	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ				口～胴	粗砂	にぶい橙	普通	沈線により斜格子目紋を施す。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	堀1
第18図 PL 10	縄紋土器	浅鉢	1	遺構外	T9	推30.6			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。以下は無紋。	堀1
第18図 PL 10	縄紋土器	浅鉢		遺構外	4トレ	推23.0	推9.0	7.8	口～底	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	外削ぎ状の口唇部。無紋。	後期前
第18図 PL 10	縄紋土器	浅鉢		遺構外		推35.4	6.0	推21.3	口～底	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	外削ぎ状の口唇部。無紋。	後期前
第18図 PL 10	縄紋土器	注口	1	遺構外	J7	6.5	7.3		ほぼ完形	粗砂	橙	普通	算盤玉状の器形。屈曲部上位に、沈線によるS字状や三角形などの幾何学モチーフを描き、部分的に沈線間に単節LR縄紋を充填施紋する。屈曲部下位は研磨。口縁部に2単位の把手がついていたと思われる。	堀1
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2B8				胴部片	粗砂、繊維	にぶい黄橙	普通	単節RL縄紋を地紋とし、多截竹管内皮状の工具による沈線を横位にめぐらせ、弧状モチーフを描く。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M6				口縁片	粗砂、繊維	にぶい黄橙	普通	単節RL、LR縄紋による羽状構成。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M8				口縁片	粗砂、繊維	にぶい橙	普通	内削ぎ状の口唇部。単節RL縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	1,2 溝	覆土				胴部片	粗砂、繊維	にぶい橙	普通	単節RL、LR縄紋による羽状構成。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢		遺構外	8トレ				胴部片	粗砂、石英、繊維	明赤褐	普通	0段多条LR縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M8				胴部片	粗砂、繊維	橙	普通	単節LR、RL縄紋による羽状構成。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M8				胴部片	粗砂、片岩、繊維	にぶい橙	普通	単節LR縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M8				胴部片	粗砂、細礫、繊維	橙	普通	0段多条LR縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M6				底部片	粗砂、繊維	橙	普通	上げ底の底部破片。	前期前

上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第19図 PL 11 37	縄紋土器	深鉢	1	遺構外					口縁片	粗砂、白色粒	明赤褐	良好	波状口縁。C字状爪形紋、 凹形刺突を施す。	諸磯b 式
第19図 PL 11 38	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O6				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	半截竹管による集合沈線 を横位、斜位、弧状に施 す。	諸磯b 式
第19図 PL 11 39	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I7				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	半截竹管内皮による刺突 を縦位多条に施す。	前期後
第19図 PL 11 40	縄紋土器	浅鉢	1	遺構外	D7				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	くの字状に内折する器 形。口縁下に1条の隆線 をめぐらせ、それに沿っ て円孔を穿つ。	諸磯b 式
第19図 PL 11 41	縄紋土器	深鉢		遺構外	7トレ				口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁で口唇内面が肥 厚。口縁下を凹ませて無 紋帯とし、その下に刺突 列を2条施す。	中期前
第19図 PL 11 42	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ				口縁片	粗砂多	灰黄褐	普通	波状口縁で、キャリパー 状の器形を呈す。隆線を 施し、Σ状の押引、沈線 を沿わせる。	勝坂式
第19図 PL 11 43	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ				胴部片	粗砂多	明赤褐	普通	幾何学状に隆線を貼付 し、区画内に爪形刺突を 充填施紋する。	勝坂式
第19図 PL 11 44	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I9				胴部片	粗砂、細礫	橙	良好	沈線により渦巻紋を施 し、沈線の片側に刺突を 沿わせる。	勝坂式
第19図 PL 11 45	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9				胴部片	粗砂	明赤褐	普通	隆起帯の部位。沈線、刺 突を施す。	勝坂式
第19図 PL 11 46	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により菱形紋を描 き、V字状押引紋を沿わ せる。	勝坂式
第19図 PL 11 47	縄紋土器	深鉢	1	1 溝	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	橙	良好	弧状隆帯を施し、波状沈 線を充填施紋する。	阿玉台
第19図 PL 11 48	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	E12				口縁片	粗砂	橙	普通	キャリパー状の器形で、 口縁部紋様帯の部位。隆 線により区画し、区画内 に縦位沈線を充填施紋す る。	加E 2
第19図 PL 11 49	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	K10				口縁片	粗砂多	にぶい 黄橙	普通	キャリパー状の器形で、 口縁部紋様帯の部位。波 状口縁を呈す。隆線、沈 線による区画内に単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 2
第19図 PL 11 50	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O12				口縁片	粗砂	橙	普通	キャリパー状の器形で、 口縁部紋様帯の部位。地 紋に単節RL縄紋を施し、 隆線による渦巻紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11 51	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	キャリパー状の器形。 屈曲部に口縁部紋様帯を 区画する刻みを付した隆 線をめぐらす。口縁部紋 様帯内は沈線による鋸歯 状紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11 52	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2B8	推21.2			口～胴	粗砂、白色粒	橙	普通	口縁がくの字状に外反す る器形で、口唇内面が肥 厚。単節RL縄紋を地紋と し、頸部下に横位集合 沈線、S字状の沈線を施 す。	加E 2
第19図 PL 11 53	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I9				口縁片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	キャリパー状の器形で、 口縁部紋様帯の部位。波 状口縁を呈す。横位沈線 を施し、区画内に単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 2
第19図 PL 11 54	縄紋土器	深鉢	1	遺構外					口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁で、くの字状に 外反する器形を呈す。単 節RL縄紋を地紋とし、 口縁部無紋帯を区画する 横位隆帯、垂下隆帯を施 す。	加E 2
第19図 PL 11 55	縄紋土器	深鉢		遺構外					口縁片	粗砂	橙	良好	キャリパー状の器形で、 口縁部紋様帯の部位。沈 線による楕円状区画内に 単節RL縄紋を充填施紋 する。渦巻紋上に刺突。	加E 3

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第19図 PL 11	56	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	O12				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に凹線をめぐらせ、沈線による逆U字状モチーフを描く。	加E 4
第19図 PL 11	57	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	C13				胴部片	粗砂	橙	普通	単節RL縄紋を地紋とし、沈線による渦巻紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11	58	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	H10				胴部片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	単節RL縄紋を地紋とし、ワビ手状の隆線を貼付する。	加E 3
第19図 PL 11	59	縄紋土器 深鉢	1	遺構外					胴部片	粗砂多	明赤褐	良好	単節RL縦位施紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11	60	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	H9				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	0段多条RL縦位施紋を地紋とし、横位、懸垂紋、蛇行懸垂紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11	61	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	K8				胴部片	粗砂	橙	普通	縦位条線を施す。	加E 2
第19図 PL 11	62	縄紋土器 深鉢		遺構外	4トレ				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	縦位条線を地紋とし、横位沈線を施す。	加E 2
第20図 PL 11	63	縄紋土器 深鉢		遺構外	8トレ				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	隆線による懸垂紋。区画内に単節RL縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	64	縄紋土器 深鉢		遺構外	5トレ				胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	隆線による懸垂紋。区画内に単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	65	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	L8				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	隆線による懸垂紋。区画内に単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	66	縄紋土器 深鉢		遺構外	5トレ				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	沈線による懸垂紋。区画内に単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第20図 PL 11	67	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	G11				胴部片	粗砂	浅黄橙	良好	沈線による懸垂紋。区画内に単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第20図 PL 11	68	縄紋土器 深鉢		遺構外	4トレ				胴部片	粗砂、石英	にぶい 黄橙	普通	縦位、弧状の沈線を施し、附加条縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	69	縄紋土器 深鉢		遺構外	4トレ				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈線により弧状モチーフを描き、区画内に単節LR縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	70	縄紋土器 深鉢		遺構外	5トレ				胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	横位隆線をめぐらせて口縁部無紋帯を区画、隆帯下に単節LR縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	71	縄紋土器 浅鉢	1	遺構外	I10				口縁片	粗砂	明赤褐	普通	口縁下に凹線をめぐらす。	加E 2
第20図 PL 11	72	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	不明				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	波状口縁の突起で、渦巻状を呈す。	称名寺
第20図 PL 11	73	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	L9				口縁片	粗砂	橙	良好	波状口縁の環状突起。円形刺突、沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 11	74	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	L8				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	波状口縁の環状突起。円形刺突、沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 11	75	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	L8				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	波頂部に環状の突起。隆線を2条垂下させる。	称名寺
第20図 PL 11	76	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	S8				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起で、波頂部に環状に隆帯を貼付する。円形刺突、波頂部に沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 11	77	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	O8				把手	粗砂、白色粒	橙	普通	橋状把手。把手上に円形刺突、沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 12	78	縄紋土器 深鉢		遺構外	4トレ				把手	粗砂	にぶい 黄橙	普通	橋状把手。沈線、貼付紋、円形刺突を施す。	称名寺
第20図 PL 12	79	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁がくの字状に短く外反する。口縁から胴部上位にかけて橋状把手を付す。沈線、円形刺突を施す。把手の下部が注口となる。	称名寺
第20図 PL 12	80	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	M9				口縁片				No.79と同一個体。	称名寺
第20図 PL 12	81	縄紋土器 深鉢	1	遺構外	L9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	小突起をもつ口縁部破片で、波頂部下に円孔を穿つ。沈線によるモチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺

上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第20図 PL 12	82	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、区画内に単節LR縄紋を充填施紋する。	称Ⅰ
第20図 PL 12	83	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	带状沈線によるJ字状モチーフを描く。	称Ⅱ
第21図 PL 12	84	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描く。	称Ⅱ
第21図 PL 12	85	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描く。	称Ⅱ
第21図 PL 12	86	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9			胴部片	粗砂	浅黄	普通	带状沈線によりモチーフを描き、区画内に列点を充填施紋する。	称Ⅱ
第21図 PL 12	87	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9			胴部片	粗砂、白色粒	灰黄褐	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	88	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	K10			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	89	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	90	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	91	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	92	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9			胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	93	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	94	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	列点を縦位に施す。	後期前
第21図 PL 12	95	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	C13			胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	96	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7			胴部片	粗砂	明赤褐	普通	带状沈線内に列点を充填施紋する。	後期前
第21図 PL 12	97	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O8			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。口縁の内折部に沈線による長方形区画を施し、列点を充填施紋。波頂部下から刺突を施した隆帯を垂下させる。	堀1
第21図 PL 12	98	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部に円形刺突、口縁内折部に刺突列を挟んだ沈線、隆帯を施す。波頂部から刻みを付した隆線を垂下させる。	堀1
第21図 PL 12	99	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G・H10			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部に環状の突起を付す。波頂部から刻みを付した隆線を垂下させる。	堀1
第21図 PL 12	100	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	波状口縁の波頂部。波頂部に円形刺突、口縁内折部に円形刺突、沈線を施す。波頂部から刻みを付した隆線を垂下させる。	堀1
第21図 PL 12	101	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の波頂部。波頂部に円形刺突、口縁内折部に沈線を施す。	堀1
第21図 PL 12	102	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。口縁が短く内折する。波頂部および波頂部下に円形刺突、内折部に円形刺突、沈線を施す。波頂部下から刻みを付した隆線を垂下させる。	堀1
第21図 PL 12	103	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O8			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部に円形刺突、口縁内折部に円形刺突、沈線を施す。	堀1
第21図 PL 12	104	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S9			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部および波頂部下に円形刺突、口縁内折部に刺突を挟んだ沈線を施す。	堀1
第22図 PL 12	105	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の波頂部で、口縁が短く内折する。波頂部に刺突、内折部に沈線を施す。	堀1

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第22図 PL 12	106 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8				口縁片				105と同一個体。	堀1
第22図 PL 12	107 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R7				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁で、波頂部下に 凹孔を穿つ。口縁下に1 条の沈線、円形貼付紋を 施す。	堀1
第22図 PL 12	108 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁で、波頂部下に 凹孔を穿つ。口縁下に1 条の沈線、円形貼付紋を 施す。沈線による幾何学モ チーフを描く。	堀1
第22図 PL 12	109 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	K7				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	波状口縁の波頂部で、円 孔を穿ち、円形刺突を施 す。波頂部内面にも沈線、 円形刺突を施す。	堀1
第22図 PL 12	110 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁の突起。沈線、円形 刺突を施す。	堀1
第22図 PL 12	111 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁部の環状突起。沈線、 円形刺突を施す。	堀1
第22図 PL 13	112 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁部の小突起。円孔を 穿ち、沈線、刺突を施す。	堀1
第22図 PL 13	113 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M8				口縁片	粗砂	浅黄橙	普通	波状口縁の波頂部。口縁 に沿って沈線を施し、円 孔を穿つ。内面に円形刺 突。	堀1
第22図 PL 13	114 縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁部の橋状把手。	堀1
第22図 PL 13	115 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	P9				口縁片	粗砂	明赤褐	普通	橋状把手を付し、円形刺 突を施す。沈線による幾 何学モチーフを描く。	堀1
第22図 PL 13	116 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13				口縁片	粗砂	橙	普通	波頂部の突起。横位沈線、 刺突を施す。波頂部にも 沈線を施す。	堀1
第22図 PL 13	117 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁部に1条の沈線をめ ぐらせ、以下、懸垂紋を 施す。沈線間に列点を施 す。	堀1
第22図 PL 13	118 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M8				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁部にやや幅広の肥厚 帯を成形し、無紋帯とす る。肥厚部下に列点を充 填施す。	堀1
第22図 PL 13	119 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下を肥厚させて無紋 帯とし、肥厚部下に縦位 沈線を施して、区画内に 列点を充填施す。	堀1
第22図 PL 13	120 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9				胴部片				No119と同一個体。	堀1
第22図 PL 13	121 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	口縁下に2条の沈線。以 下、沈線による幾何学モ チーフを描き、列点を充 填施す。	堀1
第22図 PL 13	122 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条 の沈線。沈線により幾何 学モチーフを描き、一部 列点を沿わせる。	堀1
第22図 PL 13	123 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下肥厚部に円形刺 突、沈線、弧状隆線を施 す。肥厚部下は帯状沈線 内に列点を充填施す。	堀1
第22図 PL 13	124 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O8				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	弧状の帯状沈線、列点を 施す。	堀1
第22図 PL 13	125 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	F11				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線内に列点を充填 施す。	堀1
第22図 PL 13	126 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	沈線により幾何学モチーフ を描き、余白に列点を 充填施す。	堀1
第23図 PL 13	127 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11				口縁片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	口縁下に1条の沈線をめ ぐらす。口縁内面を肥厚 させ、稜を成形する。	堀1
第23図 PL 13	128 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	谷				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突をめぐ らす。	堀1

上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第23図 PL 13	129	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R8				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下に指頭押捺をめぐらす。以下、無紋。	堀1
第23図 PL 13	130	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。以下、縦位沈線、斜行紋を施す。	堀1
第23図 PL 13	131	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の沈線をめぐらせ、以下、沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 13	132	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R8				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	口縁下に刺突列。以下、懸垂紋を施す。	堀1
第23図 PL 13	133	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N7				口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	波状口縁。波頂部下に円形刺突。口縁下肥厚部に1条の沈線と下端に斜位の短沈線を施す。肥厚部下は縦位の沈線を施す。	堀1
第23図 PL 13	134	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q・R9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に縦位短沈線、円形刺突、1条の沈線。沈線により逆U字状モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 13	135	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11				口縁片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	口縁下に刺突列。沈線により逆U字状モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 13	136	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に刺突列。以下、逆U字状モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 13	137	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 13	138	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I11				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突列。沈線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 14	139	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9	推36.4			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突をめぐらす。やや間隔を空けて1条の沈線をめぐらせ、2条1単位の沈線を垂下させる。	堀1
第23図 PL 14	140	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 14	141	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8				口縁片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	口縁が緩く内折する器形。内折部に突起、横位沈線、円形刺突、下端に斜位の刻みをめぐらす。内折部下は沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第23図 PL 14	142	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂、細礫	にぶい 橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第24図 PL 14	143	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。沈線により幾何学モチーフを描く。器壁7mmと薄手。	堀1
第24図 PL 14	144	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の沈線をめぐらせ、以下、縦位、波状の沈線を施す。	堀1
第24図 PL 14	145	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9			胴部片	粗砂	橙	良好	带状沈線を縦位、斜位に施す。	堀1	
第24図 PL 14	146	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	带状沈線を斜位に施す。	堀1	
第24図 PL 14	147	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下肥厚部に波状の隆線を施す。以下、沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第24図 PL 14	148	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	F11			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄褐	普通	带状沈線を横位、斜位、弧状に施す。	堀1	
第24図 PL 14	149	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9			胴部片	粗砂	淡黄	普通	縦位、蛇行懸垂紋を施す。	堀1	
第24図 PL 14	150	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				口縁片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線と円形刺突。斜格子目状に条線を施す。	堀1
第24図 PL 14	151	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	口縁下に1条の沈線。斜位に条線を施す。	堀1

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第24図 PL 14	152	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。条線を斜位に施す。	堀1
第24図 PL 14	153	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2B9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。斜位に条線を施す。	堀1
第24図 PL 14	154	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	斜格子目状に条線を施す。	堀1
第24図 PL 14	155	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	縦位の条線を施す。	堀1
第24図 PL 14	156	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	斜格子目状に条線を施す。	堀1
第24図 PL 14	157	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	斜格子目状に条線を施す。	堀1
第24図 PL 14	158	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9				口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	口縁部に1条の沈線をめぐらせ、以下、条線を施す。	堀1
第24図 PL 14	159	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L16				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施紋する。	堀1
第24図 PL 14	160	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施紋する。	堀1
第24図 PL 14	161	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施紋する。	堀1
第24図 PL 14	162	縄紋土器	深鉢		遺構外	河道				胴部片				161と同一個体。	堀1
第25図 PL 14	163	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13				口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁。口縁下に1条の沈線。以下、横位沈線、刺突列を施す。	堀1
第25図 PL 15	164	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7				頸部	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	屈曲する器形。横位沈線間に列点を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	165	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、余白に列点を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	166	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q10				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	横位沈線、斜行紋を施し、余白に列点を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	167	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	屈曲部下の部位。带状沈線によりJ字紋、斜行紋を描き、余白に列点を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	168	縄紋土器	鉢	1	遺構外	N9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	斜行沈線を施し、余白に列点を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	169	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q・R9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	縦位沈線、斜行紋を施し、余白に列点を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	170	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	T8				口～胴	粗砂	にぶい 橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁下に1条の沈線。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、列点を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	171	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂	橙	普通	円形刺突を施した小突起を付す。口縁下肥厚部に1条の沈線。	堀1
第25図 PL 15	172	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の沈線をめぐらす。	堀1
第25図 PL 15	173	縄紋土器	深鉢		遺構外	Bトレ				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	小波状口縁で口縁が内折する器形。内折部に沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第25図 PL 15	174	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁下に2条の沈線。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀1
第25図 PL 15	175	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	4トレ				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部下に横位沈線を施す。口唇内面が肥厚。	堀1

上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第26図 PL 15	176	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9	推12.4			口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	頸部で屈曲する器形。口縁部に小突起を付す。横位沈線、幾何学モチーフを描く。波頂部下に円形刺突、屈曲部に貼付紋。	堀 1
第26図 PL 15	177	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10				口縁片	粗砂	橙	良好	口縁下に縦位の短隆線をめぐらす。	堀 1
第26図 PL 15	178	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下肥厚部に1条の沈線、下端に斜位の刻みをめぐらす。	堀 1
第26図 PL 15	179	縄紋土器	深鉢	1	遺構外					口縁片	粗砂	橙	良好	小波状口縁の波頂部下の部位。沈線により同心円紋を施す。	堀 1
第26図 PL 15	180	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	小波状口縁。口縁下に1条の沈線。波頂部から隆線を垂下させる。	堀 1
第26図 PL 15	181	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D12				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で波頂部から弧状の隆線を垂下させる。隆線の両端に円形刺突、隆線上に沈線を施す。	堀 1
第26図 PL 15	182	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	小波状口縁。波頂部脇に2個1対の刺突を施す。口縁部を無紋帯として空け、横位沈線を施す。	堀 1
第26図 PL 15	183	縄紋土器	深鉢	1	1.2 溝	覆土				口縁片	粗砂	橙	良好	頸部で屈曲する器形。口縁下肥厚部に隆線、1条の沈線、下端に刺突。屈曲部に横位沈線、円形刺突を施す。	堀 1
第26図 PL 15	184	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。沈線により矩形モチーフを描き、内部に条線を充填施紋する。	堀 1
第26図 PL 15	185	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R9				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下肥厚部に1条の沈線と円形刺突、下端に竹管による刺突列を施す。	堀 1
第26図 PL 15	186	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	T8				頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部下に単節LR縄紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	堀 1
第26図 PL 15	187	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				頸部片	粗砂	にぶい橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部に横位沈線、円形刺突を施す。	堀 1
第26図 PL 15	188	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				胴部片	粗砂	橙	普通	屈曲部下の部位で横位沈線、懸垂紋を施す。	堀 1
第26図 PL 15	189	縄紋土器	深鉢	1	遺構外					胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	屈曲部下の部位。横位沈線により区画し、沈線による渦巻紋など幾何学モチーフを描く。	堀 1
第26図 PL 15	190	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q7				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線により渦巻状モチーフを施し、間隙に単節LR縄紋を施す。	堀 1
第26図 PL 16	191	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13				胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	屈曲部下の部位。横位沈線により区画、沈線により渦巻紋、斜行紋を描く。	堀 1
第26図 PL 16	192	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10				胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描く。	堀 1
第27図 PL 16	193	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2トレ				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	屈曲する器形。沈線により懸垂紋を施す。	堀 1
第27図 PL 16	194	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13				頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、間隙に単節LR縄紋を充填施紋する。	堀 1
第27図 PL 16	195	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	P8				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	屈曲する器形。沈線により幾何学モチーフを描き、間隙に単節LR縄紋を充填施紋する。	堀 1
第27図 PL 16	196	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀 1
第27図 PL 16	197	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D7				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	横位沈線、斜行紋を施し、区画内に櫛歯状工具による刺突を充填施紋する。	堀 1

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第27図 PL 16	198	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q・R9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	内湾する器形。横位波状に沈線を施し、蛇行懸垂紋を施す。	堀1
第27図 PL 16	199	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	外反する器形。沈線による懸垂紋、U字状紋を施し、区画内に単節LR縄紋を充填施紋する。	堀1
第27図 PL 16	200	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2A10			口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。単節LR縄紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	堀1
第27図 PL 16	201	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	T8			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。以下、単節LR縄紋を地紋とし、縦位の沈線を垂下させる。	堀1
第27図 PL 16	202	縄紋土器	深鉢	1	遺構外				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。以下、単節LR縄紋を地紋とし、沈線を垂下させる。	堀1
第27図 PL 16	203	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、帯状沈線による楕円状モチーフを上下2段施す。	堀1
第27図 PL 16	204	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R8			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、2条の沈線でU字状モチーフを描く。	堀1
第27図 PL 16	205	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	P8			胴部片	粗砂、細礫	にぶい 橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、縦位沈線、縦位楕円状モチーフを施す。	堀1
第27図 PL 16	206	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J10			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	単節LR縄紋を地紋とし、沈線による蛇行懸垂紋を施す。	堀1
第27図 PL 16	207	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2B8			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	単節LR縄紋を地紋とし、2条の沈線による蛇行懸垂紋を施す。	堀1
第27図 PL 16	208	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	地紋に単節LR縄紋を施し、沈線による蛇行懸垂紋を施す。	堀1
第28図 PL 16	209	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	1トレ			胴部片	粗砂	浅黄	普通	単節LR縄紋を施し、沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第28図 PL 16	210	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8			胴部片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、縦位、蛇行懸垂紋を施す。	堀1
第28図 PL 16	211	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D11			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、集合沈線を垂下させる。間隙に単節LR縄紋を施紋。	堀1
第28図 PL 16	212	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D11			胴部片				211と同一個体。	堀1
第28図 PL 16	213	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	堀1
第28図 PL 16	214	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O6			胴部片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	単節LR縄紋を施し、横位沈線を施す。	堀1
第28図 PL 16	215	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J10			口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	小波状口縁で波頂部下に凹孔を穿つ。沈線による懸垂紋を施す。口縁内面にも沈線を施す。	堀1
第28図 PL 17	216	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7			口縁片	粗砂	赤褐	普通	単節LR縄紋を地紋とし、沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第28図 PL 17	217	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9			胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	刺突列を挟んだ沈線により縦位区画し、区画内に斜位の沈線を充填施紋する。	堀1
第28図 PL 17	218	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13			口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が緩く内湾する器形。沈線により幾何学モチーフを描き、貼付紋を貼付する。	堀1
第28図 PL 17	219	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	C13			口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	小波状口縁。沈線により幾何学モチーフ、貼付紋を貼付する。区画内に列点を充填施紋する。	堀1

上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第28図 PL 17	220	縄紋土器 浅鉢	1	1	溝	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	くの字状に内折し、口縁が短く外反する器形。口縁から屈曲部にかけて2条の隆線を垂下させ、両端に円形刺突、隆線に刺突を施す。内折部には単節LR縄紋を施し、横位沈線を施す。	堀1
第28図 PL 17	221	縄紋土器 浅鉢			遺構外	4トレ				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	くの字状に内折する器形。屈曲部上位に単節LR縄紋、横位沈線を施す。	堀1
第27図 PL 17	222	縄紋土器 浅鉢	1		遺構外	S8				口縁片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	波状口縁で、口縁がくの字状に短く内折する。内折部に沈線による楕円状区画を施し、列点を充填施紋。口縁から屈曲部にかかる隆帯を貼付し、円形刺突を施す。	堀1
第28図 PL 17	223	縄紋土器 浅鉢	1		遺構外	F11				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	口縁がくの字状に内折。橋状把手を付し、把手状に沈線、刻みを付す。	堀1
第28図 PL 17	224	縄紋土器 浅鉢	1		遺構外	G11				口縁片				223と同一個体。	堀1
第28図 PL 17	225	縄紋土器 浅鉢	1		遺構外	5トレ				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が短く内折する器形。内折部に沈線による楕円状区画を描き、単節LR縄紋を充填施紋する。貼付紋を貼付。	堀1
第28図 PL 17	226	縄紋土器 浅鉢	1		遺構外	M9				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が内折する器形。内折部に帯状沈線によりJ字紋など幾何学モチーフを描く。	堀1
第28図 PL 17	227	縄紋土器 浅鉢	1		遺構外	M10				口～胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁が内湾する器形。2条の沈線をめぐらせて幅狭な口縁部紋様帯を区画。紋様帯内はS字状、斜位の沈線を施し、一部沈線間に単節LR縄紋を充填施紋する。紋様帯下は無紋。	堀1
第28図 PL 17	228	縄紋土器 浅鉢	1		遺構外	M9				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が内折する器形。内折部に沈線により渦巻紋など幾何学モチーフを描く。	堀1
第28図 PL 17	229	縄紋土器 浅鉢			遺構外	3トレ				口縁片	細砂	にぶい 黄褐	普通	口縁が内湾する器形。口唇外面が肥厚。斜位の沈線を施す。	堀1
第28図 PL 17	230	縄紋土器 浅鉢			遺構外	4トレ				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁が内湾する器形。口縁部に斜位の刻みを付した隆線を1条めぐらす。口唇部にも斜位の刻みを付す。	堀1
第29図 PL 17	231	縄紋土器 深鉢	1		遺構外	K6、K7				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁に小突起を付す。単節LR縄紋を地紋とし、帯状沈線を施す。	堀2
第29図 PL 17	232	縄紋土器 深鉢			遺構外	3トレ				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	単節RL縄紋を地紋とし、帯状沈線を横位、縦位に施す。	堀2
第29図 PL 17	233	縄紋土器 深鉢	1		遺構外	K7				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	帯状沈線を施し、単節RL縄紋を充填施紋する。脇に斜位の沈線を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	234	縄紋土器 深鉢	1		遺構外	E12				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	235	縄紋土器 深鉢	1		遺構外	I9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。口縁下に8の字貼付紋を貼付。	堀2
第29図 PL 17	236	縄紋土器 深鉢	1		遺構外	K10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第29図 PL 17	237 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	3トレ				口~胴	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	带状沈線により対弧状モチーフを描く。	堀2
第29図 PL 17	238 縄紋土器	深鉢	1	1.2	溝	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	灰黄褐	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。口縁下に8の字貼付紋を貼付。	堀2
第29図 PL 17	239 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	I8				胴部片				238と同一個体。	堀2
第29図 PL 17	240 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	B12				口縁片	粗砂、白色粒	赤褐	普通	口縁下に1条の隆線。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	241 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	I10				口縁片	粗砂、白色粒	橙	良好	口縁下に1条の隆線。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	242 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	C13				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の隆線。带状沈線により幾何学モチーフを描く。隆線の上に8の字貼付紋を貼付。	堀2
第29図 PL 17	243 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	D13				口縁片	粗砂	明赤褐	良好	口縁下に1条の隆線。带状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	244 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	I9、J9				口縁片	粗砂	黒褐	普通	口縁下に2条の隆線。带状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	245 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	P7				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	口縁下に2条の隆線をめぐらせ、隆線をつなぐ縦位の隆線を施し、両端に円形刺突を施す。	堀2
第29図 PL 17	246 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	J9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁部に突起を付す。突起下に刻みを付した隆線を垂下させ、斜位に隆線を施す。	堀2
第29図 PL 17	247 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	1トレ				口縁片	粗砂	黒褐	普通	口縁下に2条の隆線。横位沈線を施す。	堀2
第29図 PL 17	248 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	F11				口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	口縁下に2条の隆帯を施し、隆帯上に単節LR縄紋を施す。	堀2
第29図 PL 17	249 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	I9				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	口縁が内湾する器形。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	250 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	J9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の隆線。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 17	251 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	J8、J9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 18	252 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	I9				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 18	253 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	I9				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第29図 PL 18	254 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	F10				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第30図 PL 18	255 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	表土				胴部片	粗砂、白色粒	橙	良好	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。余白に相似形に沈線を充填施紋する。	堀2
第30図 PL 18	256 縄紋土器	深鉢	1		遺構外					胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。余白に相似形に沈線を充填施紋する。	堀2
第30図 PL 18	257 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	D13				胴部片	粗砂	灰白	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描く。	堀2
第30図 PL 18	258 縄紋土器	深鉢	1		遺構外	S8				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	頸部がくびれる器形。単節LR縄紋をまばらに施紋する。	後期前

上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第30図 PL 18	259 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 N9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	外削ぎ状の口唇部。単節 L R 縄紋を横位施紋す る。	後期前
第30図 PL 18	260 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 G11				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	無紋。	後期前
第30図 PL 18	261 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 J9				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	無紋。斜位の擦痕が見ら れる。	後期前
第30図 PL 18	262 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 N10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	無紋。	後期前
第30図 PL 18	263 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 O9				口縁片	粗砂、白色粒	灰黄褐	普通	無紋だが、縦位の隆帯が 剥落した痕跡がある。	後期前
第30図 PL 18	264 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 3トレ				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	無紋。斜位の撫で痕が見 られる。	後期前
第30図 PL 18	265 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 G11		9.6		胴～底	粗砂	にぶい 黄橙	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図 PL 18	266 縄紋土器	深鉢	1		遺構外		10.3		底部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図 PL 18	267 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 M9		10.0		底部片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図 PL 18	268 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 M9		10.5		胴～底	粗砂	にぶい 黄橙	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図 PL 18	269 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 J7		推18.6		底部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	残存部は無紋。	後期前
第31図 PL 18	270 縄紋土器	深鉢	1	1,2	溝 覆土		8.0		胴～底	粗砂	にぶい 橙	普通	残存部は無紋。	後期前
第31図 PL 18	271 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 J7		9.2		底部片	粗砂	橙	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	272 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 O11				底部片	粗砂	橙	普通	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	273 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 I9		推10.0		底部片	粗砂	にぶい 橙	普通	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	274 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 H10		7.9		底部片	細砂	にぶい 黄橙	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	275 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 I8		8.4		底部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 19	276 縄紋土器	深鉢	1	1	溝 覆土				底部片	粗砂	浅黄	普通	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図 PL 19	277 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 N8、L7		推9.8		底部片	粗砂	橙	良好	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図 PL 19	278 縄紋土器	深鉢	1		遺構外 D11		推12.0		底部片	粗砂	浅黄	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 19	279 縄紋土器	注口	1		遺構外 D13				口縁片	細砂	浅黄橙	普通	鋭角に屈曲する器形。沈 線により渦巻紋、楕円状 区画を描き、楕円状区画 内に刺突を充填施紋す る。注口は蛇腹状を呈し、 先端部にも沈線と刺突を 施す。	堀 1
第31図 PL 19	280 縄紋土器	注口			遺構外 不明				口～胴	粗砂	にぶい 橙	普通	くの字状に屈曲する器 形。屈曲部上位に沈線に よる幾何学モチーフ、単 節 L R 縄紋を施す。注口 部に隆帯を貼付。	堀 1
第31図 PL 19	281 縄紋土器	注口	1		遺構外 M10				注口部	粗砂	橙	普通	注口先端部と口縁部をつ なぐ把手の痕跡が残る。	後期前
第31図 PL 19	282 縄紋土器	注口	1		遺構外 Q9				注口部	粗砂	にぶい 橙	普通	注口先端部と口縁部をつ なぐ把手の痕跡が残る。	後期前
第31図 PL 19	283 縄紋土器	注口	1		遺構外 K9				注口部	粗砂	にぶい 黄橙	普通		後期前
第31図 PL 19	284 縄紋土器	注口	1		遺構外 H9				口縁片	細砂	橙	普通	口縁下に鋸歯状紋を施 し、余白に縦位沈線を充 填施紋する。口唇部内外 端を肥厚させて平坦面を 作出、楕円状沈線を施し、 刺突を充填施紋する。	堀 1
第31図 PL 19	285 縄紋土器	注口	1		遺構外 C13				口縁片	粗砂	橙	普通	沈線により三角形状、弧 状などの幾何学モチーフ を描き、部分的に単節 L R 縄紋を充填施紋する。 口唇外面が肥厚。	堀 1
第31図 PL 19	286 縄紋土器	注口	1		遺構外 K9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	注口との接合部で欠損。 287と同一個体。	堀 1

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第31図 PL 19	287 縄紋土器	注口	1	遺構外	J9				胴部片				沈線による渦巻紋、楕円紋などの幾何学モチーフを描く。部分的に刺突を充填施紋する。	堀1
第31図 PL 19	288 縄紋土器	注口	1	遺構外	K9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁下に3条の沈線をめぐらせて幅狭な紋様帯を区画。紋様帯内は複合鋸歯紋を施す。区画紋の下位の沈線間に刺突を充填施紋する。紋様帯下は研磨。	堀1
第31図 PL 19	289 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I10				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に帯縄紋、区切り紋を施し、内面に沈線をめぐらす。口唇部に刻みを付す。	加B
第31図 PL 19	290 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	良好	残存部は無紋。内面に沈線をめぐらす。	加B
第31図 PL 19	291 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				口縁片	粗砂、白色粒	黒褐	良好	小突起を付す。帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。内面に横位沈線を施す。	加B
第32図 PL 19	292 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	胴部上位が膨らみ、口縁に向かってすぼまる器形。縦位楕円紋や横位沈線を施す。	加B
第32図 PL 19	293 土製品	ミニチュア	1	遺構外	D13	5.8			口縁片	細砂	灰黄	普通	筒状の器形。無紋。	後期前
第32図 PL 19	294 土製品	ミニチュア	1	遺構外	G11				胴部片	粗砂	淡黄	普通	波状口縁あるいは口縁下に孔を穿っている。無紋。	後期前
第32図 PL 19	295 土製品	ミニチュア	1	遺構外	K8		3.6		ほぼ完形	粗砂、白色粒	淡黄	普通	無紋。	後期前
第32図 PL 19	296 土製品	ミニチュア	1	遺構外	G11		4.8		底部片				294と同一個体。	後期前
第32図 PL 19	297 土製品	土製品	1	遺構外					破片	粗砂、白色粒	橙	普通	厚さ1.3cm。大形の土製円盤か？	後期前
第32図 PL 19	298 土製品	土製円盤	1	遺構外	N9				完形	粗砂	橙	良好	径2.6cm、厚さ0.9cm。	後期前
第32図 PL 19	299 土製品	土製品	1	遺構外	I9				ほぼ完形	粗砂	浅黄橙	普通	長さ5.8cm。径1.4cmで中央がやや太くなる。上下端と中央部にそれぞれ1条の沈線をめぐらせる。	後期前
第32図 PL 19	300 土製品	土製品	1	遺構外	J8				完形	粗砂	橙	良好	長さ3.1cm、幅1.5cm、厚さ1.2cmの不整楕円形状を呈す。十文字に沈線を施す。	後期前
第32図 PL 19	301 土製品	土製品	1	遺構外	D12				ほぼ完形	粗砂	浅黄橙	普通	長さ7.2cm、幅4.7cm、高さ2.8cm。	後期前
第32図 PL 19	弥生1	弥生土器		遺構外					口縁片	細砂	浅黄橙	普通	口縁端部に刻み	弥生後期
第32図 PL 19	弥生2	弥生土器		遺構外	表土				口縁片	細砂	赤褐	普通	外面折り返し2段後刺突。内面磨き。	弥生後期
第32図 PL 19	2区1	縄紋土器	2	遺構外	3J				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁部紋様帯の部位。隆線による楕円状モチーフを施す。	加E 3
第32図 PL 19	2区2	縄紋土器	2	遺構外	3J4				胴部片	粗砂	にぶい黄褐	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第32図 PL 19	2区3	縄紋土器	2	遺構外	3K5				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線によるモチーフを描く。	称II
第32図 PL 19	2区4	縄紋土器	2	遺構外	3L6				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、区画内にLR縄紋を充填施紋する。	称I
第32図 PL 19	2区5	縄紋土器	2	遺構外	3L6				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描く。	称II
第32図 PL 19	2区6	縄紋土器	2	遺構外	3H3				胴部片	粗砂、白色粒	浅黄	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	堀2

(上江田西田遺跡土師器・須恵器他)

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量 g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第33図 PL 21	1 壺	1	遺構外	(16.0)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁肥厚、内外面横位主体のハケ目。
第33図 PL 21	2 壺	1	遺構外	15.2	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	薄い粘土帯貼付による折返し口縁。細かいハケ目。内面磨き。
第33図 PL 21	3 壺	1	遺構外	13.7	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	明褐	酸化	口唇弱い面取り。頸部外面ハケ目。口縁横ナデ。
第33図 PL 21	4 壺	1	遺構外	(18.6)	-	-	-	口～胴上半部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	頸部ほぼ直立する二重口縁。胴部は球形か。外面磨き。
第33図 PL 21	5 壺	1	遺構外	(16.8)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	黄灰	酸化	水平近く開く二重口縁。内外面とも細かく丁寧な研磨。搬入品か。
第33図 PL 21	6 甕	1	遺構外	(12.0)	-	-	-	口頸部片	白色粒子を含む	灰	還元	轆轤成形、内外ナデ
第33図 PL 21	7 壺	1	遺構外	13.0	-	-	-	口～肩片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口唇面取り後ヘラによる刻み。頸部に刻みある凸帯を廻らす。
第33図 PL 21	8 壺	1	遺構外	-	-	-	-	頸部片	砂粒を含む	橙	酸化	頸部に断面方形の凸帯を廻らす。
第33図 PL 21	9 壺	1	遺構外	-	-	-	-	肩部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	鋭い櫛歯具による4段横線文にヘラによる乱れた鋸歯文を2段描く。
第33図 PL 21	10 小型壺	1	遺構外	(10.0)	-	-	-	口～胴上半部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	外面、口縁内面に縦研磨。研磨部に赤彩の可能性。
第33図 PL 21	11 直口壺	1	遺構外	(8.2)	-	-	-	口～胴上半部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	ナデ後研磨と思われるが剥離。外面と口縁内面に赤彩。
第33図 PL 21	12 直口壺	1	遺構外	9.0	-	-	-	口縁部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	縦ハケ目のち、まばらな研磨。
第33図 PL 21	13 直口壺	1	遺構外	(8.4)	-	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	縦ハケ目のち、まばらな研磨。口縁横ナデ。
第33図 PL 21	14 器台	1	遺構外	-	-	-	-	器受け部	細砂粒を含む	橙	酸化	器受け部は大きく皿状に開く。
第33図 PL 21	15 壺	2	遺構外	-	-	-	-	口縁部	砂粒・小石を含む	橙	酸化	内外面器表荒れ
第33図 PL 21	16 壺	1	遺構外	11.6	-	-	-	口～胴上半部	細砂粒を含む	橙	酸化	口唇は薄く外傾。外面ハケ目のちナデ及び研磨。体外面に煤。
第34図 PL 21	17 壺	1	遺構外	-	-	-	-	口～胴上半部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	外面ハケ目のちナデ及び研磨。
第34図 PL 21	18 壺	1	遺構外	-	-	-	-	肩部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面研磨、赤彩。
第34図 PL 21	19 (甕)	1	遺構外	-	-	-	-	頸～胴上半部	砂粒を多く含む	にぶい黄褐	酸化	外面ハケ目のちナデ及び研磨。内面積み上げ痕、ヘラナデ。
第34図 PL 21	20 小型壺	1	遺構外	-	5.0	(8.9)	-	胴～底部片	砂粒を含む	オリーブ黒	酸化	外面ハケ目のちナデ及び研磨。
第34図 PL 21	21 S字状口縁甕	1	遺構外	(14.0)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	灰黄	酸化	肩部斜ハケ目、頸部にヘラ先ナデ。
第34図 PL 22	22 S字状口縁甕	1	遺構外	(16.3)	-	-	-	口～肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口唇上縁に面取り。肩部斜ハケ目のち横ハケ目。
第34図 PL 21	23 S字状口縁甕	1	遺構外	(15.2)	-	-	-	口～肩片	砂粒を含む	淡黄	酸化	口唇水平に折れる。肩部縦ハケ目。
第34図 PL 21	24 S字状口縁甕	1	遺構外	(18.5)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁上段小さく屈曲、肩部縦ハケ目。
第34図 PL 22	25 S字状口縁甕	1	遺構外	(15.0)	-	-	-	口～肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁上段肥厚。肩部斜ハケ目、胴中位からの左上方ハケ目。
第34図 PL 22	26 S字状口縁甕	1	遺構外	(18.8)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口縁上段は直状に開き、頸部は弓なりに屈曲。肩部斜ハケ目。
第34図 PL 22	27 S字状口縁甕	1	遺構外	(10.0)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁上段が小さく直立。外面縦ハケ目。小型品。
第34図 PL 22	28 台付甕	1	遺構外	(15.4)	-	-	-	口～脚台片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	内外面とも細かい斜ハケ目、口縁内面横ナデ。口唇上縁ヘラ刻み。接合しないが同一個体か。
第35図 PL 22	29 甕	1	遺構外	(15.0)	-	-	-	口～胴上半部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	外面と口縁内面ハケ目、胴内面ナデ。
第35図 PL 22	30 甕	1	遺構外	(14.6)	-	-	-	口～肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	外面と口縁内面ハケ目、胴内面ナデ。
第35図 PL 22	31 甕	1	遺構外	(17.6)	-	-	-	口～肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁内外面横ナデ、肩外面と内面横ハケ目。

IV 検出された遺構と遺物

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量 g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第35図 PL 22	32 甕	1	遺構外	-	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口唇弱く肥厚。内外面ハケメ。
第35図 PL 22	33 甕	1	遺構外	(16.4)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	強く外反し、内外面にハケメ。
第35図 PL 22	34 甕	1	遺構外	(16.2)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	浅黄	酸化	口唇尖り、直状に開く。内外面ハケメ。
第35図 PL 22	35 甕	1	遺構外	(22.0)	-	-	-	口～肩片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	器厚は薄く、口唇部尖る。胴外面ハケメ 口縁内外面は横ナデ。
第35図 PL 22	36 甕	1	遺構外	-	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	大きく外反して開く。内外面ハケメ。
第35図 PL 22	37 甕	1	遺構外	(17.8)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁上端は肥厚して、やや立ち上がる。 内外面ナデ。
第35図 PL 22	38 甕	1	遺構外	(14.7)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口唇部に面取り。内外面ナデ。
第35図 PL 22	39 甕	1	遺構外	(12.6)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口唇やや肥厚丸縁。内外面横ナデ。
第35図 PL 22	40 甕	1	遺構外	-	-	-	-	口頸部片	砂粒を多く含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁上端は直立しヘラナデ。内外面ナデ。
第35図 PL 22	41 甕	1	遺構外	(12.0)	-	-	-	口～胴上半部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口唇はわずかに肥厚して外傾。外面ハケ 目のちナデ及び研磨。
第35図 PL 22	42 小型台 付甕	1	遺構外	(8.7)	-	-	-	口縁～胴部	砂粒を多く含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁小さく外反、肩の張る球胴。外面ハ ケメ。内面ナデ。
第35図 PL 22	43 甕	1	遺構外	13.2	4.6	-	-	口～底片	砂粒を含む	灰黄	酸化	弱い受け口口縁、上縁は弱い面取り。外 面縦ハケメ、内面ナデ。平底部は別個体 の可能性を残す。
第35図 PL 22	44 小型甕	1	遺構外	(9.4)	-	-	-	口～胴部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁小さく外反、肩の張る球胴。外面ハ ケメ。内面ナデ。台付甕の可能性あり。
第35図 PL 22	45 小型甕	1	遺構外	(10.8)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	赤褐	酸化	口縁肥厚し小さく外反。内外面はナデか。
第35図 PL 22	46 甕	1	遺構外	-	-	-	-	口縁片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口唇部にヘラ刻み、頸部には粗いハケメ。
第36図 PL 22	47 甕	1	遺構外	(18.6)	-	-	-	口～胴上半部 片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁大きく外反。胴部削りのちナデ。
第36図 PL 22	48 甕	1	遺構外	(20.4)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁肥厚し外傾。横ナデ。
第36図 PL 22	49 甕	1	遺構外	(20.0)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁上端は小さな折返しで外反。ナデ。
第36図 PL 22	50 S字状 口縁甕	1	遺構外	-	-	-	-	脚台上半部	砂粒を多く含む	にぶい褐	酸化	内面ナデ、外面斜ハケメ。
第36図 PL 22	51 S字状 口縁甕	1	遺構外	-	-	-	-	脚台上半部	砂粒を含む	灰黄	酸化	内面ナデ、外面斜ハケメ。
第36図 52 PL 23	甕	1	遺構外	19.2	-	-	-	口～胴上半部 片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口唇面取り、頸部に補強の粘土帯を廻ら す。内外面斜ハケメ。
第36図 PL 23	53 (壺)	1	遺構外	-	7.6	-	-	体下半～底	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	焼成後底部穿孔。内外面ハケメ。
第36図 PL 22	54 台付甕	1	遺構外	-	-	-	-	胴下半～脚部 片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面と脚内面に粗いハケメ。胴内面ナデ。
第36図 PL 22	55 台付甕	1	遺構外	-	7.6	-	-	脚台部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	やや外反気味に開く。外面は長い縦ハケ メ。
第36図 PL 22	56 台付甕	1	遺構外	-	(6.0)	-	-	底～台部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	粗いハケメとナデ。高坏ミニチュア品の 可能性あり。
第36図 PL 23	57 台付甕	1	遺構外	-	(10.8)	-	-	脚台部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	低く、直状に開く。外面は長い縦ハケメ、 内面斜ハケメ。
第36図 PL 22	58 S字状 口縁甕	1	遺構外	-	-	-	-	脚台部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	内湾気味に開く。外面ナデ、内面指ナデ。
第36図 PL 23	59 台付甕	1	遺構外	-	11.6	-	-	脚台部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	大きく外反して開く。外面縦ハケメ。北 陸系高坏に似る。
第36図 PL 23	60 小型甕	1	遺構外	(11.2)	-	-	-	口～肩部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口唇尖るS字状口縁。鉢か台付甕の可 能性もある。
第36図 PL 23	61 壺	1	遺構外	-	9.9	-	-	体～底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	大きめの平底、底面にヘラ描き状描線。 胴内外面ハケメとナデ。
第37図 PL 23	62 高坏	1	遺構外	24.0	11.4	13.5	-	3/4	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	脚部中位に3孔。口唇部に小さな面取り。 杯部内外面に丁寧な放射状研磨。

上江田西田遺跡

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量 g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第37図 PL 23	63 高杯	1	遺構外	(21.5)	(14.5)	14.1	-	1/2	砂粒を含む	にぶい黄褐	酸化	脚部中位に3孔。杯部内外面に放射状研磨。脚上位は中実柱状。
第37図 PL 23	64 高杯	1	遺構外	(15.8)	-	-	-	杯部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口唇内面に面取り。杯部研磨と思われるが不明瞭。
第37図 PL 23	65 (高杯)	1	遺構外	(16.0)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口唇外側につまみナデによる沈線。二重口縁壺の可能性あり。
第37図 PL 23	66 高杯	1	遺構外	(11.4)	-	-	-	杯部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	杯部碗形で、口縁上端が弱く外折。小型品。
第37図 PL 23	67 高坏か 器台	1	遺構外	(15.8)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	明黄褐	酸化	下方に突出する粘土帯で外反する口縁を形成。北陸系。
第37図 PL 23	68 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	杯部片	砂粒・小石を含む	黄褐	酸化	杯部底の稜強く、杯部は外反して立つ。
第37図 PL 23	69 器台	1	遺構外	(10.6)	-	-	-	杯部片	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	浅い皿状の器受け部で、脚部への貫通孔はない。
第37図 PL 23	70 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	杯～脚部片	砂粒を含む	褐	酸化	杯部底の稜強く、杯部は外反して立つ。杯部内外面は放射状研磨。
第37図 PL 23	71 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	杯部下位片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	杯部底の稜強く、杯部は外反して立つ。
第37図 PL 23	72 器台	1	遺構外	8.7	11.3	8.7	-	1/2	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	脚中位で屈曲して開き、3孔を穿つ。
第37図 PL 23	73 器台	1	遺構外	(8.5)	(9.8)	7.9	-	3/4	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	器受け部は段状、脚部は強く外反して開く。
第37図 PL 23	74 器台	1	遺構外	(7.7)	(10.1)	7.5	-	3/4	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	器受け部は浅い内湾皿形。脚裾部が外反する。
第37図 PL 23	75 器台	1	遺構外	7.4	-	-	-	脚裾部	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	口唇部外側に小さな面取り。脚部中位で弱く折れる。
第37図 PL 23	76 器台	1	遺構外	(8.5)	-	-	-	杯～脚部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	器受け部は直線状に開き、口唇は尖る。
第37図 PL 23	77 器台	1	遺構外	-	-	-	-	杯～脚部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁屈曲すると思われる。
第37図 PL 24	78 器台	1	遺構外	-	-	-	-	脚裾部	砂粒を含む	にぶい明黄褐	酸化	器受け部は小さな内湾皿形。
第37図 PL 24	79 結合器 台	1	遺構外	(18.3)	-	-	-	口～器受け部	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	円盤状の器受け部から強く外反して口縁が開く。透かしは不明。
第37図 PL 24	80 結合器 台	1	遺構外	-	-	-	-	器受け部	細砂粒を含む	橙	酸化	円盤状の器受け部から口縁が開く。透かしは不明。
第37図 PL 24	81 結合器 台	1	遺構外	-	-	-	-	器受け部	砂粒を含む	橙	酸化	円盤状の器受け部から口縁が開く。透かしは不明。内外面研磨。
第37図 PL 24	82 結合器 台	1	遺構外	-	-	-	-	器台部	砂粒を多く含む	にぶい橙	酸化	器受け部は大きく開く皿形、脚部は大きく外反して開く。
第37図 PL 24	83 (高坏)	1	遺構外	-	(18.6)	-	-	脚部	細砂粒を含む	にぶい黄褐	酸化	円盤状の底面、結合口縁か杯部が乗る。脚部外面は丁寧な研磨。
第38図 PL 24	84 器台か	1	遺構外	-	-	-	-	器受け部	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	円盤状の底面、結合口縁か杯部の接合部にハケメ残す。
第38図 PL 24	85 器台か	1	遺構外	-	-	-	-	器受け部～脚部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	円盤状の底面、結合口縁か杯部の接合部にハケメ残す。
第38図 PL 24	86 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	脚部	砂粒を含む	橙	酸化	外反して開く。円孔は上位に穿つ。
第38図 PL 24	87 高杯	1	遺構外	-	11.4	-	-	脚部	細砂粒を含む	赤褐	酸化	低く外反して開く。小さな円孔を4箇所対面に穿つ。
第38図 PL 24	88 器台か 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	脚部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	上位柱状、下半大きく開く。脚内面に芯棒孔を残す。
第38図 PL 24	89 器台か 高杯	1	遺構外	-	(8.6)	-	-	脚部	細砂粒を含む	にぶい黄褐	酸化	円錐形に開き、裾部が外折する。
第38図 PL 24	90 器台か 高杯	1	遺構外	-	15	-	-	脚部	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	脚部は円錐形に大きく開き、裾部が外折する。円孔は上位に穿つ。
第38図 PL 24	91 器台	1	遺構外	7.0	-	-	-	器受け部	砂粒を含む	橙	酸化	器受け部は小さく外反気味に開く。
第38図 PL 24	92 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	脚部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	脚部内面に粘土紐接合痕と絞りを残す。
第38図 PL 24	93 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	脚部	細砂粒を含む	橙	酸化	ふくらむ脚柱部から外折して裾部が開く。円孔なし。
第38図 PL 24	94 有孔鉢	1	遺構外	17.9	4.3	8.6	-	略完形	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	内湾して開く鉢形で、口唇部外側に小さな面取り。底孔径6mm。

IV 検出された遺構と遺物

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量 g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第38図 PL 24	95 有孔鉢	1	遺構外	-	4.7	-	-	体～底部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	やや深い鉢形で外面にハケメ。底孔径は12mm。
第38図 PL 24	96 (甕)	1	遺構外	-	4.8	-	-	底部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	被熱痕。
第38図 PL 24	97 (壺)	1	遺構外	-	7.0	-	-	底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	輪状粘土紐によるドーナツ状の凹み底。
第38図 PL 24	98 (埴)	1	遺構外	-	3.4	-	-	底部片	細砂粒を含む	明赤褐	酸化	底面はレンズ状に窪む。
第38図 PL 24	99 甕	1	遺構外	-	(6.8)	-	-	底部片	砂粒を含む	明褐灰	酸化	体部内外面ハケ目後ナデ。
第38図 100 PL 24	壺	1	遺構外	-	6.2	-	-	底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	内外面ハケ目後ナデ、底面中央窪む。
第38図 101 PL 24	(壺)	1	遺構外	-	(4.7)	-	-	底部片	砂粒を含む	灰黄	酸化	体部外面下位ハケ目、底面わずかに窪む。
第38図 102 PL 24	(甕)	1	遺構外	-	4.4	-	-	底部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	外面ハケメ。底面窪む。
第38図 103 PL 24	(壺)	1	遺構外	-	(4.8)	-	-	底部	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	突出底。
第38図 104 PL 24	壺	1	遺構外	-	6.4	-	-	底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面ハケメ。内面ナデ。
第38図 105 PL 24	(甕)	1	遺構外	-	(6.0)	-	-	底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	球胴と思われる。外面に煤付着。
第38図 106 PL 24	(壺)	1	遺構外	-	4.8	-	-	底部	砂粒を多く含む	にぶい黄 橙黒	酸化	外面器表荒れ
第38図 107 PL 24	壺	1	遺構外	-	(3.8)	-	-	底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	突出した底部で、底面に木葉痕。
第38図 108 PL 24	壺	1	遺構外	-	(8.8)	-	-	脚～底部片	砂粒を含む	灰褐	酸化	外方に張り出して突出する底面に布目痕(粗い平織り)を残す。
第39図 109 PL 24	土師器 杯	1	遺構外	-	-	-	-	口～底部片	細砂粒を含む	橙	酸化	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り、内面粗い放射状暗文
第39図 110 PL 24	土師器 壺	-	遺構外	-	-	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	胴部上半ヘラミガキ、下半ヘラ削り、底部の荒れ顕著
第39図 111 PL 24	須恵器 甕	2	遺構外	-	-	-	-	口縁部片	白色粒子を含む	灰赤	還元	外面に2条圏線
第39図 112 PL 24	須恵器 高杯	2	遺構外	-	-	(2.5)	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	底部回転ヘラ削り、内面のロクロ整形痕顕著
第39図 113 PL 24	須恵器 高杯	1	遺構外	-	-	-	-	口縁部片	白色粒子を含む	灰褐	還元	ロクロ整形、底部回転ヘラ削り、体部内面に自然釉
第39図 114 PL 24	台付盤	2	遺構外	-	-	(5.0)	-	脚部片	はく	褐灰	還元	長方形透かし
第39図 115 PL 24	土師器 杯	1	遺構外	11.8	丸底	5.2	-	完形	細砂粒を含む	褐	酸化	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り、内面放射状ミガキ
第39図 116 PL 25	須恵器 ミ ニ チュ ア 杯	2	遺構外	(7.4)	4.0	2.4	-	3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り無調整
第39図 117 PL 25	須恵器 杯	1	遺構外	(12.4)	6.4	4.0	-	3/4	砂粒を含む	褐	灰黄	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り無調整
第39図 118 PL 25	須恵器 杯	1	遺構外	-	7.2	-	-	底部	砂粒を含む	灰黄	還元	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り無調整
第39図 119 PL 25	須恵器 椀	2	遺構外	-	7.3	(0.5)	-	底部片	白色粒子を含む	褐灰	還元	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り後付け高台、高台剥落
第39図 120 PL 25	須恵器 杯	2	遺構外	-	(5.6)	-	-	底部片	砂粒を含む	灰黄	灰黄	ロクロ整形(右回転)、底部回転糸切り無調整
第39図 121 PL 25	灰釉陶 器椀	1	遺構外	(14.6)	-	-	-	口縁部片	精良	灰白	還元	ロクロ整形、施釉ハケ掛け、光ヶ丘1号窯式
第39図 122 PL 25	灰釉陶 器皿	1	遺構外	-	(6.2)	-	-	底部片	精良	灰白	還元	ロクロ整形、施釉技法不明、見込み部に重ね焼き痕
第39図 123 PL 25	土師器 甕	2	遺構外	(16.8)	-	(5.2)	-	口縁部片	砂粒を多く含む	にぶい橙	酸化	口縁部横ナデ後、胴部縦位ヘラ削り、口縁部に接合痕
第39図 124 PL 25	甕	1	遺構外	-	-	-	-	口縁部片	砂粒を多く含む	明黄褐	酸化	口縁部下に横位の条痕様の痕跡 時期不明
第39図 125 PL 25	杯か	1	遺構外	-	-	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化	内外面赤彩

上江田西田遺跡

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量 g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第39図 126 PL 25	紡錘車 か	1	遺構外	3.5	3.6	2.2	21.6	完形	砂粒を含む	灰白	酸化	器表荒れ
第39図 127 PL 25	土師器 甕	1	遺構外	(19.8)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	武蔵型、口縁部横ナデ、外面に接合痕
第39図 128 PL 25	内耳鍋	1	遺構外	-	6.2	-	-	底部	砂粒を含む	外=褐灰、 内=橙	還元	内外面ナデ
第39図 129 PL 25	円筒埴 輪	1	遺構外	-	-	厚1.3	-	口縁部から胴 部片	チャート、雲母、 白色鈹物粒含む	橙	酸化	外面縦ハケ、内面ナデ、突帯は断面台形

陶磁器

図番	種別	器形	名 遺構番号	4形・成調整等	備考
第39図130	白磁	皿	遺構外	中国。口禿の皿口縁部	13世紀後半から14世紀前半
第39図131	陶器	直縁大皿?	遺構外	灰釉。古瀬戸後期?。	132と同一個体か
第39図132	陶器	直縁大皿?	遺構外	灰釉。古瀬戸後期?。	131と同一個体か
第39図133	青白磁	梅瓶	遺構外	中国。体部上位片。櫛状工具で施文。	13世紀から14世紀前半
第39図134	軟質陶器	片口鉢	遺構外	口縁部片。	14世紀後半
第39図135	焼締陶器	甕?	遺構外	常滑。肩部片。	中世
第39図136		内耳鍋	遺構外	口縁部短く内腕。口縁端部肥厚。	14世紀後半から15世紀初?

IV 検出された遺構と遺物

石器

図番	器種	形態	出土位置	石材	長さ	幅	重さ	残存	調整加工・形状等
40 図 1 住 1	打製石斧	短冊	1号住	緑片	9.5	4.7	52.9	刃部欠	板状剥片を用い、側縁を弱く抉る。
40 図 1 住 2	打製石斧	短冊	1号住	ホル	7.3	5.8	99.7	上半欠	風化により磨耗等は不明。刃部再生の可能性あり。
40 図 1 住 3	打製石斧	短冊	1号住	黒頁	10.0	4.2	52.4	完形	側縁刃部とも磨耗。刃部は再生使用。
40 図 1 住 4	多孔石		1号住	粗安	22.1	13.7	2435.8	完形	表裏面とも孔4、裏面側にアバタ状の打痕1。
40 図 1 住 5	石核		1号住	黒頁	11.7	9.3	568.6	完形	大形の盤状石核を用い、幅広剥片を求心的に剥離。
40 図 1 住 6	磨石	円偏	1号住	粗安	10.8	7.4	649.7	完形	中央付近に打痕あり、表裏面とも磨耗。
40 図 1 住 7	多孔石		1号住	粗安	30.0	21.0	14800	完形	背面側4・右側面5・左側面2の孔を穿つ。
40 図 1 住 8	磨石	楕円	1号住	粗安	8.2	8.2	467	完形	表裏面に磨耗痕あり。
41 図 2 住 1	凹石		2号住	粗安	16.4	11.2	2339	完形	表面にアバタ状の打痕あり、表裏面に磨耗痕あり。
41 図 2 住 2 PL20	凹石	楕円	2号住	粗安	9.2	7.6	316.7	完形	中心からやや外れて集合打痕1が表裏面にある。
42 図 1 土 1 PL20	削器		1号土	珪頁	5.4	10.6	100.2	完形	横長剥片の端部に浅い剥離を施す。
42 図 1 PL20	打製石斧	短冊	S-8	凝砂	7.3	3.9	63.2	下半欠	側縁に敲打・磨耗痕あり。使用時欠損？
42 図 2 PL20	打製石斧	分銅	D-13	細安	9.5	7.3	163.1	完形	側縁刃部とも著しく磨耗。下端刃部は再生状態。
42 図 3 PL20	打製石斧	分銅	S-9	細安	13.3	7.4	187.3	刃部欠	礫面を大きく残す幅広剥片素材。側縁に捲縛痕。
42 図 4 PL20	打製石斧	分銅	O-8	砂岩	11.2	7.5	196.0	上半欠	側縁に磨耗痕あり。刃部磨耗は未確認。
42 図 5 PL20	打製石斧	分銅	表採	細安	11.6	6.3	157.7	完形	側縁に捲縛痕、刃部磨耗痕あり。再生後使用。
42 図 6 PL20	打製石斧	分銅	1トレ	硬泥	10.6	6.2	161.4	刃部破	側縁に捲縛痕、刃部磨耗痕あり。再生時欠損、廃棄？
42 図 7 PL20	磨製石斧		M-8	変玄	5.0	2.5	20	完形	頭部周辺に敲打痕が残る。刃部は刃こぼれ。
42 図 8 PL20	石鏃	不明	8トレ	黒曜	1.7	1.2	0.5	下半欠	表裏面とも押圧剥離だが、右側縁のみ急斜度調整。
42 図 9 PL20	楔形石器		J-6	黒曜	2.5	2.0	3.6	完形	下端側表裏面に両極剥離痕あり。
42 図 10 PL20	削器		L-7	黒頁	8.7	5.0	75.5	完形	縦長剥片の裏面側両側縁に粗い加工を施す。
42 図 11 PL20	削器		R-8	黒頁	9.0	6.7	105.1	完形	幅広剥片の右側縁側裏面に粗い加工を施す。
42 図 12 PL20	削器		不明	黒頁	8.8	4.8	72.7	完形	両側縁に錯向様に粗く剥離を加え、刃部を作出する。
42 図 13 PL20	石核		3トレ	チャ	14.8	5.7	63.6	完形	小形偏平礫を用い、表裏面で小形剥片を剥離。
42 図 14 PL20	石核		C-13	珪頁	4.5	9.2	91.5	完形	厚い不定形剥片を石核素材に、小形剥片を剥離。
43 図 15 PL20	敲石		E-13	雲片	15.5	5.0	408	頭部欠	小口部に打痕あり。
43 図 16 PL20	磨石		D-13	粗安	13.5	10.8	690.4	完形	表面にアバタ状の打痕あり、表裏面に磨耗痕あり。
43 図 17 PL20	磨石	楕球	不明	粗安	7.8	6.8	357.3	完形	背面側中央に敲打痕あり、全面磨耗。
43 図 18 PL20	凹石	楕円	J-7	粗安	17.5	13.0	1544.9	完形	背面側にロート状の凹部1、アバタ状の凹部1あり。
43 図 19 PL20	凹石	楕円	S-9	粗安	13.5	11.5	1530	完形	表面側にロート状の小さな凹部2、表裏面に磨耗痕。
43 図 20 PL20	凹石	楕円	C-13	粗安	10.2	8.8	431.7	完形	表裏面とも中央付近にロート状の凹部2を有する。
43 図 21 PL20	凹石	楕円	D-13	粗安	12	5.7	820.7	完形	表裏面にアバタ状の凹部2、磨耗痕あり。
43 図 22 PL20	凹石	楕円	E-12	粗安	9.7	11.0	693.1	上半欠	表裏面にアバタ状の打痕、磨耗痕あり。
43 図 23 PL20	凹石	楕円	2トレ	粗安	9.2	7.9	426.4	完形	表裏面とも中央付近にアバタ状の凹部1がある。
43 図 24 PL20	スタンプ		E-12	粗安	11.6	5.6	347.1	完形	底面角75°を測る。打点側が若干磨耗する程度。
43 図 25 PL20	多孔石		4トレ	粗安	18.1	16.9	5007.3	完形	背面側・右側面・裏面側に孔を穿つ。
43 図 26 PL20	垂飾		K-8	軽石	4.9	4.0	6.6	完形	径6mmの孔を穿つ。
43 図 27 PL20	石棒	表採		雲片	14.6	6.0	4004.3	基部破	長径12cm・短径8cmを測る。円柱状に整形。被熱。
43 図 28 PL20	砥石		QR-9	凝砂	5.6	3.3	30.5	破片	背面側に若干の磨耗痕あり。

黒色頁岩：黒頁 硬質泥岩：硬泥 珪質頁岩：珪頁 ホルンフェルス：ホル 黒曜石：黒曜 チャート：チャ 粗粒輝石安山岩：粗安 細粒輝石安山岩：細安 凝灰質砂岩：凝砂 緑色片岩：緑片
変玄武岩：変玄 雲母石英片岩：雲片

源六堰遺跡

V 検出された遺構と遺物

1号住居跡

A区南西部に位置し000～080・555の範囲にある。住居跡の壁高は、9cm～10cmを測り、南部では確認できなかった。北東部の床面を確認したのみであり、大半は調査区域外に延びる。

このため規模と、形態は把握できなかったが、北東部から方形を呈するものと思われる。床面はほぼ平坦をなし、炉は確認できなかった。

床面からは小穴が5基確認され、P1～P3は柱穴の可能性ある。各々の形態規模はP1は円形を呈し、径43cm、深さ50cm、P2は円形を呈し、径36cm、深さ45cm、P3は円形を呈し、径33cm、深さ50cm、P4は円形を呈し、径30cm、深さ38cm、P5は円形を呈し、径30cm、深さ20cmを測る。

その他住居跡に伴う施設は確認できなかった。

出土遺物は高坏の杯部片が南東隅、床面直上から出土している。古墳時代前期の土器である。

2号住居跡

A区南西部に位置し、085～080・570・565の範囲にある。住居跡の南端部は調査区域外に延びるため、調査できなかった。

平面形態は長方形で隅丸をなす。規模は6m×5.03mを測り、壁高は5～12cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、住居跡中央部に炉を確認した。規模は70cm×60cmで焼土の厚さ約20cm、深いところでは40cmを測る。

床面には柱穴と思われる小穴が9基確認され、P1・P4が支柱穴の可能性ある。各々の形態、規模はP1は楕円形を呈し、75cm×60cm、深さ40cm、P2は円形を呈し、径70cm、深さ50cmを測る、P3は円形を呈し、径80cm、深さ48cmを測る、P4は円形を呈し、径60cm、深さ80cmを測る。他の5基のピットのP5～P9のうちP5は楕円形を呈し、75cm×50cm、深さ40cm、P6はほりこみ面は径60cmの円形を呈するが、底面は約35cm×35cmの方形を呈し、深さ40cmを測る。P7は円形を呈し、径55cm、深さ

25cmを測る。P8は円形を呈し、径45cm、深さ25cm、P9は楕円形を呈し、50cm×40cm、深さ30cmを測る。P1からP4が支柱穴と考えられるが、P4はやや斜めのほりこみを持つ。尚、P6は底面の形状から柱穴ではなく、貯蔵穴の可能性が指摘できる。遺物は古墳時代前期の土師器が出土しており、東海系S字状口縁台付甕と南関東系単口縁台付甕が認められる。また柱穴P2内から礎板が検出されているが、形状や大きさから柱穴の周囲から差し込まれた程度の補強用の材と考えられる。樹種はコナラ節である。

1号掘立柱建物跡

B区中央部から掘立柱建物跡が確認された。主軸方位はN70°Eで出土遺物等はない。

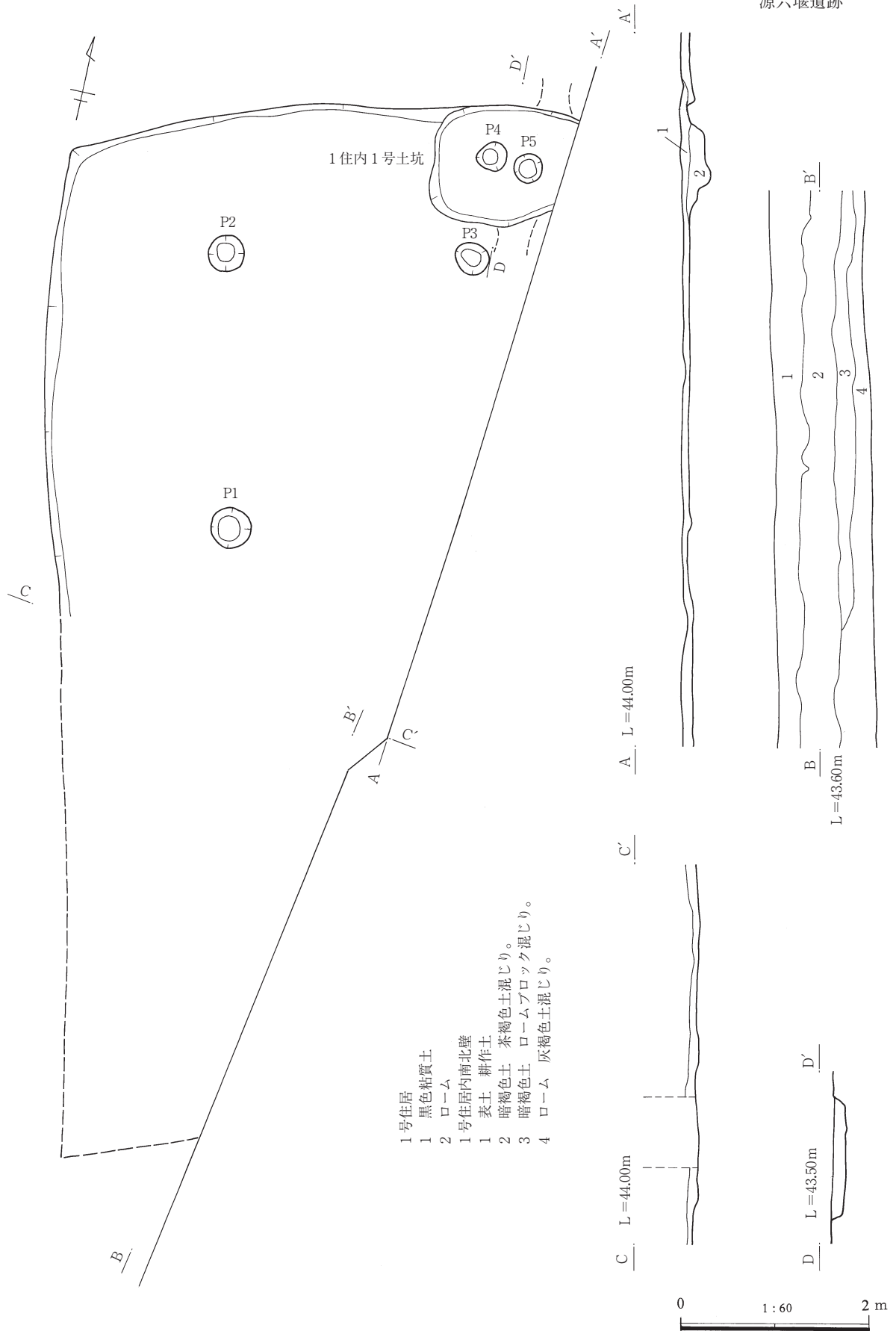
桁長は3.3m、柱間はP1・P6間は1.6m、P5・P6間は1.7mを測る。梁長は3mと同間隔を守っている。小穴の形態規模はP1は楕円形を呈し、50cm×38cm、深さ31cm、P2は円形を呈し、径36cm、深さ22cm、P3は不定形で、52×39cm、深さ19cm、P4は円形を呈し、35×33cm、深さ11cm、P5は楕円形で、43×30cm、深さ24cm、P6は円形を呈し、34×33cm、深さ9cmである。

出土遺物は確認できないため、時期は不明である。

土坑群

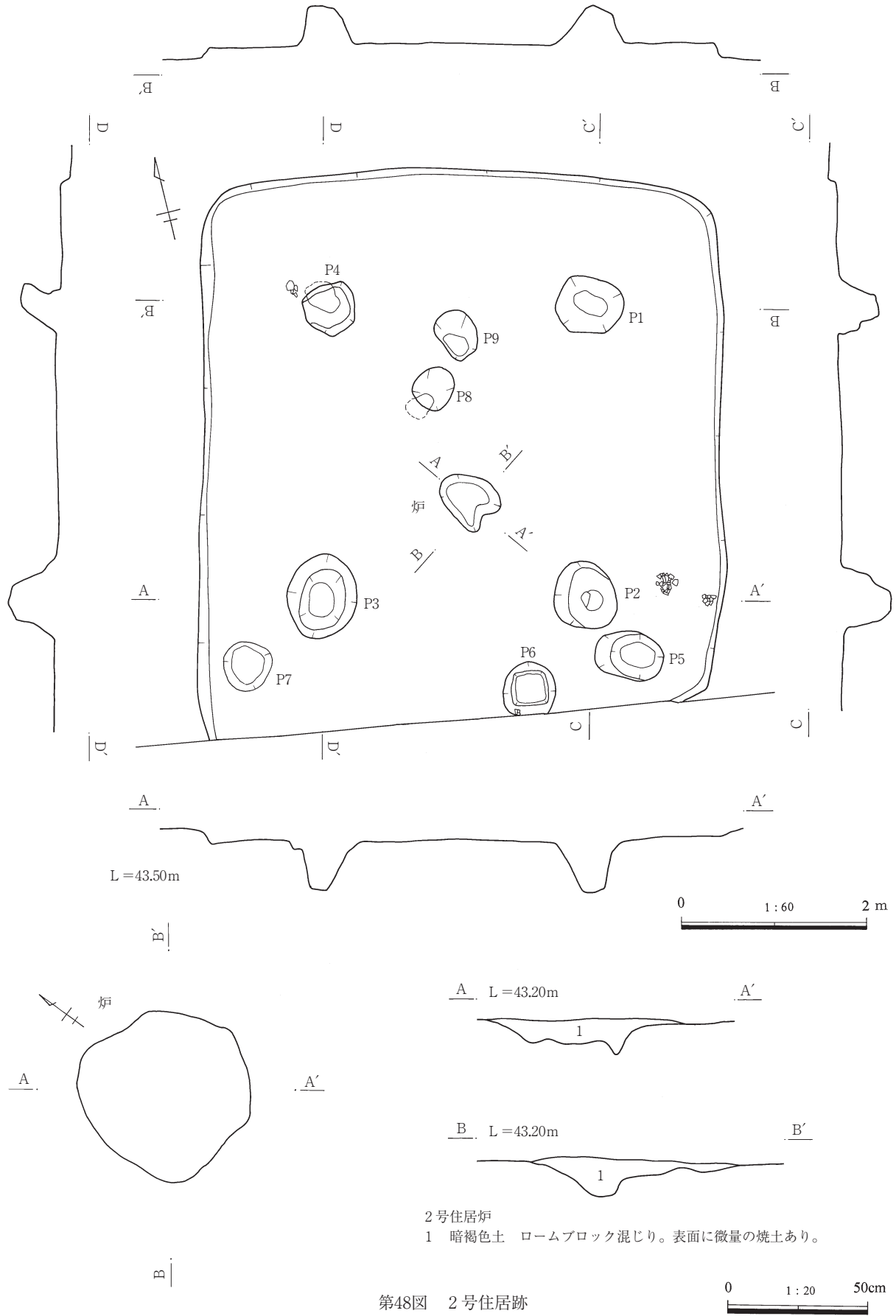
源六堰遺跡では147基の土坑が確認されている。このうち28基から縄文時代後期土器が出土し、遺跡内に広く確認される。出土土器が無い土坑は覆土が基本土層の3・4層が確認され縄文時代と考えられる。遺物の出土状況はすべて覆土からの出土である。7号土坑からは須恵器杯底部を出土した。

形態、位置、計測値は土坑一覧表に記載してある。

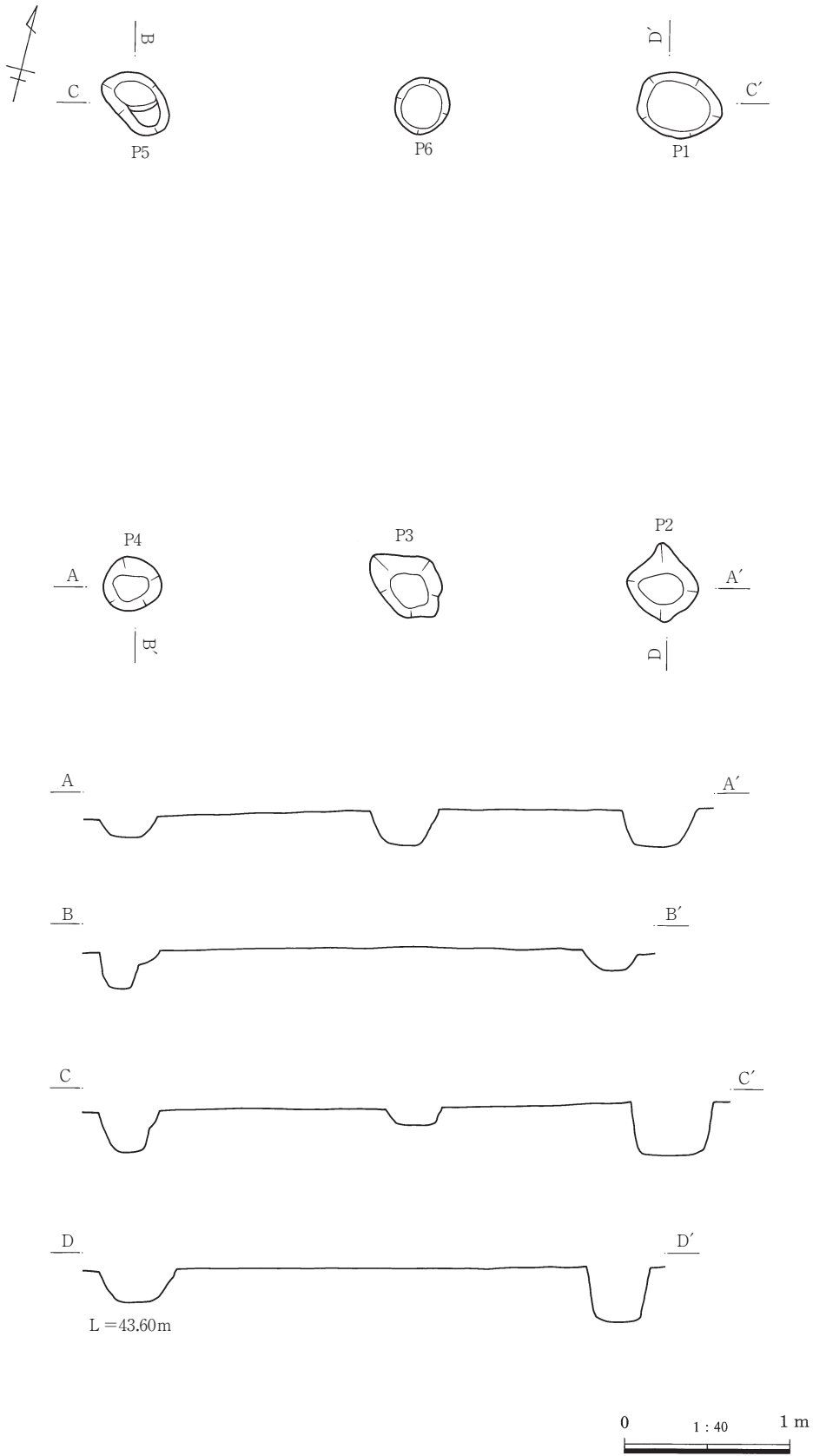


第47図 1号住居跡

V 検出された遺構と遺物

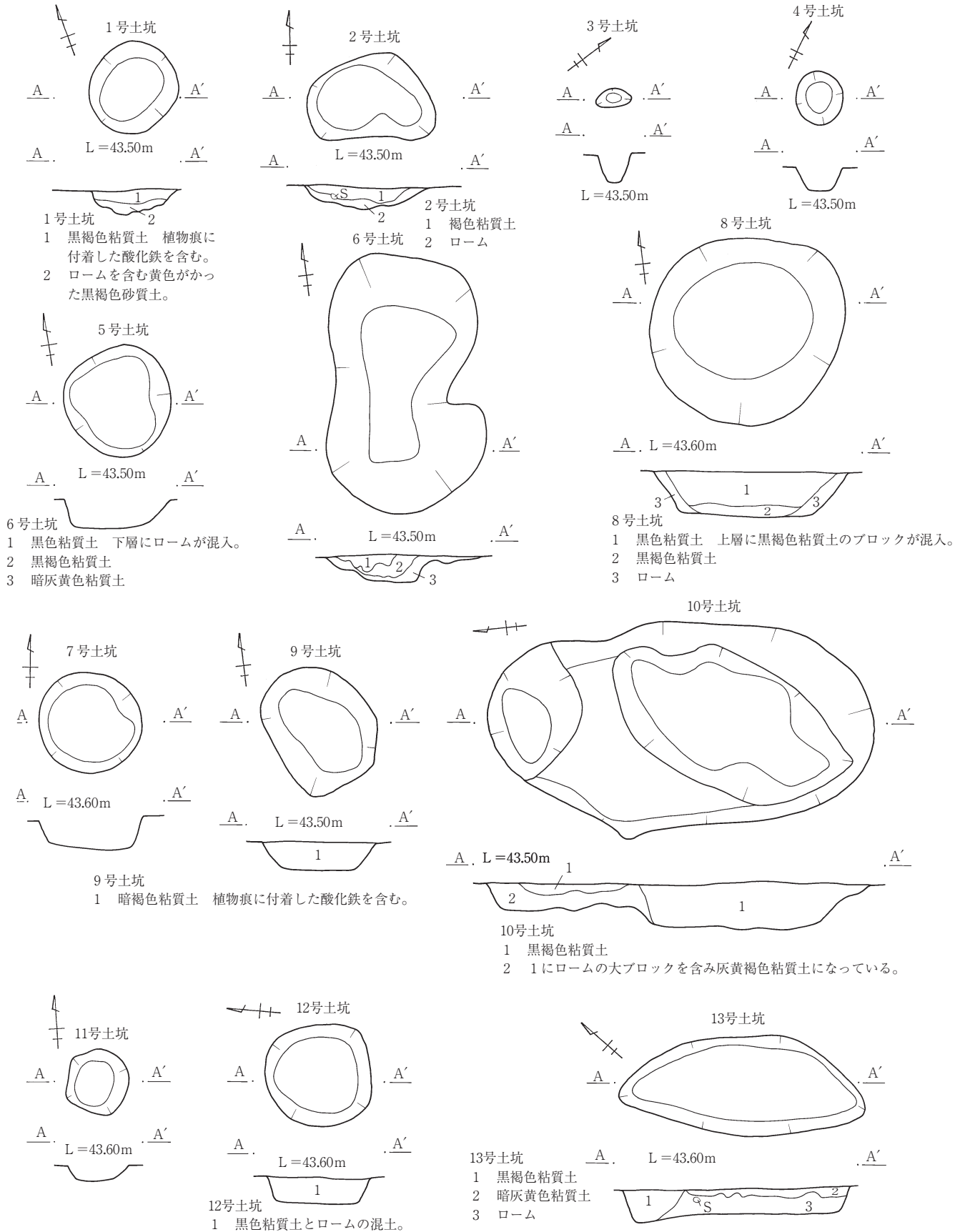


第48図 2号住居跡

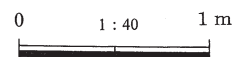


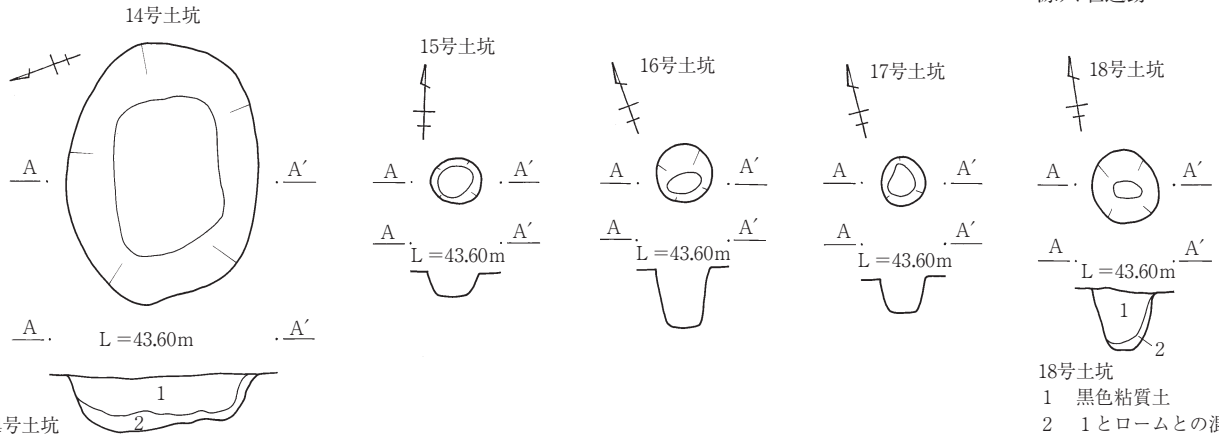
第49図 1号掘立柱建物跡

V 検出された遺構と遺物



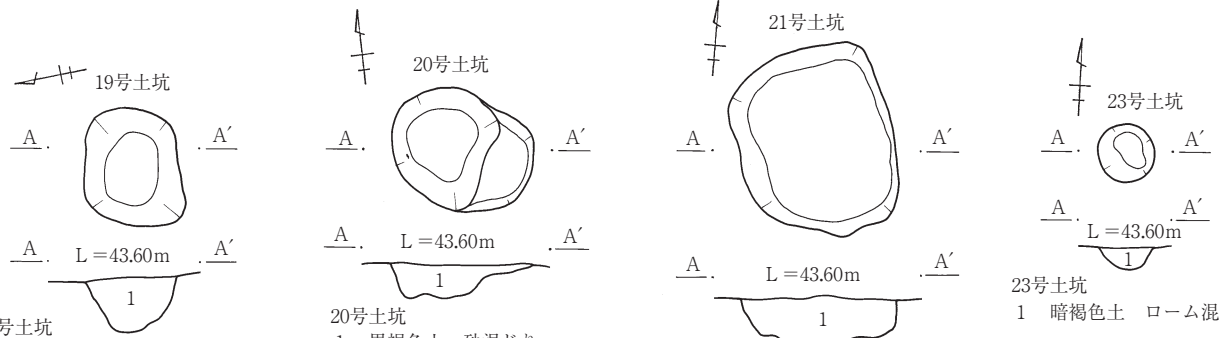
第50図 1～13号土坑





14号土坑
1 黒褐色粘質土
2 1に崩壊したロームのブロックを含む。

18号土坑
1 黒色粘質土
2 1とロームとの混土。

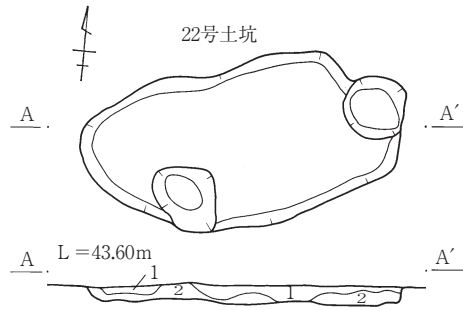


19号土坑
1 黒褐色土 ローム混じり。

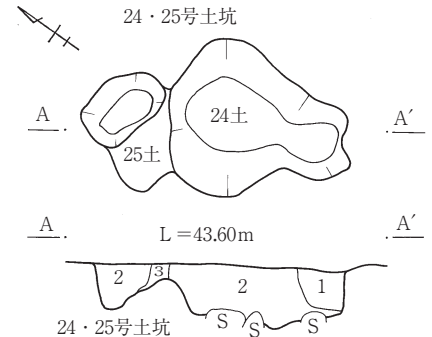
20号土坑
1 黒褐色土 砂混じり。

21号土坑
1 黒褐色土 砂混じり。

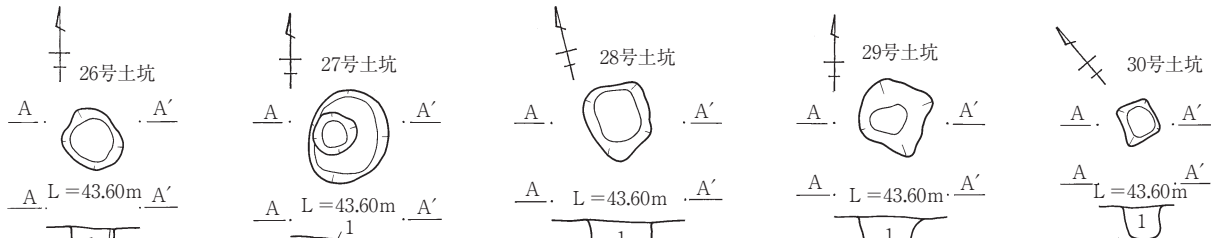
23号土坑
1 暗褐色土 ローム混じり。



22号土坑
1 暗褐色土 砂混じり。
2 暗褐色土 ローム混じり。



24・25号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土 黄褐色土(粘性)混じり。
3 暗褐色土 ローム混じり。



26号土坑
1 暗褐色土 砂混じり。
2 ローム・暗褐色土混じり。

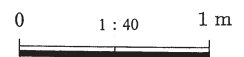
27号土坑
1 暗褐色土 黒色土混じり。
2 ローム 黒褐色土混じり。
3 ローム・炭化物(植物)混じり。

28号土坑
1 黒褐色土

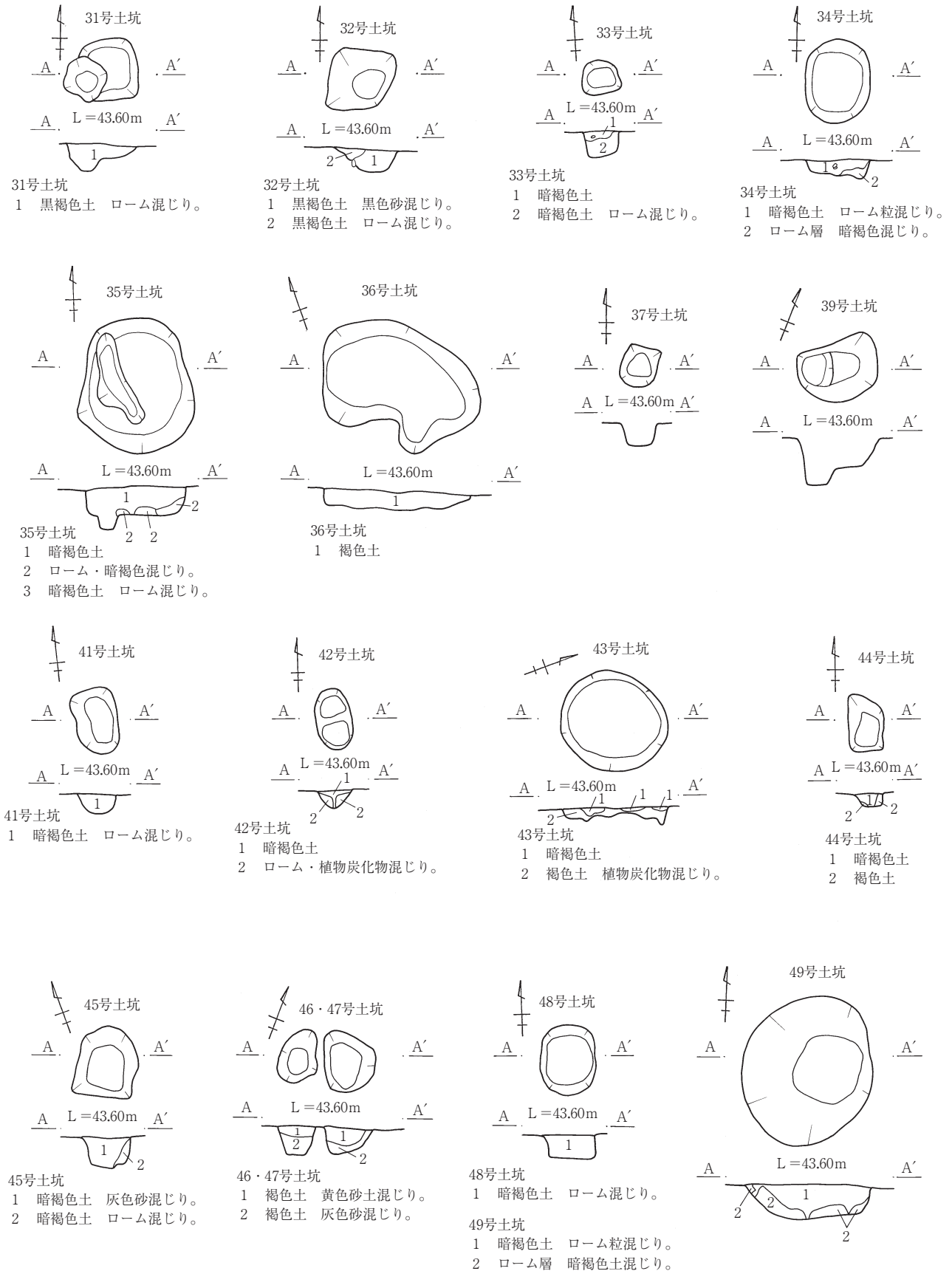
29号土坑
1 黒褐色土

30号土坑
1 黒褐色土 黒色砂混じり。

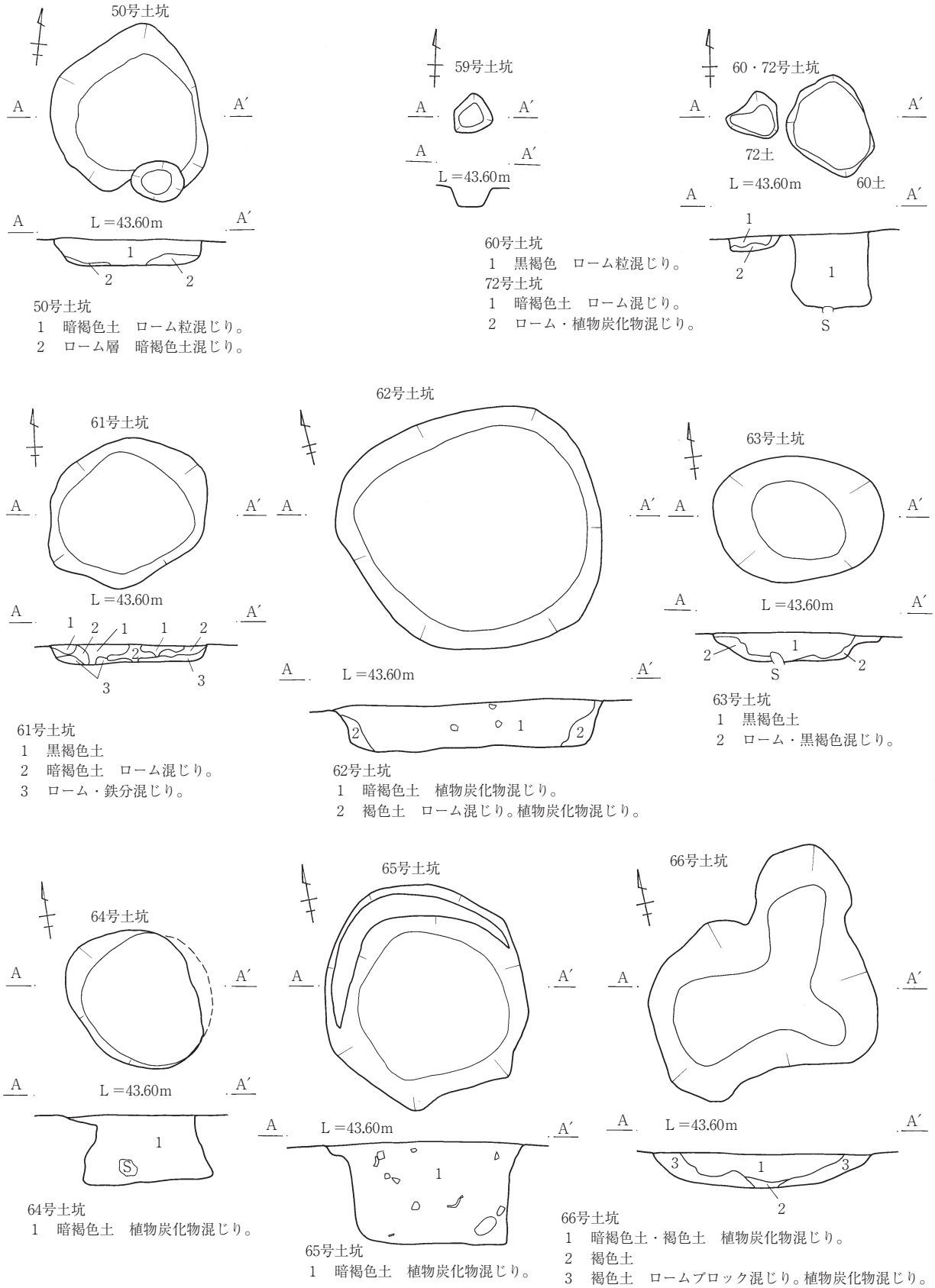
第51図 14~30号土坑



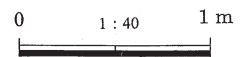
V 検出された遺構と遺物



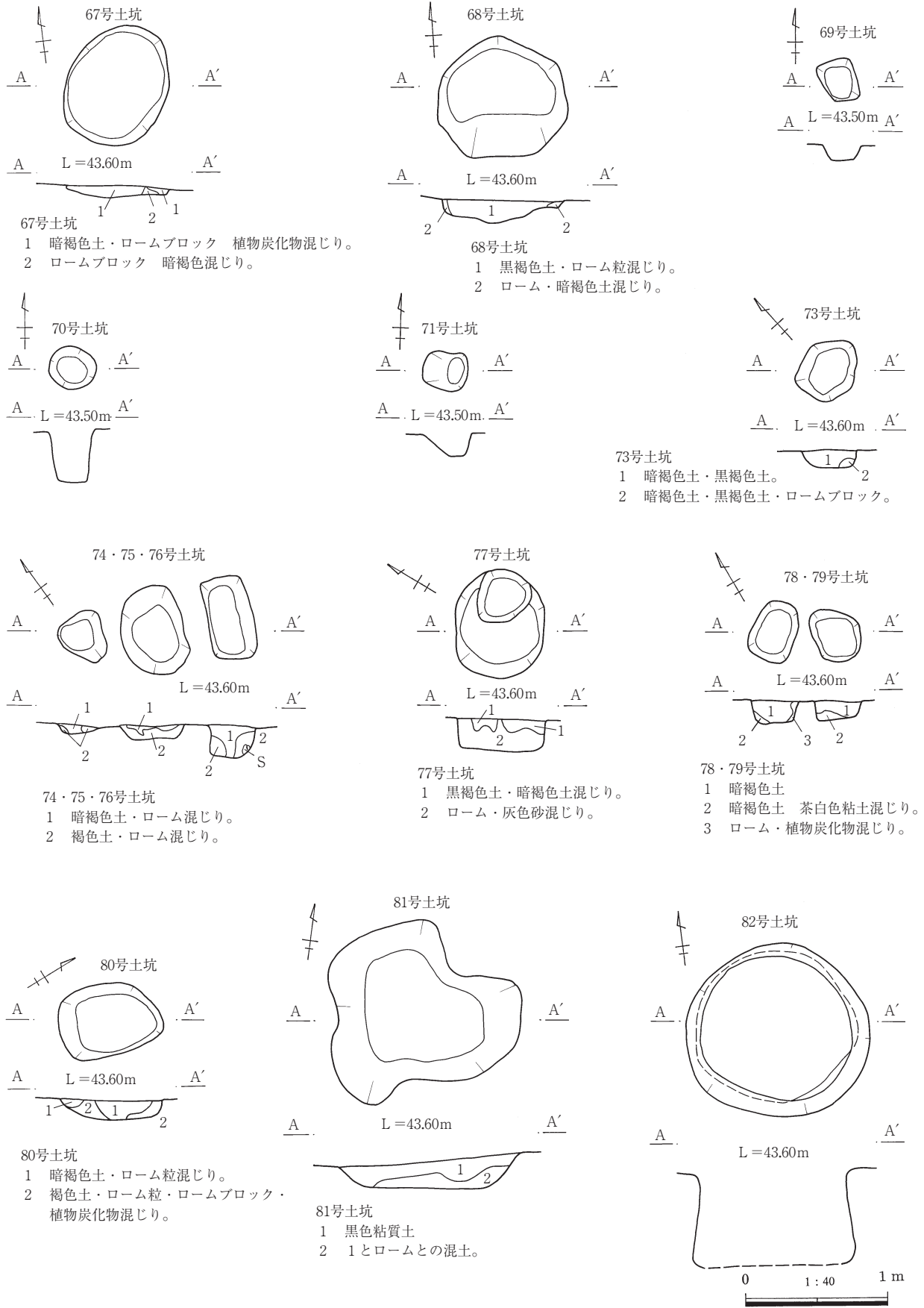
第52図 31~37・39・41~49号土坑



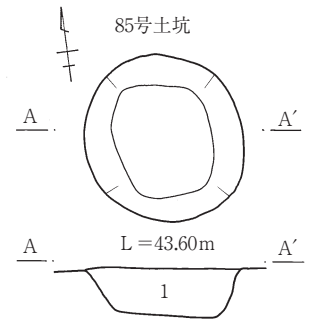
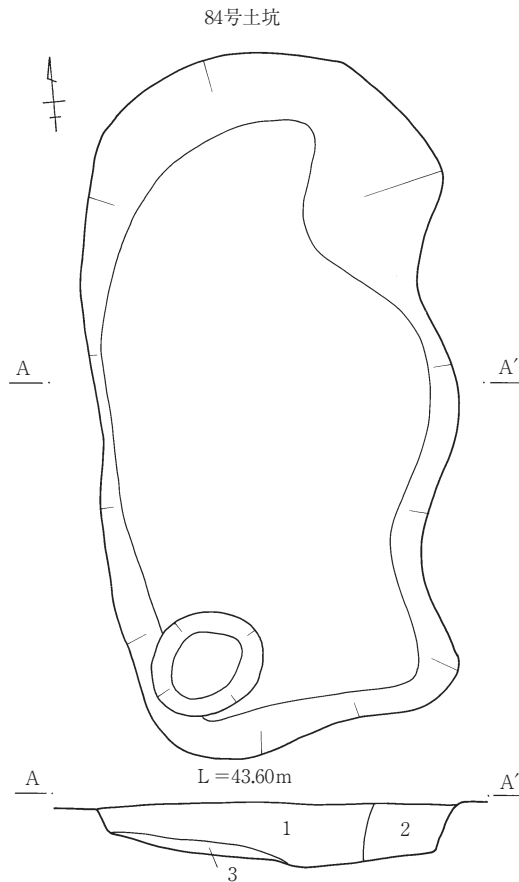
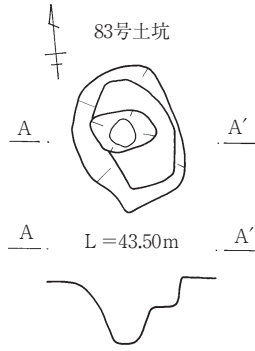
第53図 50・59~66・72号土坑



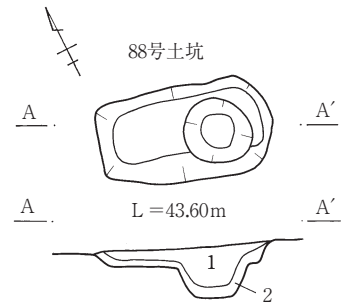
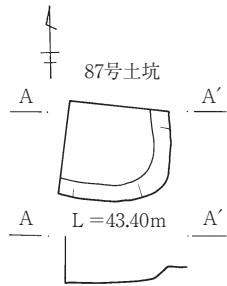
V 検出された遺構と遺物



第54図 67~71・73~82号土坑

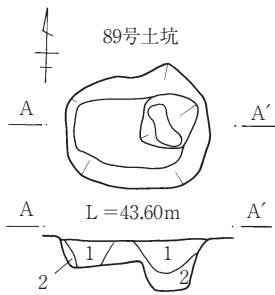


85号土坑
1 暗褐色土

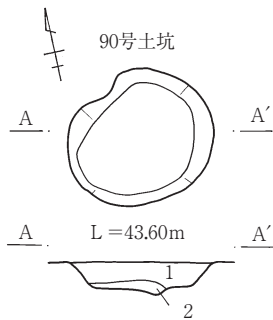


88号土坑
1 黒褐色粘質土
2 ローム

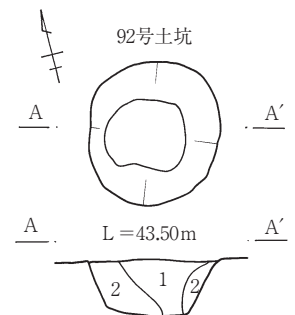
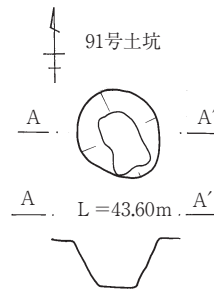
84号土坑
1 暗褐色土
2 褐色土・ローム粒混じり。
3 褐色土・ロームブロック混じり。



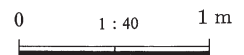
89号土坑
1 黒色粘質土
2 1とロームの混入。



90号土坑
1 黒褐色粘質土
2 ローム

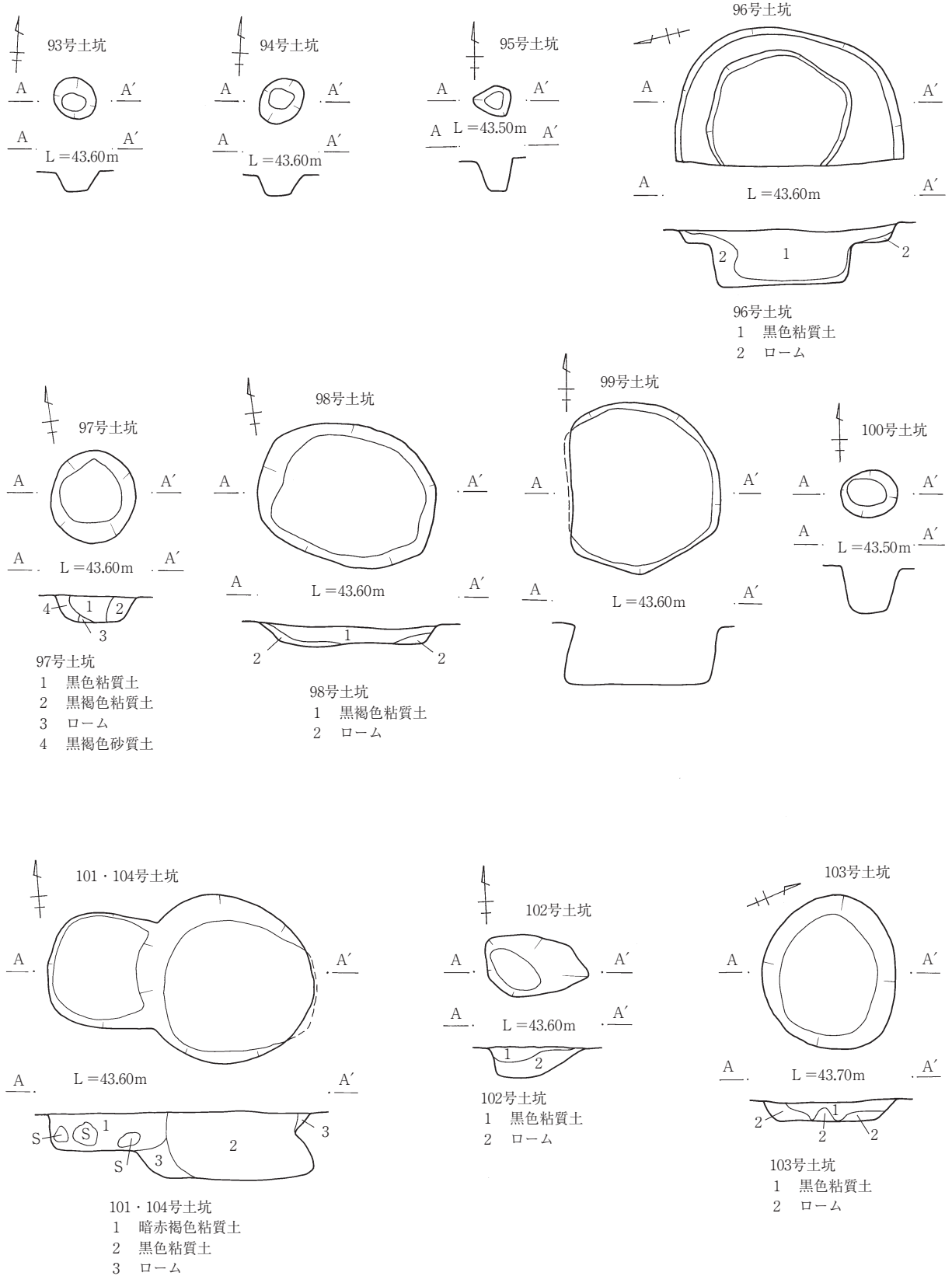


92号土坑
1 黒色粘質土
2 1とロームの混合。

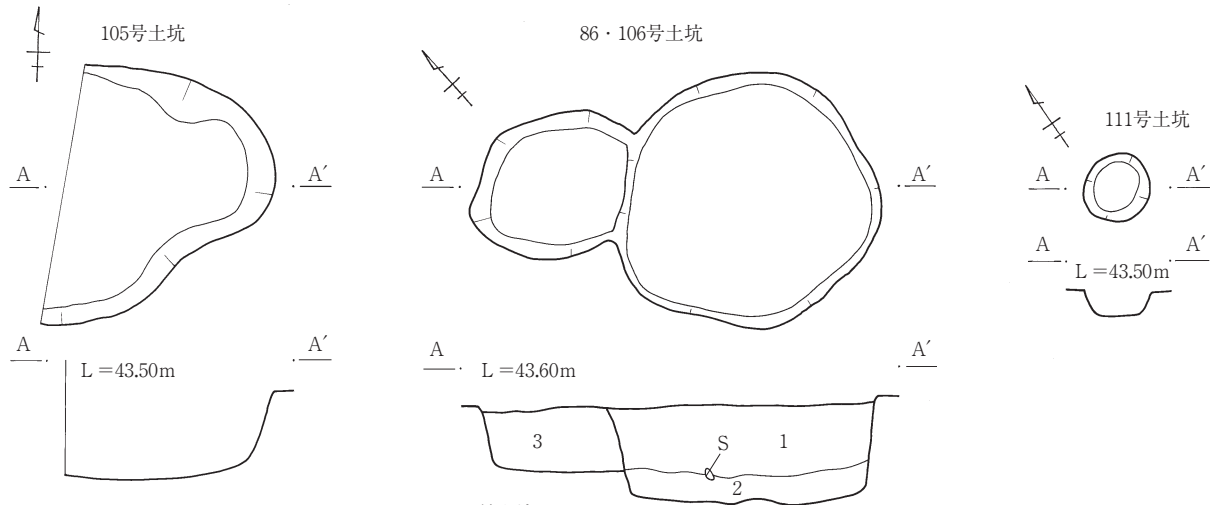


第55図 83~85号・87~92号土坑

V 検出された遺構と遺物

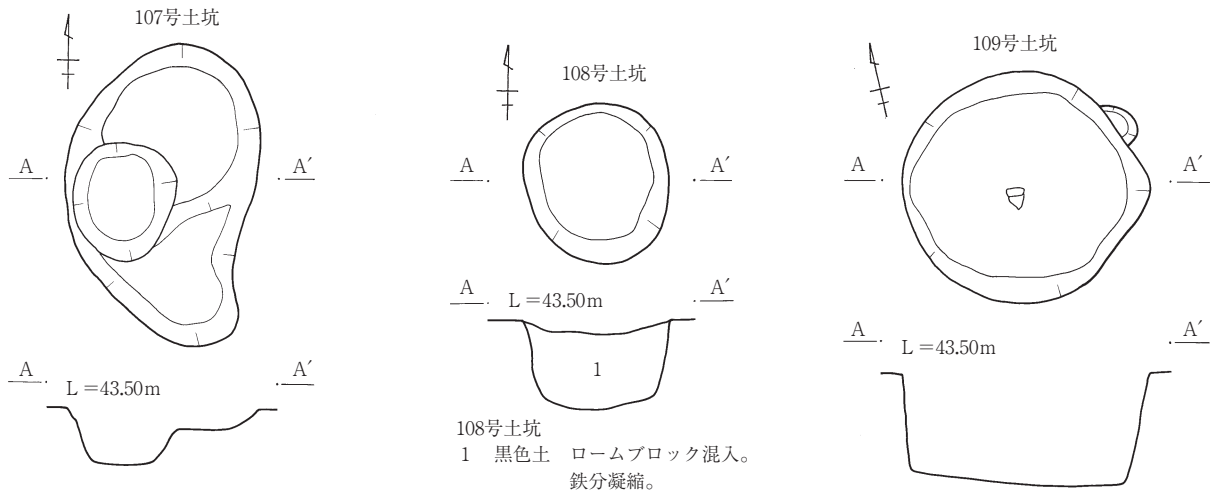


第56図 93~103号土坑



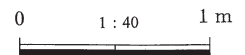
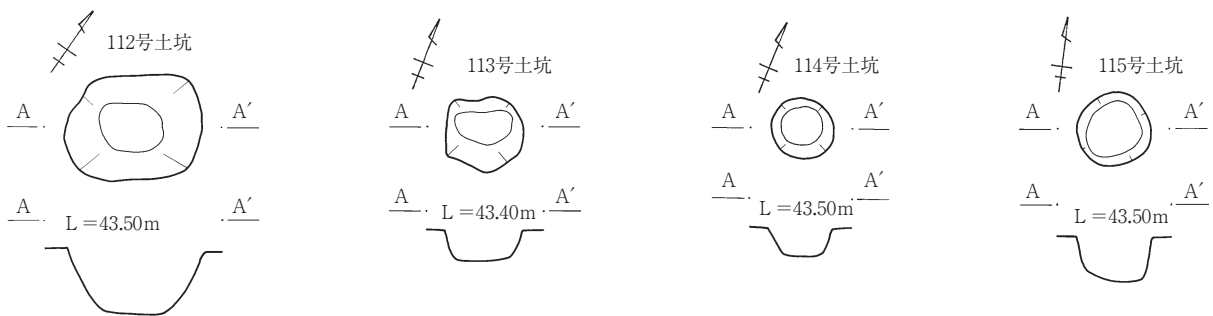
86・106号土坑

- 1 暗褐色土 凝縮の鉄分混入 ロームブロック混入。
- 2 黒褐色土 ロームブロック混じり。
- 3 暗褐色土・褐色土混じり 凝縮の鉄分・ロームブロック混じり。



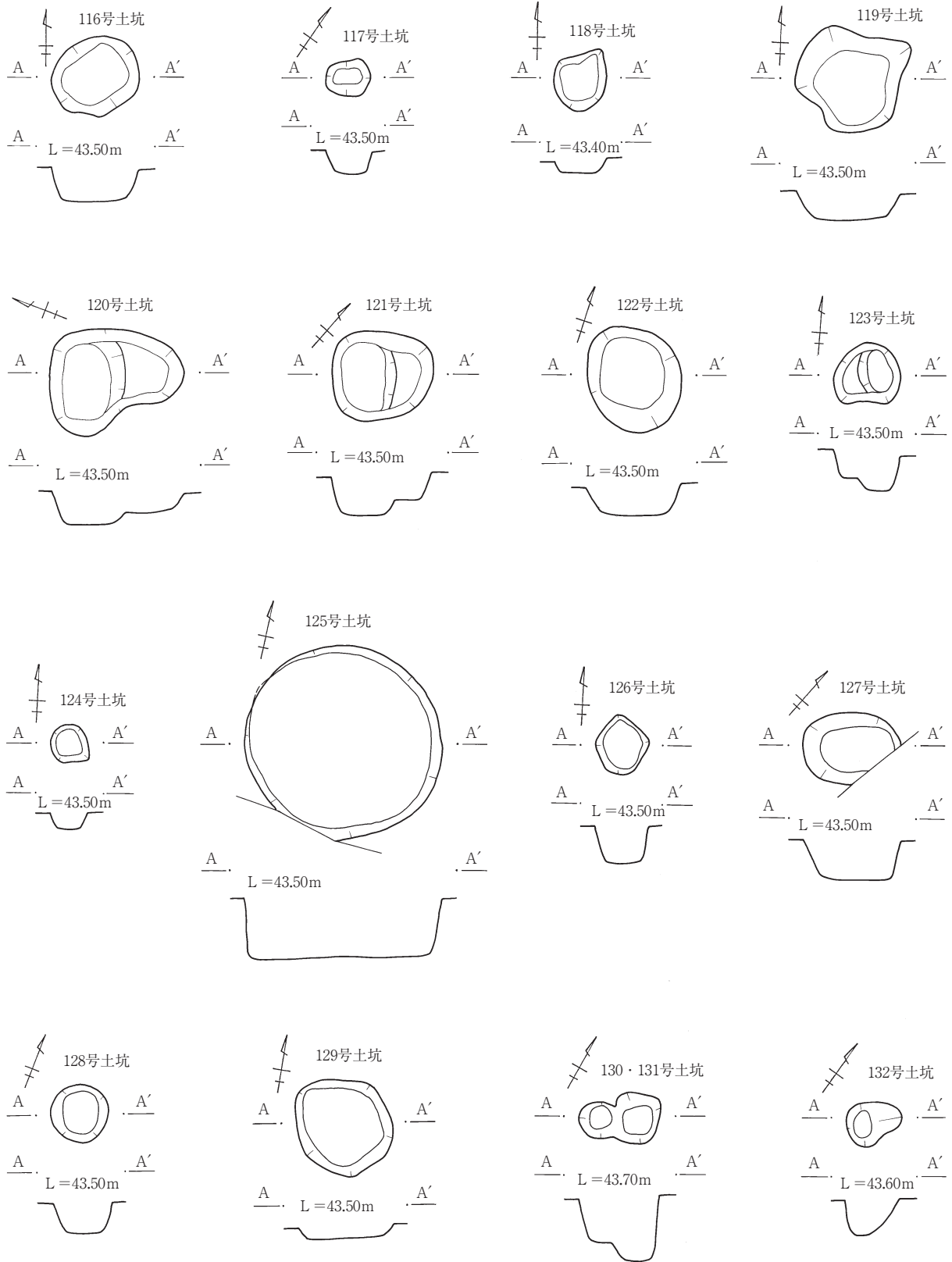
108号土坑

- 1 黒色土 ロームブロック混入。
鉄分凝縮。



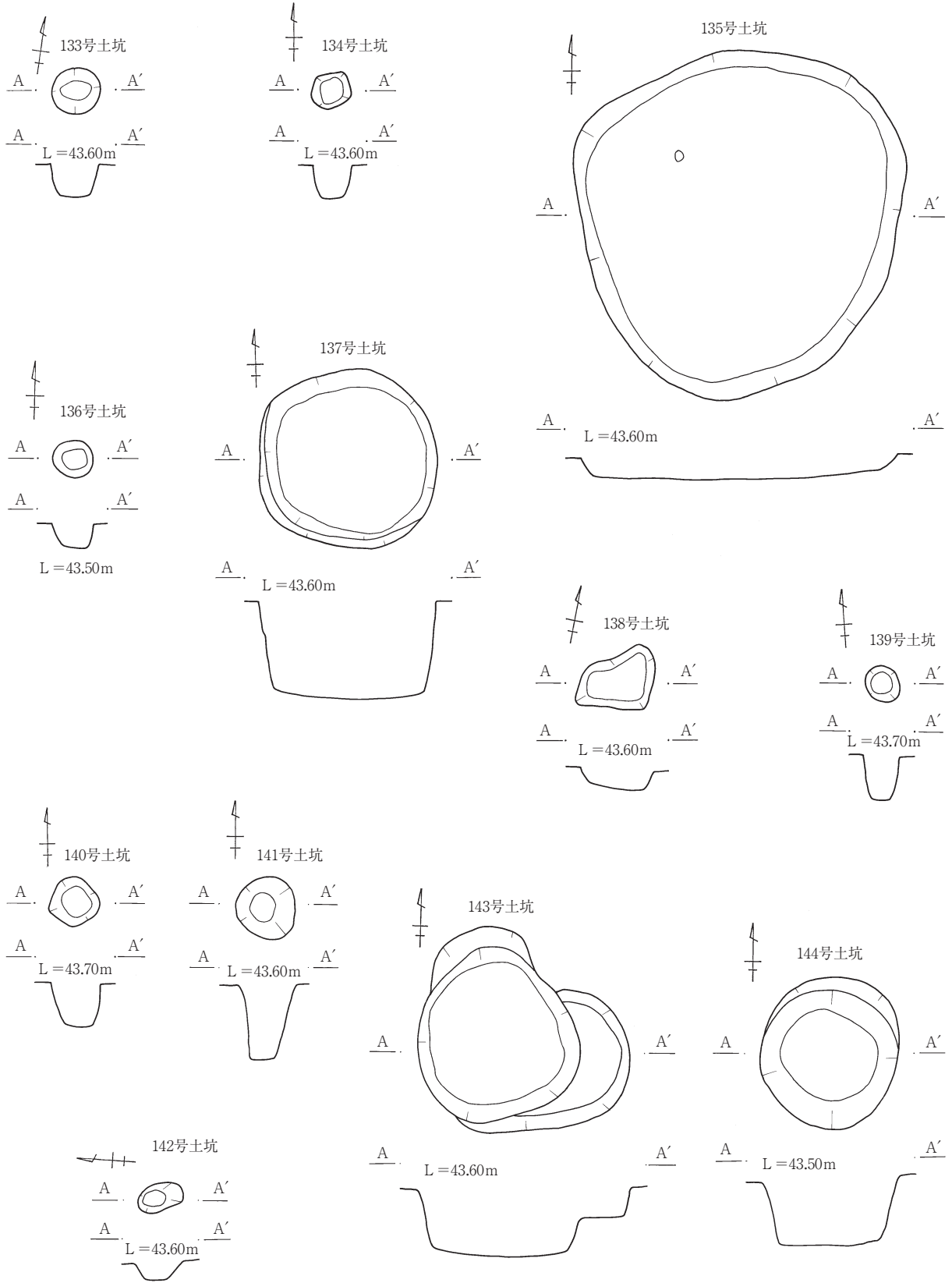
第57図 86・105～109・111～115号土坑

V 検出された遺構と遺物

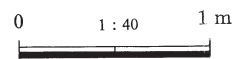


第58図 116~132号土坑

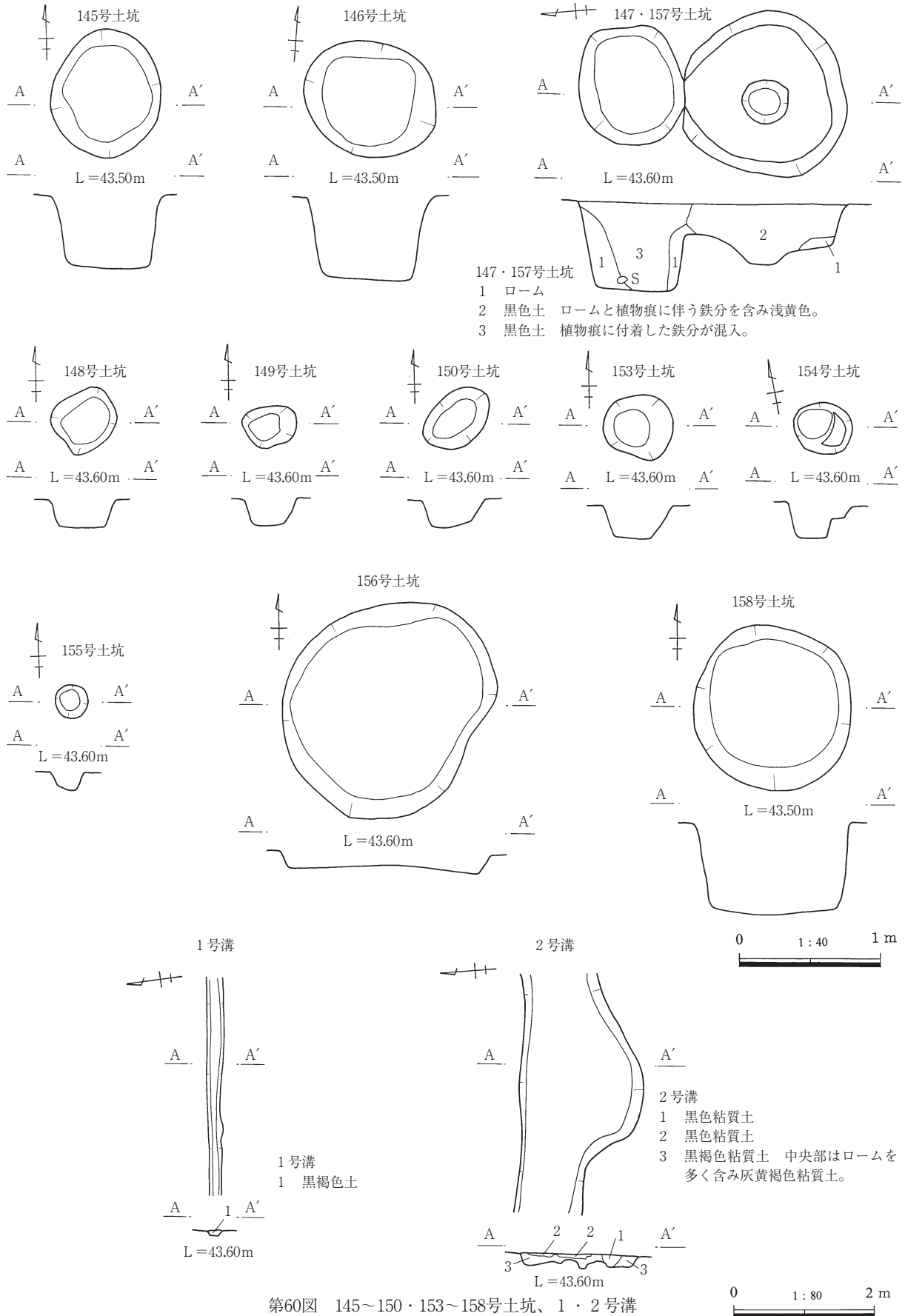
0 1 : 40 1 m



第59图 133~144号土坑



V 検出された遺構と遺物



第60図 145～150・153～158号土坑、1・2号溝

第4表 土坑・溝計測表

番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物・備考
土坑1	67	62	18	円形	095-570	
土坑2	95	60	16	楕円形	095-570	
土坑3	25	14	21	楕円形	095-575	
土坑4	39	39	18	円形	095-575	
土坑5	78	77	21	円形	095-575	
土坑6	192	83	19	楕円形	100-560	
土坑7	76	75	24	円形	100-555	
土坑8	150	140	33	円形	100-565	称名寺 I 式土器
土坑9	95	74	20	楕円形	100-570	
土坑10	285	152	34	楕円形	105-570	
土坑11	46	44	12	円形	110-565	
土坑12	77	75	19	円形	110-565	
土坑13	182	73	24	楕円形	110-565	
土坑14	134	102	31	楕円形	110-565	
土坑15	26	25	13	円形	105-555	
土坑16	30	29	32	円形	105-555	
土坑17	25	23	19	円形	105-555	
土坑18	38	34	31	楕円形	105-555	
土坑19	62	51	28	隅丸方形	155-545	
土坑20	78	61	19	楕円形	155-545	
土坑21	102	82	23	隅丸方形	160-545	
土坑22	174	84	10	楕円形	160-545	
土坑23	31	30	12	円形	160-545	
土坑24	104	78	31	楕円形	160-545	
土坑25	45	29	24	隅丸長方形	160-545	
土坑26	34	28	24	円形	160-545	
土坑27	49	41	26	楕円形	160-545	
土坑28	40	34	25	楕円形	160-545	
土坑29	34	34	26	方形	160-545	
土坑30	20	18	18	方形	160-545	
土坑31	54	43	19	不定形	160-545	
土坑32	45	42	16	方形	160-550	称名寺 I 式土器
土坑33	26	24	20	円形	165-550	
土坑34	60	45	13	楕円形	160-550	
土坑35	96	75	29	楕円形	165-550	
土坑36	120	65	12	楕円形	165-550	
土坑37	29	25	16	方形	165-550	
土坑38	36	36	22	方形	170-550	1号掘立P2に変更
土坑39	58	40	34	楕円形	170-550	
土坑40	50	38	31	楕円形	170-550	1号掘立P1に変更
土坑41	47	28	14	楕円形	175-555	
土坑42	44	26	12	楕円形	175-550	
土坑43	76	70	12	円形	175-550	
土坑44	41	25	9	楕円形	175-550	
土坑45	51	42	22	隅丸方形	180-550	称名寺 I 式土器
土坑46	40	26	21	楕円形	180-550	
土坑47	45	36	20	楕円形	180-550	
土坑48	50	38	18	楕円形	180-550	
土坑49	110	94	24	楕円形	180-550	
土坑50	123	101	17	隅丸方形	180-550	
土坑51						
土坑52						
土坑53						
土坑54						
土坑55	52	39	19	楕円形	170-550	1号掘立P3に変更
土坑56	34	33	9	円形	170-555	1号掘立P6に変更
土坑57	43	30	24	楕円形	170-555	1号掘立P5に変更

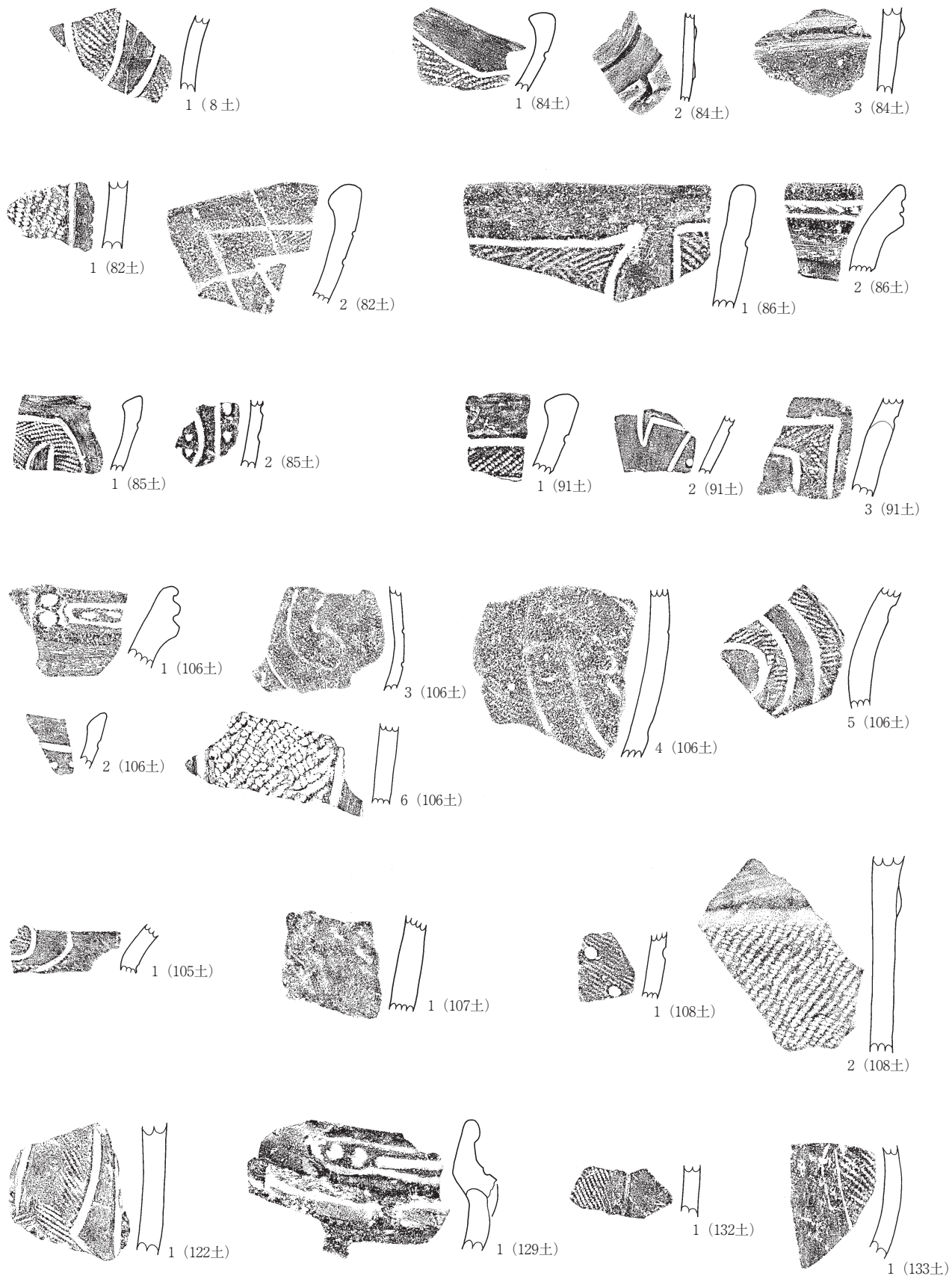
V 検出された遺構と遺物

番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物・備考
土坑58	35	33	11	円形	165-555	1号掘立P4に変更
土坑59	27	23	13	円形	165-555	
土坑60	70	55	50	楕円形	165-555	
土坑61	122	93	13	楕円形	165-555	
土坑62	182	165	32	円形	165-560	堀之内1式土器・加曾利3・4式土器
土坑63	117	87	19	楕円形	160-560	
土坑64	107	85	45	円形	160-555	称名寺Ⅱ式土器
土坑65	150	143	67	円形	160-550	称名寺Ⅱ式土器・堀之内1式土器
土坑66	192	144	24	楕円形	175-555	
土坑67	88	70	9	楕円形	175-555	
土坑68	87	85	16	円形	180-555	堀之内1式土器
土坑69	28	22	10	隅丸長方形	170-555	堀之内1式土器
土坑70	33	30	37	円形	170-555	
土坑71	32	17	17	隅丸長方形	165-555	
土坑72	37	28	10	楕円形	165-555	
土坑73	47	39	14	楕円形	180-555	
土坑74	36	30	6	楕円形	180-555	
土坑75	64	45	10	楕円形	180-555	
土坑76	59	31	23	隅丸長方形	180-555	
土坑77	76	62	22	楕円形	180-555	
土坑78	42	30	16	楕円形	180-555	堀之内1式土器
土坑79	37	33	15	楕円形	180-555	
土坑80	73	51	14	楕円形	180-555	
土坑81	129	110	24	楕円形	120-565	
土坑82	129	122	67	円形	120-565	後期前半土器
土坑83	72	54	35	楕円形	125-565	
土坑84	360	179	33	隅丸長方形	125-560	称名寺Ⅰ式土器・堀之内1式土器・加曾利E4式土器
土坑85	89	83	26	円形	115-555	称名寺Ⅰ・Ⅱ式土器
土坑86	79	78	36	円形	125-560	称名寺Ⅰ式土器・堀之内1式土器
土坑87	53	50	10		130-565	
土坑88	93	50	28	隅丸長方形	120-565	
土坑89	76	60	28	楕円形	115-565	
土坑90	78	64	18	楕円形	115-565	
土坑91	50	42	25	楕円形	115-565	称名寺Ⅰ・Ⅱ式土器
土坑92	76	69	30	円形	115-565	
土坑93	31	27	13	円形	110-555	
土坑94	33	28	14	円形	115-565	
土坑95	25	19	22	楕円形	120-565	
土坑96	155	93	40		120-565	
土坑97	62	57	18	円形	115-565	
土坑98	120	95	17	楕円形	115-570	
土坑99	117	100	41	円形	120-560	
土坑100	39	32	32	楕円形	115-570	
土坑101	79	60	25	円形	120-565	
土坑102	69	42	20	楕円形	120-560	
土坑103	104	91	15	楕円形	115-560	
土坑104	120	114	45	円形	120-565	
土坑105	139	110	47		125-565	称名寺Ⅰ式土器
土坑106	136	135	56	円形	125-560	称名寺Ⅰ・Ⅱ式土器
土坑107	159	102	30	楕円形	125-560	堀之内1式土器
土坑108	84	76	47	円形	125-565	堀之内1式土器・加曾利E4式土器
土坑109	132	122	60	円形	125-560	
土坑110						
土坑111	35	35	13	円形	080-560	
土坑112	73	55	34	隅丸方形	080-560	
土坑113	40	38	16	円形	080-560	
土坑114	34	32	14	円形	080-560	
土坑115	39	38	24	円形	085-565	

番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物・備考
土坑116	60	50	23	円形	085-555	
土坑117	30	23	16	楕円形	085-565	
土坑118	37	35	10	楕円形	080-560	
土坑119	75	75	18	円形	080-560	
土坑120	90	60	22	円形	080-560	
土坑121	69	60	27	円形	085-560	
土坑122	76	63	20	円形	080-560	称名寺 I 式土器
土坑123	45	40	25	円形	085-565	
土坑124	25	25	10	円形	085-565	
土坑125	134	131	39	円形	080-565	
土坑126	41	35	24	楕円形	085-565	
土坑127	66	49	27	楕円形	080-555	
土坑128	39	39	22	円形	085-570	
土坑129	67	62	9	円形	090-560	堀之内1式土器
土坑130	25	25	30	円形	150-555	
土坑131	35	30	43	円形	150-555	
土坑132	37	30	24	楕円形	150-560	称名寺 I 式土器
土坑133	32	31	22	円形	140-555	加曾利E4式土器
土坑134	26	23	22	円形	140-555	
土坑135	236	216	16	円形	145-555	
土坑136	28	25	16	円形	135-555	
土坑137	122	120	67	円形	135-555	称名寺 I・II 式土器
土坑138	50	34	15	楕円形	135-555	
土坑139	24	22	30	円形	145-550	
土坑140	32	31	30	円形	145-550	
土坑141	43	40	50	円形	145-550	
土坑142	32	17	12	楕円形	135-560	
土坑143	143	139	47	楕円形	140-560	加曾利E4式土器
土坑144	104	91	46	円形	140-565	
土坑145	92	80	51	円形	135-560	加曾利E4式土器
土坑146	93	82	49	円形	135-565	後期加曾利E系土器
土坑147	85	75	62	円形	135-560	
土坑148	44	40	20	楕円形	135-560	加曾利E4式土器
土坑149	37	28	19	楕円形	135-555	
土坑150	53	36	20	楕円形	130-560	
土坑151						
土坑152						
土坑153	50	42	24	円形	130-555	
土坑154	42	36	24	円形	135-560	
土坑155	25	23	14	円形	135-560	
土坑156	161	134	14	円形	130-550	
土坑157	117	115	43	円形	135-560	
土坑158	120	112	66	円形	130-560	称名寺 I 式土器・後期加曾利E系土器

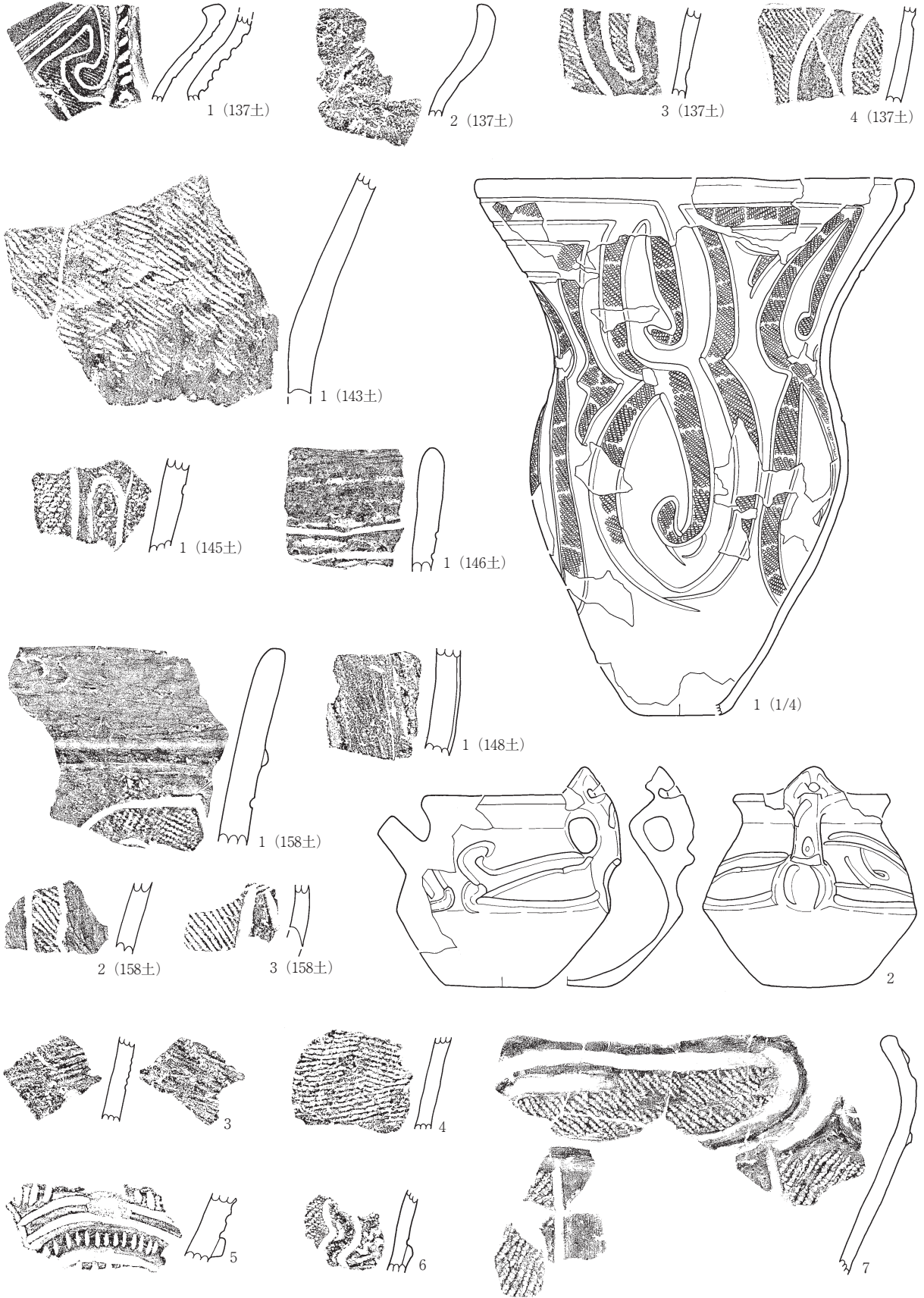
番号	幅	深さ	位置
1号溝	12	4	110-570
2号溝	171	20	115-570

V 検出された遺構と遺物



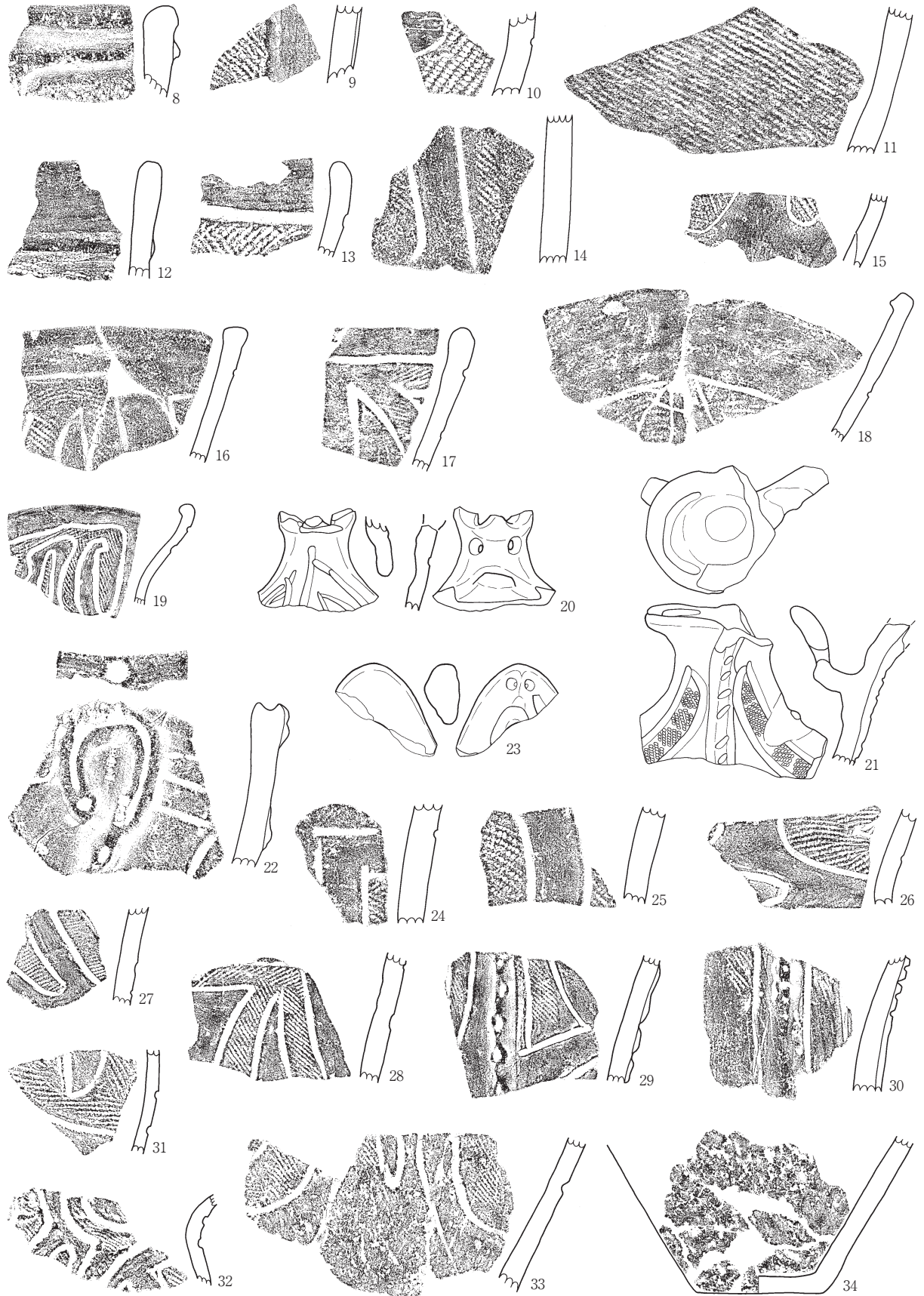
第61図 8・82・84~86・91・105~108・122・129・132・133号土坑出土遺物

0 1:3 10cm

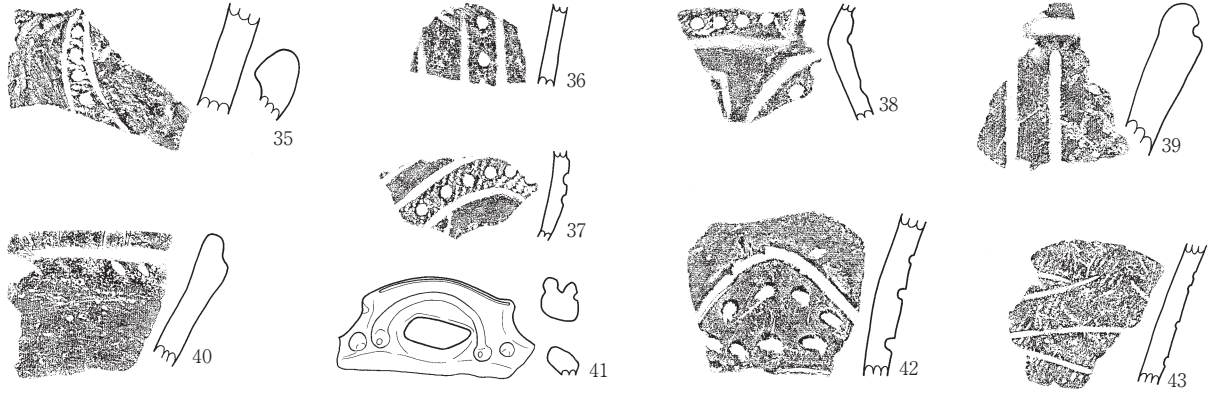


第62図 137・143・145・146・148・158号土坑、遺構外1～7 (1) 出土遺物

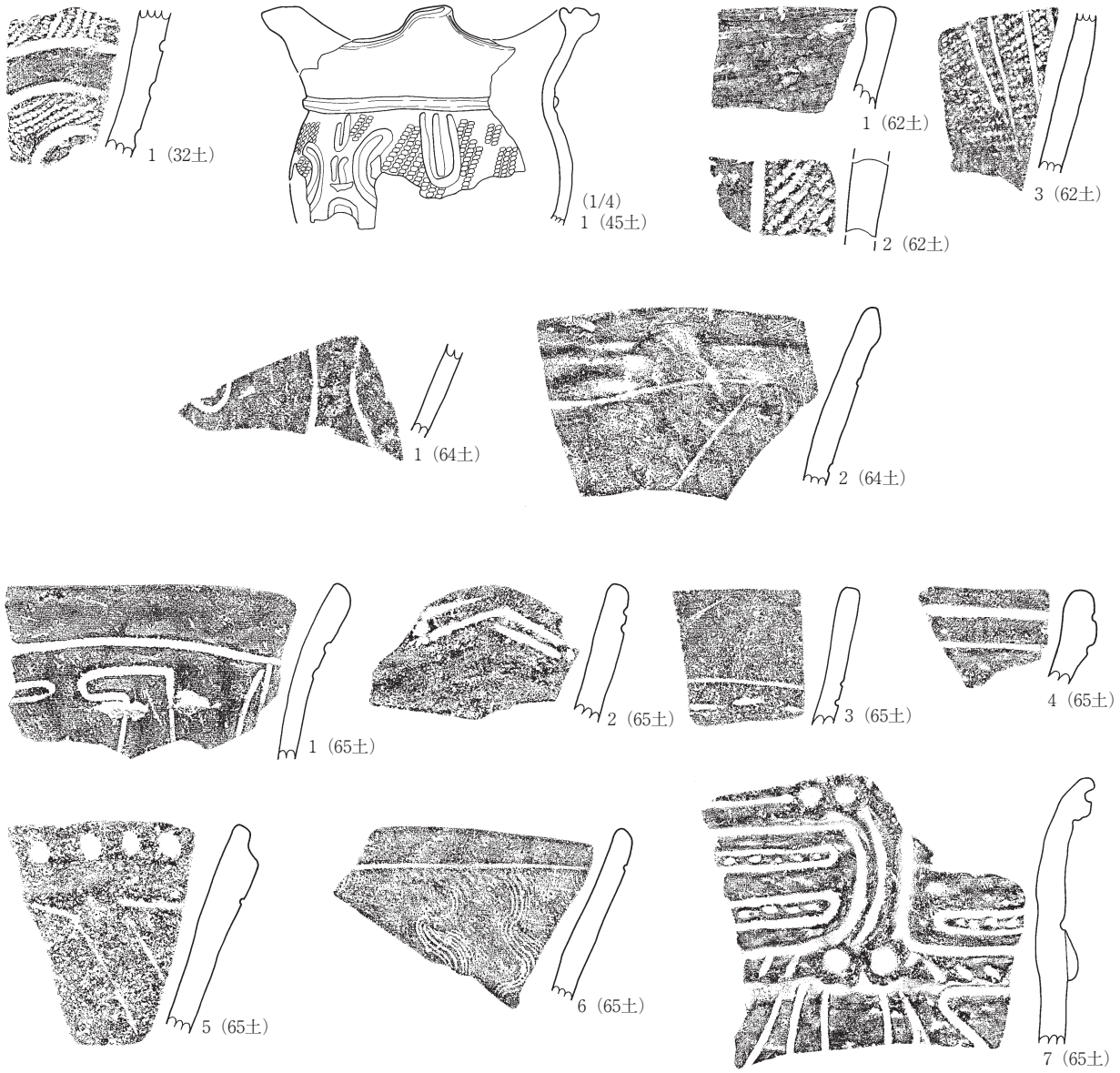
V 検出された遺構と遺物



第63図 遺構外出土遺物 8~34 (2)



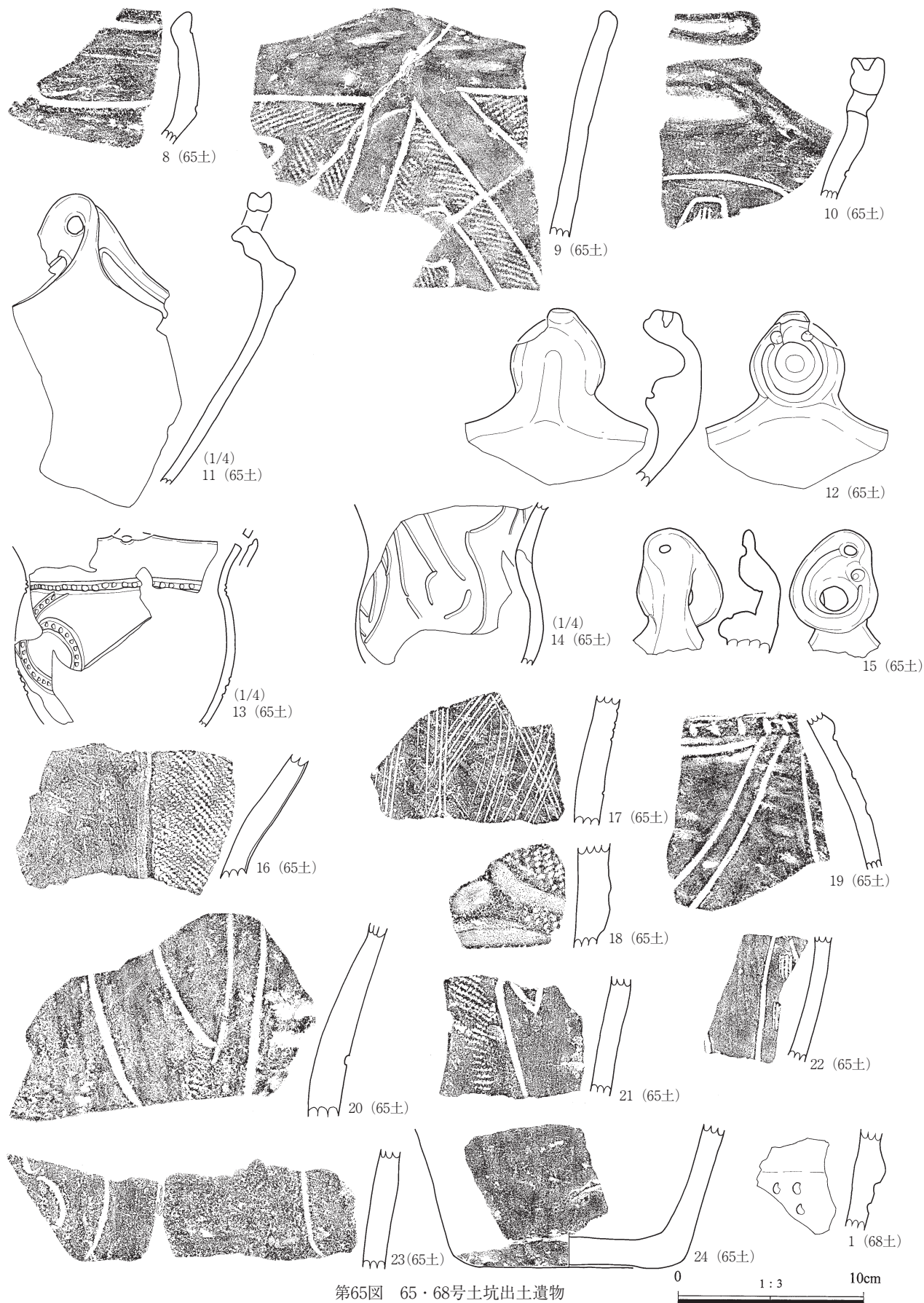
B区



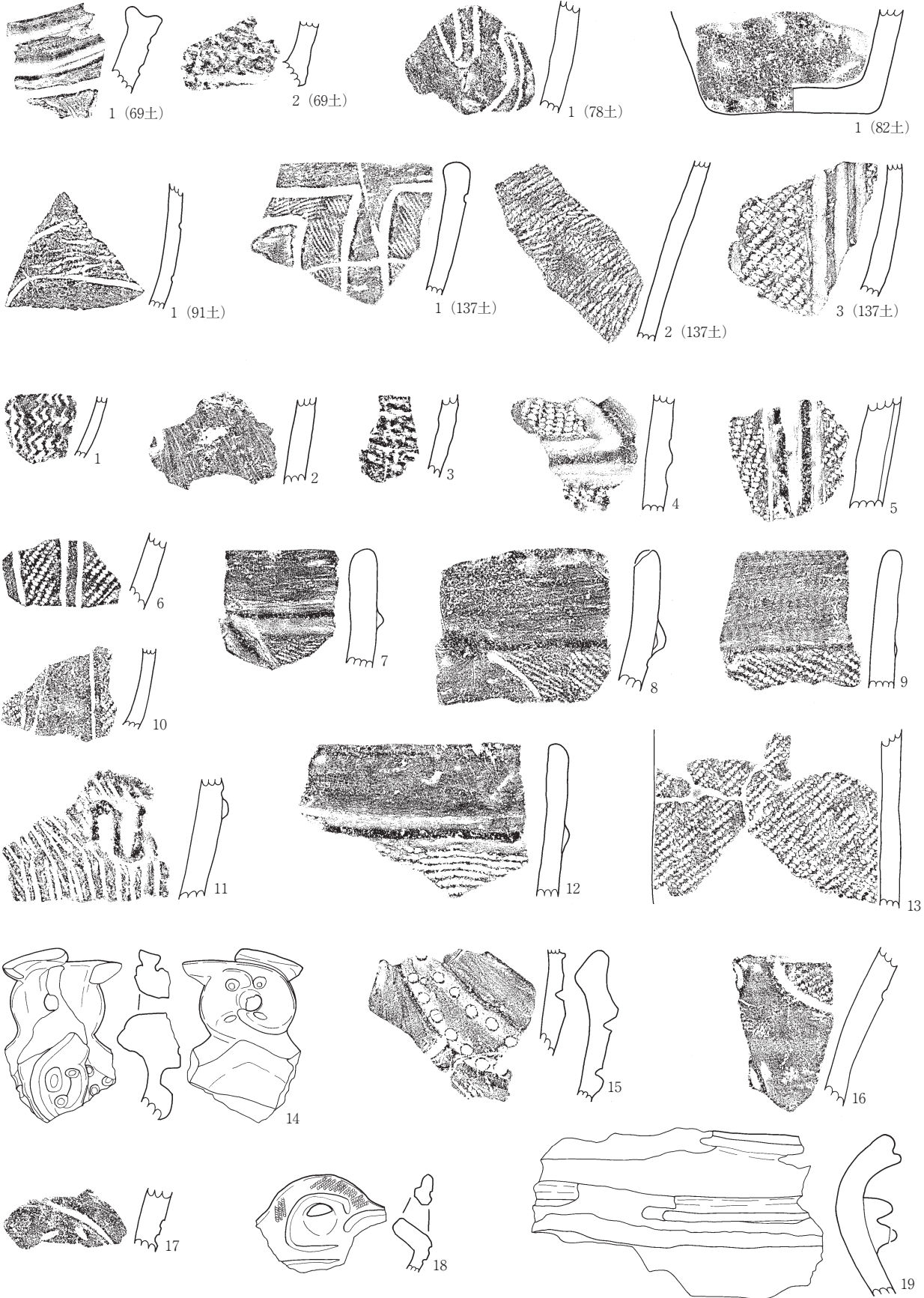
第64図 32・45・62・64・65号土坑、遺構外35~43 (3) 出土遺物



V 検出された遺構と遺物



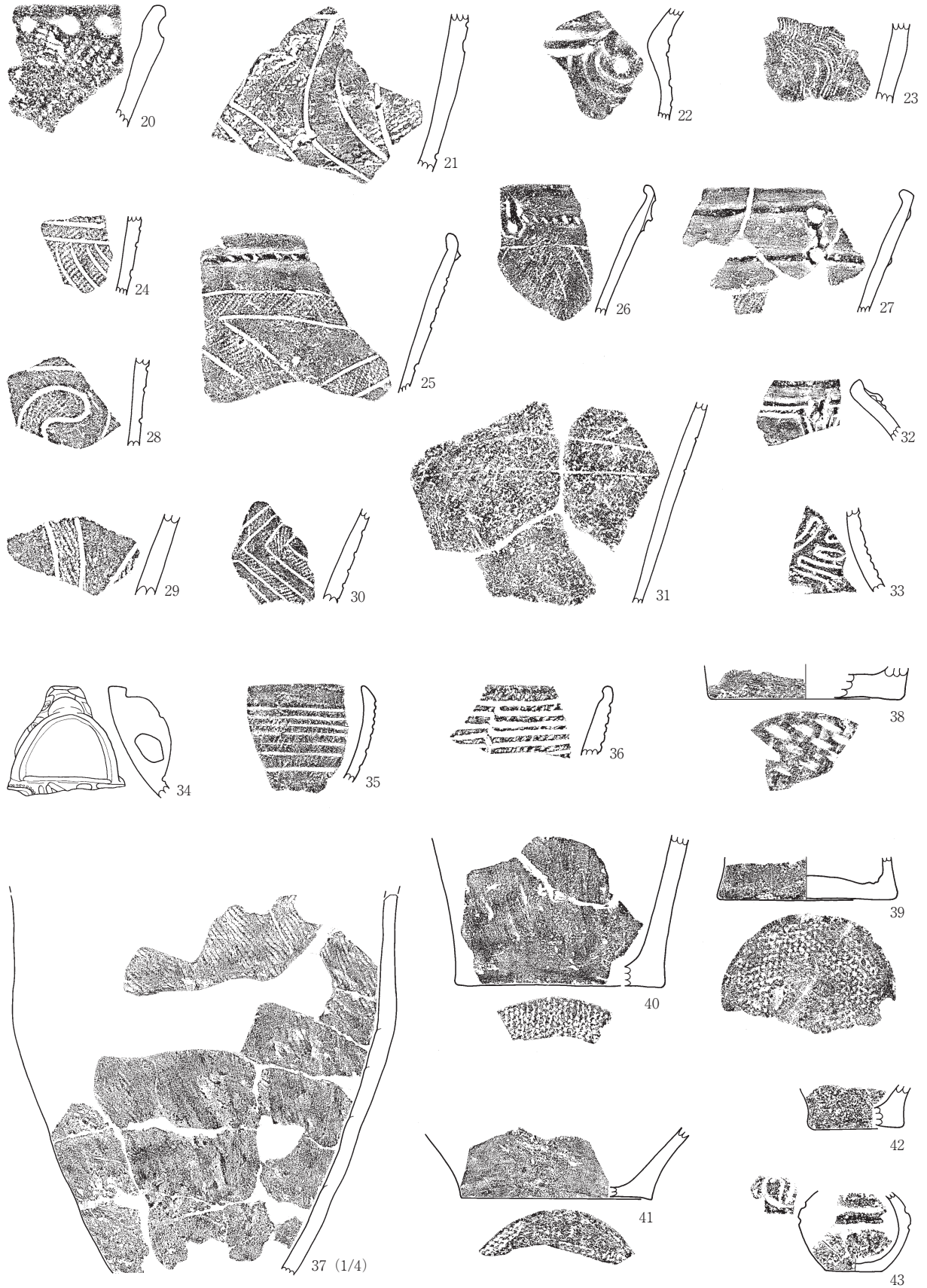
第65図 65・68号土坑出土遺物



第66図 69・78・82・91・137号土坑、遺構外1~19(4)出土遺物

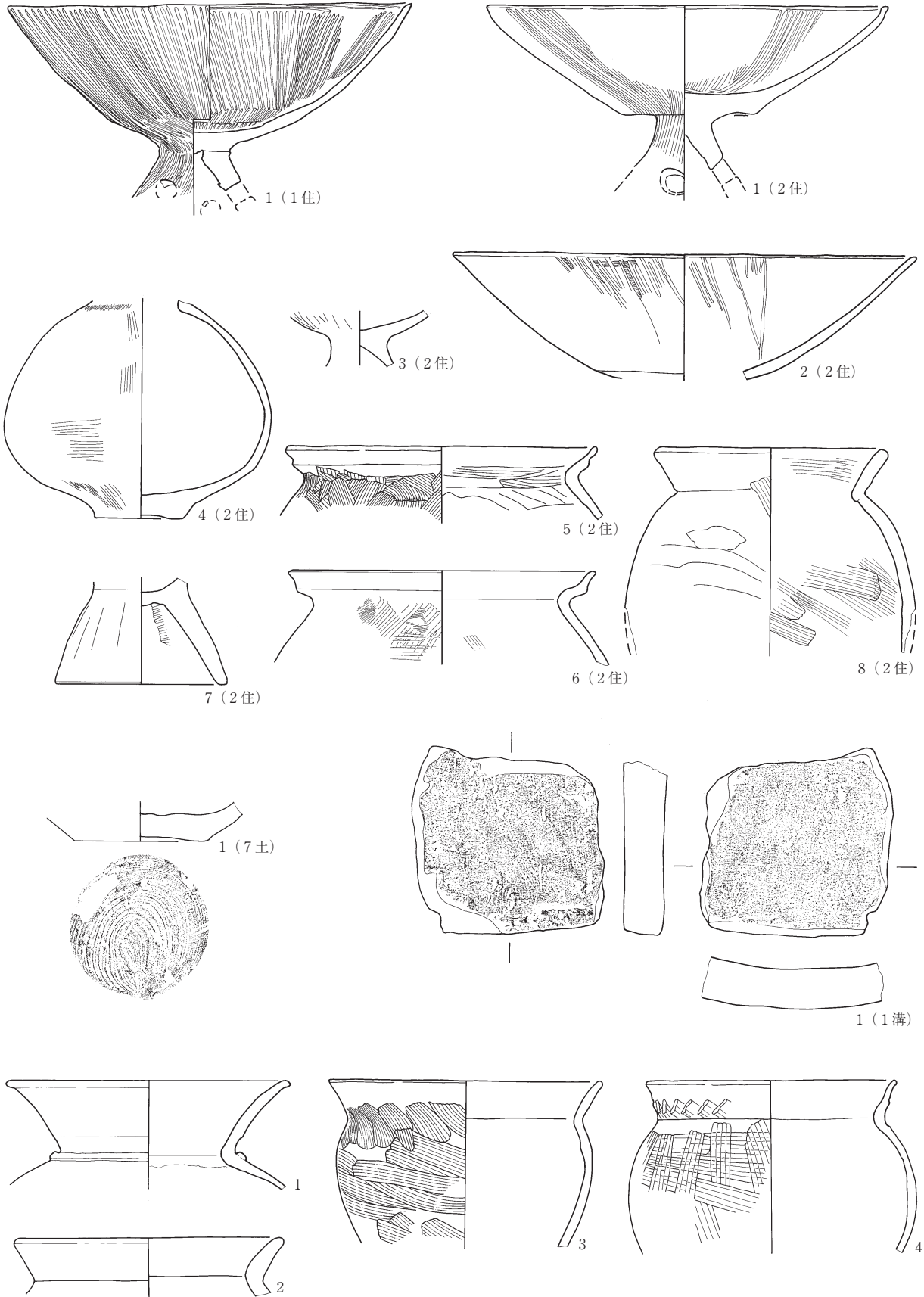
0 1:3 10cm

V 検出された遺構と遺物



第67図 遺構外出土遺物20~43 (5)

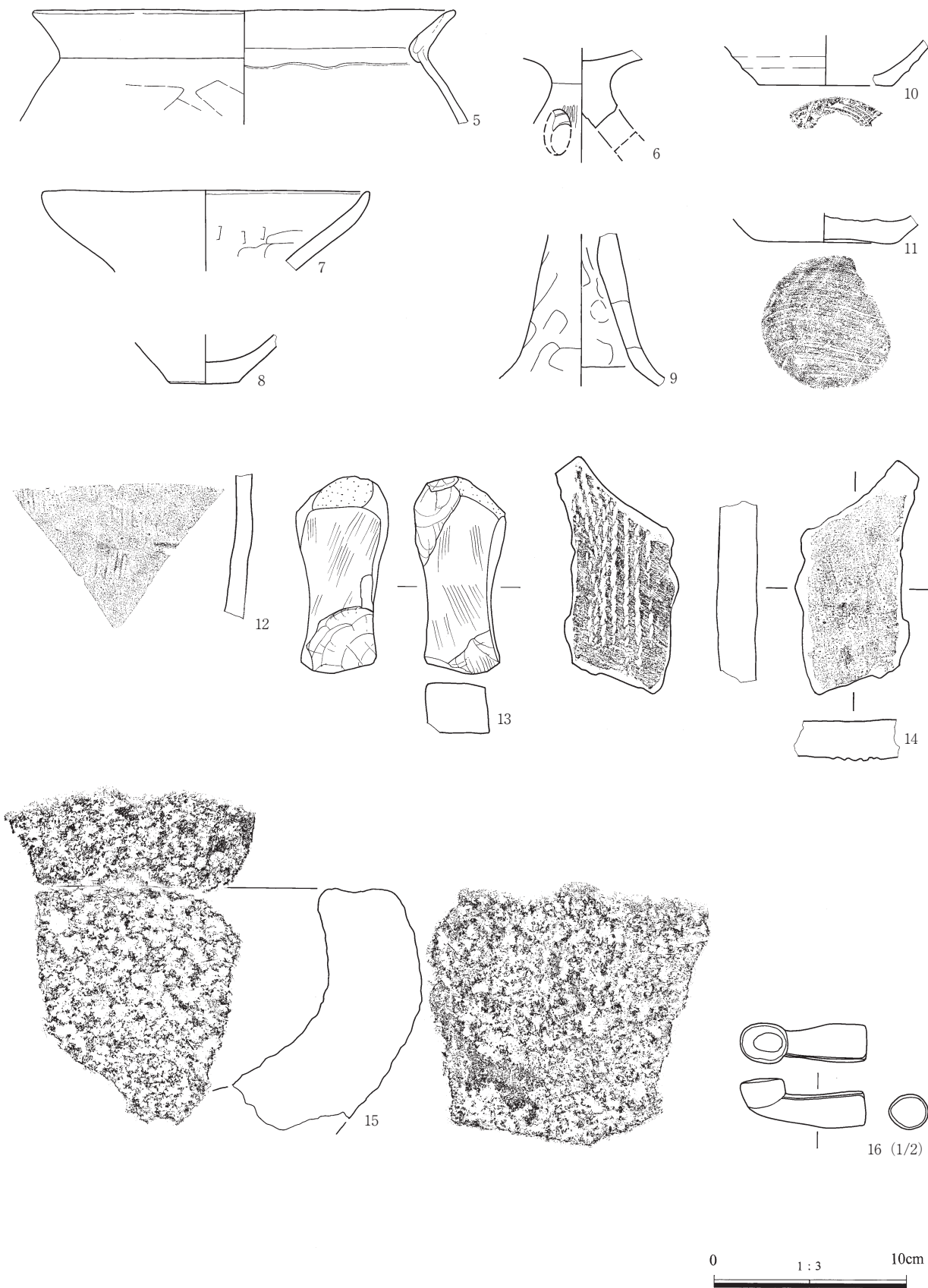
0 1:3 10cm



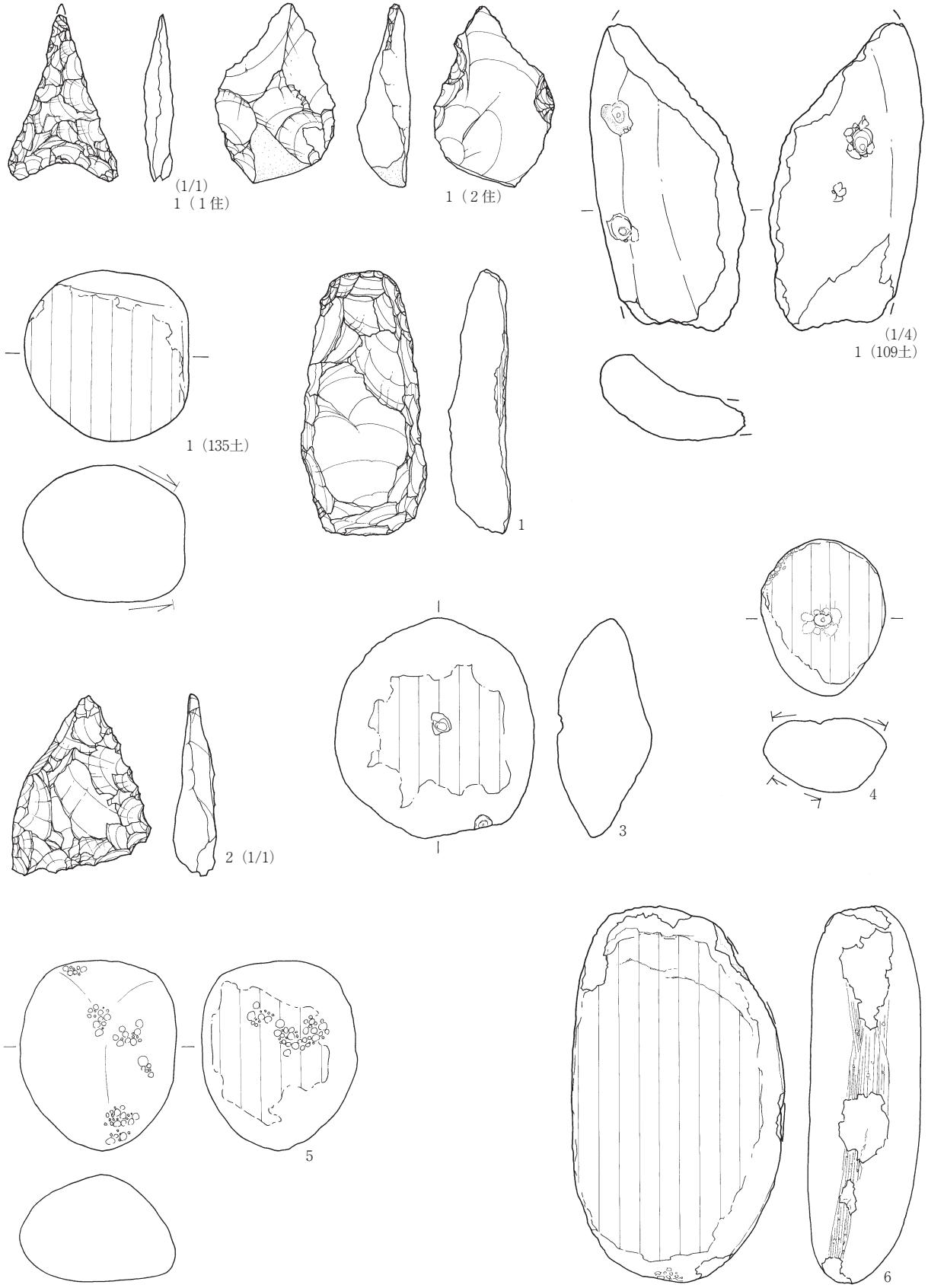
第68図 1・2号住居跡、7号土坑、1号溝、遺構外1～4 (6) 出土遺物

0 1:3 10cm

V 検出された遺構と遺物



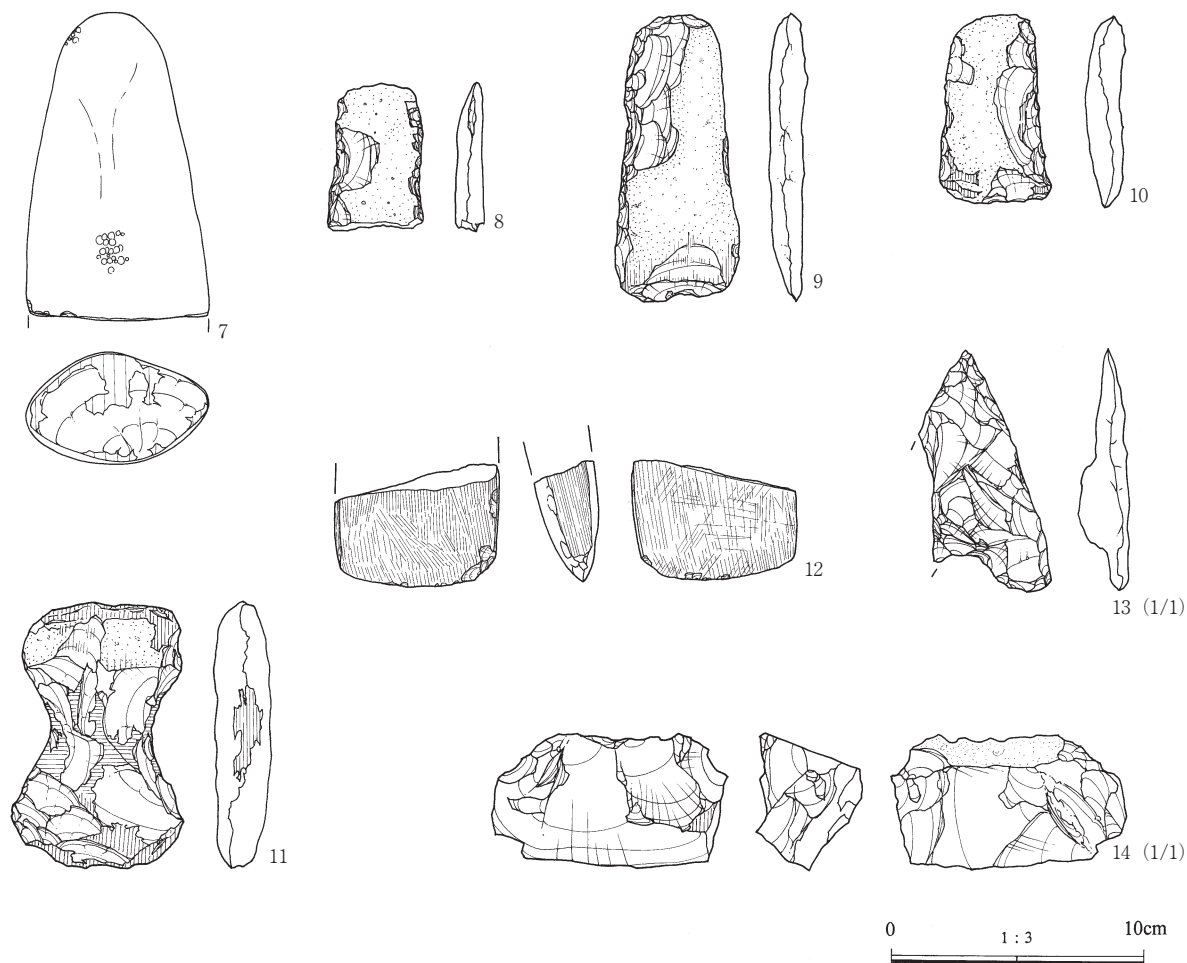
第69図 遺構外出土遺物 5~16 (7)



第70図 1・2号住居跡、109・135号土坑、遺構外1～6 (1) 出土石器

0 1:3 10cm

V 検出された遺構と遺物



第71図 遺構外出土石器7～14(2)

包含層出土の石器

総計83点(剥片系石器14点、磨石等の礫石器7点、剥片類51点、礫・礫片類11点)が出土した。縄文期遺構から出土した石器は2点(109・135号土坑)と少なく、大半は包含層(3・4層)から出土した。石器類はA・B区とも等量が出土しているが、剥片類や礫片類に限れば、石田川の低地が入り込んだB区の出土量が多い。出土した主な石器には、石鏃3・磨製石斧1・打製石斧7・加工痕ある剥片1・使用痕ある剥片1等の剥片系石器があるほか、凹石2・磨石3・石皿1・スタンプ形石器1の礫石器類があり、撚糸紋期や早期末～前期初頭、中・後期に特徴的な石器類が出土しており、各期の石器が混在していたというべきである。以下、整理過程で気付いた点について、その概要を記す。

石鏃については、製作途上の破損例2点(70図2)、完形例1点(70図1住1)が出土した。資料数が少ないのは致命的だが、在地石材としてのチャートを用いた石鏃の遺跡内製作を示唆した。これに対し、打製石斧(石材6種)は黒色頁岩を除いて同種剥片類の出土(ホルンフェルス・細粒輝石安山岩が各1点、凝灰質砂岩・珪質頁岩は出土なし)が少なく、遺跡外で製作、それを搬入した可能性が高い。削器類については、剥片類の出土量からみて、遺跡内で剥片生産が行われたようで、打製石斧の製作に結び付いた製作、使用実態は指摘できないようである。石材構成については、チャートやホルンフェルス・黒色頁岩や黒色安山岩を多用、大間々扇状地、及び、赤城山南麓の縄文期遺跡の石材構成を併せ持つ。



第72図 2号住居跡柱穴内出土礎板

0 1:3 10cm

V 検出された遺構と遺物

第5表 遺物観察表(源六堰遺跡縄文土器)

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第61図8土1 PL 48	深鉢	A	8	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	带状沈線によりU字状モチーフを描き、内部に単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図82土1 PL 48	深鉢	A	82	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第61図82土2 PL 48	深鉢	A	82	土坑	2包14				口縁片	粗砂	橙	普通	小波状口縁で口唇内面が肥厚。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図84土1 PL 48	深鉢	A	84	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で口唇内面が肥厚。带状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。内面研磨。	称I
第61図84土2 PL 48	注口土器	A	84	土坑	覆土				胴部片	細砂	橙	普通	細隆線により弧状モチーフを施す。	堀1
第61図84土3 PL 48	深鉢	A	84	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	横位隆帯をめぐらす。	加E 4
第61図85土1 PL 48	深鉢	A	85	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口唇内面が肥厚。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図85土2 PL 48	深鉢	A	85	土坑	覆土				胴部片	細砂	にぶい橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施紋する。	称II
第61図86土1 PL 48	深鉢	A	86	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図86土2 PL 48	深鉢	A	86	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁下肥厚部に横位2条の沈線を施し、沈線間に刺突を充填施紋する。	堀1
第61図91土1 PL 48	深鉢	A	91	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口唇内面が肥厚。带状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図91土2 PL 48	深鉢	A	91	土坑	覆土				胴部片	細砂	にぶい黄橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施紋する。	称II
第61図91土3 PL 48	深鉢	A	91	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図105土1 PL 48	深鉢	A	105	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	緩く外反する器形。带状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図106土1 PL 48	深鉢	A	106	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下肥厚部に横位楕円状モチーフを描き、刺突を充填施紋する。8の字貼付紋を貼付。	堀1
第61図106土2 PL 48	深鉢	A	106	土坑	覆土				口縁片	細砂	にぶい黄橙	普通	波状口縁で口唇内面が肥厚。带状沈線を施し、列点を充填施紋する。	称II
第61図106土3 PL 48	深鉢	A	106	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	带状沈線によりJ字状モチーフを描く。	称II

源六堰遺跡

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第61図106土4 PL 48	深鉢	A	106	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図106土5 PL 48	深鉢	A	106	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	緩く外反する器形。帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図106土6 PL 48	深鉢	A	106	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第61図107土1 PL 48	深鉢	A	107	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描くが、摩滅激しい。	堀1
第61図108土1 PL 48	深鉢	A	108	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、円形刺突を施す。	堀1
第61図108土2 PL 48	深鉢	A	108	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	横位隆帯をめぐらせ、隆帯下に単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第61図122土1 PL 48	深鉢	A	122	土坑	覆土				胴部片	粗砂	明赤褐	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図129土1 PL 48	深鉢	A	129	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で口縁部破片が内折する。内折部に横位楕円状モチーフを施し、沈線、刺突を充填施紋する。	堀1
第61図132土1 PL 48	深鉢	A	132	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図133土1 PL 48	深鉢	A	133	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により弧状モチーフを施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	加E 4
第62図137土1 PL 48	深鉢	A	137	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で口縁内面が肥厚。波頂部下から刻みを付した隆線を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図137土2 PL 48	深鉢	A	137	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が内湾する器形。無紋。	称II
第62図137土3 PL 48	深鉢	A	137	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図137土4 PL 48	深鉢	A	137	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図147土1 PL 48	深鉢	A	143	土坑	覆土				胴部片	細礫、粗砂	橙	普通	無節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第62図145土1 PL 48	深鉢	A	145	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第62図146土1 PL 48	深鉢	A	146	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁部破片に無紋帯を空け、横位帯状沈線を施す。	後加E系
第62図148土1 PL 48	深鉢	A	148	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	黒褐	普通	斜位の隆線を施す。	加E 4

V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第62図158土1 PL 48	深鉢	A	158	土坑	覆土				口縁片	細砂	にぶい橙	普通	口縁部破片に1条の隆帯をめぐらせて口縁部破片無紋帯を作出。隆帯下に帯状沈線による幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施紋する。	後加E系
第62図158土2 PL 48	深鉢	A	158	土坑	覆土				胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	縦位帯状沈線を施し、単節L R縄紋を充填施紋する。	称I
第62図158土3 PL 48	深鉢	A	158	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施紋する。	称I
第62図 1 PL 49	深鉢	A	2	覆土	12	推29.8	5.7	37.1	口~底部	粗砂	にぶい黄橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により縦位に展開するJ字状、弧状モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施紋する。	称I
第62図 2 PL 49	注口土器	A	2	第3層	1. 91 土	推7.8	5.1	11.4	口~底部	粗砂	橙	普通	算盤玉状の器形。屈曲部に対弧状の隆帯を貼付。帯状沈線によりJ字状モチーフを描く。	称II
第62図 3 PL 49	深鉢	A							胴部片	粗砂、繊維	橙	普通	内外面に条痕を施す。	早期後半 条痕紋系
第62図 4 PL 49	深鉢	A							胴部片	粗砂、繊維	橙	普通	無節L r縄紋を施す。	前期前半
第62図 5 PL 49	深鉢	A			表採				胴部片	粗砂	橙	普通	刻みを付した弧状隆帯を貼付。沈線を施す。	勝坂
第62図 6 PL 49	深鉢	A	2	覆土					胴部片	粗砂、金 雲母	明赤褐	普通	隆線による蛇行懸垂紋を施し、単節R L縄紋を縦位施紋する。	加E 2
第62図 7 PL 49	深鉢	A			表採				口縁片	粗砂	赤褐	普通	隆帯による口縁部楕円状区画、沈線による胴部懸垂紋を施し、単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 3
第63図 8 PL 49	深鉢	A			覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	隆帯による口縁部楕円状区画を施す。	加E 3
第63図 9 PL 49	深鉢	A			覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	隆線による懸垂紋を施し、単節L R縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第63図 10 PL 49	深鉢	A			表採				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により弧状モチーフを描き、単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 4
第63図 11 PL 49	深鉢	A			表採				胴部片	細砂	橙	普通	単節L R縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第63図 12 PL 49	深鉢	A	2	覆土	9				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁部に1条の横位隆帯をめぐらせ、以下、単節L R縄紋を施す。	加E 4
第63図 13 PL 49	深鉢	A			覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に沈線をめぐらせ、以下、無節L r縄紋を施す。	加E 4
第63図 14 PL 49	深鉢	A			表採				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節L R縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第63図 15 PL 49	深鉢	A	2	覆土					胴部片	粗砂	橙	普通	沈線による縦位楕円状モチーフを描き、内部に単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4

源六堰遺跡

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第63図 PL 49 16	深鉢	A	2	覆土	15				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 17	深鉢	A		表採					口縁片	細砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 18	深鉢	A	2	覆土	2				口縁片	細砂	橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 19	深鉢	A	2						口縁片	細砂	にぶい橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 20	深鉢	A	2						口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁の環状突起。頂部に4単位の突起を付すようだ。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 21	深鉢	A		覆土					口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁の環状突起で、頂部に沈線をめぐらす。波頂部下から刻みを付した隆線を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 22	深鉢	A		表採					口縁片	粗砂	橙	普通	小波状口縁で、波頂部下に逆U字状隆帯を貼付。帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。波頂部に円形刺突。	称 I
第63図 PL 49 23	深鉢	A		覆土					口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で波頂部下に透かしが入る。内面に円形刺突、沈線を施す。	称 I
第63図 PL 49 24	深鉢	A	2	覆土	7				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 25	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 26	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 27	深鉢	A	2	住居	覆土				胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 28	深鉢	A	2	覆土	8				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 49 29	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	刺突を施した隆線を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I
第63図 PL 50 30	深鉢	A	2	覆土	4				胴部片	粗砂	橙	普通	刺突を施した隆線を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称 I

V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第63図 31 PL 50	深鉢	A			表採				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 32 PL 50	深鉢	A			表採				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 33 PL 50	深鉢	A	2	覆土	11				胴部片	細礫、粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 34 PL 50	深鉢	A	2	覆土	11		6.6		底部破片				33と同一個体。	称I
第64図 35 PL 50	深鉢	A			表採				口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁で、口唇内面が肥厚。帯状沈線を施し、円形刺突を充填施紋する。	称II
第64図 36 PL 50	深鉢	A			表採				胴部片	細砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線を施し、列点を充填施紋する。	称II
第64図 37 PL 50	深鉢	A							胴部片				38と同一個体。	称
第64図 38 PL 50	深鉢	A	2	覆土	14				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填、さらに円形刺突を充填施紋する。	称
第64図 39 PL 50	深鉢	A							口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下に1条の沈線。2条の沈線による懸垂紋を施す。	堀1
第64図 40 PL 50	深鉢	A			表採				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に1条の沈線、下端に斜位の刻みを付す。	堀2
第64図 41 PL 50	深鉢	A	2	覆土	2				口縁片	細砂	にぶい黄橙	普通	口縁部に環状把手。沈線、円形刺突を施す。	堀3
第64図 42 PL 50	深鉢	A			表採				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、刺突を充填施紋する。	堀4
第64図 43 PL 50	深鉢	A			表採				胴部片	粗砂	明赤褐	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第64図32±1 PL 50	深鉢	B	32	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第64図45±1 PL 50	深鉢	B	45	土坑	覆土	推17.8			口～胴部	粗砂	赤褐	普通	波状口縁で、頸部で屈曲する器形を呈し、頸部に1条の隆帯をめぐらす。隆帯下に単節RL縄紋を地紋とし、沈線によりU字状や弧状モチーフを描く。口唇部を肥厚させ、1条の沈線を施す。	堀1
第64図62±1 PL 50	深鉢	B	62	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁部無紋帯の部位。	加E4
第64図62±2 PL 50	深鉢	B	62	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E3
第64図62±3 PL 50	深鉢	B	62	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	堀1

源六堰遺跡

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第64図64土1 PL 50	深鉢	B	64	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	带状沈線により弧状モチーフを描く。	称Ⅱ
第64図64土2 PL 50	深鉢	B	64	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線を横位、縦位、斜位に施す。	堀1
第64図65土1 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄褐	普通	口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、沈線による幾何学モチーフを描く。	堀2
第64図65土2 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				突起	粗砂	にぶい黄橙	普通	波状口縁。波頂部下に口縁に沿った沈線と円形刺突を施す。	堀3
第64図65土3 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	带状沈線を横位に施し、内部に刺突を充填施紋する。	称Ⅱ
第64図65土4 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に2条の沈線をめぐらす。	堀1
第64図65土5 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	口縁下に円形刺突。沈線による幾何学モチーフを描く。	堀1
第64図65土6 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、条線による蛇行懸垂紋を施す。	堀1
第64図65土7 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	明赤褐	普通	刻みを付した隆帯をめぐらせて口縁部紋様帯を区画、口縁から弧状の隆帯を垂下させて連結する。口縁部紋様帯は横位の長楕円形モチーフを描き、列点を充填施紋。胴部は沈線による懸垂紋を施す。	堀1
第65図65土8 PL 50	浅鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	緩く内湾する器形で、口縁が短く外反する。隆線を1条めぐらせて口縁部紋様帯を区画。紋様帯内は沈線によるモチーフを描く。	堀1
第65図65土9 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁。带状沈線により幾何学モチーフを描き、単筋LR縄紋を充填施紋する。	称Ⅰ
第65図65土10 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁で波頂部下に透かしが入る。沈線により幾何学モチーフを描き、3条の短沈線を充填施紋する。	堀1
第65図65土11 PL 51	浅鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁が内折する器形。波頂部下に円形の透かしを施し、環状の把手を付す。内折部に沈線をめぐらす。胴部は無紋。	称Ⅱ
第65図65土12 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁の突起部で円盤状の突起を付す。無紋。	称
第65図65土13 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	小波状口縁で、頸部で屈曲する器形。頸部に刺突を挟んだ带状沈線をめぐらせて区画。胴部も同様の带状沈線でワラビ手紋、斜行紋を施す。波頂部下に円孔、口縁内面に1条の沈線を施す。	堀1

V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第65図65±14 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	带状沈線によりJ字状、弧状モチーフを描く。	称II
第65図65±15 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	波状口縁の突起部で、環状の突起を付す。突起内面に沈線、円形刺突を施す。	称
第65図65±16 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	隆線による懸垂紋を施し、単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E4
第65図65±17 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	条線を斜位に施す。	堀1
第65図65±18 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	良好	隆帯による楕円状区画を施し、単節RL縄紋を充填施紋する。	加E3
第65図65±19 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	細礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。頸部に刻みを付した隆帯をめぐらす。隆帯下は带状沈線を縦位、斜位に施す。	堀1
第65図65±20 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	带状沈線を縦位、斜位に施す。	堀1
第65図65±21 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第65図65±22 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線によりモチーフを描き、条線による短沈線を充填施紋する。	堀1
第65図65±23 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	带状沈線により弧状モチーフを描く。	称II
第65図65±24 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土		推12.5		底部破片	粗砂	橙	普通	残存部は無紋。	後期前半
第65図68±1 PL 51	深鉢	B	68	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	隆帯を1条めぐらせて、隆帯下に刺突を充填施紋する。隆帯とその上位に赤色塗彩が施されている。	堀1
第66図69±1 PL 51	深鉢	B	69	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	良好	波状口縁。口唇部を肥厚させ、凹ませる。口縁に沿って沈線を施す。	堀1
第66図69±2 PL 51	深鉢	B	69	土坑	覆土				底部	粗砂、繊維	橙	普通	単節LR縄紋を横位施紋する。	前期前半
第66図78±1 PL 51	深鉢	B	78	土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描く。	堀1
第66図82±1 PL 51	深鉢	B	82	土坑	覆土		8.2		底部	粗砂	橙	普通	残存部は無紋。	後期前半
第66図91±1 PL 51	深鉢	B	91	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	普通	带状沈線により弧状モチーフを描き、無節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第66図137±1 PL 51	深鉢	B	137	土坑	覆土				口縁片	細砂	橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第66図137±2 PL 51	深鉢	B	137	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	良好	無節LR縄紋を施す。	後期前半

源六堰遺跡

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第66図137土3 PL 51	深鉢	B	137	土坑	覆土				胴部片	粗砂	橙	良好	沈線による懸垂紋を施し、単節R L縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第66図 1 PL 51	深鉢	B	1	覆土	覆土				胴部片	粗砂	橙	良好	山形押型紋を縦位施紋する。	早期押型紋系
第66図 2 PL 51	深鉢	B							胴部片	粗砂、繊維	橙	普通	外面に斜位の条痕を施す。	早期後半条痕紋系
第66図 3 PL 51	深鉢	B	1	覆土	覆土				胴部片	細礫、繊維	橙	普通	縄紋を施すようだが、器面が荒れていて不明。	前期前半
第66図 4 PL 51	深鉢	B	1	覆土					胴部片	細礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	隆帯による口縁部楕円状区画を施し、単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 3
第66図 5 PL 51	深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	隆線による懸垂紋を施し、単節R L縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第66図 6 PL 51	深鉢	B	1	覆土					胴部片	細砂	浅黄橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節R L縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第66図 7 PL 51	深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に弧状の隆帯を施し、単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 8 PL 51	深鉢	B							口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に弧状の沈線を施し、単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 9 PL 51	深鉢	B							口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 10 PL 51	深鉢	B		表採					胴部片	粗砂	明赤褐	普通	沈線により弧状モチーフを描き、単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 11 PL 51	深鉢	B							口縁片	細礫、粗砂	にぶい橙	普通	斜位、縦位の集合沈線を施し、波状の隆帯を貼付する。	唐草紋系
第66図 12 PL 51	深鉢	B		表採					口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に無節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 13 PL 51	深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂	明赤褐	普通	単節R L縄紋を縦位施紋する。	中期後半
第66図 14 PL 51	深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	波状口縁の突起部で環状の突起を付す。波頂部下にも環状の貼付を施し、沈線、円形刺突を施す。	称
第66図 15 PL 51	深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂、石英	にぶい黄橙	普通	波状口縁で、口縁が内湾する。口縁に沿って隆線で区画し、円形刺突を施す。	称
第66図 16 PL 52	深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	带状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施紋する。	称 I
第66図 17 PL 52	深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	带状沈線により弧状モチーフを描き、列点を充填施紋する。	称 II

V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第66図 PL 52	18 深鉢	B			表採				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁部の環状突起。口縁が内折する。沈線、単節LR縄紋を施す。	堀1
第66図 PL 52	19 深鉢	B			表採				口縁片	細礫、粗砂	明赤褐	普通	頸部で屈曲する器形。頸部に幅広の隆帯をめぐらせ、沈線を施す。口縁下肥厚部にも1条の沈線を施す。	堀1
第67図 PL 52	20 深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂	明赤褐	普通	口縁下に円形刺突。以下、単節LR縄紋を施す。	堀1
第67図 PL 52	21 深鉢	B							胴部片	細礫、粗砂	橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、横位、弧状の沈線を施す。	堀1
第67図 PL 52	22 深鉢	B	1	覆土					頸部片	粗砂、石英	明赤褐	普通	横位、弧状の沈線を施す。8の字貼付紋を貼付。	堀1
第67図 PL 52	23 深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	弧状の条線を施す。	堀1
第67図 PL 52	24 深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、横位、弧状の沈線を施す。	堀1
第67図 PL 52	25 深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下に1条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第67図 PL 52	26 深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に1条の隆線と8の字貼付紋。帯状沈線によるモチーフを描く。	堀2
第67図 PL 52	27 深鉢	B			表採				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に2条の隆線をめぐらせ、縦位隆線で連結、連結部には円形刺突を施す。帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第67図 PL 52	28 深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂	黒褐	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第67図 PL 52	29 深鉢	B			表採				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第67図 PL 52	30 深鉢	B			表採				胴部片	粗砂	橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	堀2
第67図 PL 52	31 深鉢	B	1	覆土					胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線によるモチーフを施す。	堀2
第67図 PL 52	32 注口土器	B	1	覆土					口縁片	粗砂、白色粒	黒褐	普通	口唇外面が肥厚。口縁下に1条の隆線と8の字貼付紋。隆線下にも弧状粒繊維によるモチーフを施す。隆線上には沈線を施す。	堀2
第67図 PL 52	33 注口土器	B	1	覆土					胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により楕円状モチーフを描く。	堀2
第67図 PL 52	34 注口土器	B	1	覆土					把手部	細砂	にぶい黄橙	普通	円柱状と半楕円状を組み合わせた把手。沈線により楕円状モチーフを描き、刺突を充填施紋する。	堀1
第67図 PL 52	35 鉢	B			表採				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が緩く内湾する器形。帯縄紋を施す。	加B

源六堰遺跡

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第67図 PL 52	36 深鉢	B		表採				口縁片	粗砂	橙	普通	帯縄紋、区切り紋を施す。	加B
第67図 PL 52	37 深鉢	B	1	覆土				胴部片	細礫、粗砂	にぶい赤褐	普通	胴部上位に無節L r 縄紋を施す。	後期前半
第67図 PL 52	38 深鉢	B	1	覆土			推10.2	底部破片	粗砂	橙	良好	底面に網代痕が残る。	後期前半
第67図 PL 52	39 深鉢	B	1	覆土			9.3	底部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	残存部は無紋。底面に網代痕が残る。	後期前半
第67図 PL 52	40 深鉢	B	1	覆土			推10.8	底部破片	粗砂	橙	普通	残存部は無紋。底面に網代痕が残る。	後期前半
第67図 PL 52	41 深鉢	B	1	覆土			推10.0	底部破片	粗砂	黒褐	普通	残存部は無紋。底面に網代痕が残る。	後期前半
第67図 PL 52	42 深鉢	B	1	覆土			推4.7	底部破片	粗砂	にぶい橙	普通	残存部は無紋。	後期前半
第67図 PL 52	43 ミニチュア	B	1	覆土			3.0	胴～底部	粗砂	にぶい黄橙	普通	球形を呈す。胴部中位に隆帯をめぐらせて区画。紋様帯内は楕円状モチーフを描き、縦位沈線を施す。	後期前半

V 検出された遺構と遺物

(源六堰遺跡土師器・須恵器)

図番	器形	区	遺構名	出土位置	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	部位	胎土	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第68図1住1 PL 53	高杯	A	1 住居	床面	(21.0)	-	-	杯部～脚部上位	砂粒を含む	橙	酸化	杯部内外面放射状研磨、脚部上下互い違いに2段の円孔を穿つ。口唇部内面に明瞭な面取り。
第68図2住1 PL 53	高杯	A	2 住居	床面、覆土	(20.6)	-	-	杯部～脚部上位	砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	杯部内外面放射状研磨、脚部円孔3箇所。口唇上面に弱い面取り。
第68図2住2	高杯	A	2 住居	床面	(24.0)	-	-	杯部片	砂粒を多く含む	橙	酸化	杯部内外面放射状研磨、口唇上面に弱い面取り。
第68図2住3 PL 53	台付甕	A	2 住居	覆土	-	-	-	底部～台部中位	砂粒・小石を含む	にぶい橙	酸化	外面に粗いハケメか。
第68図2住4 PL 53	壺	A	2 住居	床面、覆土	-	4.5	-	口縁部欠	砂粒を含む	橙	酸化	下膨れ胴部に突出底。外面はハケメのち研磨。
第68図2住5 PL 53	S字状口縁甕	A	2 住居	覆土	(16.0)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口唇部やや肥厚、内面の段弱い。肩部ハケメは乱れた斜位、頸部内面に横ハケメ。
第68図2住6 PL 53	S字状口縁甕	A	2 住居	覆土	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	黒褐	酸化	口縁の段は強い、口唇上面に弱い平坦面。肩部に斜ハケメのち横ハケメ。
第68図2住7 PL 53	台付甕	A	2 住居	床面	-	8.6	-	脚台部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面ハラナデ、内面横ハケメ。
第68図2住8 PL 53	甕	A	2 住居	覆土	(11.4)	-	-	口縁部一体部上位	砂粒・小石を含む	橙	酸化	口唇肥厚丸縁。胴部は嚢形。外面はハケメとナデ、内面ハケメ。
第68図 1 PL 53	須恵器杯	A	7 土坑	覆土	-	7.1	(1.3)	底部	砂粒を含む	黄灰	還元	底右回転糸切り。
第68図 1	平瓦	A	1 溝	覆土			厚さ20	破片			還元	裏面に削り痕残す。
第68図 1 PL 53	壺	A		遺構外	(14.4)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	頸部外面に凸帯、外面赤彩。
第68図 2 PL 53	甕	A		遺構外	(13.6)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	内外面横ナデ。
第68図 3 PL 53	甕	A		遺構外	(14.0)	-	-	上半部片 胴下部片	砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	外面斜位ハケメ、内面ナデ。外面煤付着。
第68図 4 PL 53	甕	B		遺構外	(12.8)	-	-	口縁部一体部上位	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	肩部ハケメの工具止め痕が口縁に残る。口縁屈曲して立つ。S字甕の模倣か。
第69図 5 PL 53	甕	B		遺構外	(21.9)	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	頸部内面接合痕
第69図 6 PL 53	高杯	A		遺構外	-	-	-	杯部脚部接合部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	脚部円孔を穿つ。
第69図 7 PL 53	高杯	B		遺構外	(16.6)	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	浅黄	酸化	口縁部内湾。
第69図 8 PL 53	甕	A		遺構外	-	3.6	-	底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	内底工具ナデか、摩滅。
第69図 9 PL 53	高杯	B		遺構外	-	-	-	脚部片(裾欠損)	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	内外面器表荒れ。
第69図 10 PL 53	須恵器杯	A		遺構外	-	(7.0)	-	底部片	細砂粒を含む	灰	還元	底回転糸切り。
第69図 11 PL 53	須恵器杯	A	2	遺構外	-	7.5	-	底部	砂粒を含む	浅黄橙	還元	底静止糸切り。
第69図 12 PL 53	須恵器甕	B		遺構外	-	-	-	体部片	白色粒子を含む	灰	還元	外面平行タタキ目後ナデ。

瓦

図番	種別	器形	区	面	名 遺構番号	遺構種	取上番号	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	残存	1 胎土	2 色調	3 焼成	4形・成調整等	備考
第68図1溝1 PL 53	瓦	平瓦?	A		1	溝	覆土	-	-	-	破片	砂粒を含む	灰白	還元	凹面ケズリ後ナデ、凸面ケズリ	
第69図 14 PL 53	瓦	平瓦?	B				表採	-	-	-	破片	白色粒子を含む	黄灰	還元	凹面ナデ、凸面縄目あり	

石器

図番	器種	形態	区	出土位置	石材	長さ	幅	重さ	残存	調整加工・形状等の特徴
70図1住1 PL54	石鏃	凹基	A	1号住	黒頁	2.9	1.9	1.7	完形	二等辺三角形を呈する細身の石鏃。
70図2住1 PL54	加工痕		A	2号住	黒頁	7.4	3.1	16.1	完形	幅広剥片の左側縁裏面に粗い加工を施す。
70図109土 1PL54	石皿	有縁	A	109土	緑片	21.3	10.3	1422.8	破片	ロート状の凹穴が背面に2、裏面に1を穿つ。被熱。
70図135土 1PL54	磨石	円球	A	135土	粗安	8.9	8.5	797.6	完形	略全面磨耗。
70図1 PL54	打製石斧	短冊	A	不明	凝砂	13.8	6.5	349.6	完形	裏面側は全面礫面、両側縁敲打痕、装着痕？
70図2 PL54	石鏃	不明	A	表採	チャ	3.1	2.8	4.3		三角形剥片に押圧剥離を施す。初期段階で放棄。
70図3 PL54	凹石	円球	A	2区	粗安	11.3	10.4	708.6	完形？	径1cmの孔2。裏面は顕著に磨耗、研磨具に転用？
70図4 PL54	凹石	不定	A	2区	粗安	8.1	6.4	289.7	完形	表裏面に集合打痕、裏面磨耗。
70図5 PL54	磨石	不定	A	2区	粗安	9.9	8.1	549.1	完形	裏面側磨耗、表裏面に打痕あり。
70図6 PL54	磨石	楕偏	A	2区	溶凝	19.5	5.8	1774.1	完形	表裏面に磨耗痕、右側縁に打痕。被熱。
70図7 PL54	スタンプ		A	2区	粗安	12.2	7.2	529.6	完形	底面は磨耗。エッジに小剥離痕あり。
70図8 PL54	打製石斧	短冊	B	土坑	細安	5.8	3.8	36.8	頭部破	背面側に礫面を残し、周辺加工して石器を作出。
70図9 PL54	打製石斧	短冊	B	1区	珪頁	11.3	4.9	93.3	完形	右側縁に捲縛痕あり。左側縁・刃部再生。
70図10 PL54	打製石斧	短冊	B	表採	粗安	7.4	4.4	57.2	完形	側縁に捲縛痕、刃部に磨耗痕あり。刃部再生使用。
70図11 PL54	打製石斧	分銅	B	不明	ホル	10.5	6.3	191.5	完形	着柄部・刃部は著しく磨耗。
70図12 PL54	磨製石斧	定角	B	2区	蛇紋	4.8	6.6	86.6	破片	刃部に使用時に生じた小剥離痕が連続する。
70図13 PL54	石鏃	凹基	B	2区	チャ	3.2	1.7	2.6	返部欠	背面側の素材面が残る。製作途上に破損。
70図14 PL54	石核		B	1区	黒曜	1.8	3.1	6.3		板状剥片を用い、上面の礫面から小形剥片を剥離。

黒色頁岩：黒頁 珪質頁岩：珪頁 チャート：チャ ホルンフェルス：ホル 蛇紋岩：蛇紋 黒曜石：黒曜 粗粒輝石安山岩：粗安 細粒輝石安山岩：細安 凝灰質砂岩：凝砂 緑色片岩：緑片 溶結凝灰岩：溶凝

石製品

図番	種別	器形	区	面	名 遺構番号	遺構種	取上番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	1 胎土	2 色調	3 焼成	4形・成調整等	備考
第69図 13 PL 53	石製品	砥石	A				覆土	長 10.3	幅 4.7	厚 3.7	重 184.4g	略完				4面使用	
第69図 15	石製品	石鉢	B				1号包含層			高 12.4							

VI 上江田西田遺跡・源六堰遺跡 出土の古墳時代土器について

本遺跡の発掘調査において、古墳時代の遺構はほとんどみられなかったが、河道に堆積したと考えられる黒泥土層より、古墳時代前期に主体を置く土器が多く出土している。群馬県の古墳前期を代表する土器として「石田川式」の名で広く知られる標識遺跡の石田川遺跡は、本遺跡から南東に約8kmの位置にある。この他にも、重殿遺跡、高林遺跡など古墳時代前期の遺跡の分布密度がかなり高い地域であることがよく知られている。本遺跡の調査要因である石田川は、大間々扇状地を水源として小刻みな蛇行を繰り返しながら南東方向に流下しており、やがて太田市の南端部で南流してきた蛇川と合流する。このような大間々扇状地を開析する河川や扇端湧水池から流下する小河川の堆積物によって被われた広い沖積地は、頼母子古墳、朝子塚古墳のような4世紀代の古墳を初源として、その後も連綿と古墳群が築かれていることから、古墳時代以降の集落・生産域として安定していた地域であったことをうかがわせる。その一方で、弥生社会の地域形成があまり発達しなかったことは、弥生遺跡の分布状況の稀薄さが雄弁に物語っている。いわば、古墳時代前期になってから急激な開発が始まった新開拓地域であり、その歴史的動向そのものが群馬における弥生時代から古墳時代への大きな社会的転換をもたらす象徴的な歴史的事実であったと類推される。ただし、その地域社会形成に至る過程については、S字状口縁台付甕（以後「S字甕」と呼ぶ）の主体的分布から想定された東海地方西部からの「入植」や「集団移住」によるもの解釈がもっぱらである。これを歴史的事実として認定できるか否かは、当該地域における弥生時代後期から古墳時代前半の遺跡に関する詳細な分析の如何にかかっているが、本遺跡ではその一助とするべく出土した古墳前期の土器群について概要を述べることにしたい。

1. 器種について

壺、小型壺、直口壺、台付甕、甕、小型甕、鉢、高坏、小型器台、結合器台、有孔鉢小型丸底壺が見られる。遺構に伴う一括資料ではないので、器種組成分析のためのデータとしては不十分だが、当該地域の古墳時代前期集落でみられる器種組成とほぼ同様と考えられる。ただし、直口壺及び遺存度の良好な高坏や器台が、他の器種に比べてやや多いとの印象を受けること、焼成後底部穿孔の壺（第36図-53）が見られることから、埋没谷堆積層中からの出土である点を積極的に評価して、単なる集落からの日常器の廃棄ではなく「水」に関する祭祀関係遺物との想定も用意しておくべきだろう。群馬県では、本格的な農耕集落が形成された弥生時代中期後半から後期にかけて、稲作文化とこれに伴う祭祀も伝播したと想定できるが、「水」に関する祭祀的な遺構や遺物は非常に稀薄である。ところが古墳時代前期に入ると、低湿地への大規模な水田開発とともに「水辺」や「湧水」での特定器種（壺や高坏）の廃棄や井戸への土器、祭祀遺物廃棄（埋設か）行為がしばしば見られる。上江田西田遺跡出土の古墳時代前期土器群についても、南隣する源六堰遺跡（本書）や、石田川両岸に点在する微高地上の谷津遺跡や中道遺跡（文献1）を含めた古墳時代前期集落群に付随する「水」の祭祀関連遺物との見方を残しておきたい。

2. 型式的特徴について

壺は、退化した折返し口縁（第33図-1・2）、単口縁（第33図-3・7・10）、二重口縁（第33図-4・5）の三種に大別される第33図-1は内彎口縁で外面に稜をもたず、同図-2は外反して外面折返し端部にわずかな段を有する。前者は、大粒の赤色鉱物粒（酸化鉄化合物）を含む胎土を主な特徴とする他の土器と異なり、浅く粗い刷毛目を施す点

も同図-2・3とは異質である。やや肥厚する内彎形の口縁からその類縁を求めるならば、吉ヶ谷式や弥生町式の系譜が候補にあげられよう。これに比べ、大きく外反する同図2・3は、在地弥生土器の樽式の系譜に連なるとも考え得るが、同様の特徴を持つ東海西部系や北陸系の外反口縁壺の流入やそれとの融合が進捗する段階での土器だけに、単一系譜での理解は避けておくべきだろう。二重口縁壺は、第33図-4・5とも頸部が直立する典型的な「茶臼山型」壺である。5は胎土の特徴から現地産と考えられるが、稜線が明瞭で丁寧な研磨を施す特徴から、畿内産に近い印象をもつ。これに比べ4は段状部の稜線が弱く器面研磨も見られない。ただし、5とほぼ同大同一形状であることから、同時期に使用されたことは間違いなさだろう。第33図-9は、櫛描横線文と篋描き鋸歯文の組合せ施文という文様構成からパレススタイル壺の類品としてよい。ただし、横線文を4段重畳させて幅広の横線文帯を施文し、その上に鋸歯文を描く手法や、鋸歯文がかなり乱れている点は、尾張地方のオリジナル品の文様から逸脱した印象を与え、胎土の特徴から在地品であることは間違いのないものの、その稚拙な模倣品か年代の下る退化品と考えられる。直口壺(第33・34図-11・12・13・16・17)は、「瓢壺」の系譜を引く内彎気味口縁にやや扁平な球形胴をもつ11~13と、球形に胴径とほぼ同大の口径をもつ16の2種に分けられる。後者は後出型式の可能性もあるが、ここでは系譜の異なる同時存在と捉えておきたい。ちなみに、11は赤彩の可能性が高い。小型壺10は直口壺と同一用途で理解しうるが、曲線的に屈曲する頸部形状や長胴気味の胴部形状から、東海西部や畿内ではなくむしろ関東地方南部の弥生終末期~古墳前期に類品を見る。

甕については、S字甕、単口縁台付甕、平底甕の3種があり、数量比は不明である。S字甕(第34図-21~27、第36図-50・51・58)は、全形の判明する出土例がなかったため明確な基準での型式分類はできない。口縁形態では、口唇部上面にヘラナデ

による面取り(22・25)、丸縁(23・24)、口縁内面に弱い沈線状のナデ線(21・26)、尖端縁(27)の変異が見られる。肩部刷毛目の工具は鋭く細かい櫛状具(21~23・25・26)と目の粗い櫛状具(24・27)がある。肩部への櫛目による横線は22・26、源六堰遺跡2号住例(第68図-2住6)に見られる。これはかすれ気味の施文で、すでに横線文としては退化した最終段階のものといえよう。ただし源六堰遺跡2号住例は頸部内面に横位刷毛目が見られ、口縁上段部の屈曲が強く小規模な形状から、他のS字甕より「型的」に先行すると考えられる。さて、本遺跡出土のS字甕で注目されるのは、胎土の違いである。22・24及び25・26が赤城山南麓に多いと思われる安山岩系鉱物(輝石、石英、白色岩片主体)を多く含み、後者はさらに赤色細礫(酸化鉄鉱物)が多いという特徴が見られる。前後者の違いは素地粘土の差ではないか。これに対し、21・23・85は本遺跡の他器種の主体となるチャート、石英、白色岩片などの細礫を多く含む、見た目にごつごつした印象の胎土である。大量のS字甕が出土し、粘土採掘坑が検出されたことからS字甕生産地との性格が濃厚な伊勢崎市波志江中宿遺跡での胎土分析を参考にすれば、本遺跡の22・24はこれらとほぼ同質と考えられる。S字甕というと、その画一的な形態的特徴から、拠点生産地から分布域内への広範な供給を想定しがちだが、ここに見られる胎土のバラエティからは、複数の生産地からの供給をも想定しておくべきだろう。単口縁の甕類は全形の判明するものがないため、台付甕と平底の判断ができない。ただし、第36図-54~57の脚台部は、東海~南関東地方に類例をもとめられるもので、単口縁台付甕の存在は間違いはない。第40図-28はその想定例だが、別個体の可能性もある。特に、第36図-59の低く大きく開く脚形状は三河~遠江地域における大型台付甕の流れを汲む形態と考えたい。単口縁甕の口縁形態には、丸縁(28~30・33)、外端に面取り(31・38)、肥厚(29・32・39・41)のバラエティが見られるが、積極的な型式差を認めるには不十分であろう。頸部が強く彎曲し

て開き、口唇部が受け口状で小さく上方に尖る形状の40は、北陸北東部系とみてよい。43は胎土と整形技法の近似から同一個体の可能性を示唆したものが、平底か脚台付きかは不明である。口縁形態から受け口の甕ないしはS字甕の模倣品の可能性がある。なお、46は細い棒（直径5mmほど）で口縁外側に刻み列を施し、頸部以下には太い櫛目具による刷毛目整形とみられる口縁片で、挿図掲載したなかでは南関東系を想定できる唯一例である。

高坏は元屋敷系大型高坏（第37図-62・63・70、源六堰1号住・同2号住例と有稜杯部（64）と椀形杯部（66・69）の小型品、及び時期的に後出する柱状脚高坏（92・93）がある。84と85は有稜高坏の底～脚上半部である。椀形杯部小型品は口径が小さく、杯部も浅いことから器台の可能性もあるが、底内面に摩耗痕等は確認できない。源六堰1号住・同2号住例は口唇部内面に明瞭な稜が見られること、底面中央に円形凹みを残す整形など、東海地方西部のオリジナル品に忠実な形態を保っていることから、上江田西田遺跡例よりはやや形式的に先行するものと捉えたい。

器台は小型器台と結合器台（装飾器台）に二分される。小型器台は器受け部が直線的に開く皿状（72・76）、有稜（73・77）、内彎（74・75・77）の変異が認められ、口縁形状では、面取り（72）、つまみ上げ（75）、有段直立（77）が見られる。結合器台（79～83）は受け部底面に鏝が突出する形態で、唯一受け部口縁形状の判明する79を見る限り、段を持たない形態だろう。これは関東地方～北陸北東部に多いとされるが、底面から脚部への貫通孔が見られないことから、「高坏」として製作・機能したとの考え方もできよう。小型器台の脚部形状は、中位からやや屈曲外反して裾部が大きく開く形状で、結合器台は脚全体が大きく開く形状（83）を示す。67は口縁部を外側に付加して外反させる形状で、北陸系の器台と思われる。ただし、胎土の特徴は在地品と変わらない。

埴（110）は1点のみ掲載した。胴部の上半を研

磨、下半を削りで仕上げる扁平球形で、下半は著しい剥離が見られる。器台と対で使用したための剥離痕と推測される。口縁を欠失しているが、強くすぼまる頸部から内彎気味に長く立ち上がる口縁形状と想定される。

有孔鉢（94・95）は、やや内彎する逆円錐形で、平底中央部に一孔を穿つ。ほぼ完形で出土した94は、外面の片側1/3に二次的的被熱変色部と焼成時と思われる黒斑を見るが、口縁近辺での煤付着や被熱痕は見られない。また底部孔の直径は7mmと、この種の有孔鉢としては約1/2ほどの小ささである。内面全体に白色付着物が残っており、「甑」ではなく「濾過器」的機能を想定したい（文献2）。ただし、口縁内面1cm弱の巾で器面が剥離したような痕跡がみられるには、「蓋」使用を想定すべきか。意図的な類例調査の必要がありそうだ。

3. まとめ

上江田西田遺跡・源六堰遺跡から出土した古墳時代前期の土器の特徴について概要を述べてきたが、そこから判明した時期的位置づけや、今後の検討課題を提示したい。

まず編年上の位置づけだが、古墳前期のなかでも中頃、群馬県を地域毎に分割した編年を作成した深澤案に従えば「渡良瀬川流域」の3期に相当しよう。深澤は3期のなかで、重殿遺跡4住例を古段階、五反田遺跡2住例を中段階に位置づけているが（文献3）、上江田西田遺跡出土土器群は中段階、源六堰遺跡1・2号住出土土器は古段階に位置づけたい。これは、尾張地域での編年ならば「廻間Ⅲ式」の範囲に含まれるものと解され、赤塚氏の暦年代観（文献4）に従うならば、3世紀後半代のなかで理解すべきであろう。暦年代比定は、残念ながら東日本での年代測定データや暦年代資料が不十分なために、近畿、東海西部、北陸といった地域編年との並行関係から類推するしかないのが現状だが、現在における西日本各地での暦年代データの成果（文献5）から、これまで支配的であった群馬の古墳前期イコー

ル4世紀との認識は、少なくとも50年は遡らせて考える必要があるようだ。

群馬県の古式土師器として「石田川式」がよく知られている。これは、昭和27年に石田川河川改修工事に伴って採集調査された資料を基に松島栄治氏によって様式設定がなされた(文献6)。そこでは様式の示標をA区1号住出土のI群土器で代表させている。その内容について現行的な捉え方をするならば、伊勢型二重口縁壺、S字甕、(S字)鉢、小型器台、有稜大型高坏、小型丸底埴、直口壺の組合せとなる。言うまでもなく、これらの土器型式と器種組成は「石田川式」認定概念の中核ではあるが、時空を限定する「様式」の認定条件を提示している訳ではないと解する。二重口縁壺が「伊勢型」でなく「茶白山形」でも良いと思うし、『石田川』に図示されたように小型器台や鉢の口縁がS字状に屈曲する型式である必要もないと思う。それは調査された一括出土土器のセリエーションから石田川式の構成型式を吟味、抽出すれば自ずと様式概念とその範囲が明確になるのではないか。ただし、問題はそれほど簡単ではない。弥生時代末～古墳時代前期における遠距離多地域間の土器移動の実態は、「東海西部系」土器の移動あるいはその影響で理解しようとしてきた「石田川」式を翻弄しているといつてよい。本遺跡出土土器の特徴でも述べたように、「石田川」式の象徴的型式でもあるS字甕は、少なくとも遺跡単位では単一相ではなく、単口縁台付甕や平底甕と共存しており、これらの故地は現在判明している限り、東海地方西部はもとより東海東部(遠江・駿河・相模)、南関東(武蔵・総)、北陸(能登・越)に求められるものが多い。ましてや平底で無文の甕ならば、在地の樽式や吉ヶ谷・赤井戸式などの変容型式も考慮する必要があるのだ。このような現状で群馬の古墳前期土器を「石田川式」概念で包括あるいは代表させることは、歴史の限定者としての様式(型式)として意味をなさない。群馬県東南部の低地帯には古墳前期の遺跡が非常な密度で分布しているが、たとえ隣接する遺跡であっても異なる系統の

土器型式が全く異なる組合せであったり、構成比率であったりする。本遺跡の時期と位置づけた古墳前期中葉段階は特にその傾向が著しい。太田市の東接地域、渡良瀬川を渡った佐野市松山・エグロ遺跡ではS字甕ではなく単口縁平底甕、台付甕が主体となり、なおかつ遺跡単位で甕型式の構成比率が異なることが指摘されている(文献7)。複数系譜の異なる土器群が共存することで、遺跡毎、一括遺物毎といった階層の異なるレベルでモザイク状態を呈しているのが実態といえるだろう。このような複雑な型式群の組合せが予想される中で、改めて「石田川式」といえる有意な様式設定を図る必要がある。よしんば、それが型式なり様式設定に至らなくとも、複雑なモザイク模様のひとつひとつを解きほぐす作業は欠かすことができまい。(大木)

参考引用文献

- 1) 1988 増田 修『西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡発掘調査報告書』東京電力株式会社
- 2) 1997 大木神一郎「弥生時代の遺構と遺物」『南蛇井増光寺遺跡V』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか
- 3) 1998 深澤敦仁「上野における土器の交流と画期」『庄内式土器研究』16
- 4) 2006 赤塚次郎「東海系土器と東日本の墳丘墓」『古式土師器の年代学』財団法人大阪府文化財センター
- 5) 2006 『古式土師器の年代学』財団法人大阪府文化財センター
- 6) 1968 尾崎喜左雄 今井新次 松島栄治『石田川』
- 7) 2003 仲山英樹「栃木県佐野市松山・エグロ遺跡の検討」『研究紀要』11財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

VII まとめ

上江田西田遺跡と源六堰遺跡の発掘調査は、氾濫対策として計画された石田川河川改修工事に伴うものである。遺跡地は石田川を主とする河川侵食で形成された湿地と浅谷、島状に点在する微高地といった景観を呈しており、かなり広範囲に氾濫堆積物が覆っている。上江田西田遺跡、源六堰遺跡のいずれからも、縄文時代後期の遺物（称名寺式土器、堀之内式土器）が出土しており、谷地形を埋積した黒泥土に覆われて柄鏡形と思われる敷石住居跡も検出されている。上江田西田遺跡では、中期以前の縄文土器がほとんど見られないことから、後期初頭になってこの地点に集落が形成されたと考えてよい。当時の地形環境は台地部と谷部が明瞭で、検出された集落地点は比較的乾燥状態であったと考えたい。しかし、その後は河道が変遷することで度重なる台地部の侵食や氾濫層の堆積があり、泥炭土の堆積状況からも判明するように、安定した居住環境ではなくなったと理解されよう。源六堰遺跡で検出された古墳時代前期の集落は、ようやくこの時期（3世紀後半代）になってこの地点の居住環境が安定したことを物語る。

この自然環境の変遷を明らかにするために埋没谷の堆積物について、テフラ、放射性炭素年代測定（ β 線法）、花粉分析、種実分析、植物珪酸体分析を株式会社古環境研究所に委託して行った。その結果、後期縄文土器と石器を多く含む黒泥層の最上位にAs-C（浅間C軽石）の堆積があり、その後堆積するシルト質黒灰色土（氾濫堆積物と思われる）層中でHr-FA（榛名二ツ岳渋川テフラ）の降灰層が見られ、その上層に堆積する黒色土（層厚1cm）をAs-B（浅間B軽石）が覆っていることが判明した。このことから、縄文時代後期以降のある段階から3世紀ころまで黒泥土の堆積する湿地で、As-C降下以降はHr-FAを鋤込んだシルト質の氾濫堆積層を耕土とした水田の可能性があり、上位にはAs-Bで覆われた水田土壌が存在したと理解できる。埋没谷に堆

積する黒泥土最下層から出土した自然木を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、14C年代は $7,610 \pm 60$ （ $\delta^{13}C - 24.3\%$ 、補正14C年代： $7,620 \pm 60$ ）、1994年時点での樹木年輪年代補正による暦年代はBC6,430+30/-35との測定値が得られた。この数値から想定すれば、上江田西田遺跡で住居に隣接して検出された埋没谷は、縄文後期集落が進出した時点である程度埋積が進んでいた状態と考えられるが、谷の下半層を占める黒泥層堆積初期段階では花粉検出量が非常に少ないことから、流水域か乾湿を頻繁に繰り返す環境と推測されている。降下年代が3世紀後半代と推測されるAs-Cと6世紀前葉とされるHr-FAの混在する黒泥土層最上部～シルト質黒灰色土では、カヤツリグサ科等の草本花粉とともにイネ属型花粉やイネの珪酸体が多く検出されていることから、水田として利用された可能性が高いと判断された。この時期の周辺環境についても、コナギ・オモダカ科・イトトリゲモ・ホタルイ属などの種実同定結果から、水湿地景観が想定される。一方、As-Bに覆われた黒色土ではイネ科花粉や珪酸体は見られず、カヤツリグサ科が繁茂する環境と想定されており、少なくともAs-B降下直前には水田ではなかったと推測された。

以上の環境復元を主眼とした科学分析結果から、縄文時代には小河川による侵食と埋積が進む地点に集落が進出し、3世紀後半代に遡りうる古墳時代前期に開始された水田経営が古墳時代後期頃まで続いたと想定できよう。この推測は、石田川流域での遺跡分布状況とも合致するもので、大間々扇状地扇端から流下する小河川による侵食谷の形成、谷の埋積、湿地形成という一連の地形変遷がその大きな要因であったとしてよいだろう。特に古墳前期の集団によるほとんど手つかずであった湿地の水田化が、その後続く地域社会形成の端緒となったと理解できる好例と考えている。

写真図版



1号住居全景



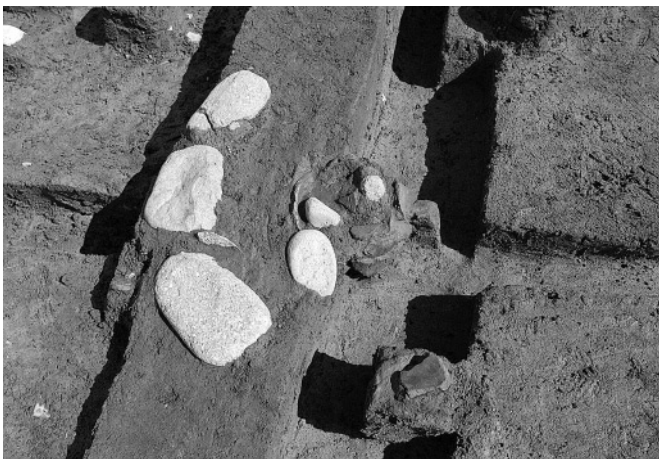
1号住居全景



2号住居全景



2号住居炉全景



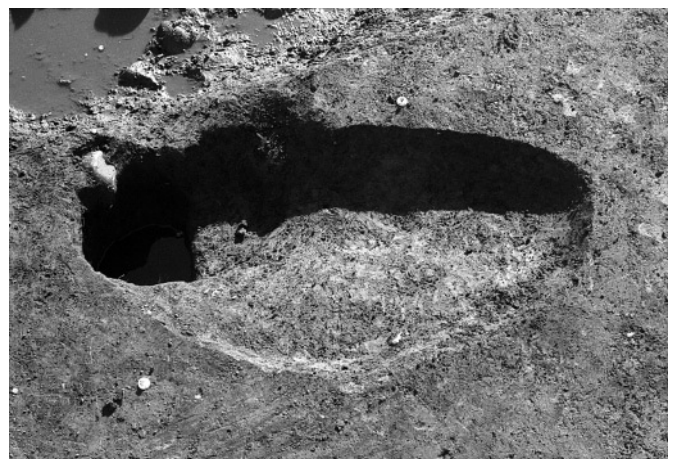
2号住居炉全景



1号土坑全景



2号土坑全景



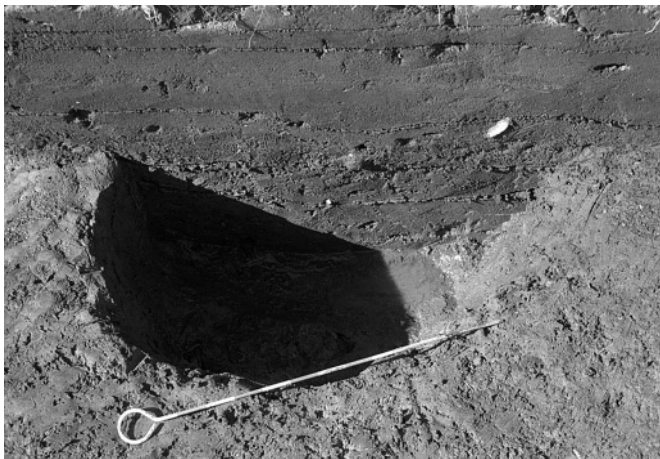
3号土坑全景



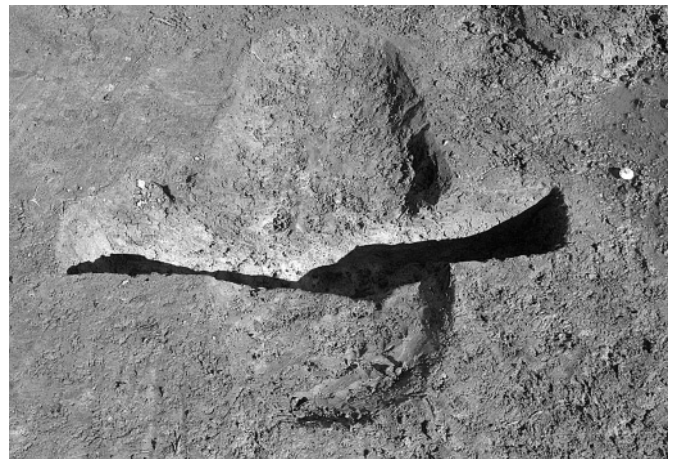
4号土坑遺物出土状態



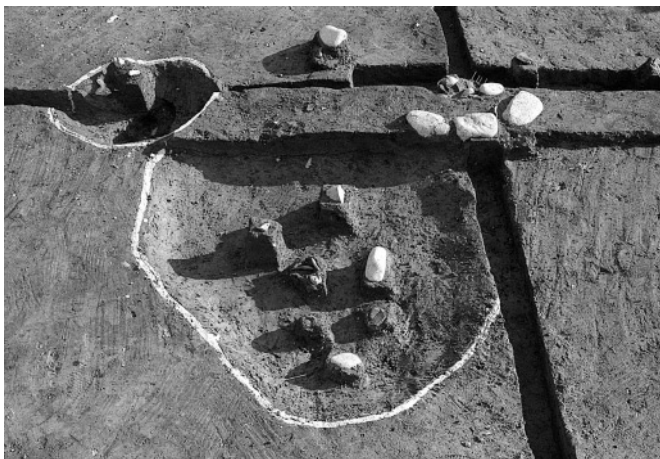
4号土坑全景



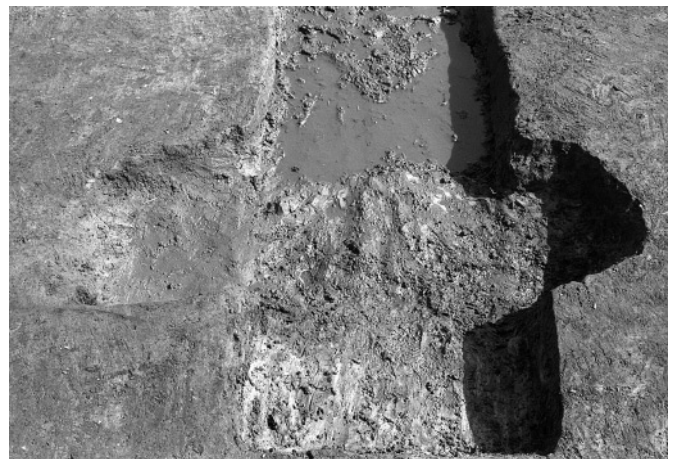
5号土坑全景



6号土坑全景



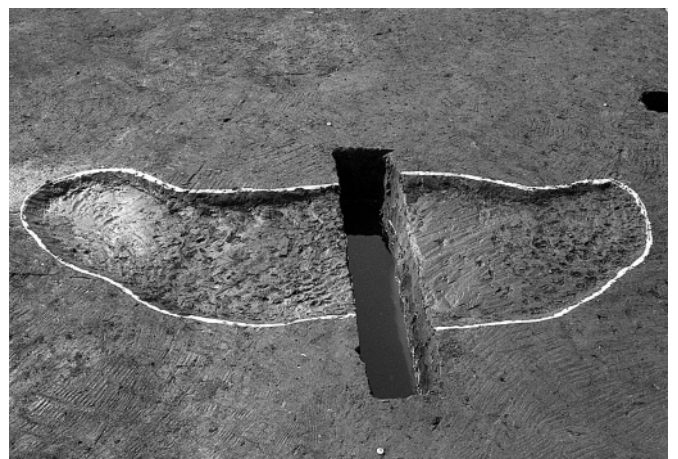
7号土坑全景



8・9号土坑全景



10号土坑全景



11号土坑全景



12号土坑全景



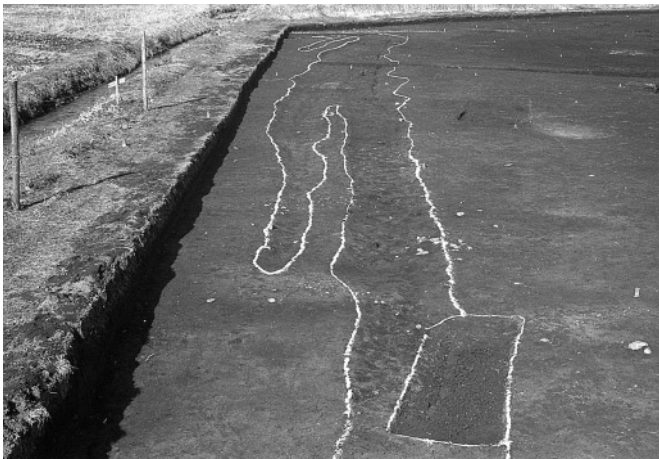
13号土坑全景



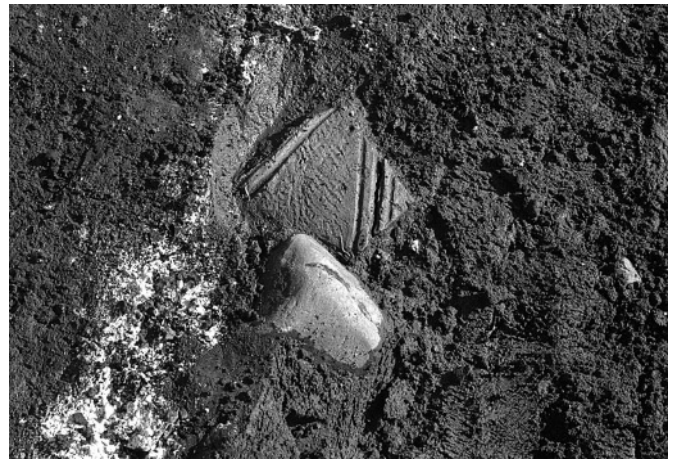
14号土坑全景



1・2号溝全景



1・2号溝全景



1・2号溝遺物出土状態



1・2号溝遺物出土状態



3号溝全景



4号溝杭



4号溝全景



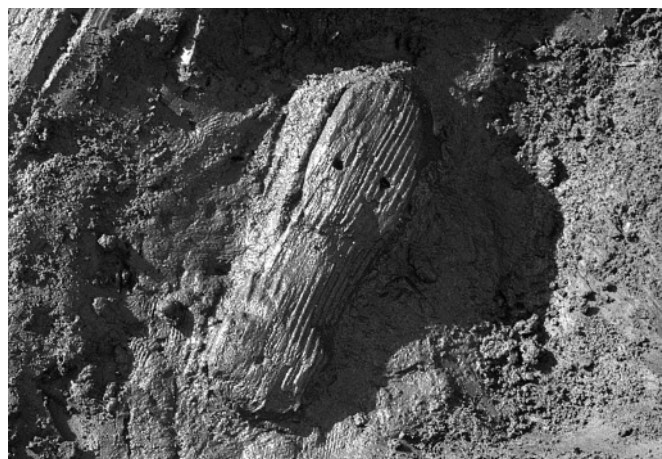
4号溝杭



4号溝全景



5号溝全景



5号溝遺物出土状態



6号溝全景



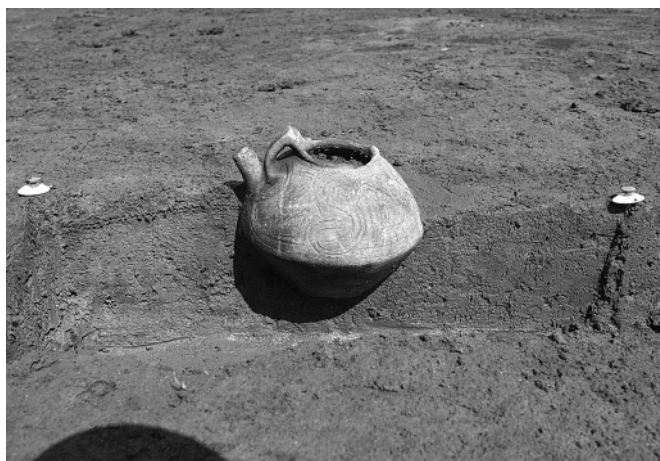
G-9 グリッド遺物出土状態



基本土層



J-8 グリッド遺物出土状態



J-8 グリッド遺物出土状態



1 (1住)



2 (1住)



3 (1住)



4 (1住)



5 (1住)



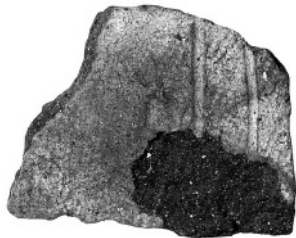
6 (1住)



7 (1住)



8 (1住)



10 (1住)



11 (1住)



12 (1住)



13 (1住)



14 (1住)



9 (1住)



15 (1住)



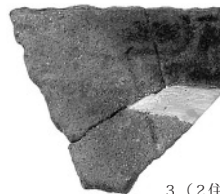
16 (1住)



1 (2住)



2 (2住)



3 (2住)



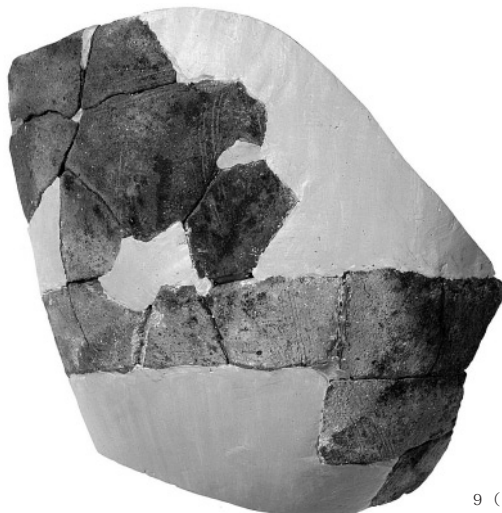
4 (2住)



5 (2住)



6 (2住)



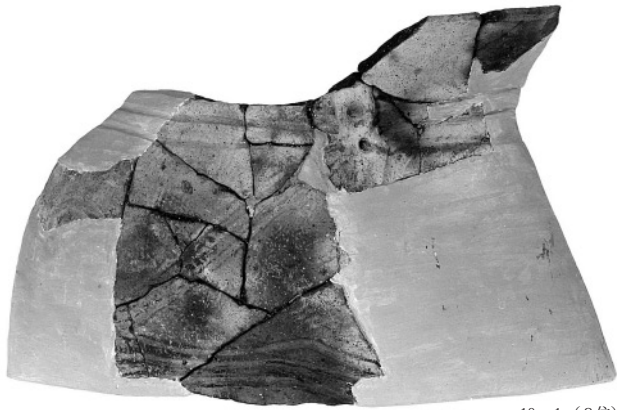
9 (2住)



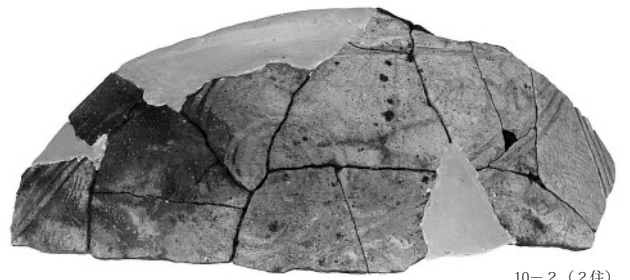
7 (2住)



8 (2住)



10-1 (2住)



10-2 (2住)



10-3 (2住)



1 (1土)



2 (1土)



3 (1土)



4 (1土)



1 (2土)



2 (2土)



1 (3土)



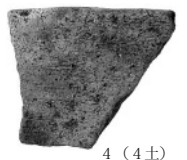
5 (4土)



2 (4土)



3 (4土)



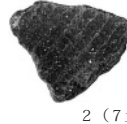
4 (4土)



1 (4土)



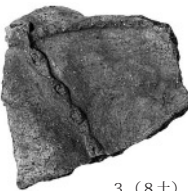
1 (7土)



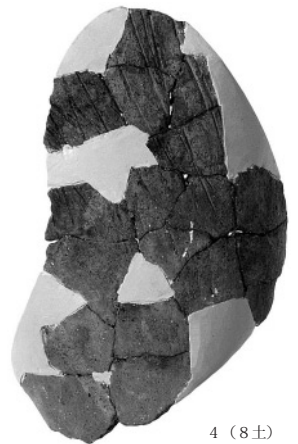
2 (7土)



2 (8土)



3 (8土)



4 (8土)



1 (8土)



5 (8土)

出土遺物(2)



1 (9土)



1 (13土)



1 (14土)



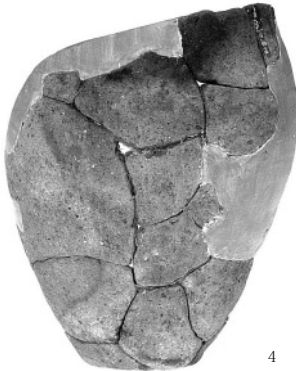
3



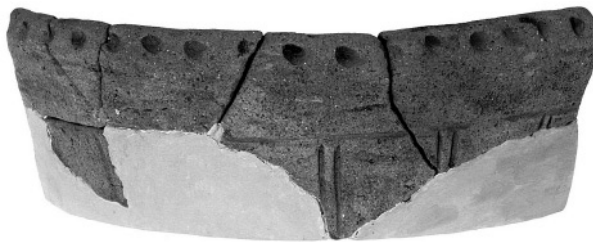
1



2



4



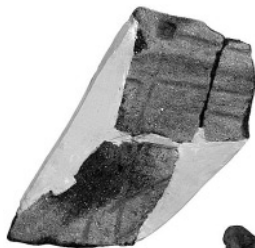
5



7



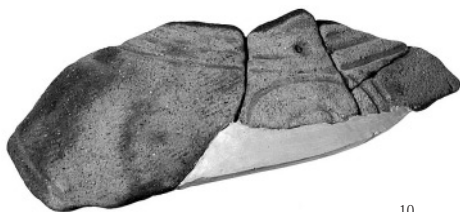
6



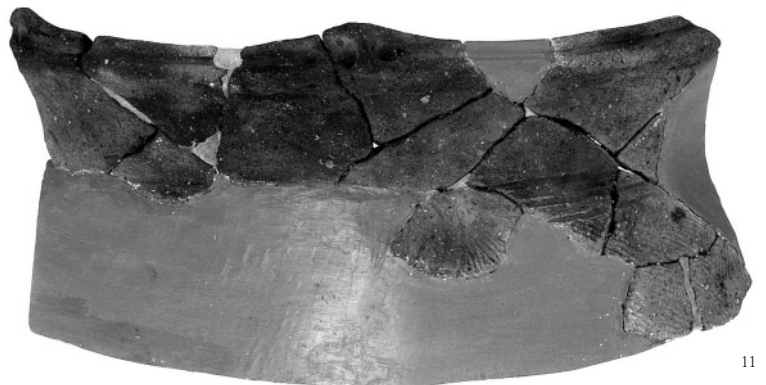
8



9



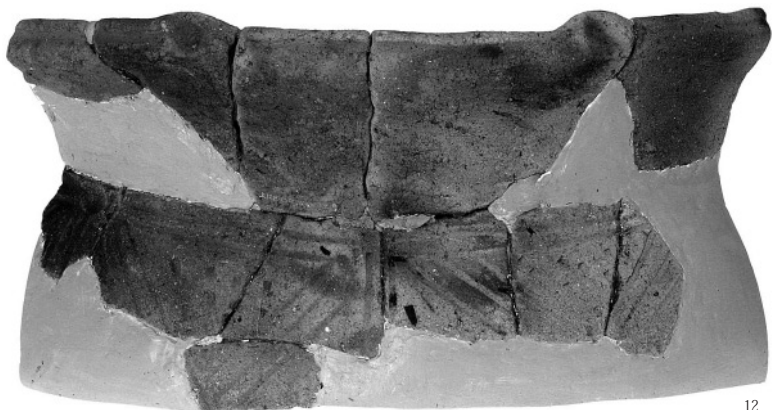
10



11



14



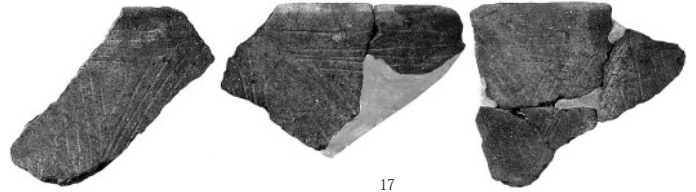
12



13



16



17



15



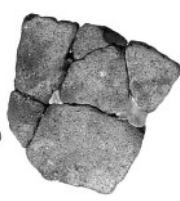
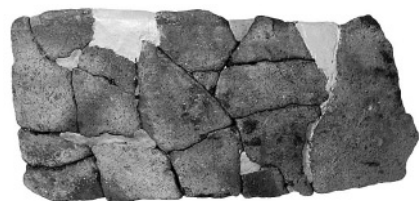
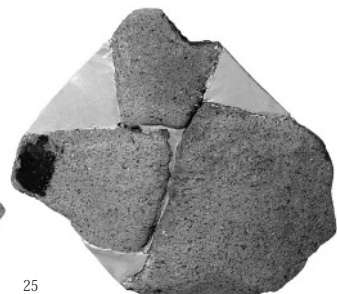
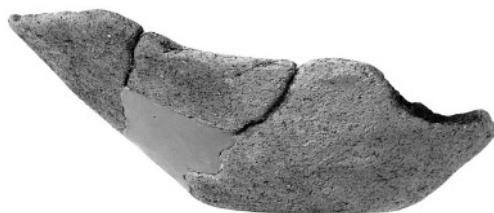
19



18



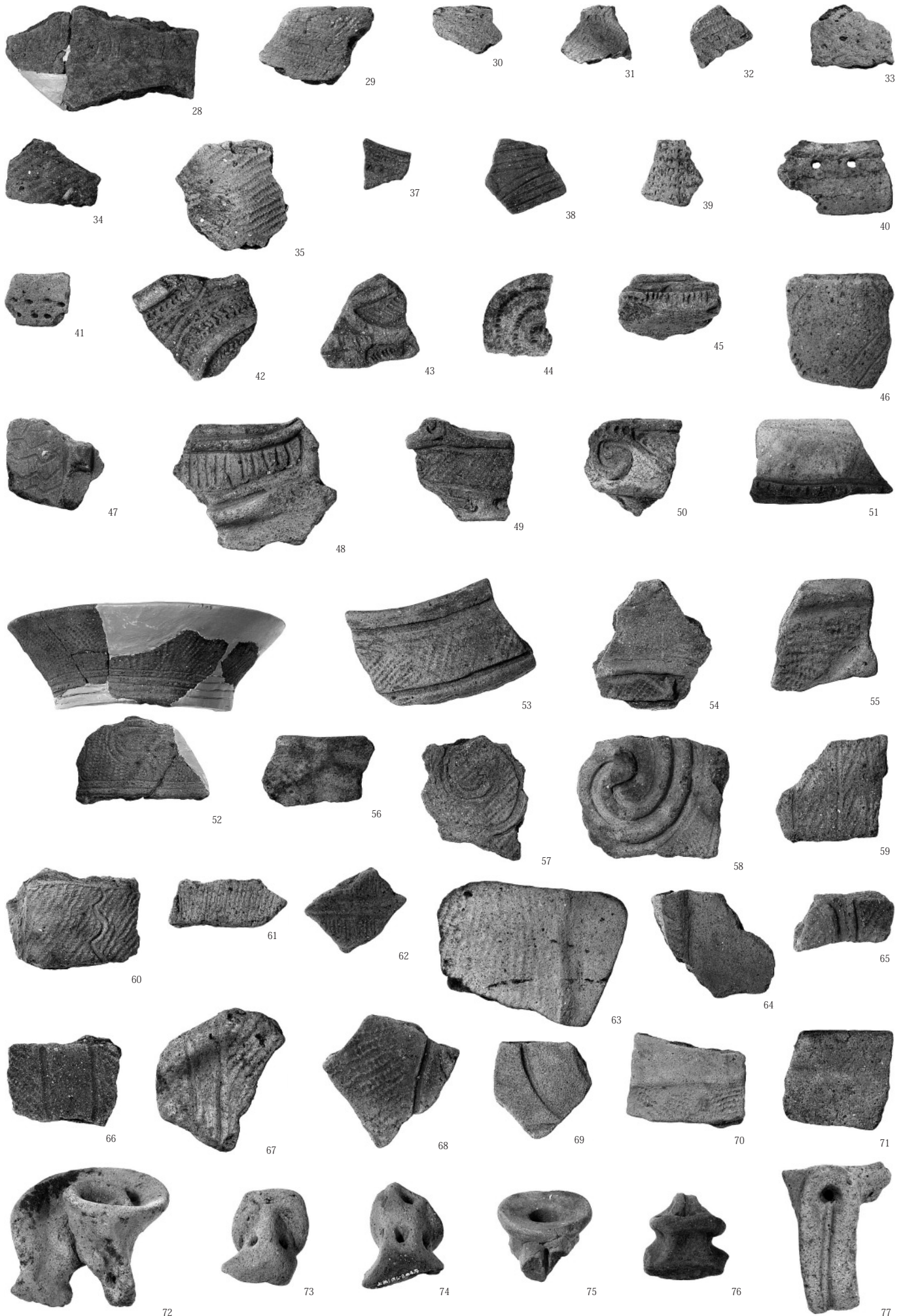
20



26



27



出土遺物(6)



78



79



80



81



83



82



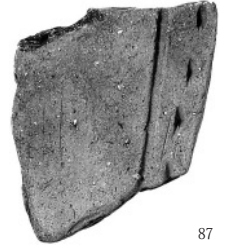
84



85



86



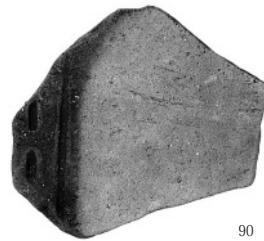
87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



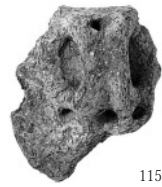
112



113



114



115



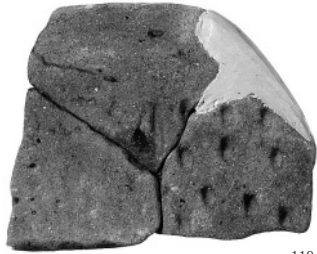
116



117



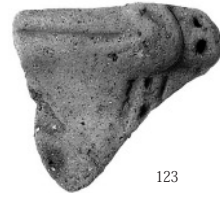
118



119



120



123



124



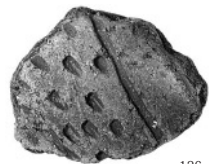
121



122



125



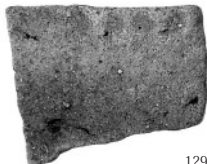
126



127



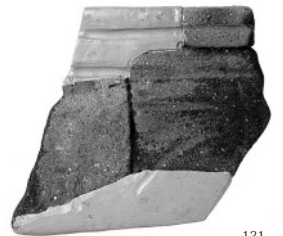
128



129



130



131



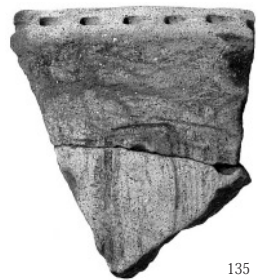
132



133



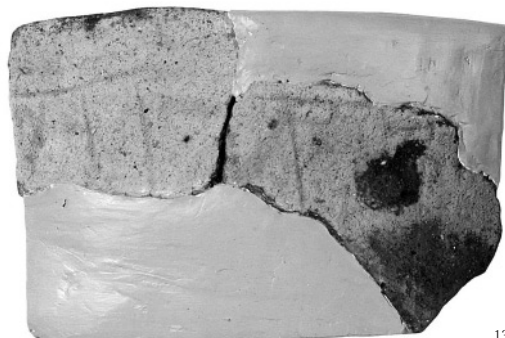
134



135



136



137



138



139



140



142



141



145



143



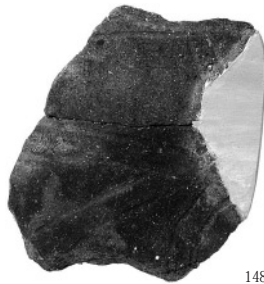
144



146



147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



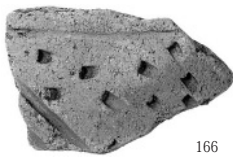
163



164



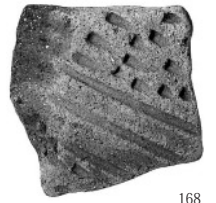
165



166



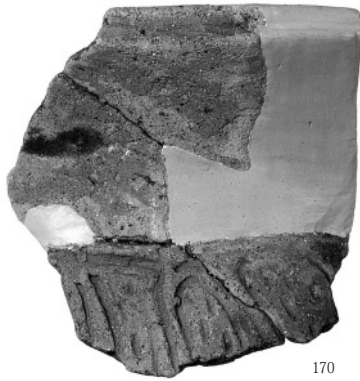
167



168



169



170



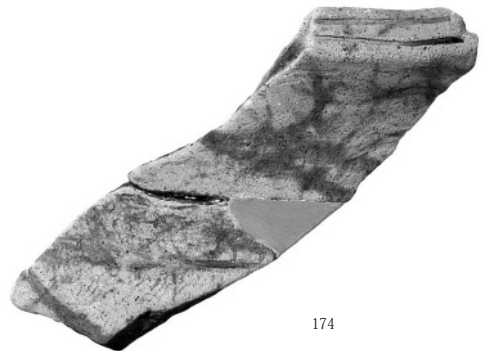
171



172



173



174



175



176



177



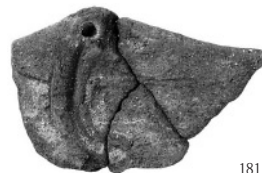
178



179



180



181



182



183



184



185



186



187



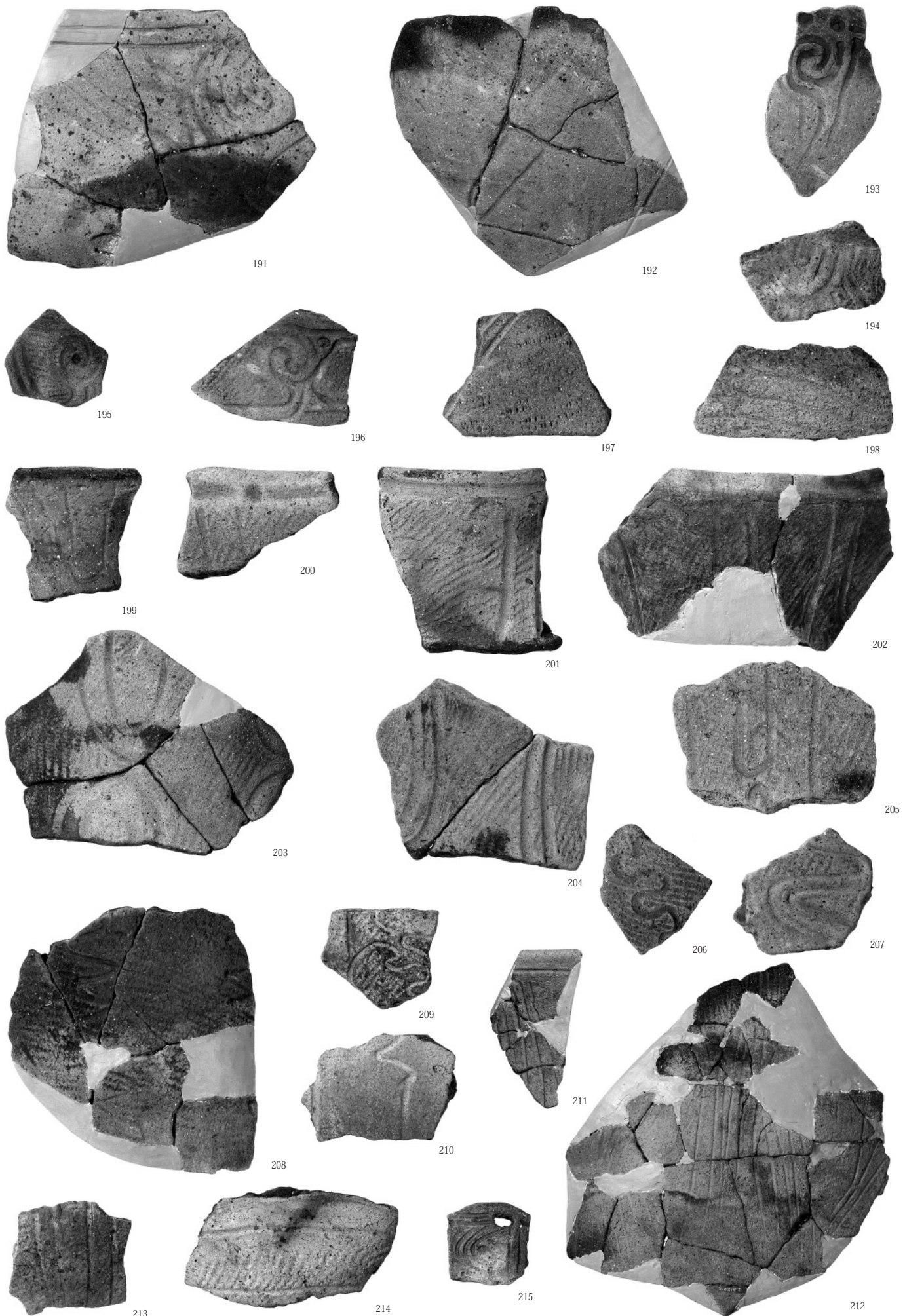
188



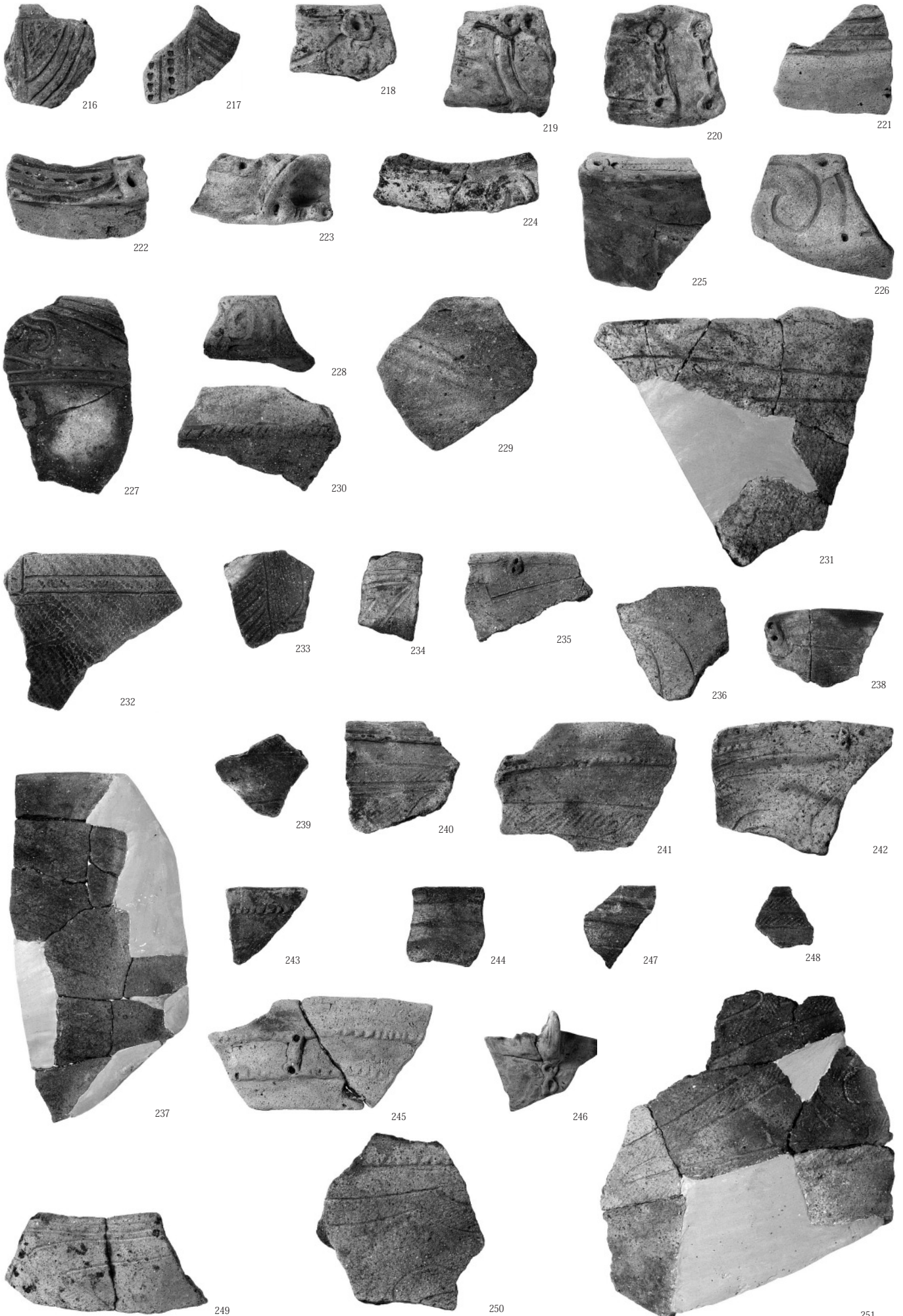
189



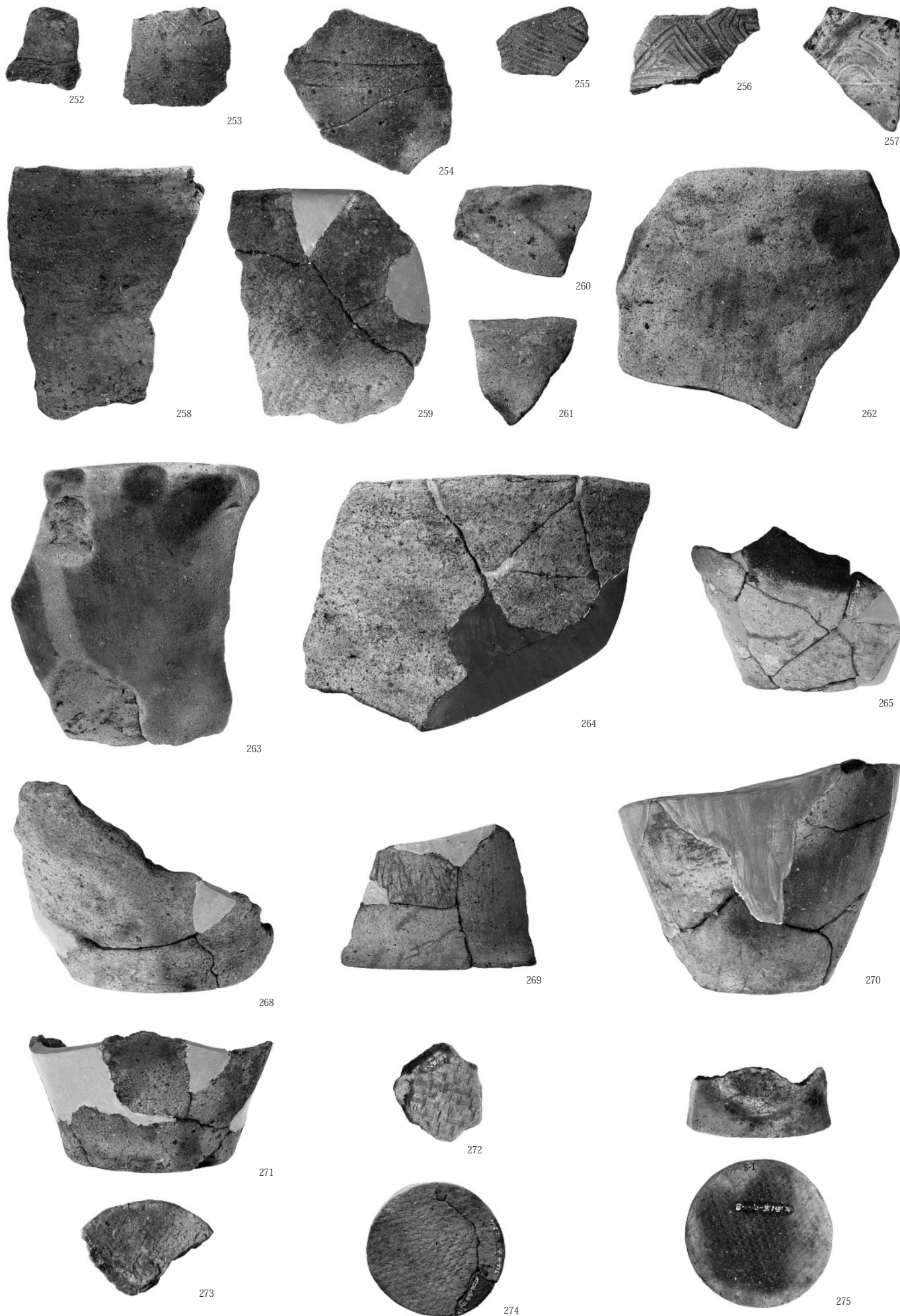
190

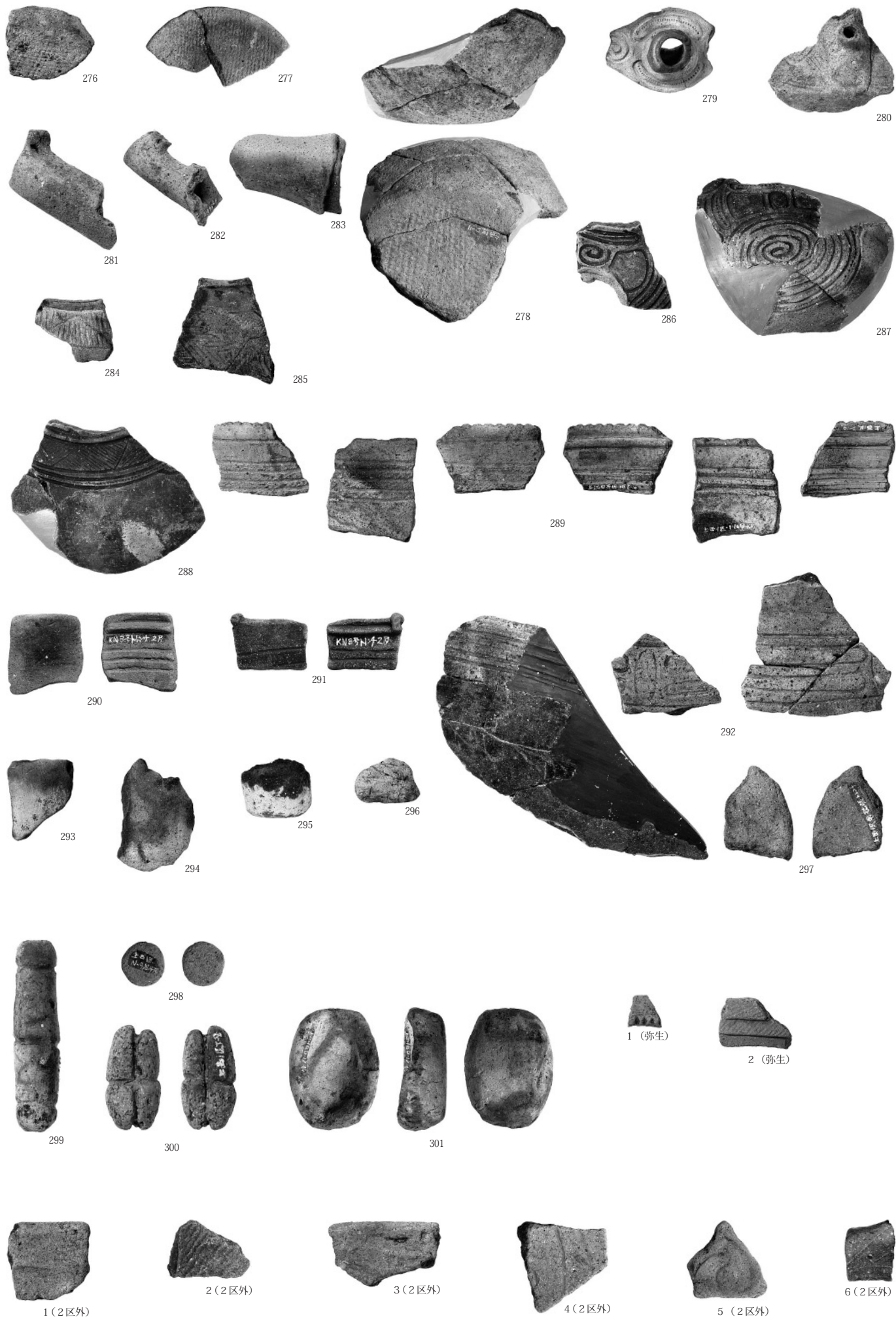


出土遺物(11)

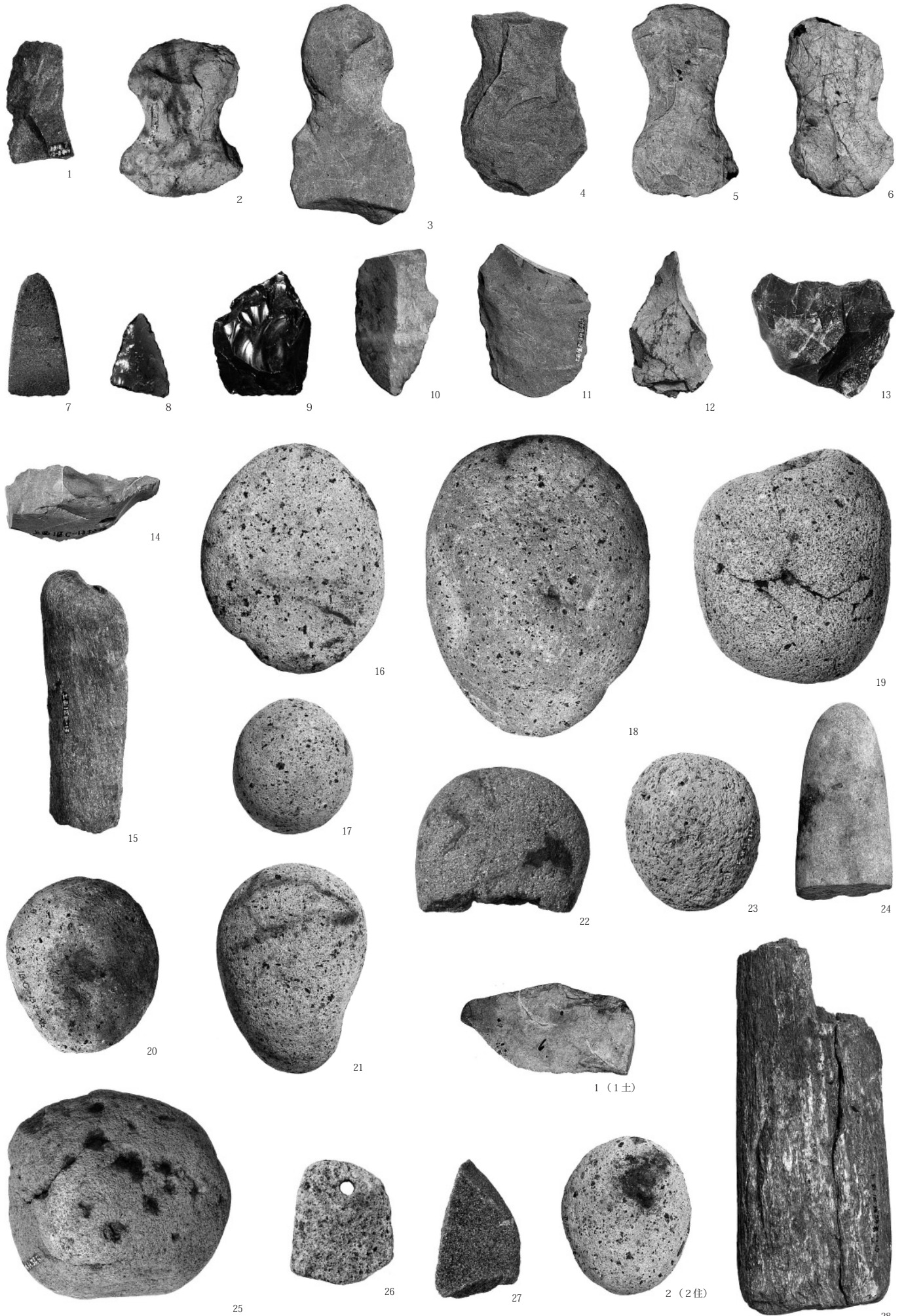


出土遺物(12)

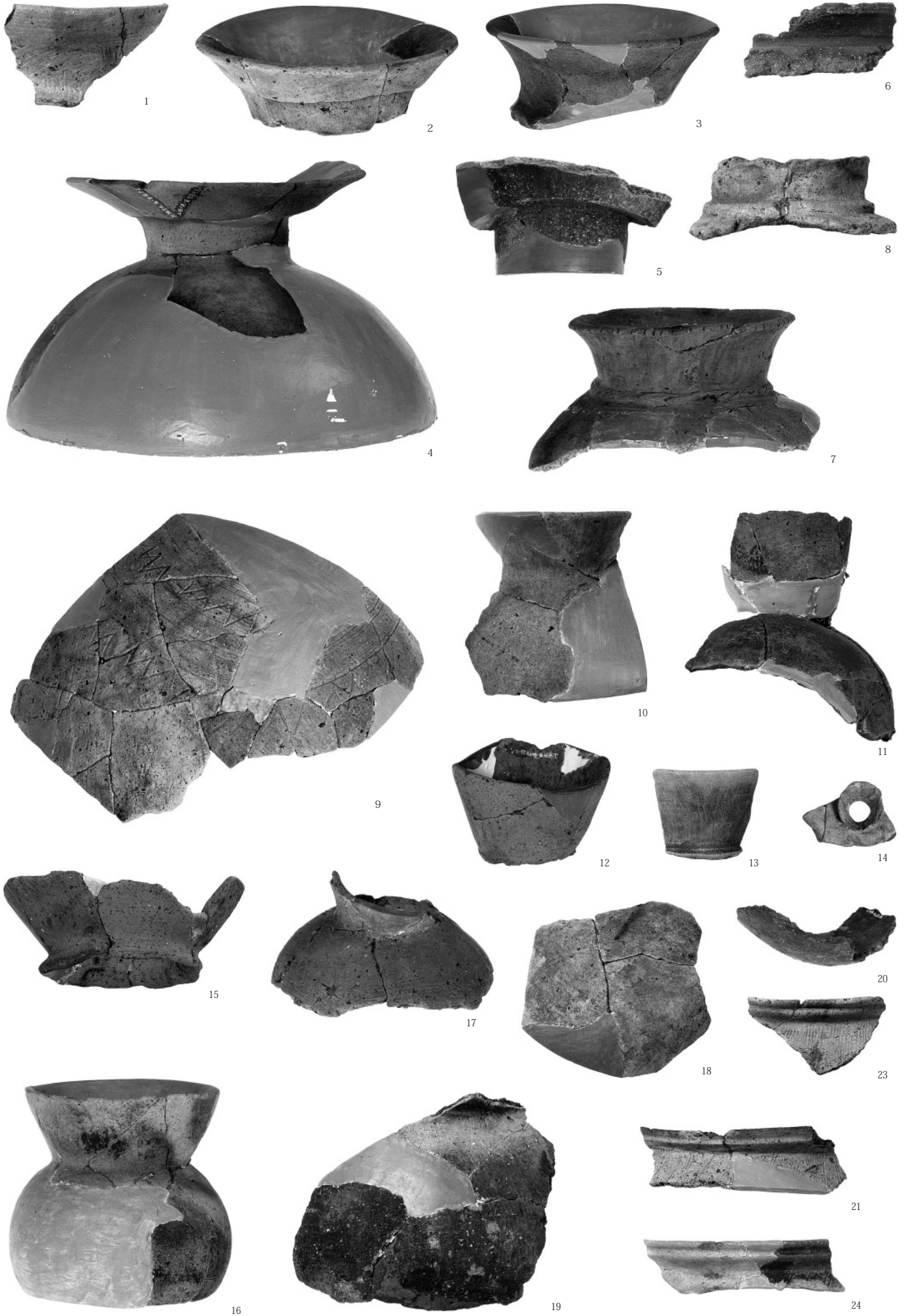




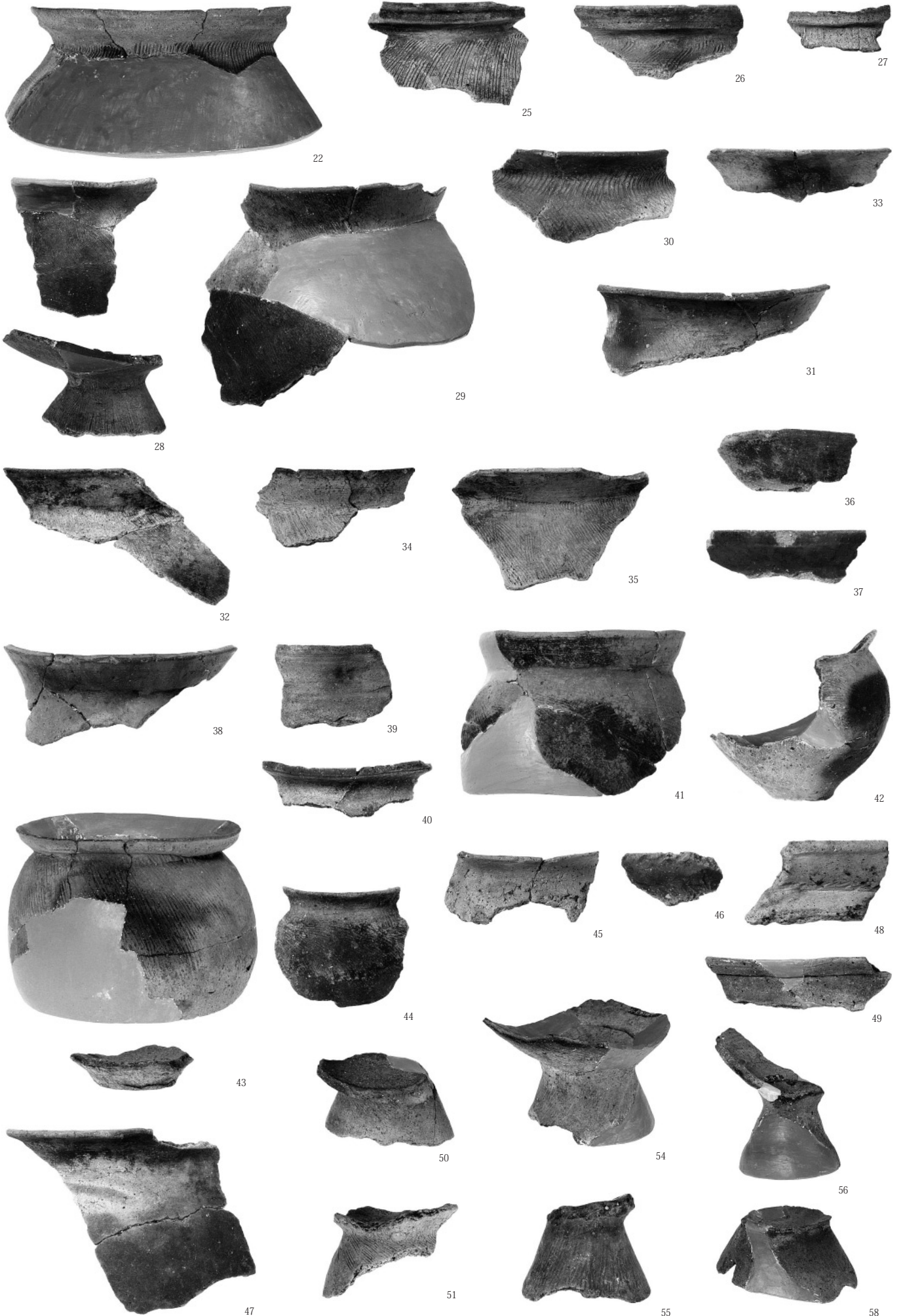
出土遺物(14)



出土遺物(15)



出土遺物(16)





52



57



59



60



64



53



61



62



63



65



66



67



71



68



69



70



72



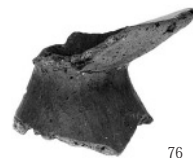
73



74



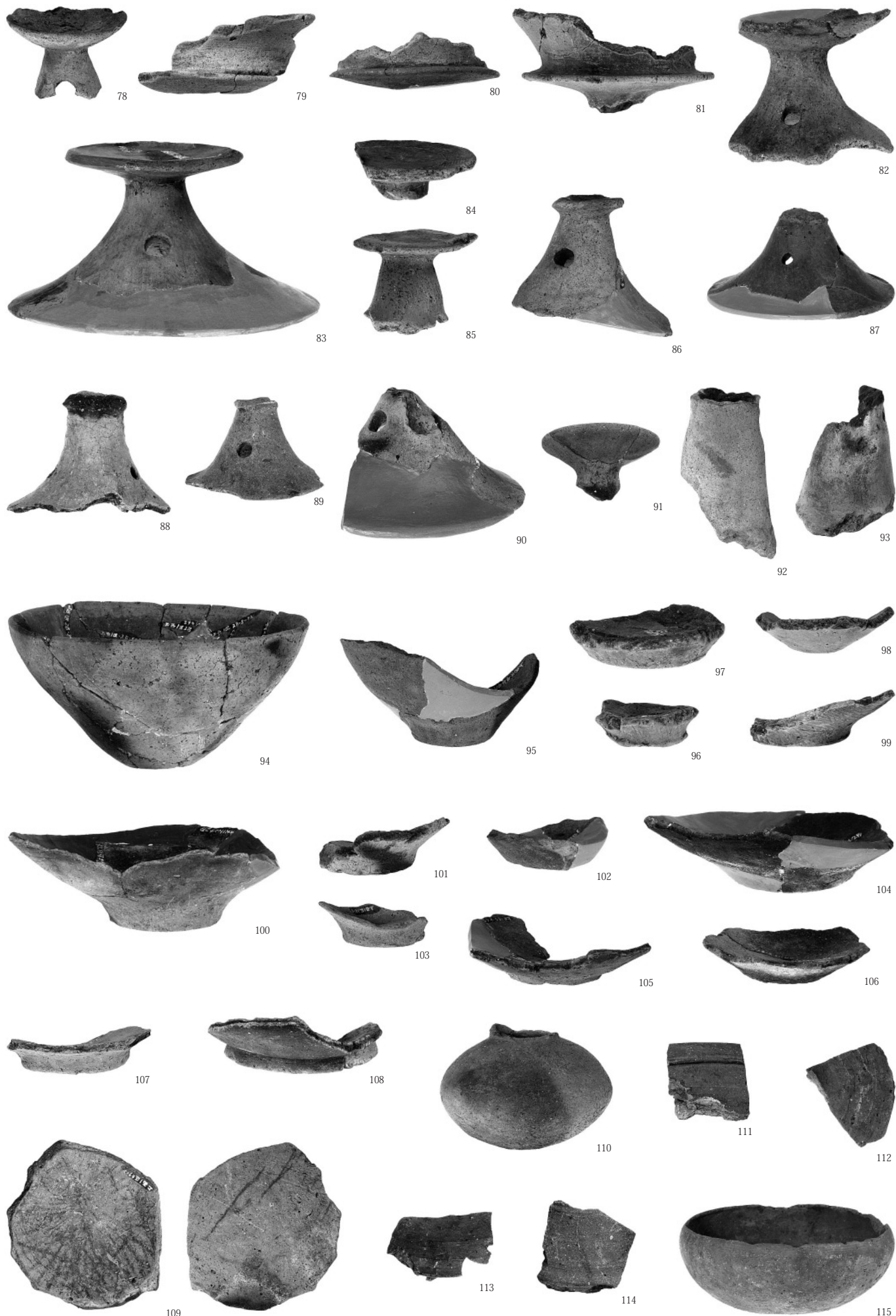
75



76



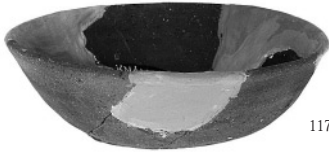
77



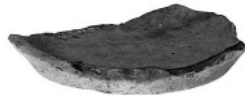
出土遺物(19)



116



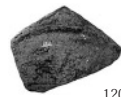
117



118



119



120



121



122



123



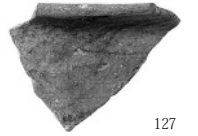
124



125



126



127



129



136



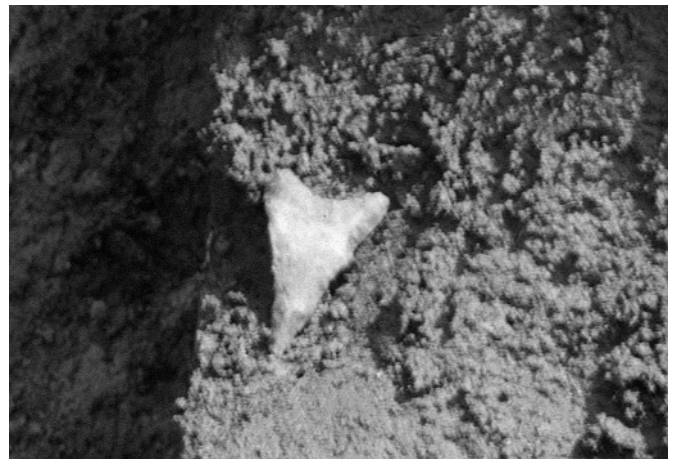
1号住居全景



1号住居掘り方全景



1号住居内1号土坑全景



1号住居内1号土坑遺物出土状態



1号住居床直土器



2号住居全景



2号住居全景



2号住居掘り方全景



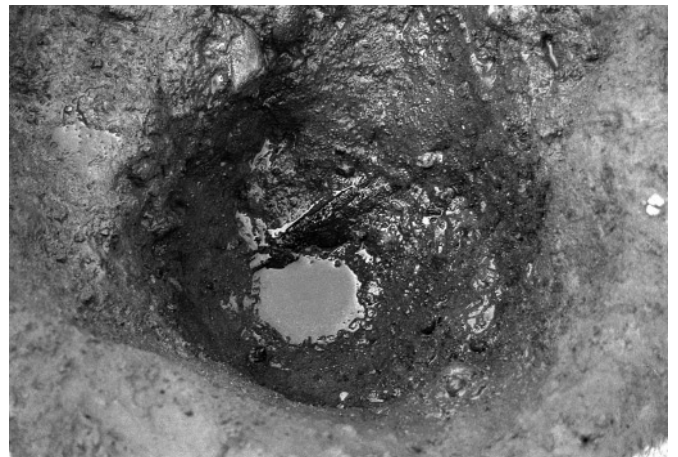
2号住居炉掘り方全景



2号住居南東柱穴内礎板



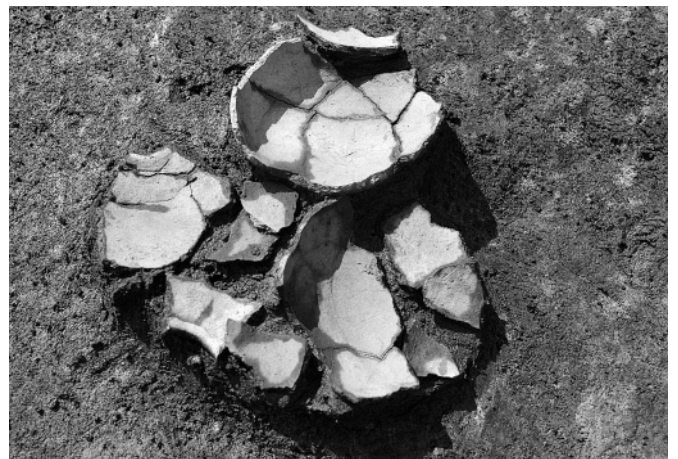
2号住居南東柱穴内礎板



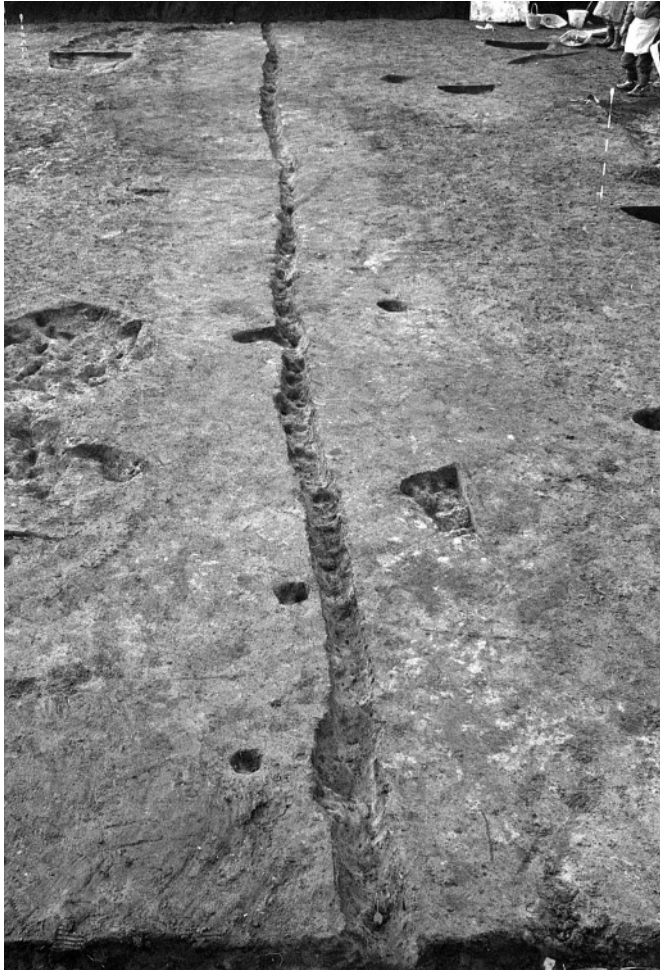
2号住居北東柱穴の柱材



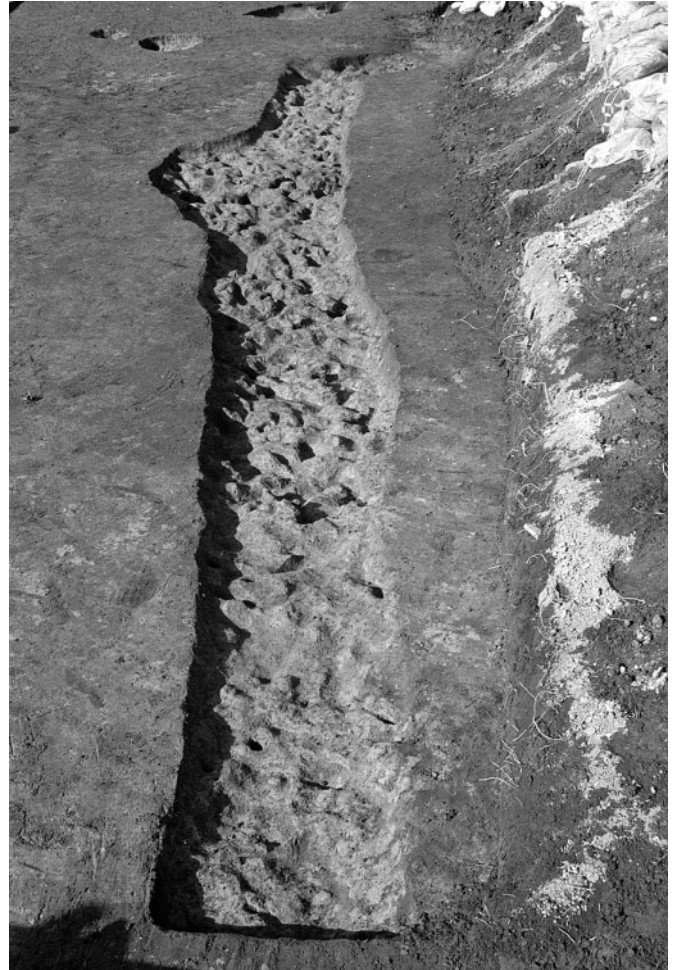
2号住居遺物出土状態



2号住居遺物出土状態



1号溝全景



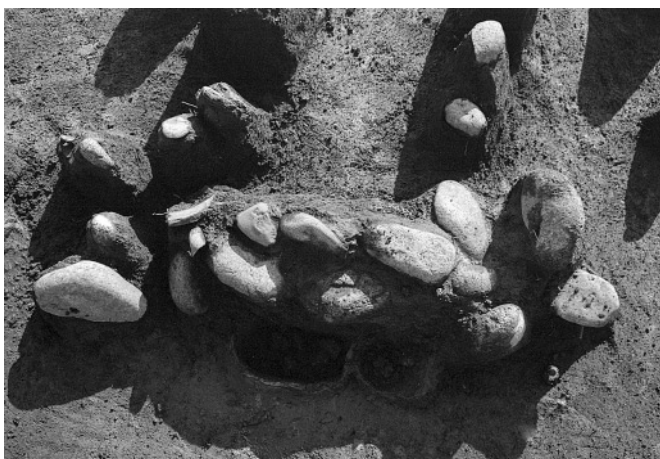
2号溝全景



2号包含層



2号包含層遺物出土状態



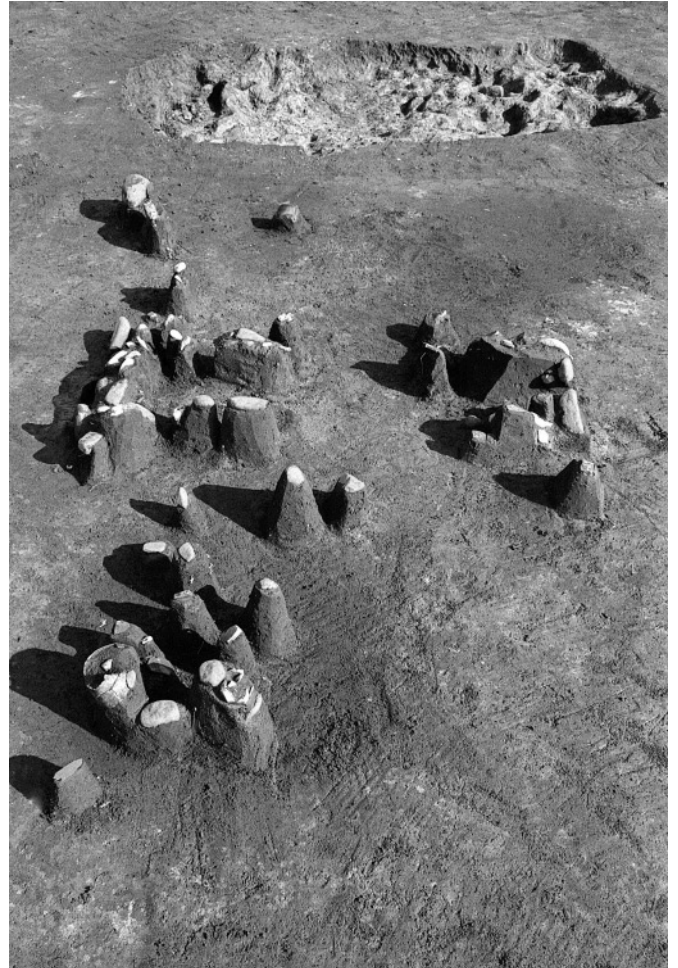
2号包含層遺物出土状態



2号包含層遺物出土状態



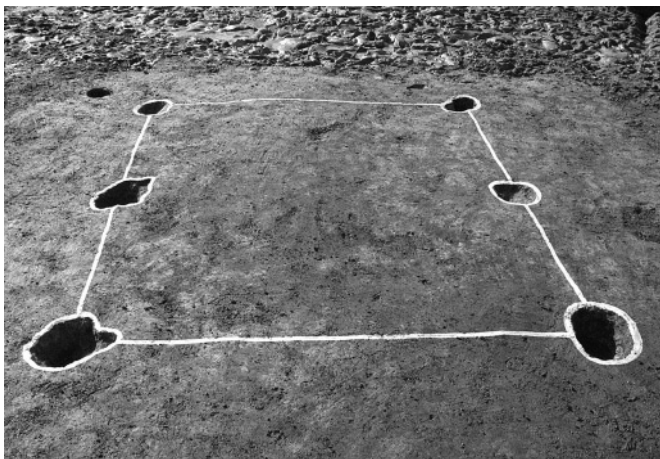
2号包含層遺物出土狀態



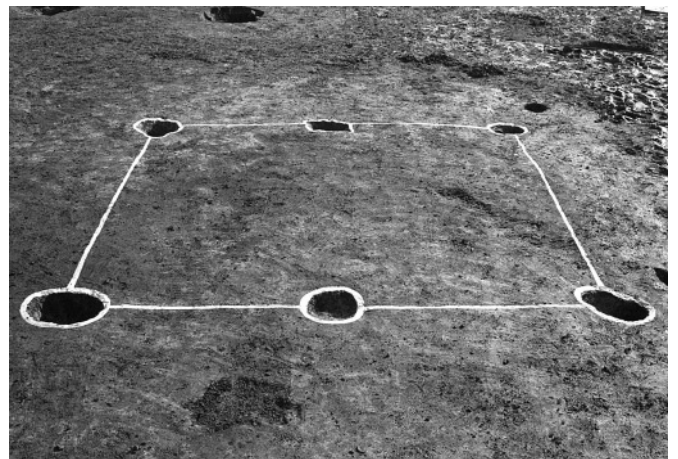
2号包含層遺物出土狀態



1号包含層



1号掘立柱建物全景



1号掘立柱建物全景



B区全景



西側壁近接



遠景



A区北側全景



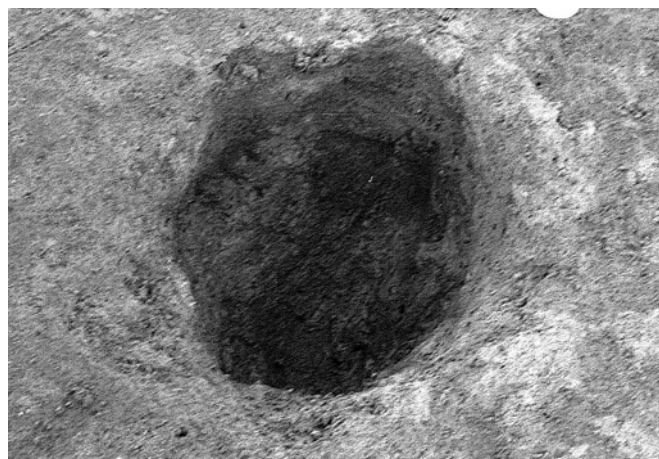
B区全景



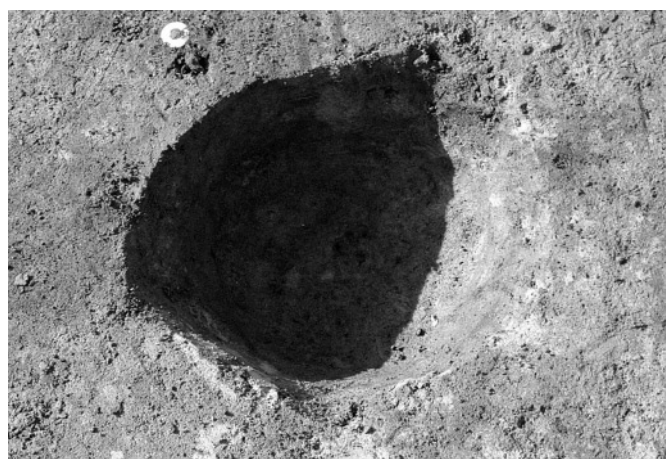
1号土坑全景



2号土坑全景



3号土坑全景



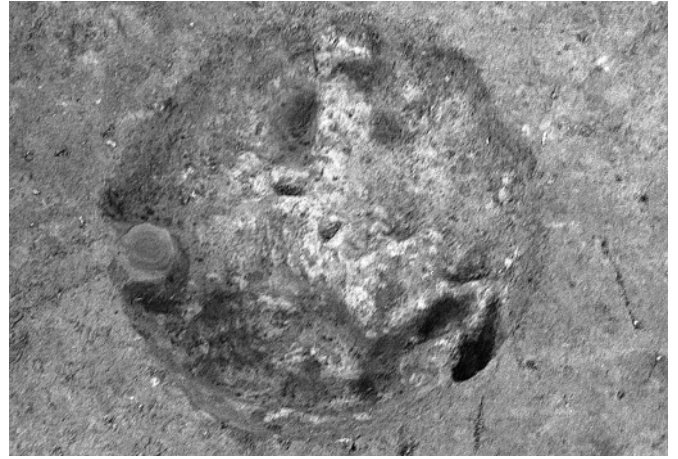
4号土坑全景



5号土坑全景



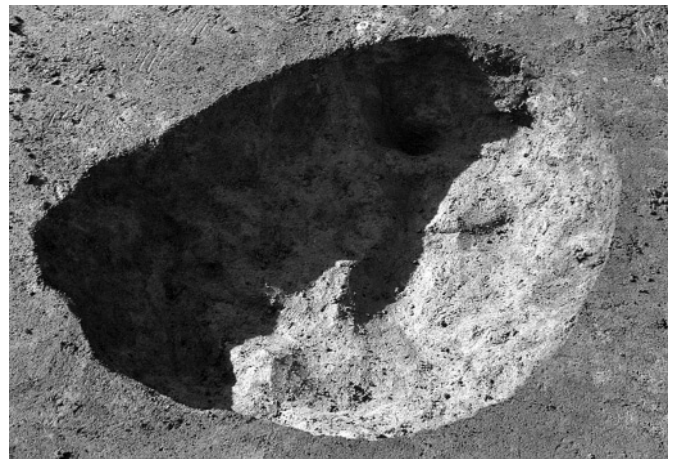
6号土坑全景



7号土坑全景



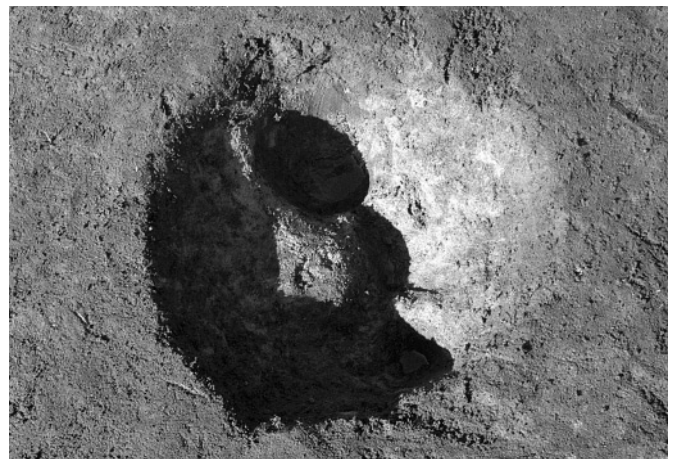
8号土坑全景



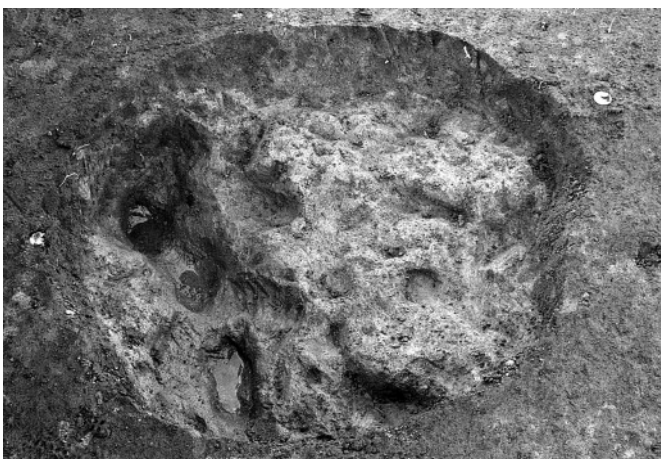
9号土坑全景



10号土坑全景



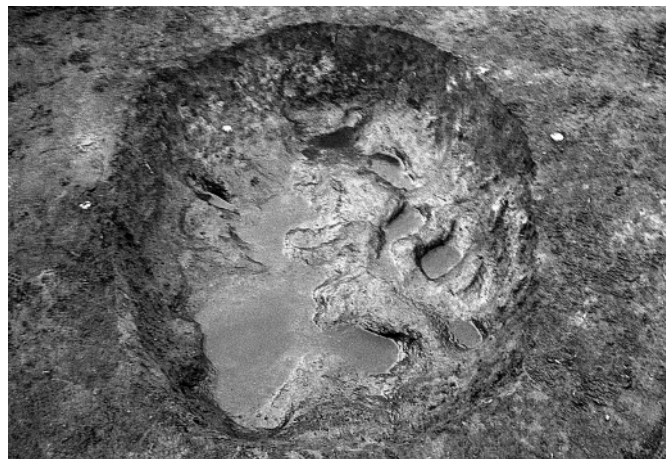
11号土坑全景



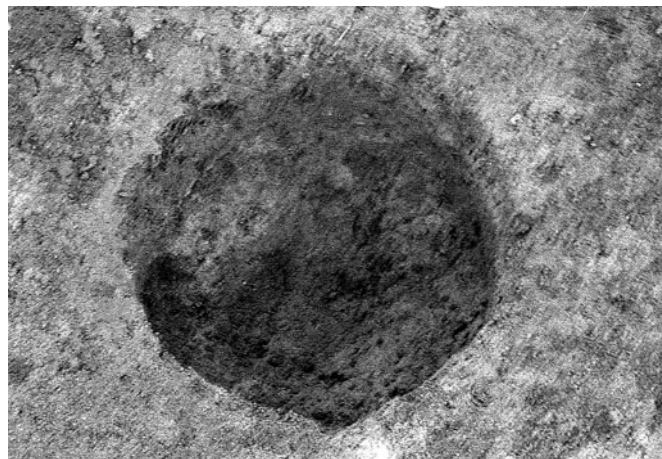
12号土坑全景



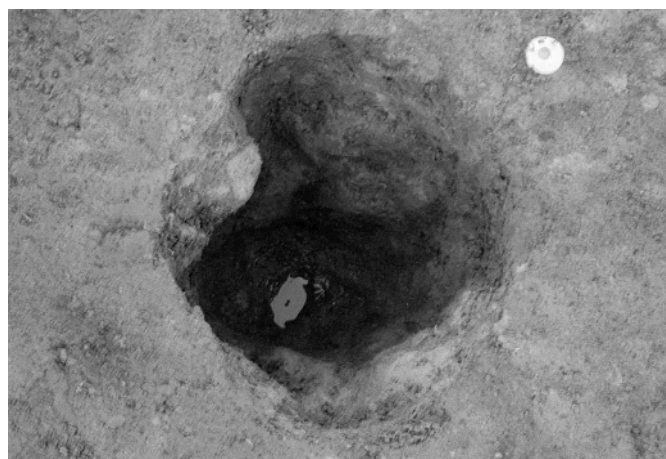
13号土坑全景



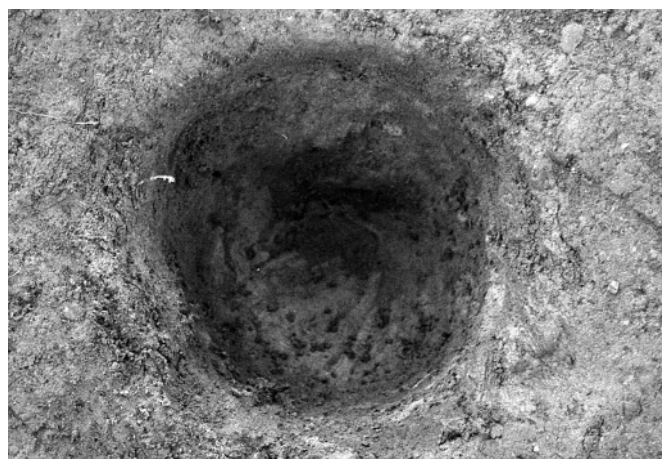
14号土坑全景



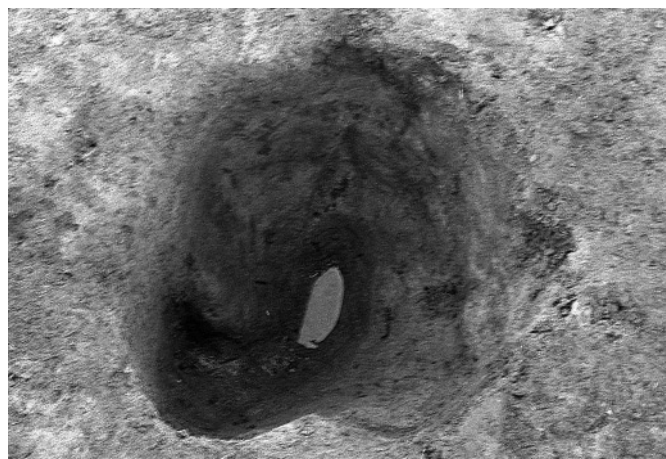
15号土坑全景



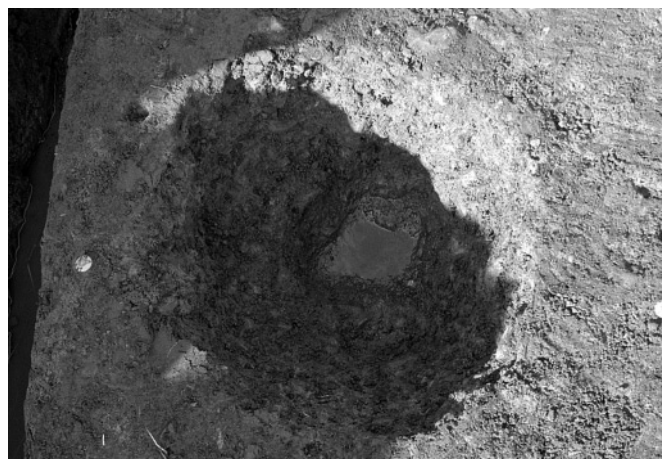
16号土坑全景



17号土坑全景



18号土坑全景



19号土坑全景



20号土坑全景



21号土坑全景



22号土坑全景



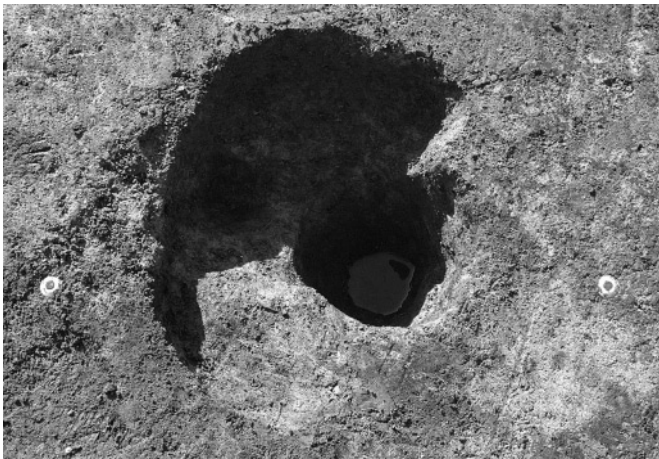
23号土坑全景



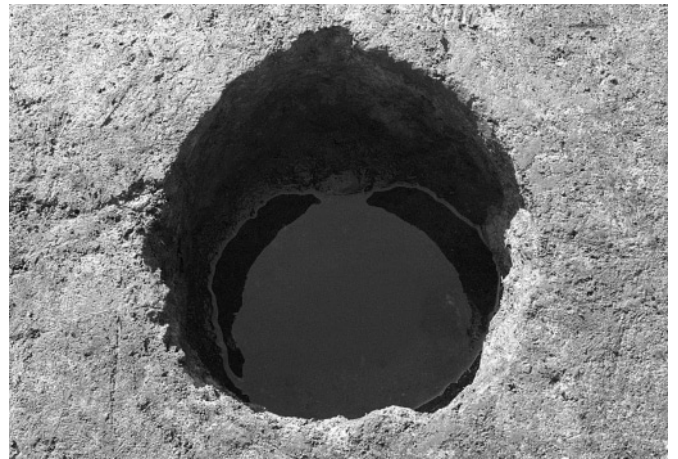
24・25号土坑全景



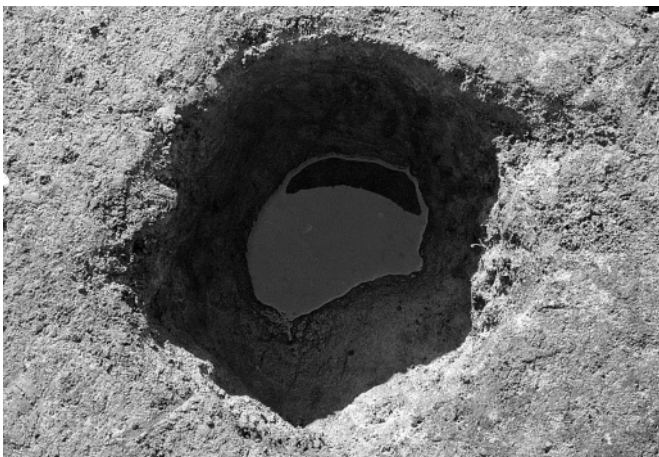
26号土坑全景



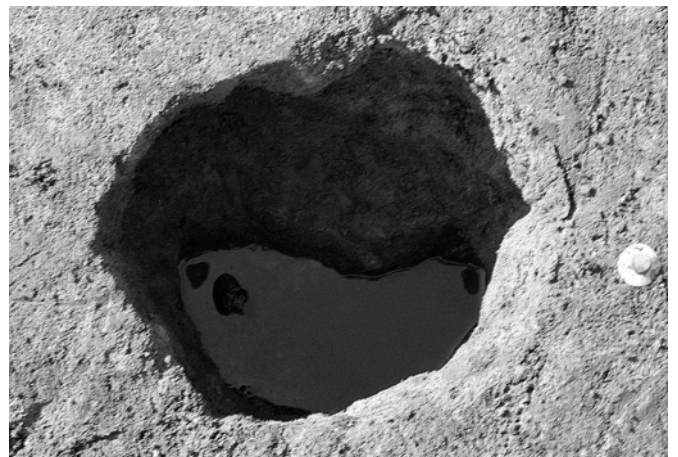
27号土坑全景



28号土坑全景



29号土坑全景



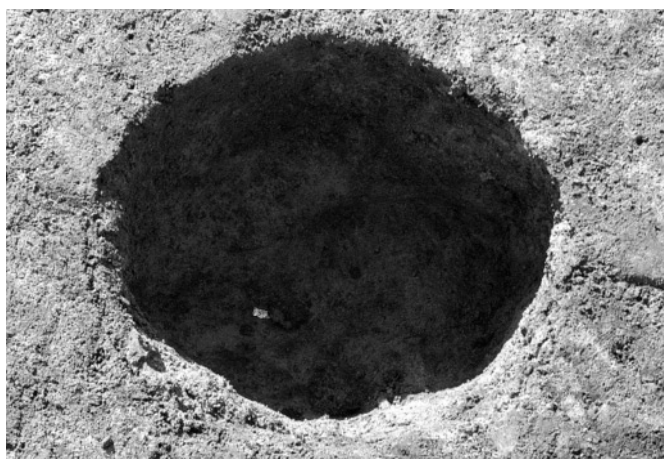
30号土坑全景



31号土坑全景



32号土坑全景



33号土坑全景



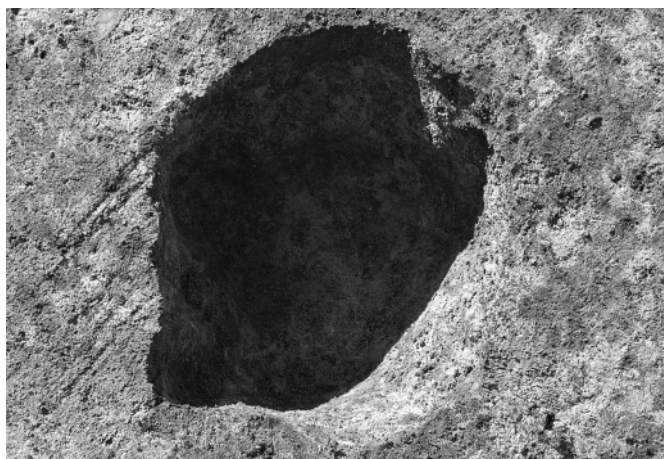
34号土坑全景



35号土坑全景



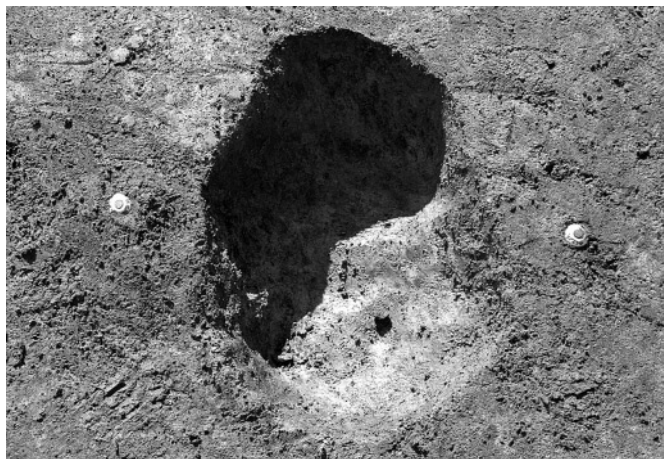
36号土坑全景



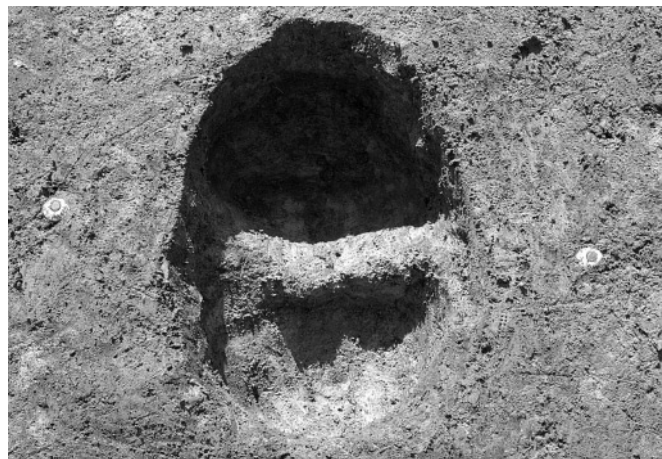
37号土坑全景



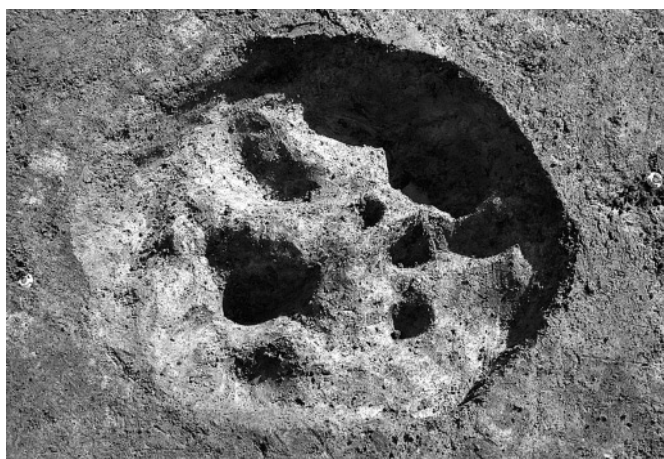
39号土坑全景



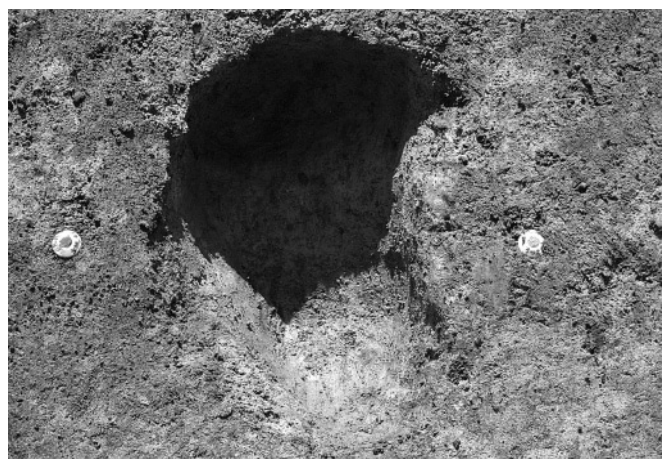
41号土坑全景



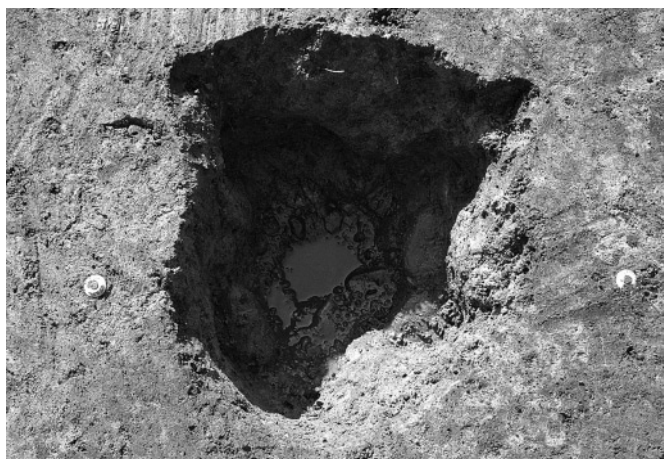
42号土坑全景



43号土坑全景



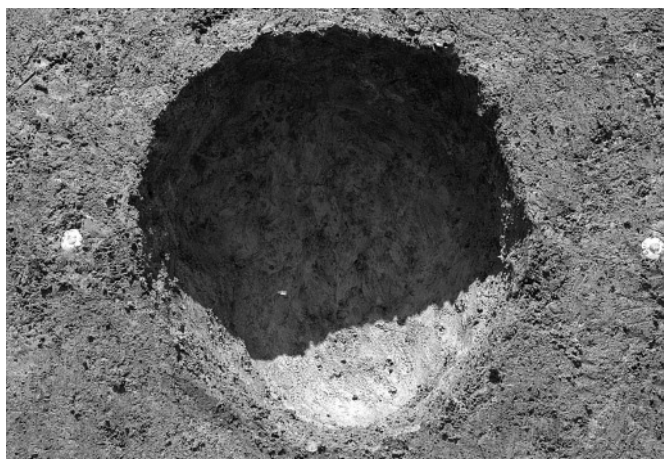
44号土坑全景



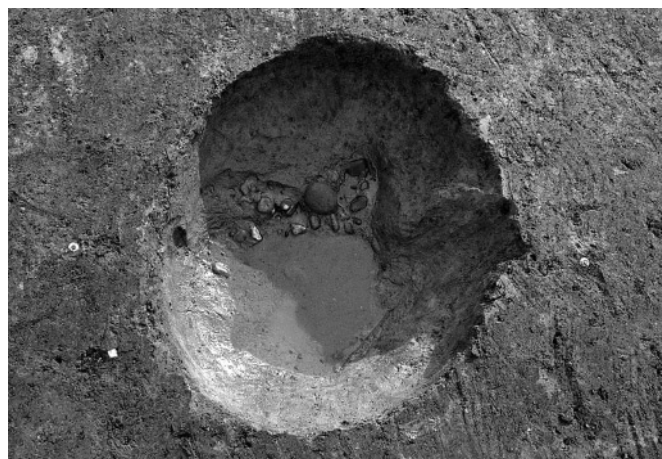
45号土坑全景



46・47号土坑全景



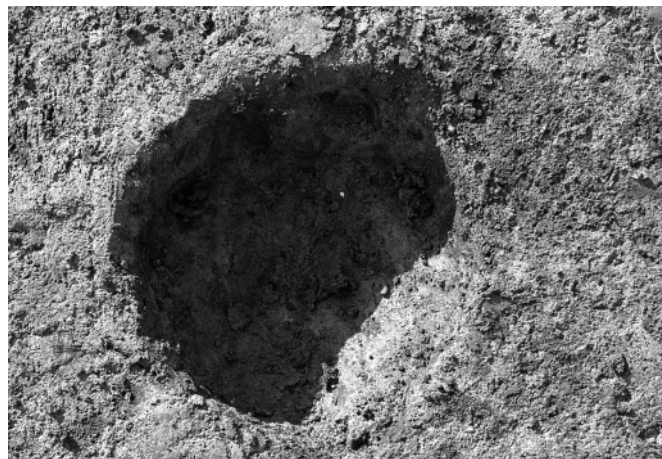
48号土坑全景



49号土坑全景



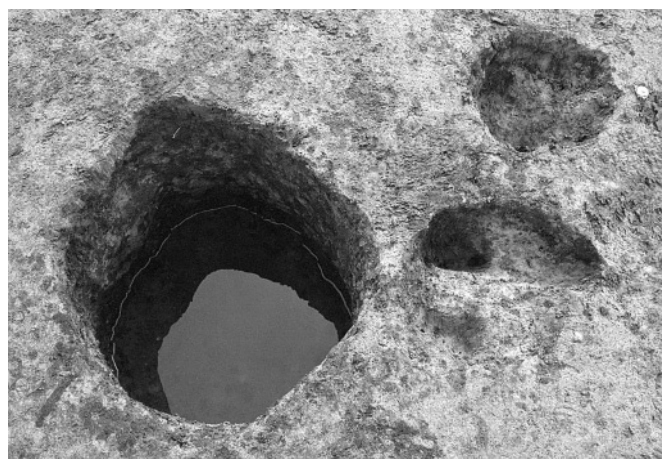
50号土坑全景



59号土坑全景



60号土坑全景



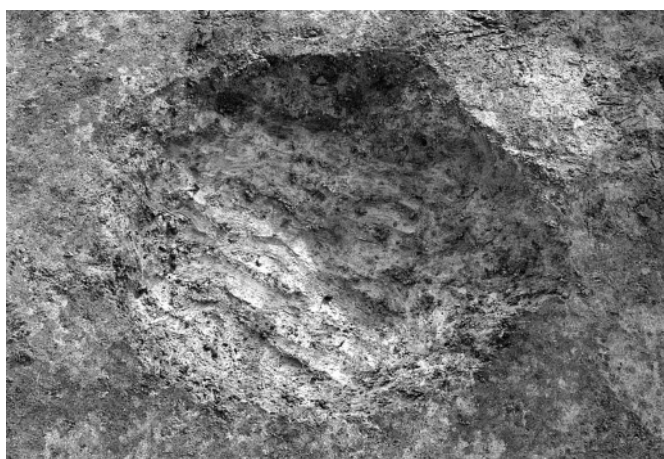
60・72号土坑全景



61号土坑全景



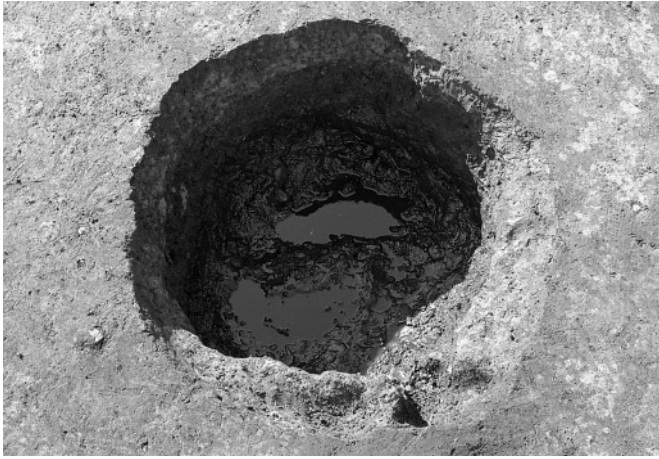
62号土坑全景



63号土坑全景



64号土坑全景



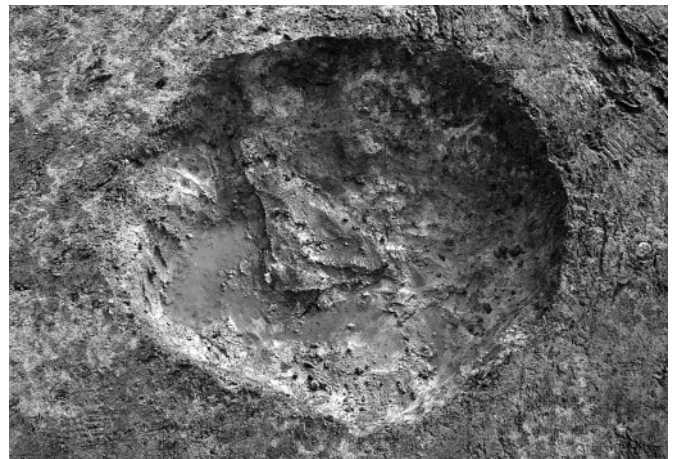
65号土坑全景



66号土坑全景



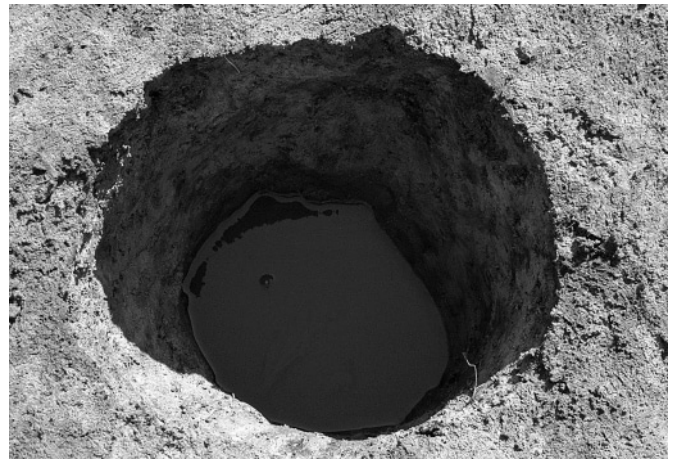
67号土坑全景



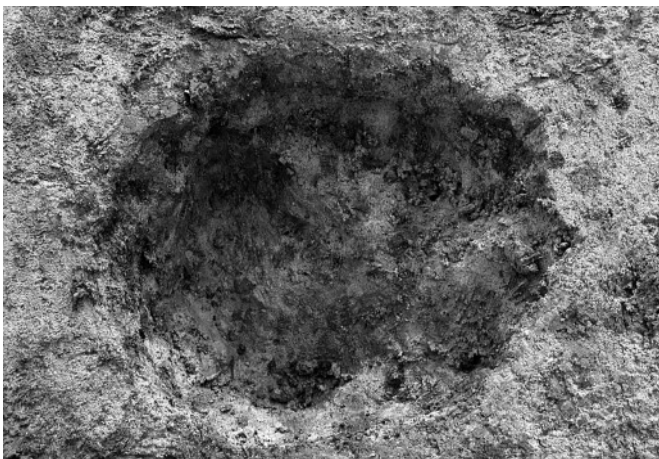
68号土坑全景



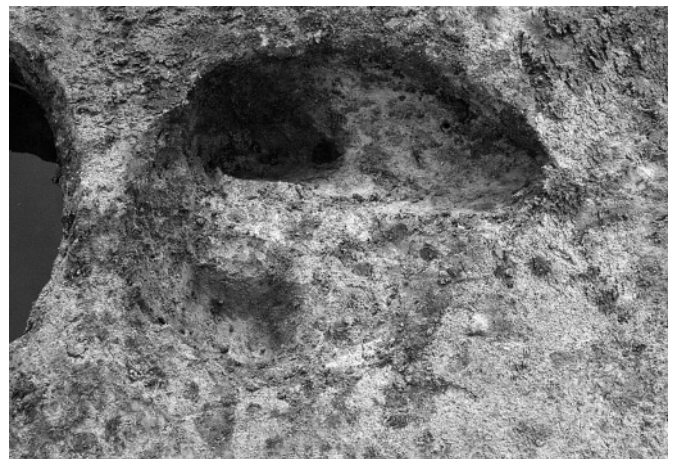
69号土坑全景



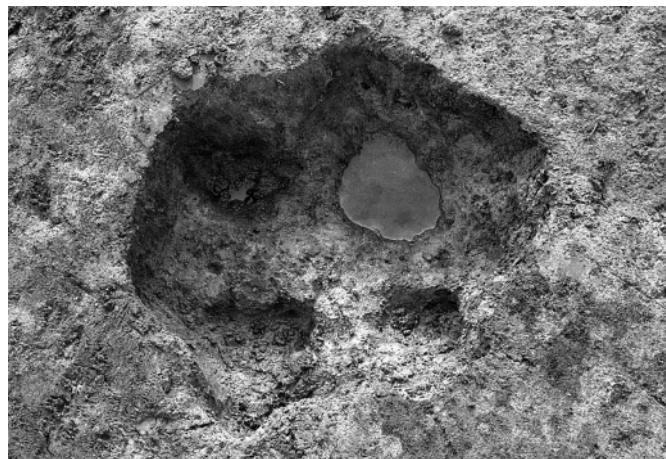
70号土坑全景



71号土坑全景



72号土坑全景



73号土坑全景



74号土坑全景



74・75・76号土坑全景



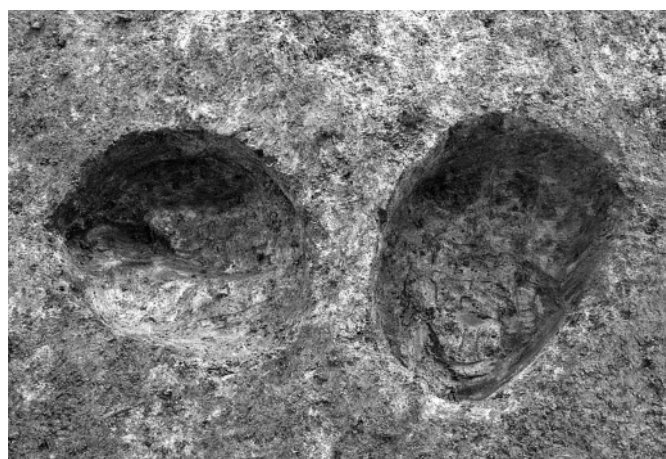
75号土坑全景



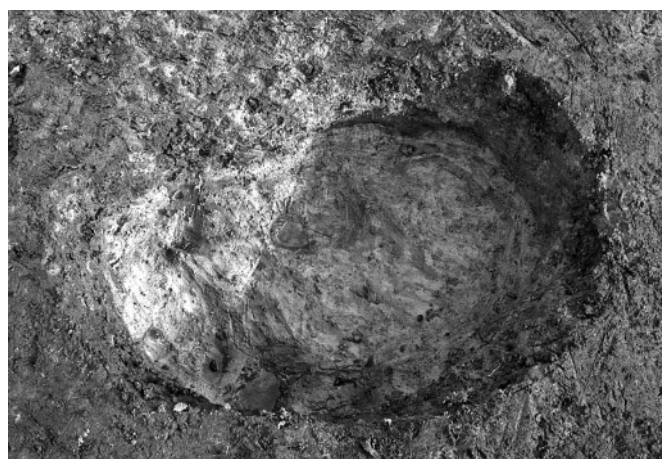
76号土坑全景



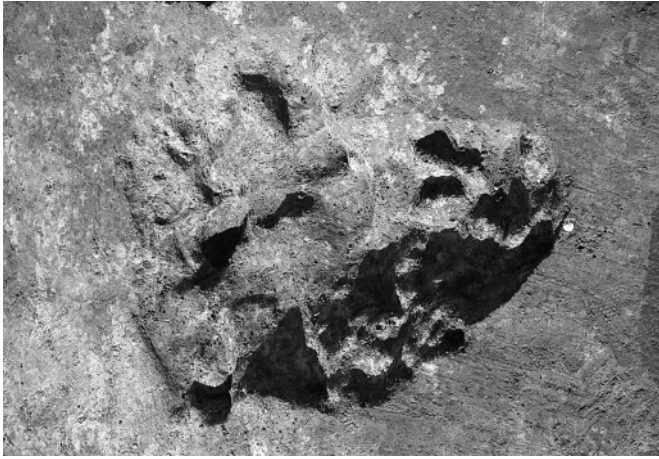
77号土坑全景



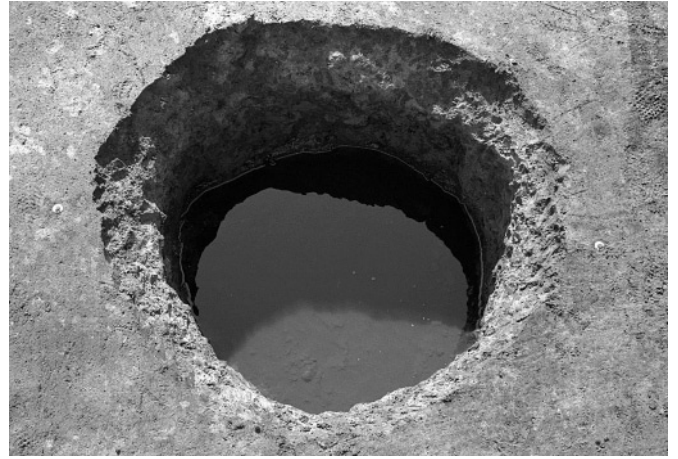
78・79号土坑全景



80号土坑全景



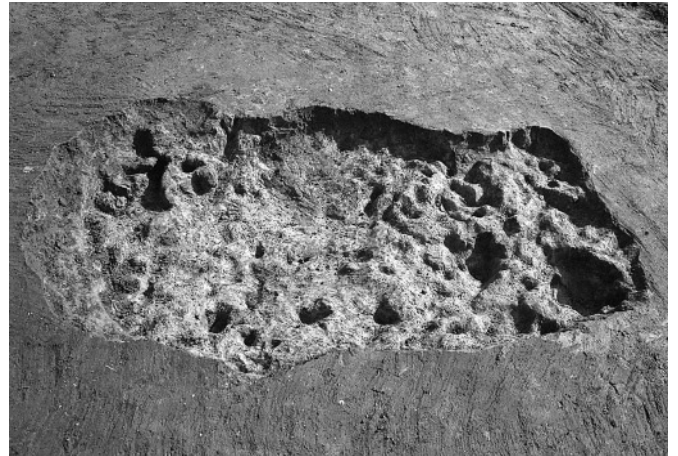
81号土坑全景



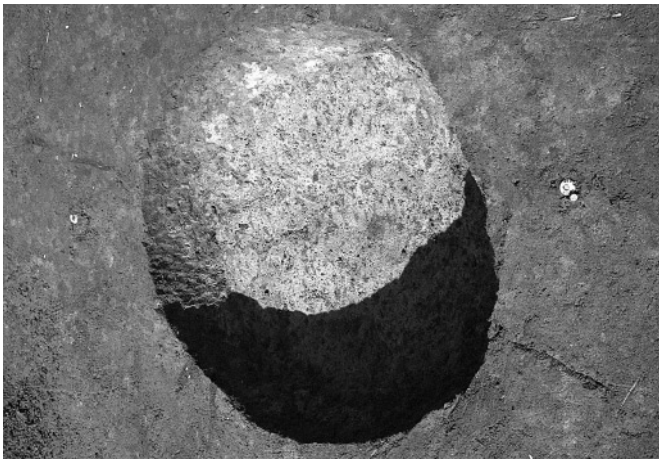
82号土坑全景



83号土坑全景



84号土坑全景



85号土坑全景



86・106号土坑全景



87号土坑全景



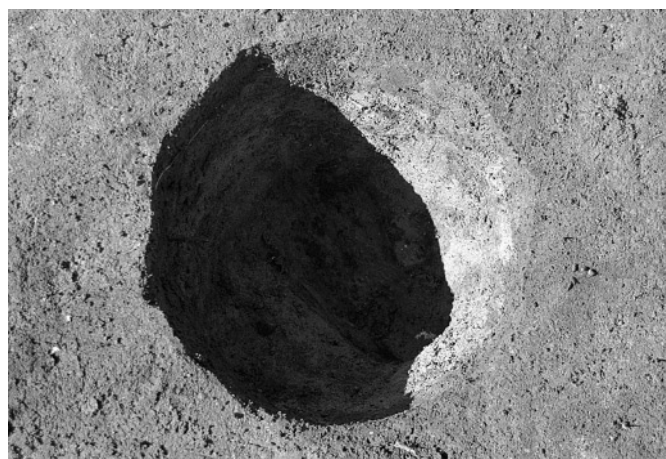
88号土坑全景



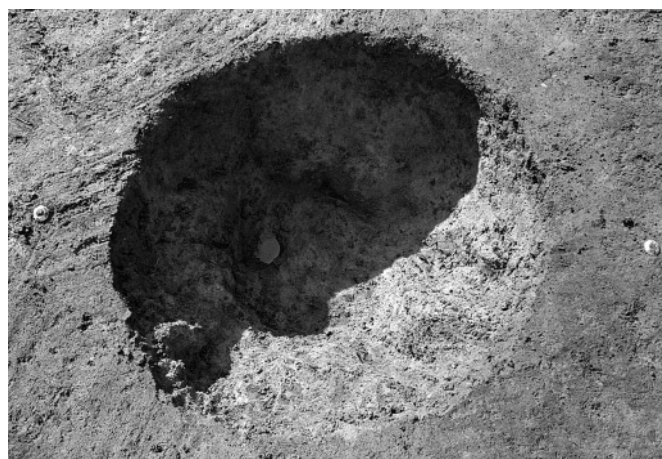
89号土坑全景



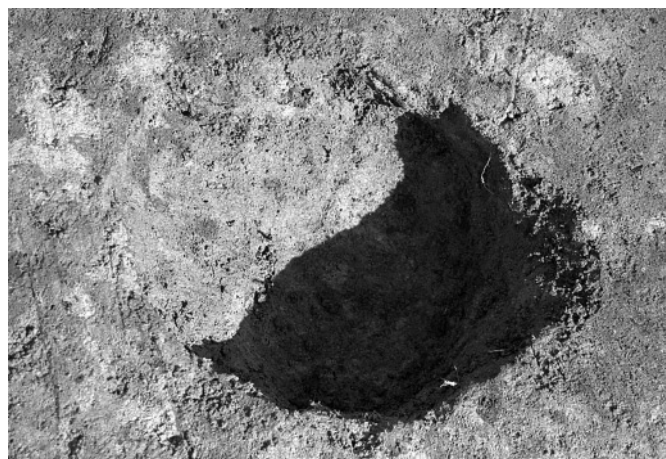
90号土坑全景



91号土坑全景



92号土坑全景



93号土坑全景



94号土坑全景



95号土坑全景



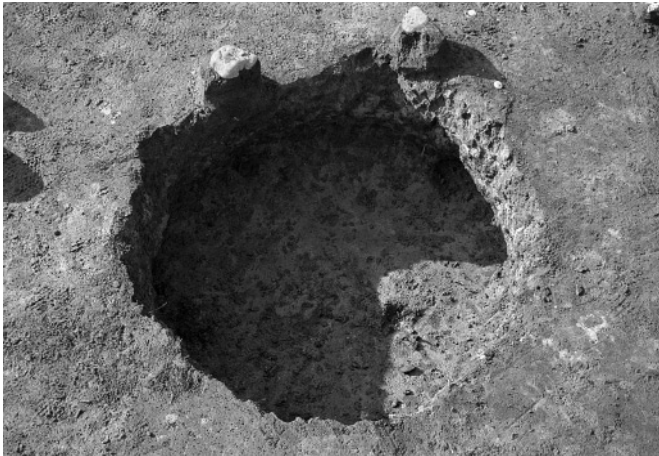
96号土坑全景



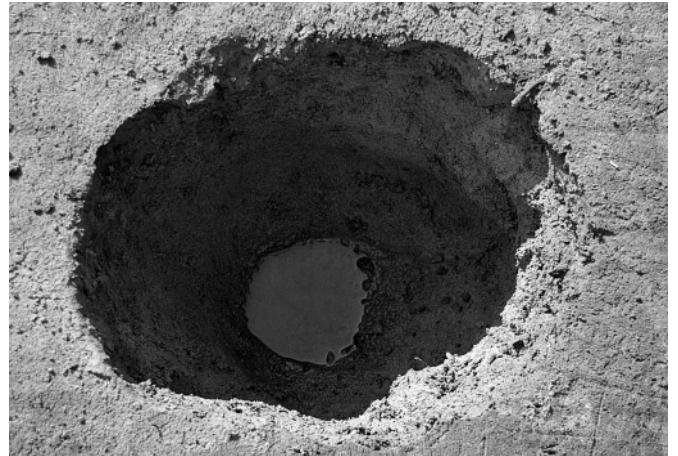
97号土坑全景



98号土坑全景



99号土坑全景



100号土坑全景



101・104号土坑全景



102号土坑全景



103号土坑全景



107号土坑全景



108号土坑全景



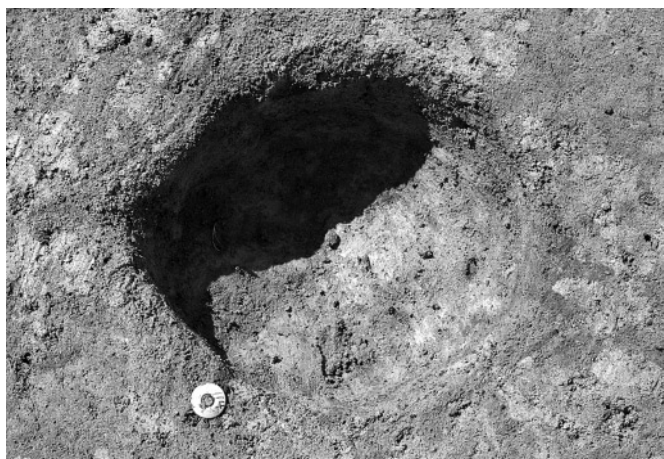
111号土坑全景



112号土坑全景



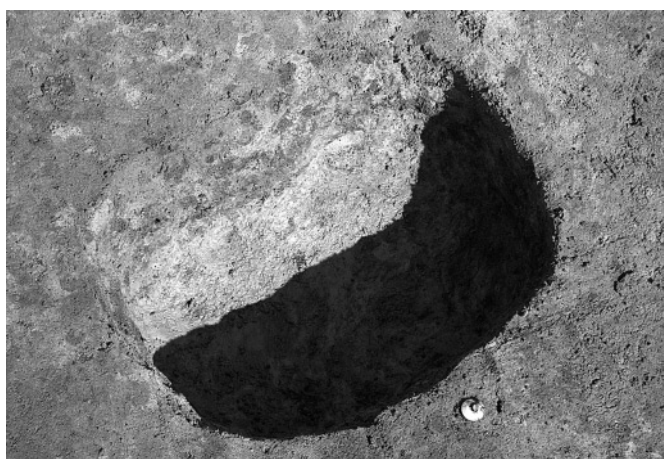
113号土坑全景



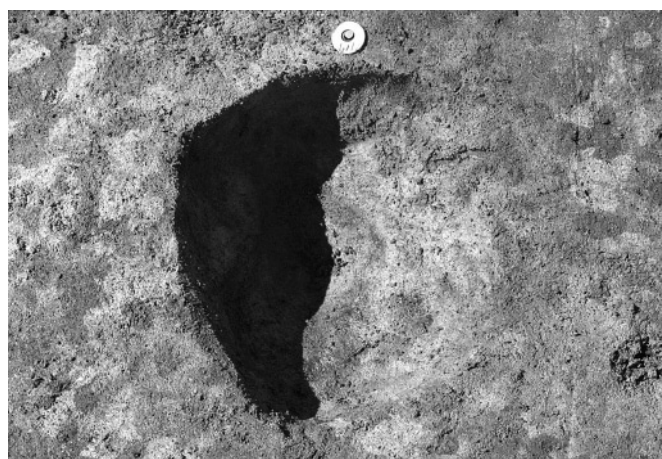
114号土坑全景



115号土坑全景



116号土坑全景



117号土坑全景



118号土坑全景



119号土坑全景



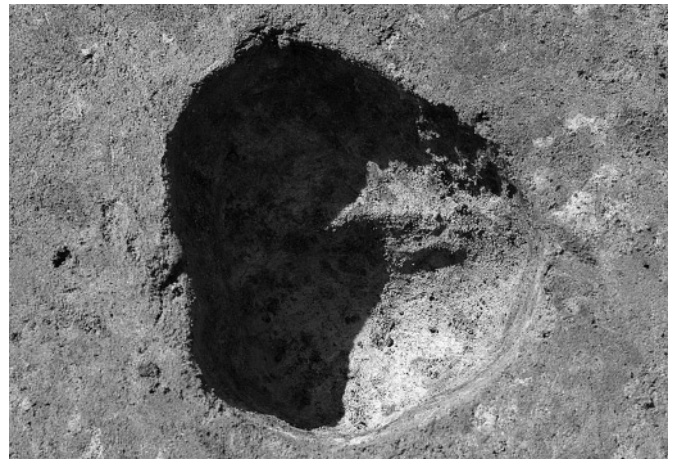
120号土坑全景



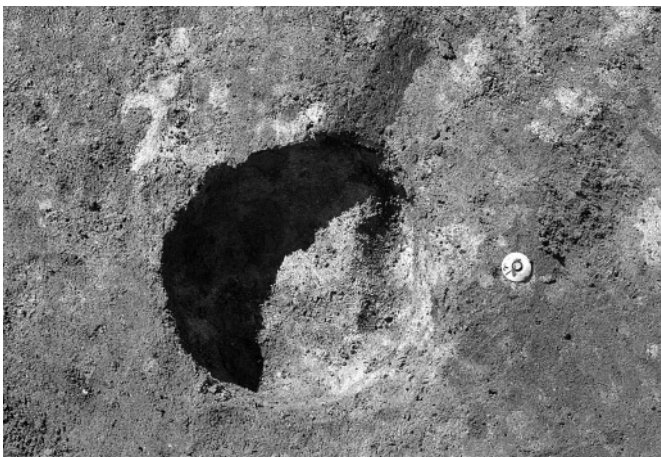
121号土坑全景



122号土坑全景



123号土坑全景



124号土坑全景



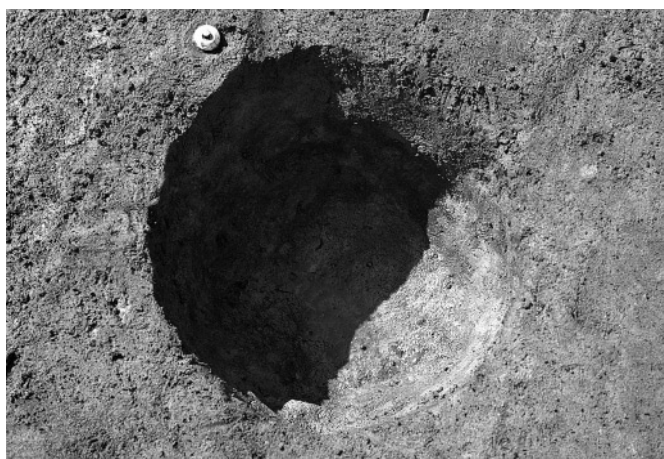
125号土坑全景



126号土坑全景



127号土坑全景



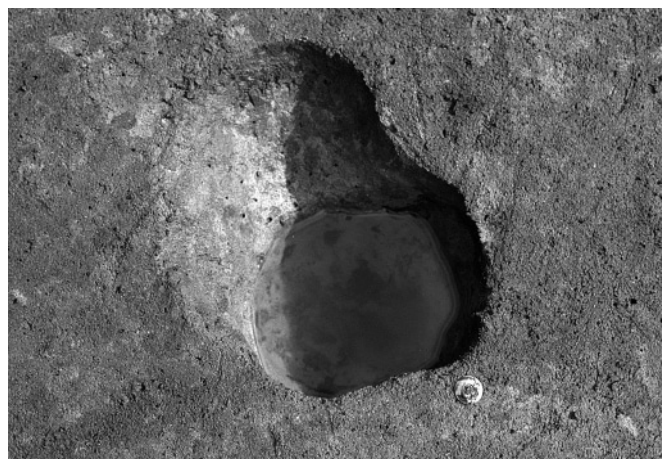
128号土坑全景



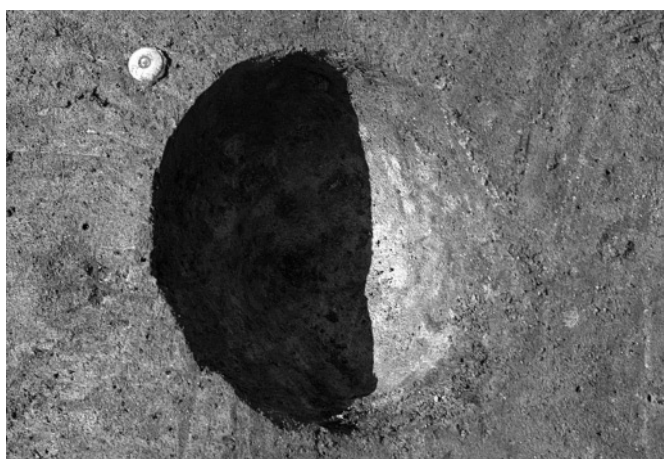
129号土坑全景



131号土坑全景



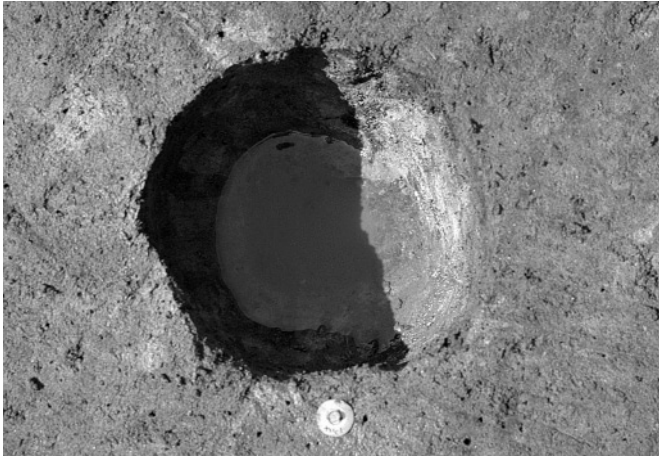
132号土坑全景



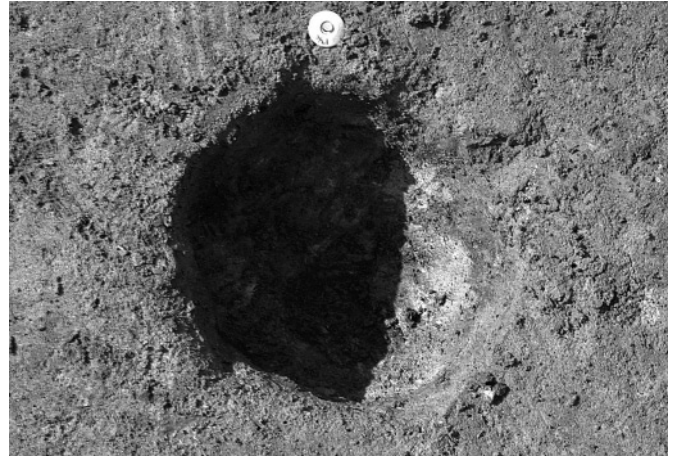
133号土坑全景



134号土坑全景



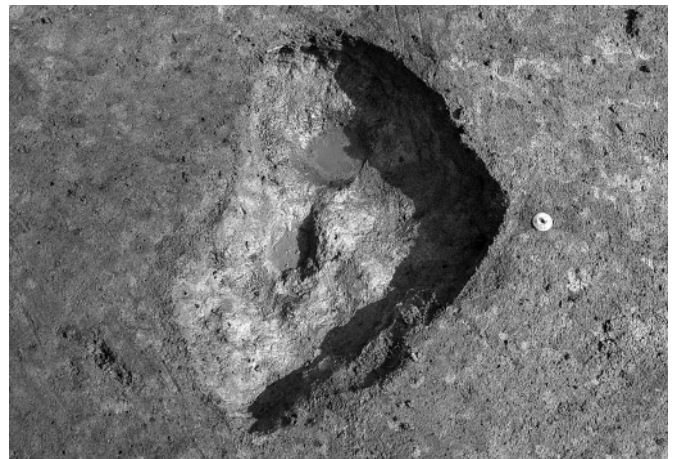
135号土坑全景



136号土坑全景



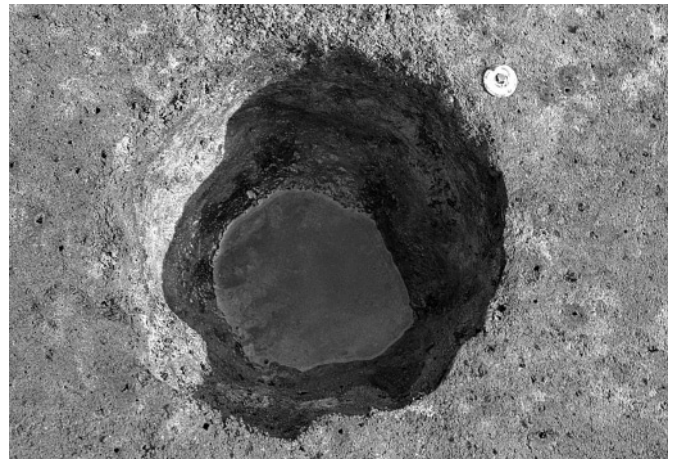
137号土坑全景



138号土坑全景



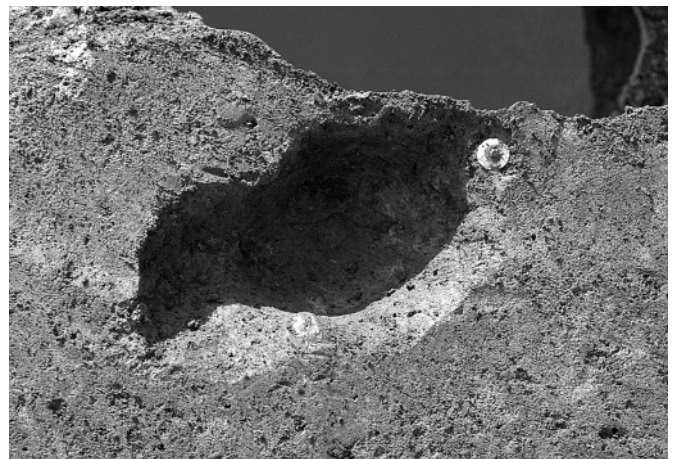
139号土坑全景



140号土坑全景



141号土坑全景



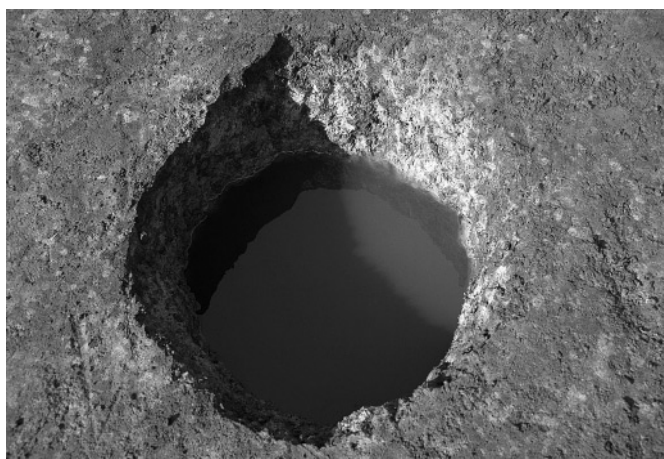
142号土坑全景



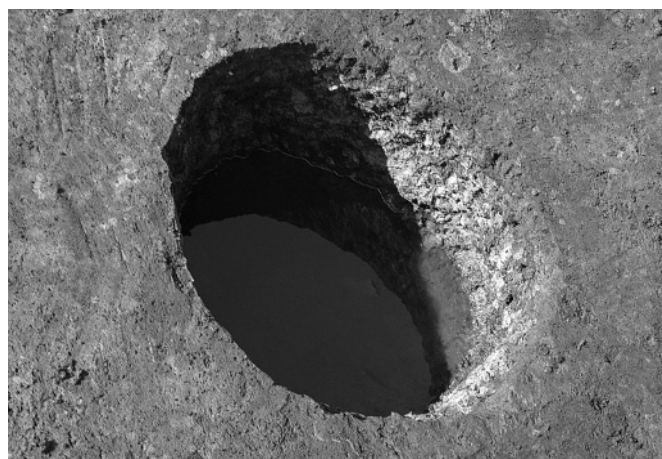
143号土坑全景



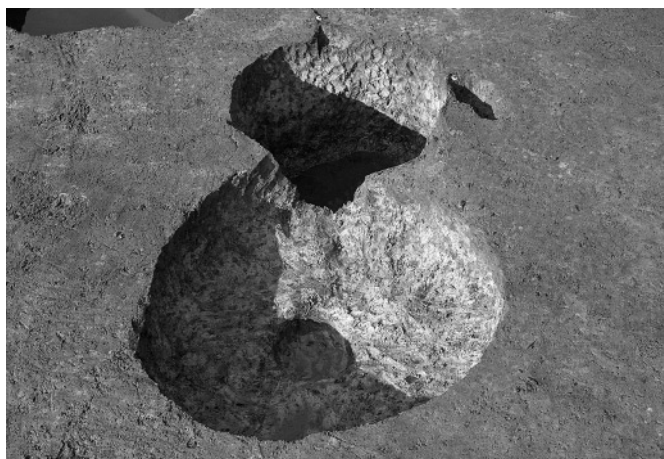
144号土坑全景



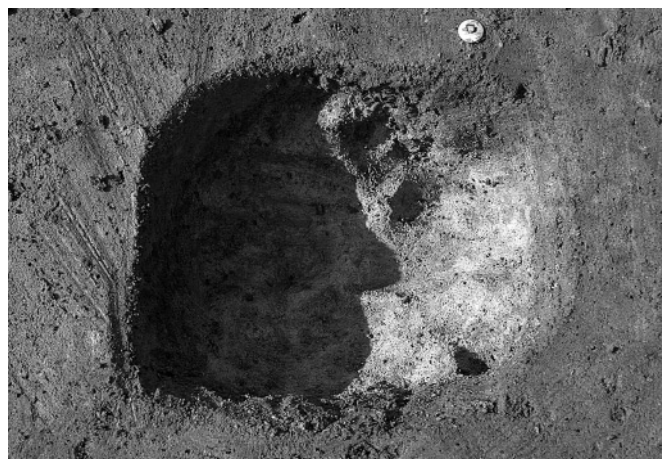
145号土坑全景



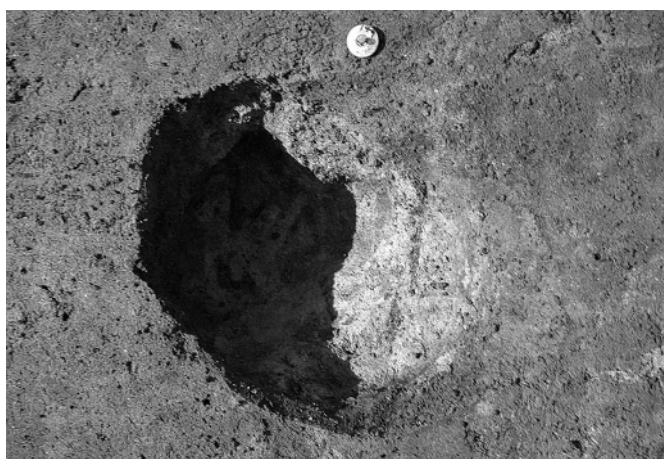
146号土坑全景



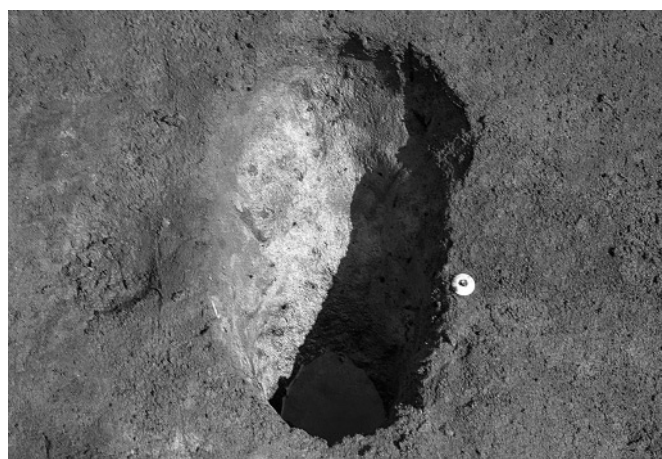
147・157号土坑全景



148号土坑全景



149号土坑全景



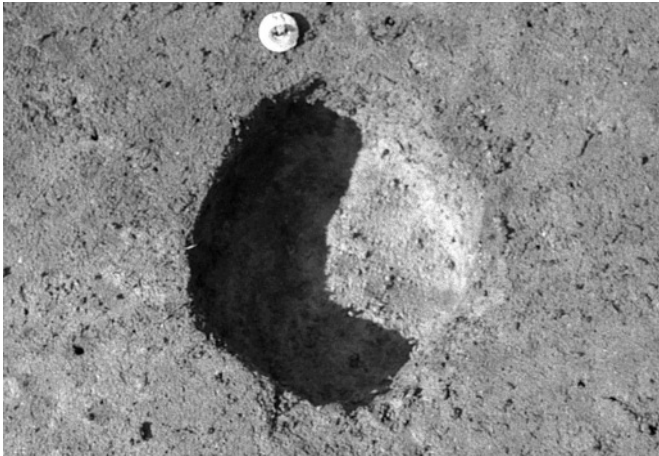
150号土坑全景



153号土坑全景



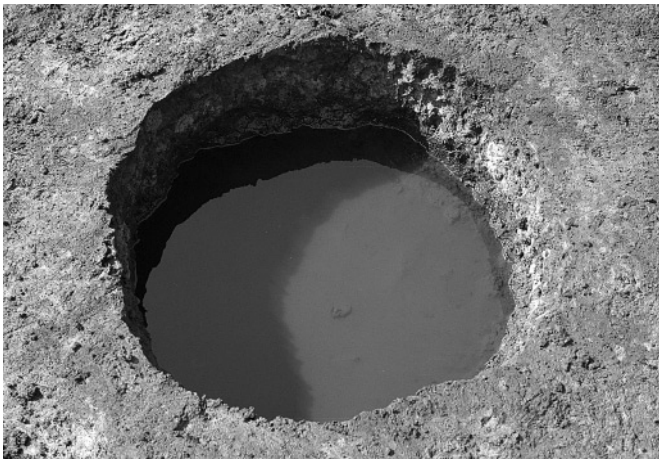
154号土坑全景



155号土坑全景



156号土坑全景



158号土坑全景



1 (8土)



1 (82土)



2 (82土)



1 (84土)



2 (84土)



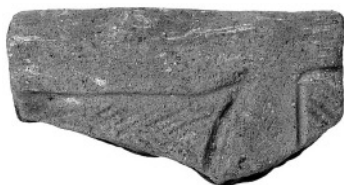
3 (84土)



1 (85土)



2 (85土)



1 (86土)



2 (86土)



1 (91土)



2 (91土)



3 (91土)



1 (105土)



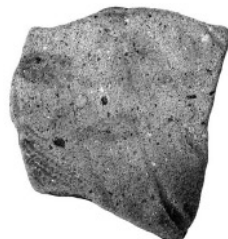
1 (106土)



2 (106土)



3 (106土)



4 (106土)



5 (106土)



6 (106土)



1 (107土)



1 (108土)



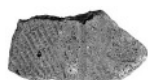
2 (108土)



1 (122土)



1 (129土)



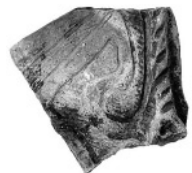
1 (132土)



1 (133土)



1 (143土)



1 (137土)



2 (137土)



3 (137土)



4 (137土)



1 (145土)



1 (146土)



1 (148土)



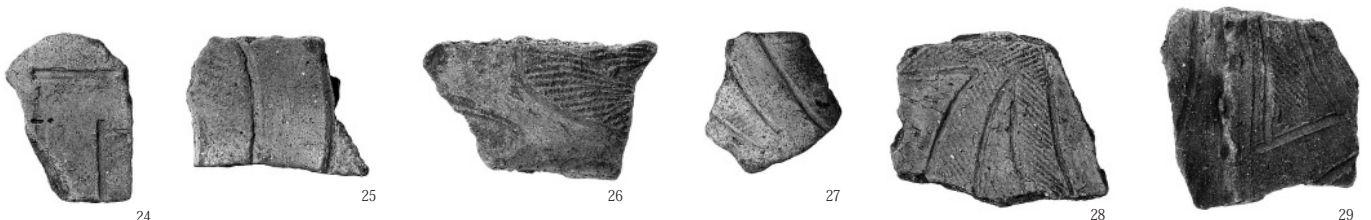
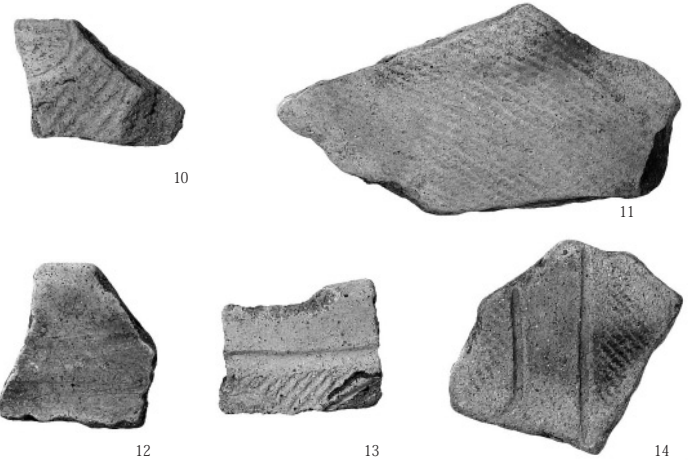
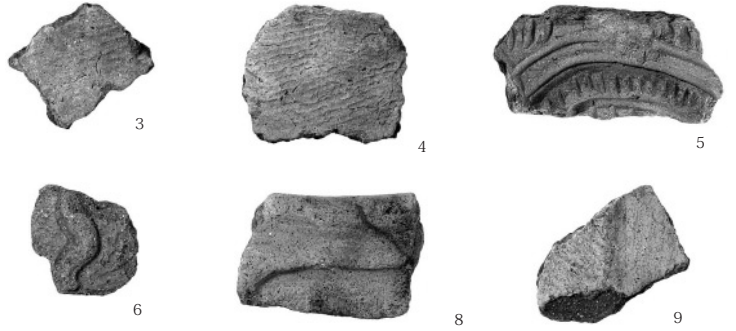
1 (158土)



2 (158土)



3 (158土)



出土遺物(2)



出土遺物(3)



11(65土)



16(65土)



17(65土)



18(65土)



22(65土)



19(65土)



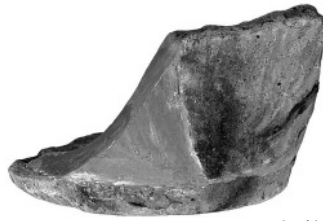
20(65土)



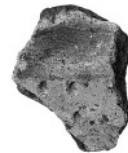
21(65土)



23(65土)



24(65土)



1(68土)



1(69土)



2(69土)



1(78土)



1(82土)



1(137土)



2(137土)



3(137土)



1(91土)



1



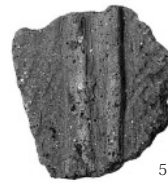
2



3



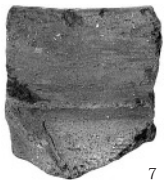
4



5



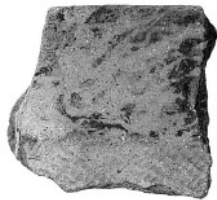
6



7



8



9



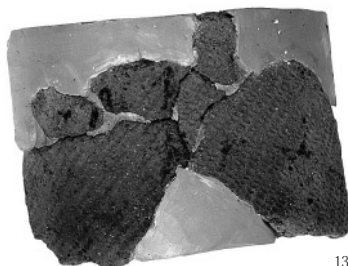
10



11



12



13

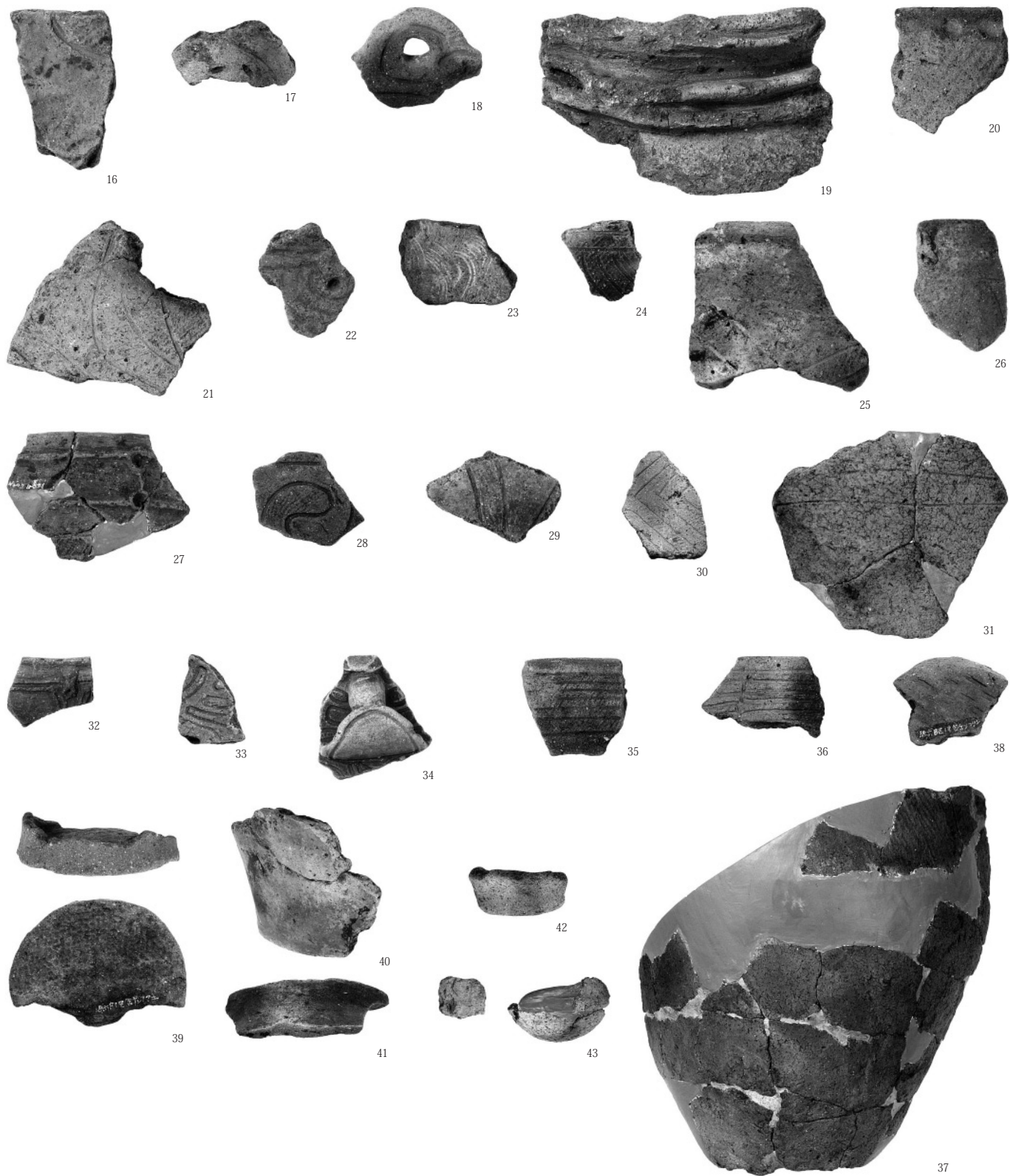


14



15

出土遺物(4)





1 (1住)



2 (2住)



3 (2住)



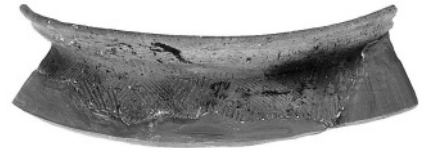
6 (2住)



1 (2住)



4 (2住)



5 (2住)



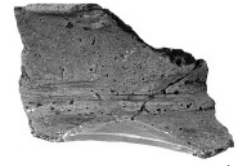
7 (2住)



8 (2住)



1 (1溝)



1



2



3



4



5



6



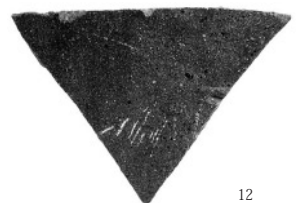
7



9



10



12



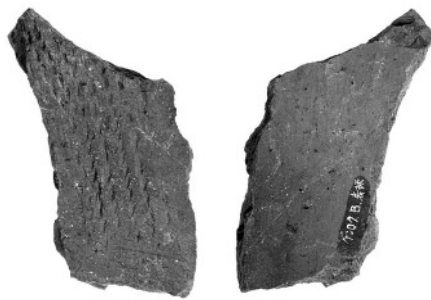
8



11

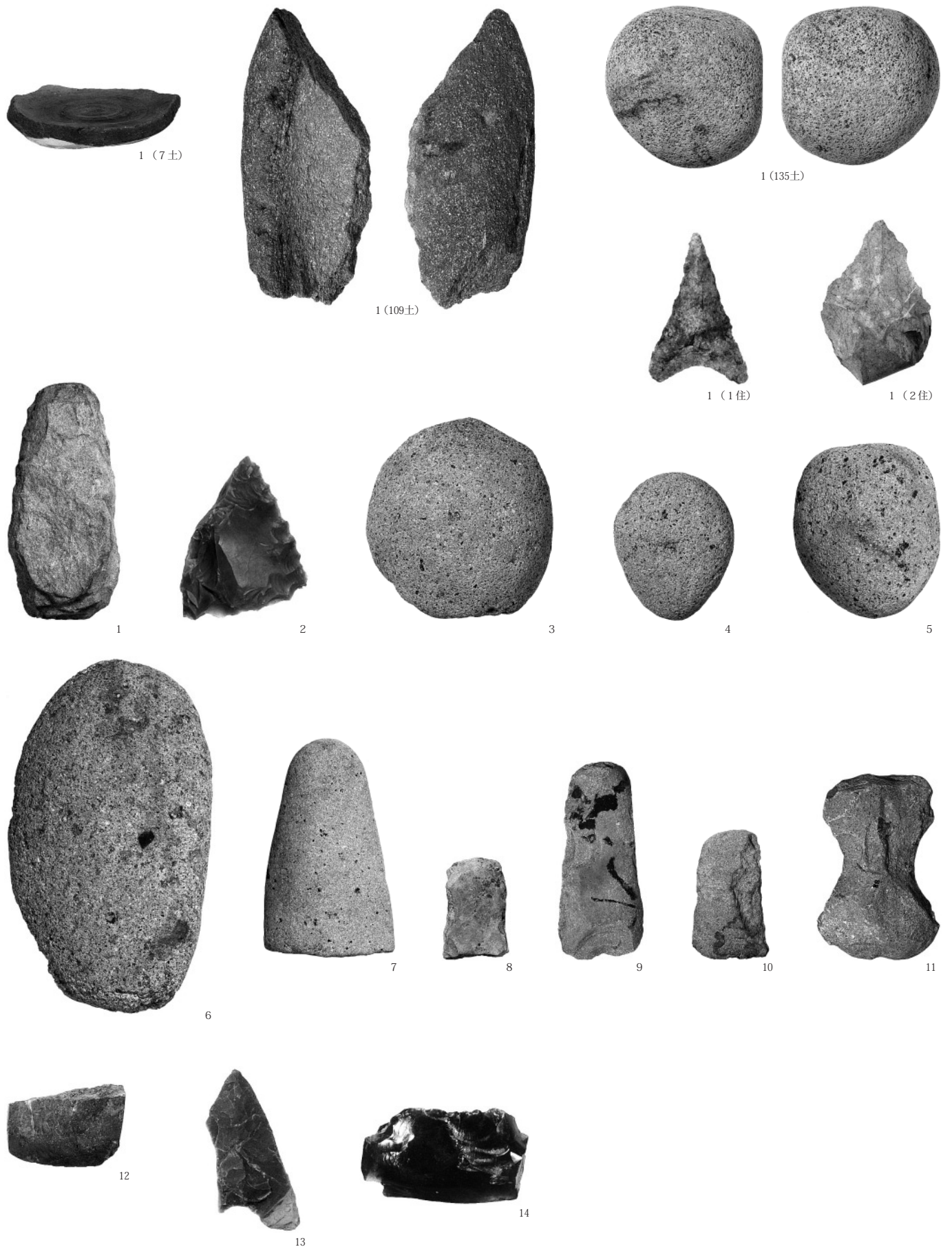


13



14

出土遺物(6)



抄 録

書名ふりがな	かみえだにしだいせき・げんろくぜきいせき
書名	上江田西田遺跡・源六堰遺跡
副書名	広域基幹河川改修事業石田川に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	497集
編著者名	友廣哲也 大木紳一郎
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	平成22年3月25日
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かみえだにしだいせき
遺跡名	上江田西田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにったかみえだ
遺跡所在地	群馬県太田市新田上江田
市町村コード	10205
遺跡番号	401
北緯（日本測地系）	361728
東経（日本測地系）	1391700
北緯（世界測地系）	361739
東経（世界測地系）	1391648
調査期間	19950101-19950331
調査面積	7260m ²
調査原因	河川改修
種別	住居跡/溝/土坑/その他
主な時代	縄文/古墳/江戸
遺跡概要	縄文-土器/古墳-土器/近世-溝
特記事項	縄文時代後期前葉堀之内式土器主体+古墳時代前期土器
要約	縄文時代後期前葉堀之内式土器主体の住居跡と考えられる石囲い炉の検出、堀之内式注口土器。古墳時代前期土器。

抄 録

書名ふりがな	かみえだにしだいせき・げんろくぜきいせき
書名	上江田西田遺跡・源六堰遺跡
副書名	広域基幹河川改修事業石田川に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	497集
編著者名	友廣哲也 大木紳一郎
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	平成22年3月25日
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	げんろくぜきいせき
遺跡名	源六堰遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにったしもたなか
遺跡所在地	群馬県太田市新田下田中
市町村コード	10205
遺跡番号	504
北緯(日本測地系)	361719
東経(日本測地系)	1391648
北緯(世界測地系)	361730
東経(世界測地系)	1391636
調査期間	19980101-19980331
調査面積	3760m ²
調査原因	河川改修
種別	住居跡/溝/土坑/その他
主な時代	古墳/平安/中世/江戸
遺跡概要	縄文-土器+土坑/古墳-住居+溝/その他
特記事項	縄文土器後期初頭称名寺式土器主体
要約	縄文時代称名寺式土器を主体に出土。古墳時代前期住居跡柱穴に礎盤検出。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第497集

上江田西田遺跡・源六堰遺跡

広域基幹河川改修事業石田川に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成22年 3月25日 印刷

平成22年 3月25日 発行

発行／編集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

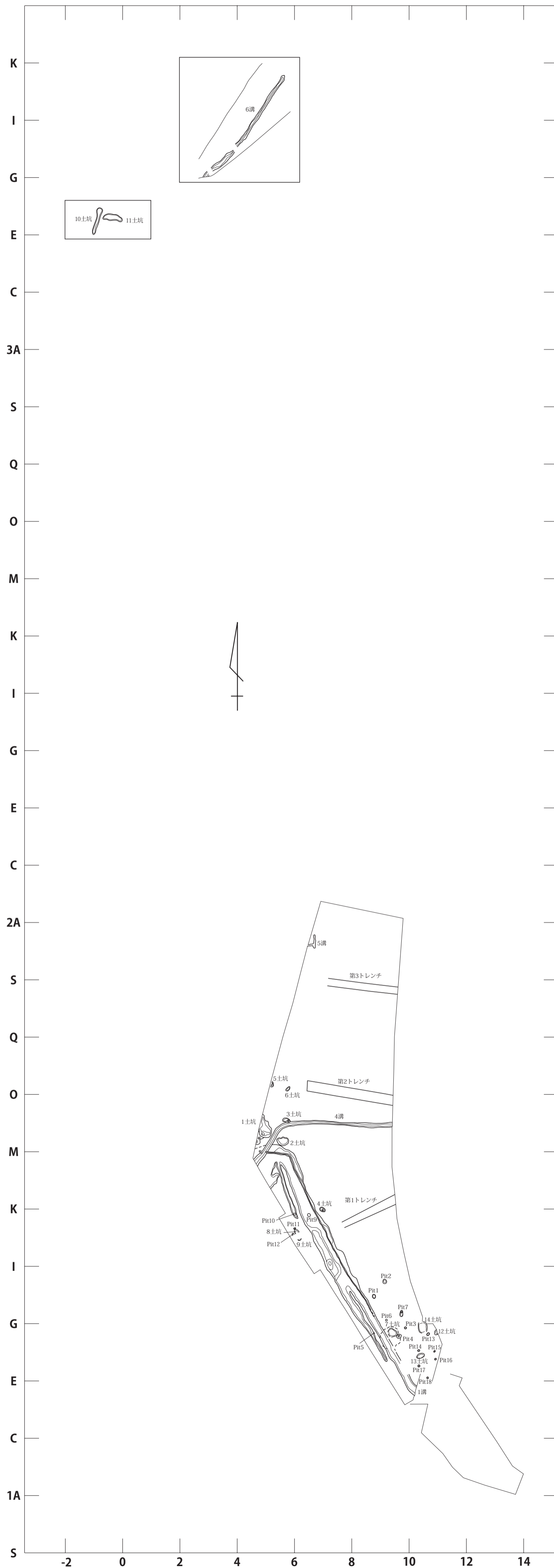
〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2

電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毛新聞社事業局出版部

上江田西田遺跡全体図 S=1/500



源六堰遺跡 S=1/250

